

唐土割蒙圖彙

器用
九

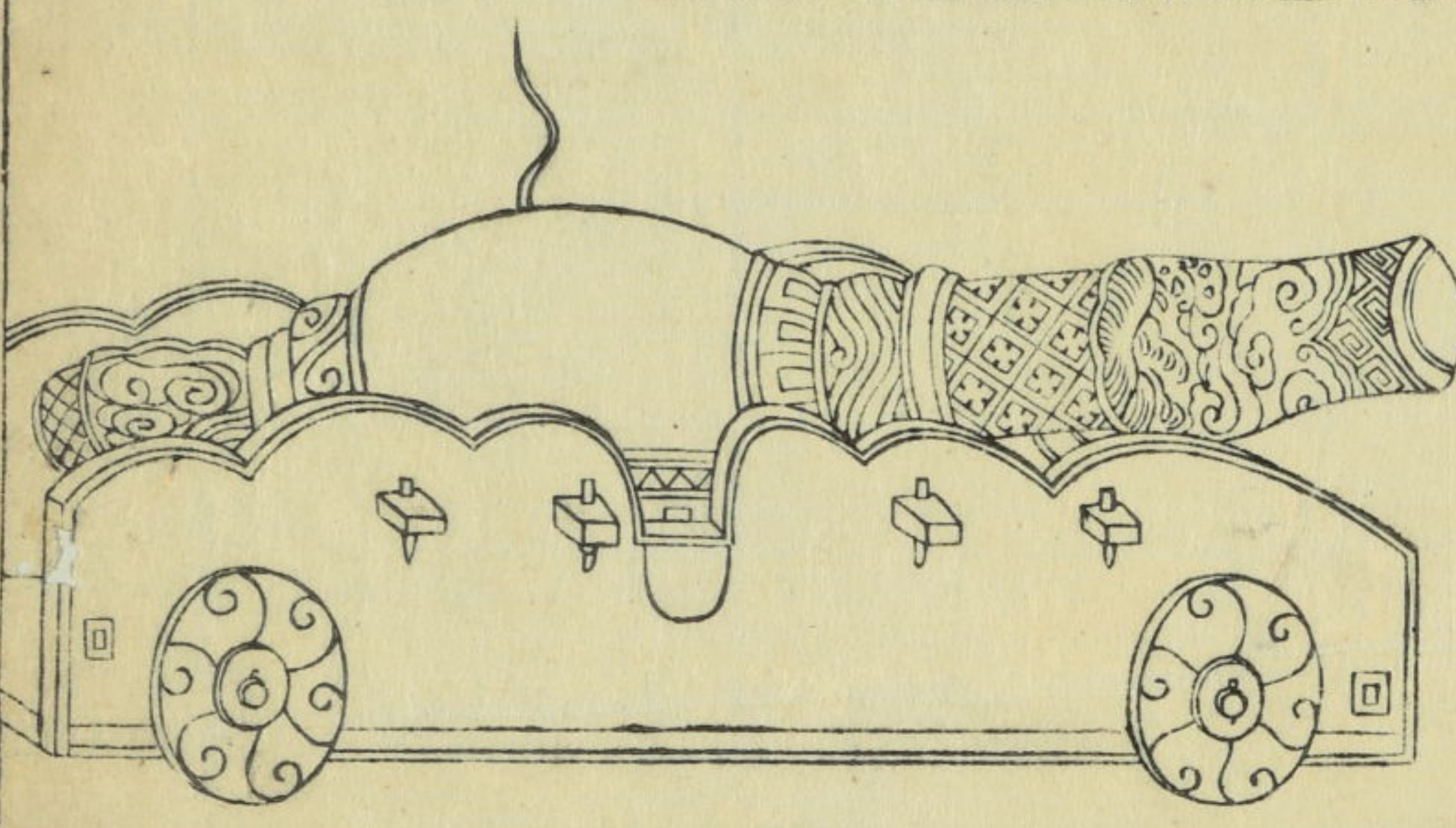


唐土訓蒙圖彙卷之九 器用之三

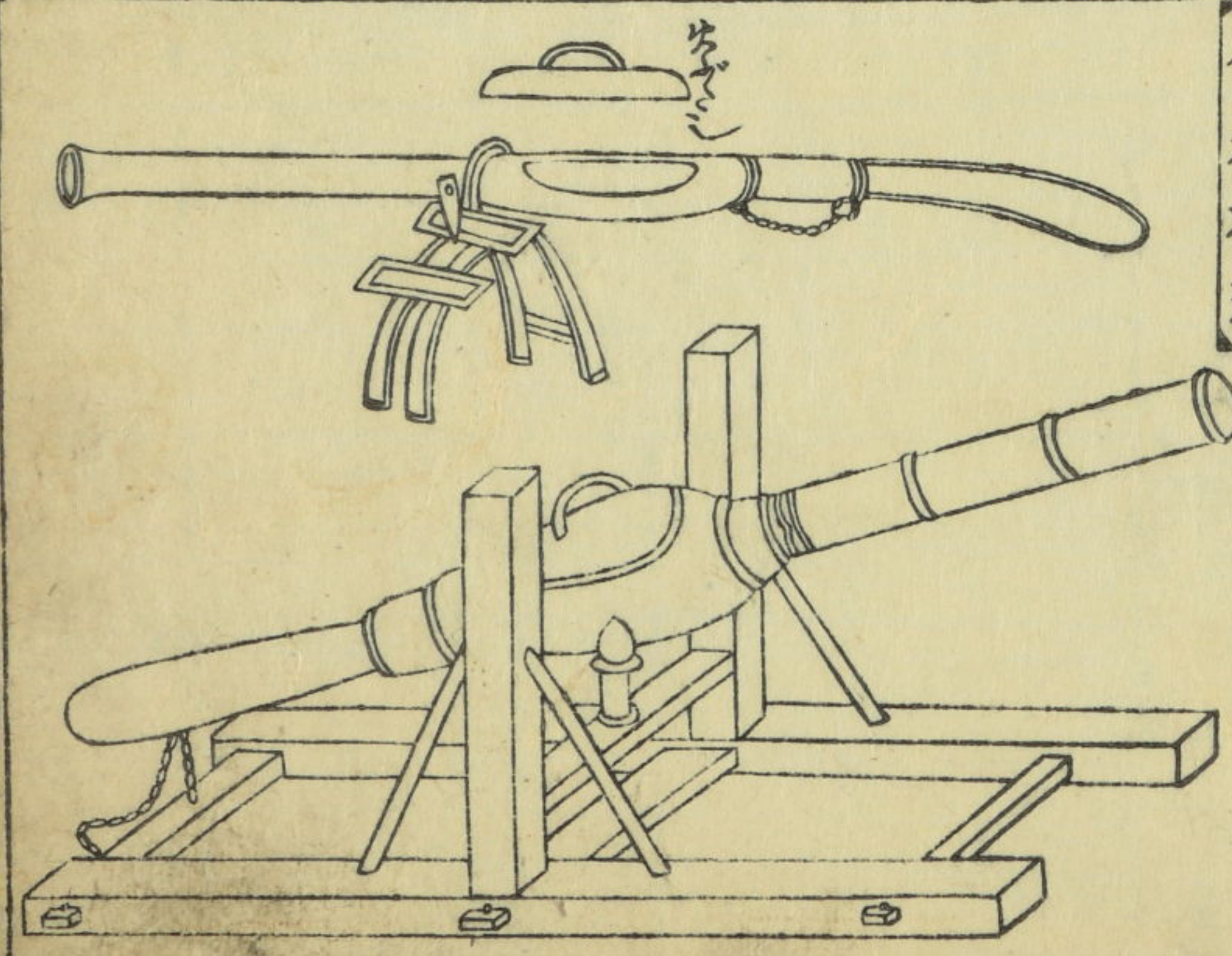
震辰天雷

此器重五百斤鉛子の數百と容うその重さ四斤これこれ石も彈也二和六い火矢九大筒とをりやなりこれ城と攻敵を利するの利器也

兵哭印



佛狼機式

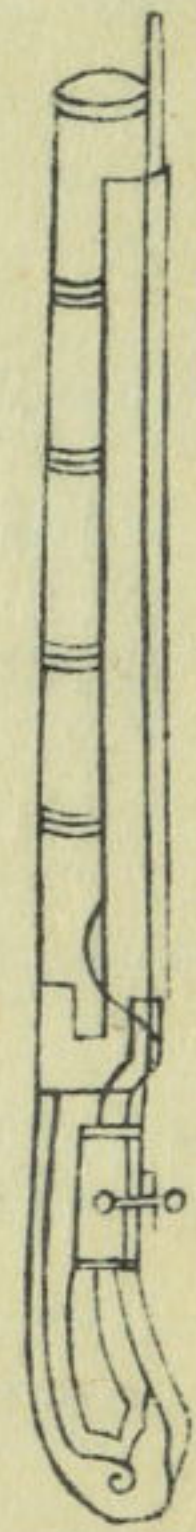


唐土訓蒙圖彙

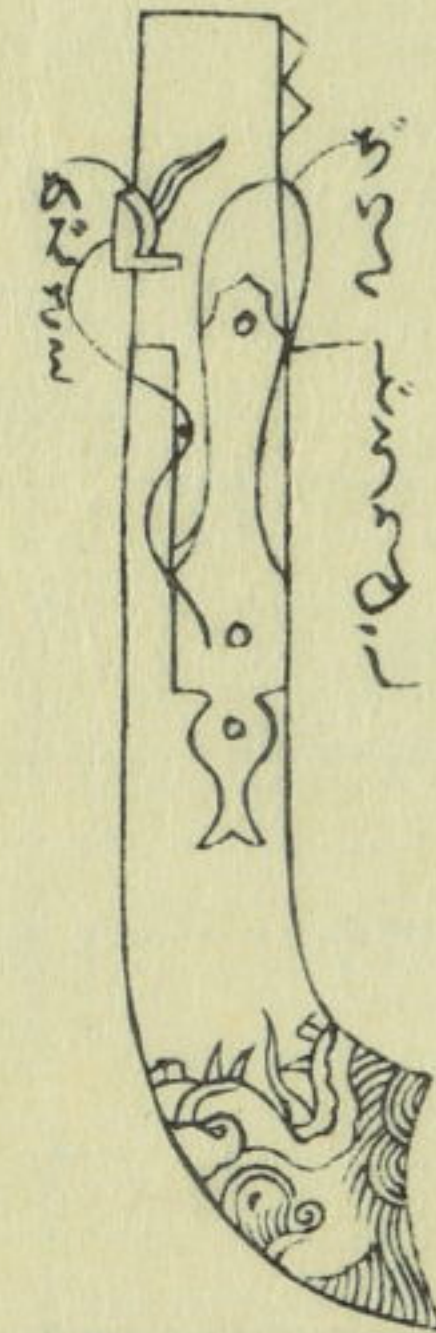
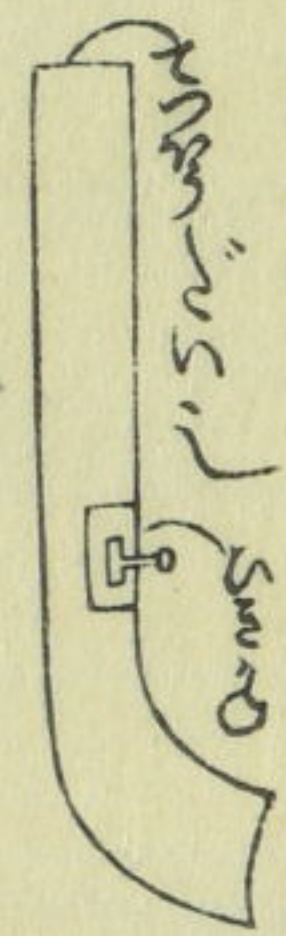
卷之九

五

鳥嘴銃



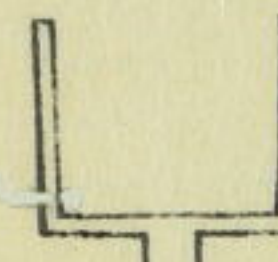
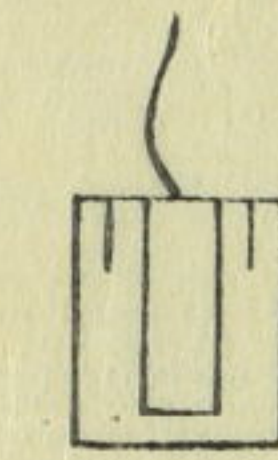
鳥銃細式



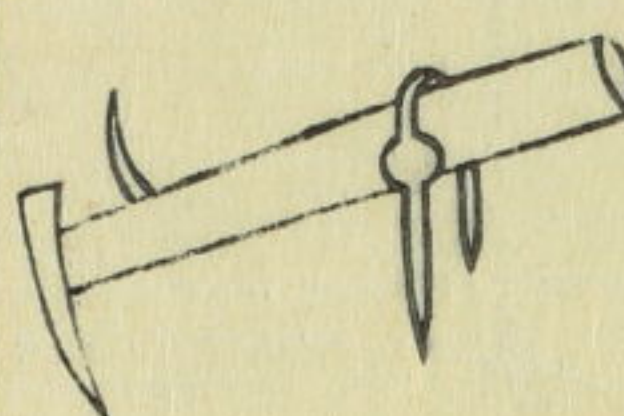
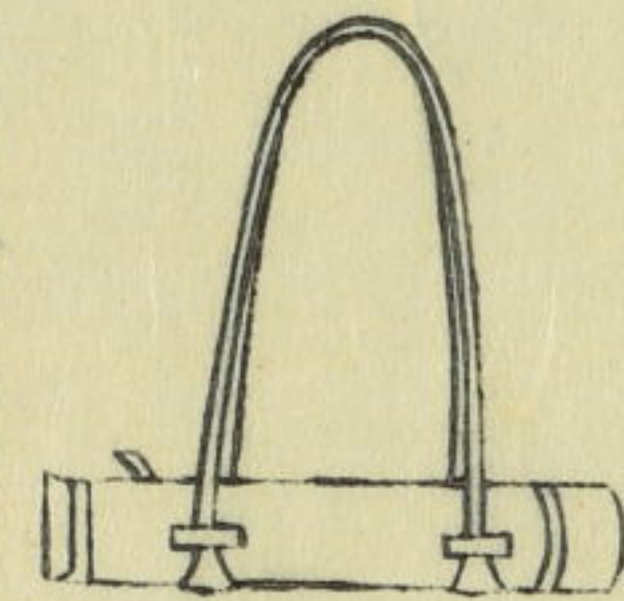
わいづの火乃属

柄

子母炮



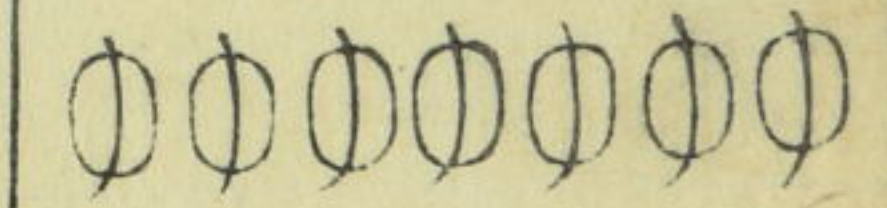
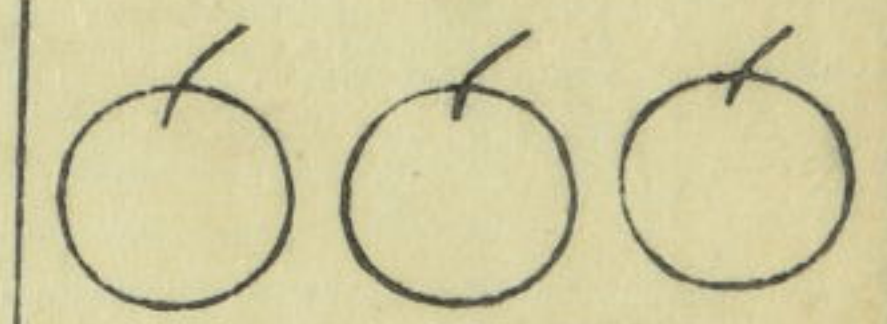
一窩蜂



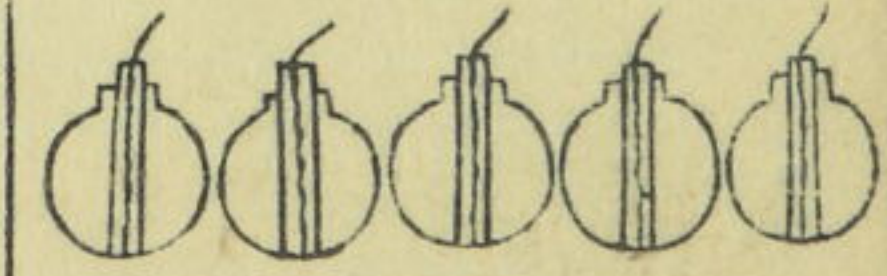
唐二世武臣區亮考

大里才

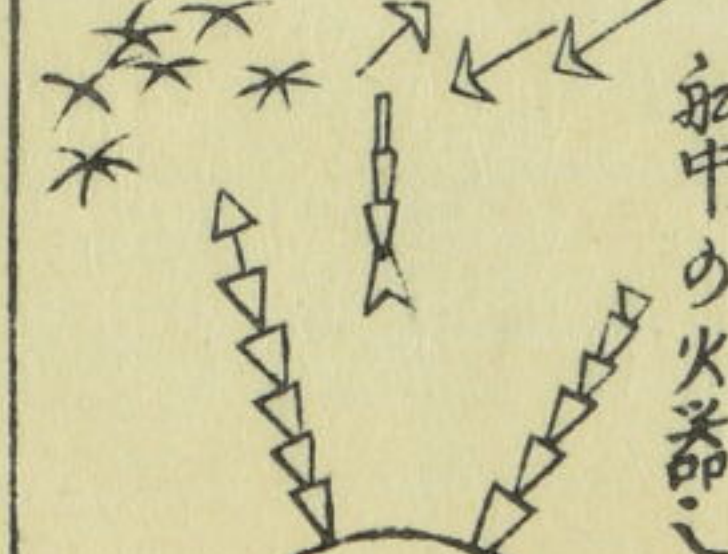
天墜砲式



地雷式



大蜂窠圖

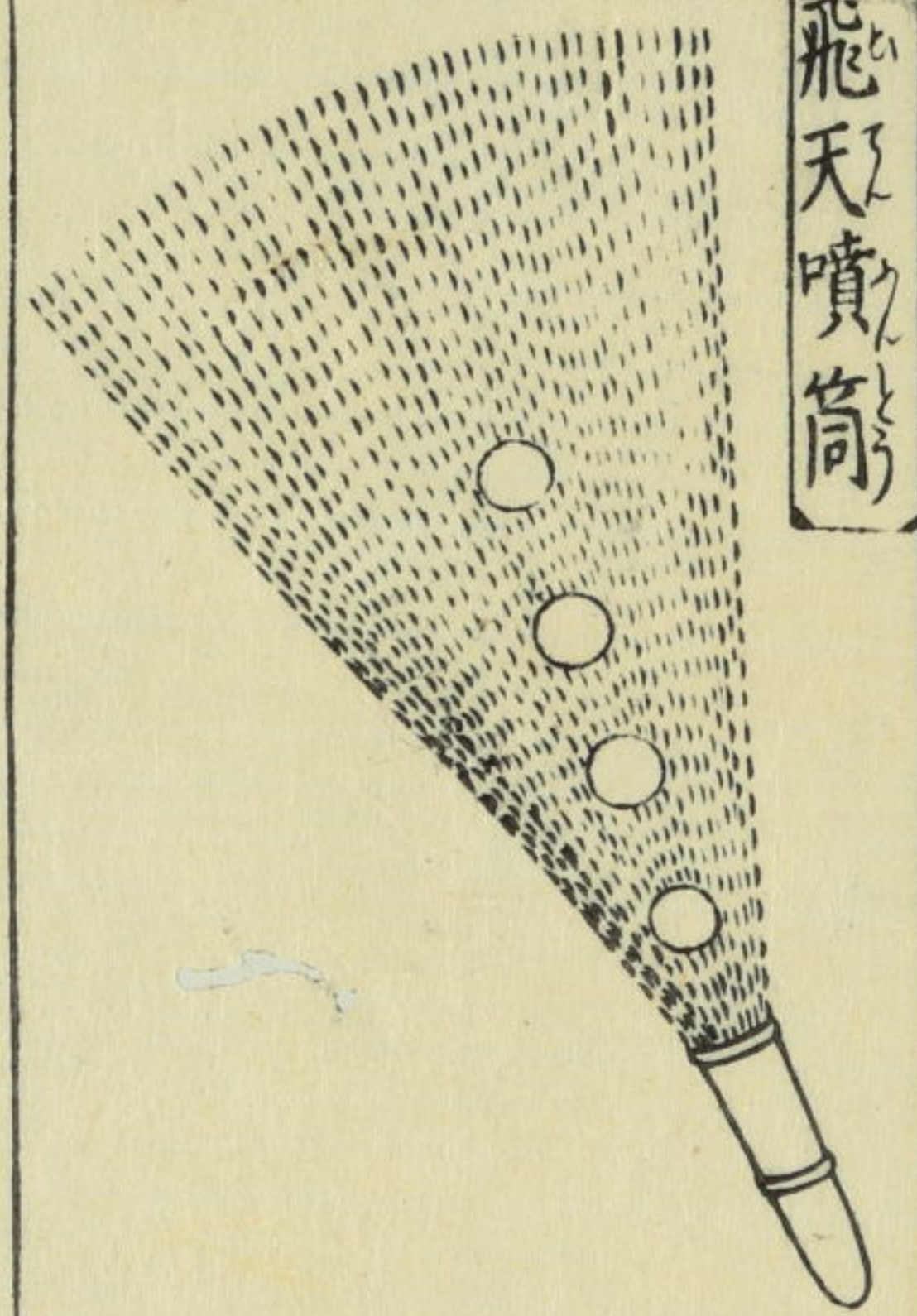


取中の火器

火妖圖式

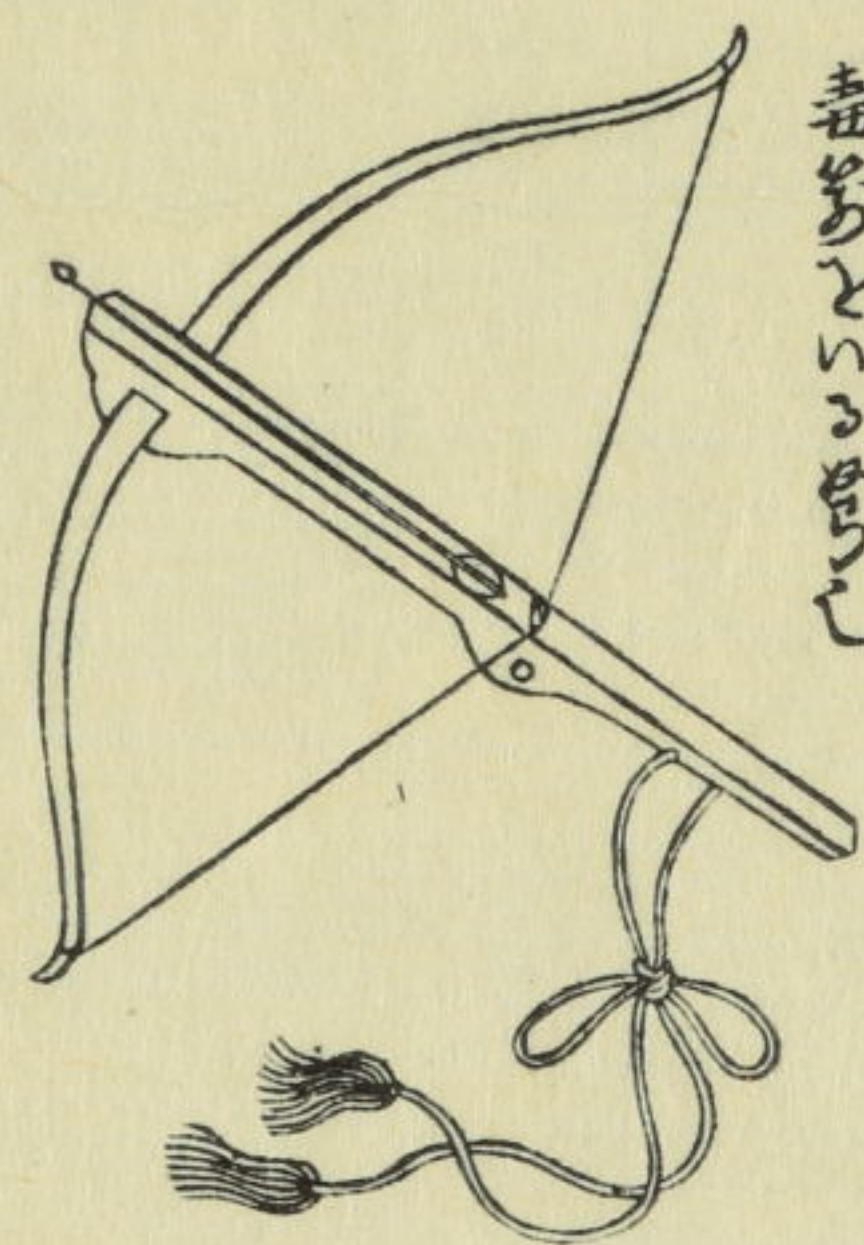


飛天噴筒



毒をといふ器

兩廣藥箭



脚枚圖

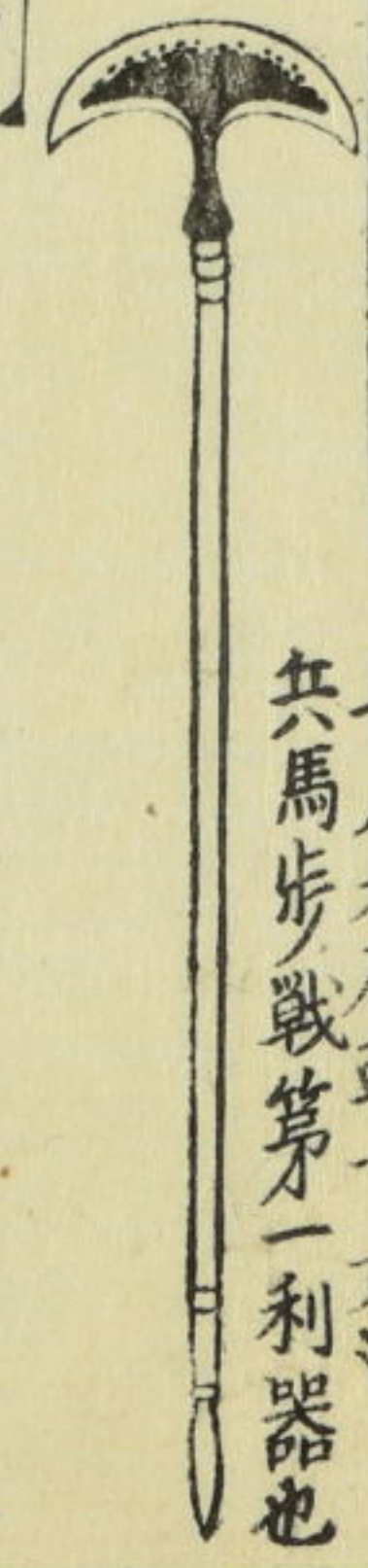


竹の截四寸二六分なり
或ハ圓板一代てしらの
此間に姓名とある

某哨某隊某甲兵某

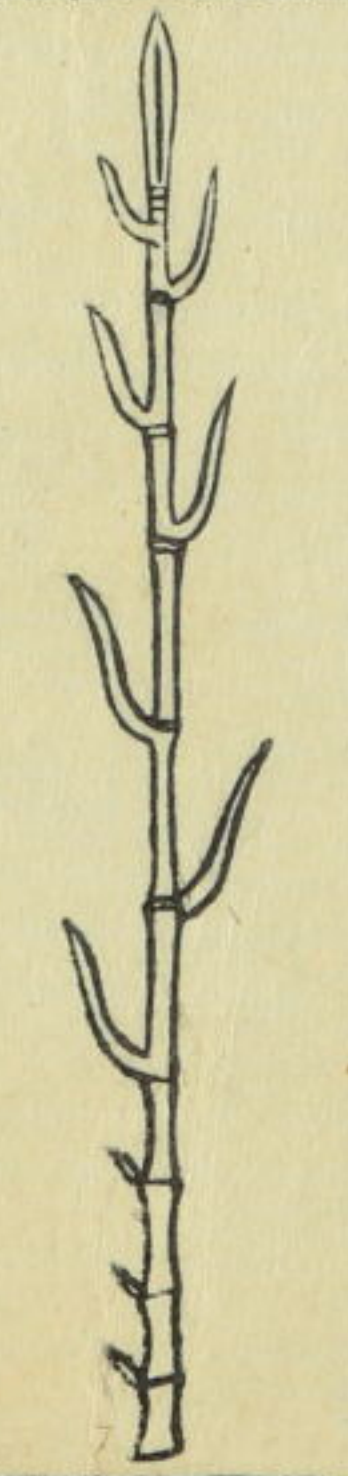
唐七川東國軍器

天蓬鏢式



内外皆鋒刀横長二尺柄
長八九尺或一丈
兵馬歩戰第一利器也

蓑笈式



鉤竿



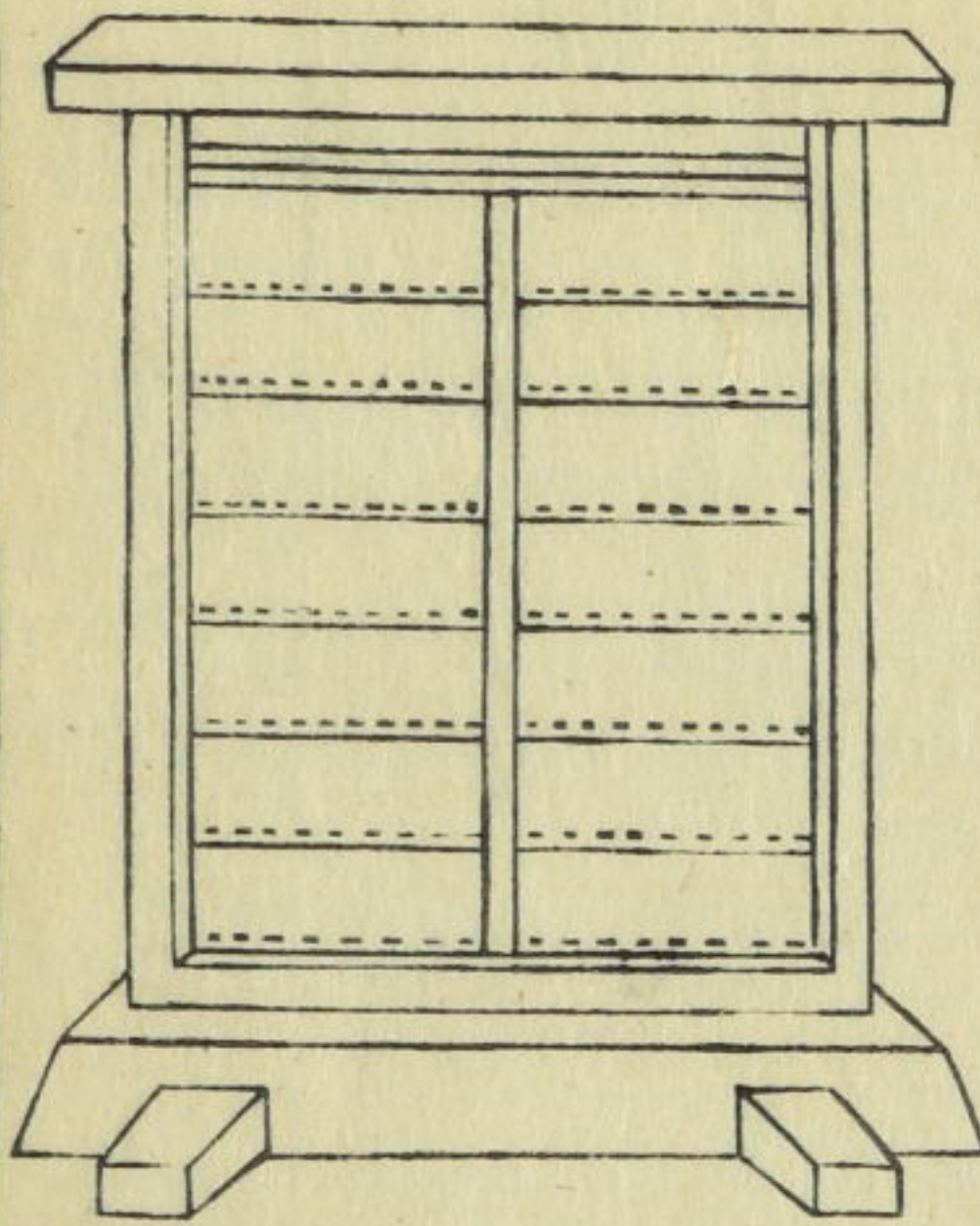
引割斧



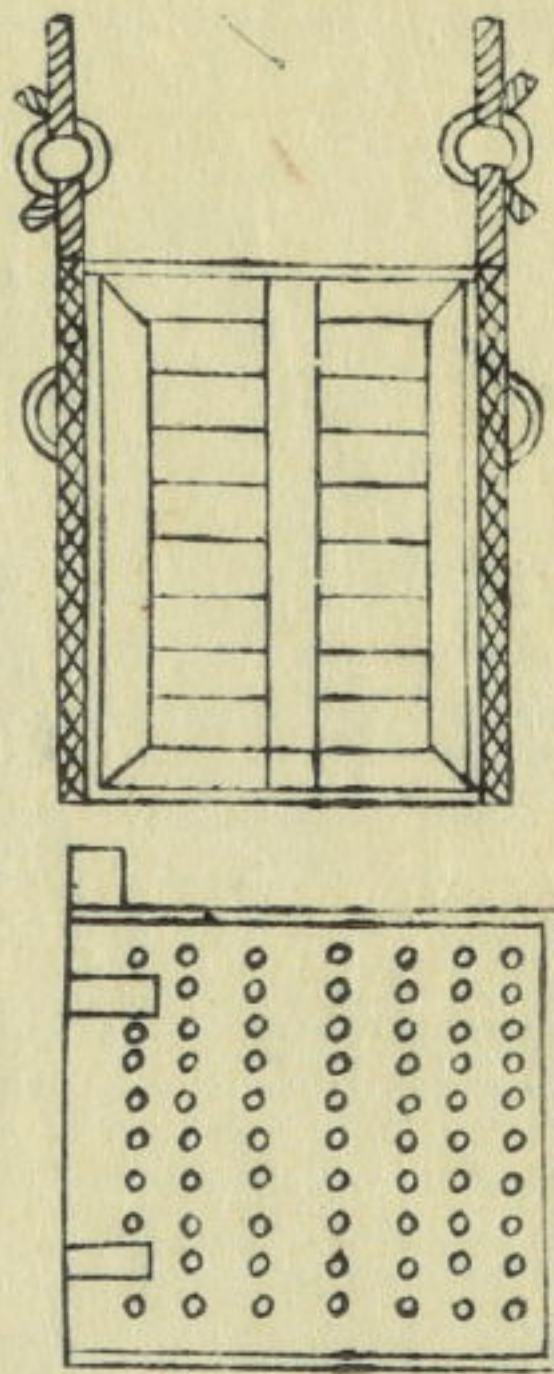
又竿



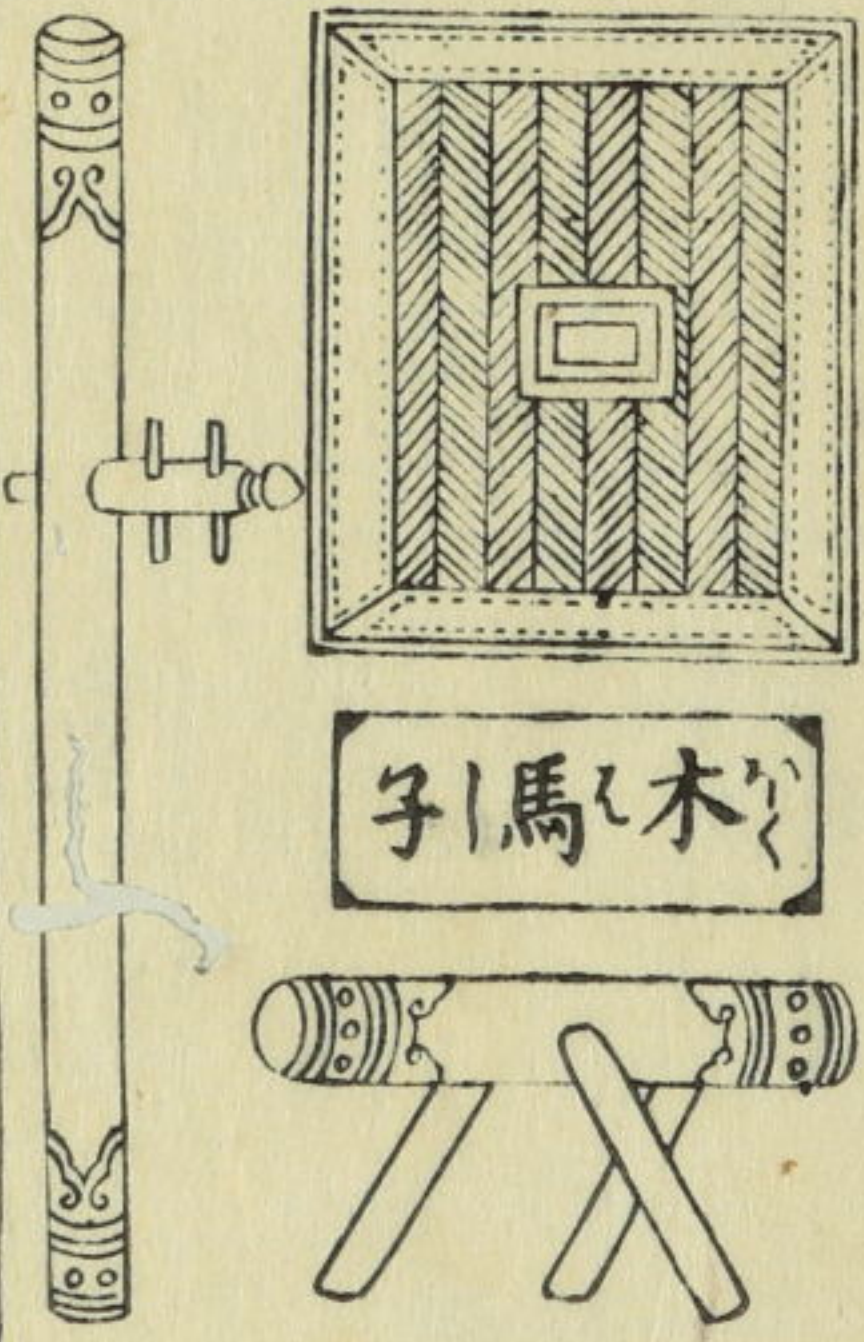
設物 間 敵 門 暗



版 牌

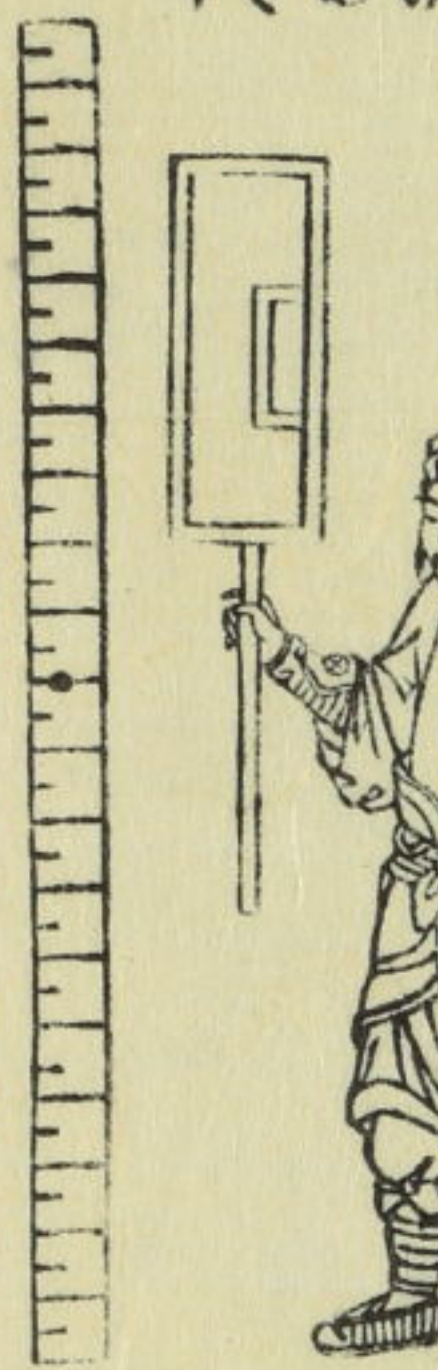


木脚 狗 芭 皮 竹



子馬木

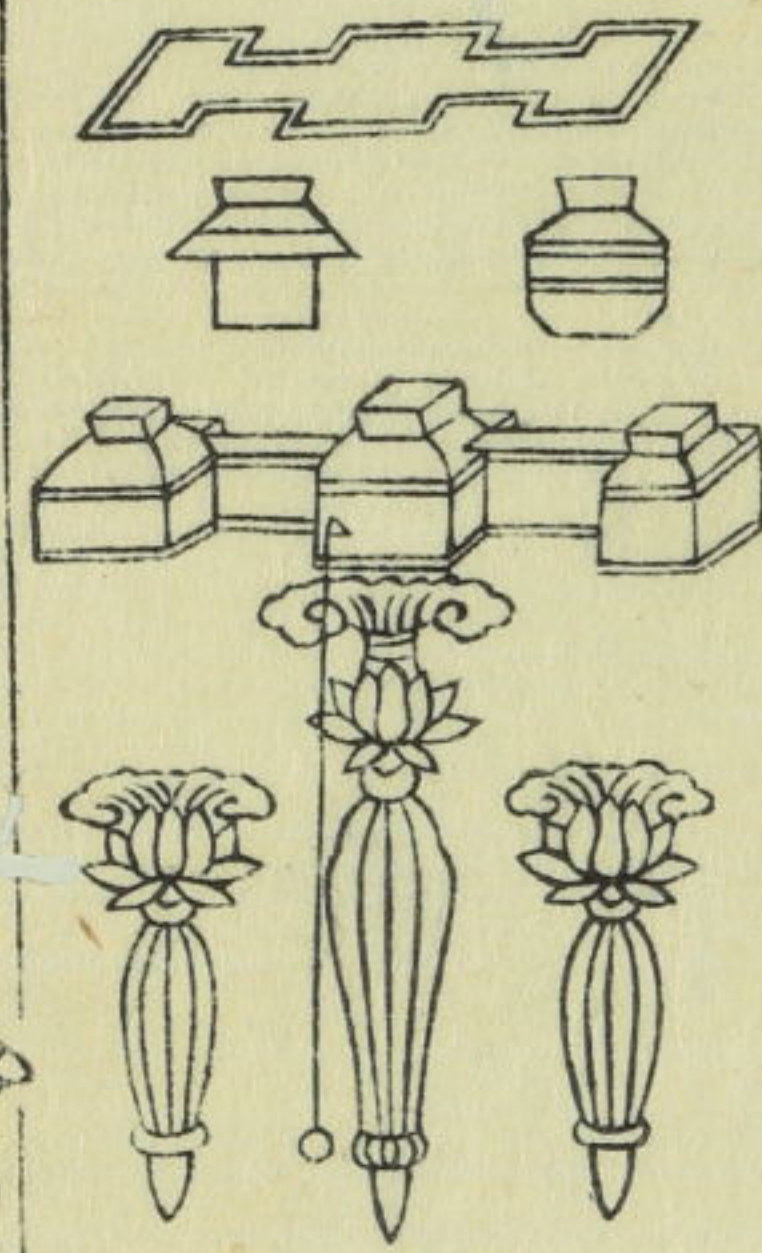
竿 度



照 板

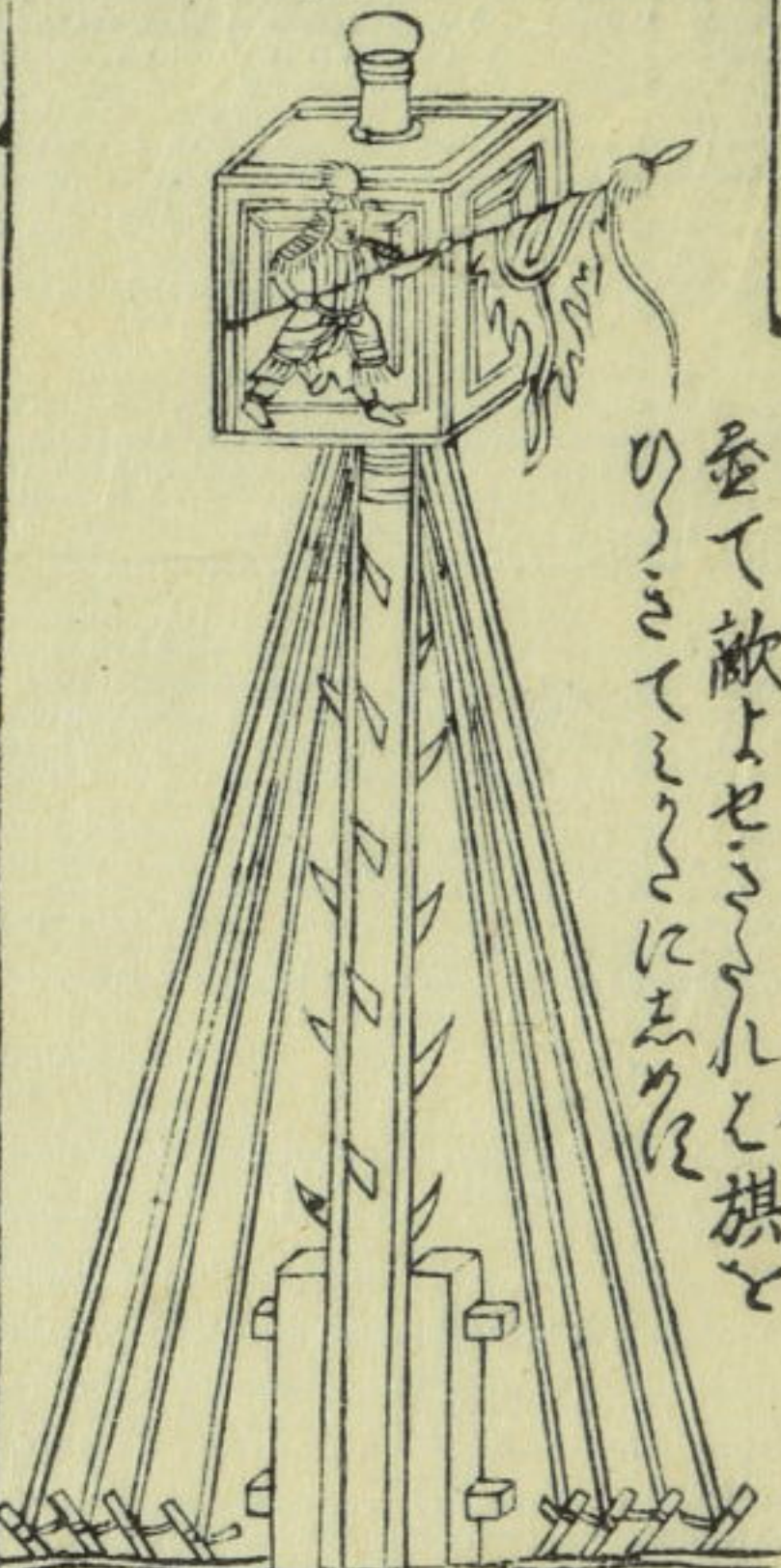
水の音と

水 平



是和より下間をさうらつものこ

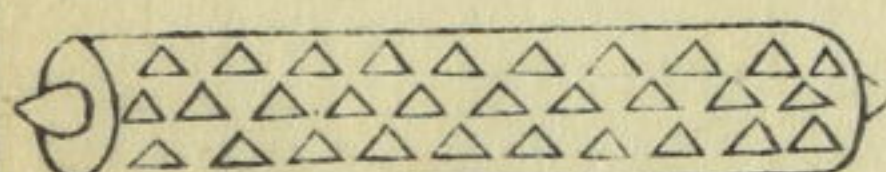
望 楼



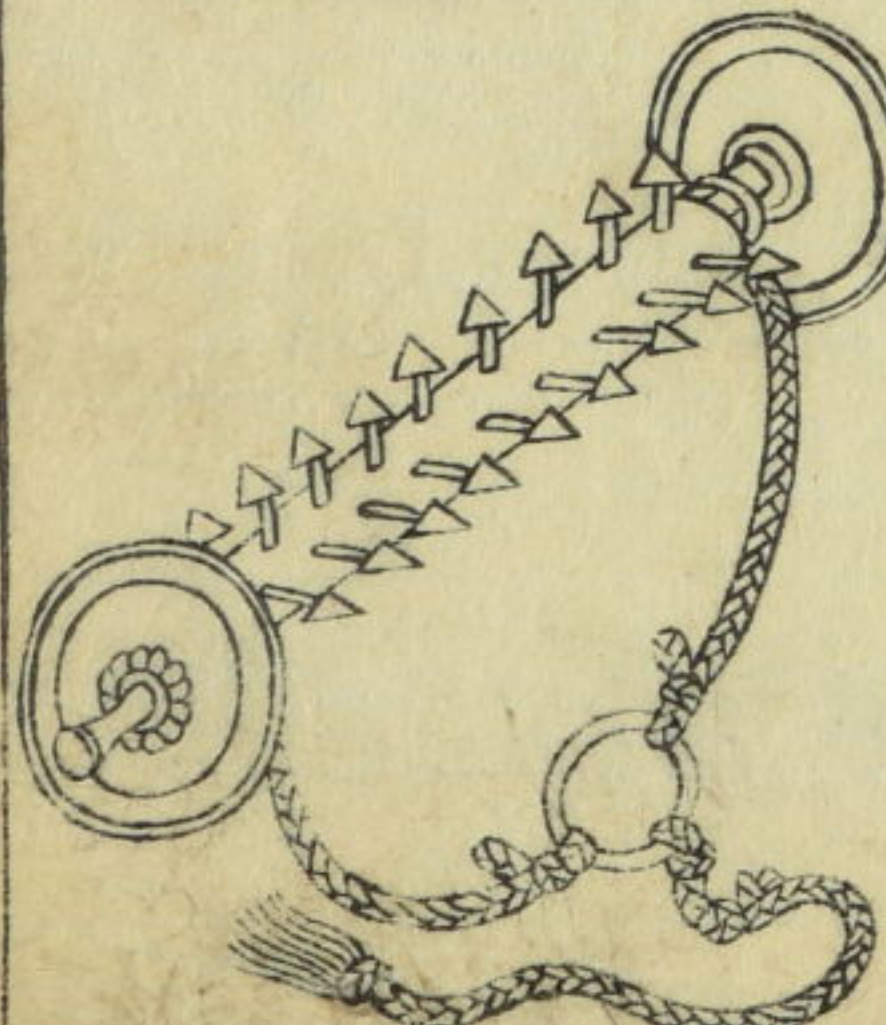
和よりせいりりし一人と上よ
登て敵よせいりりしと旗と
ひらきとさうらつものこ

つとつ 城

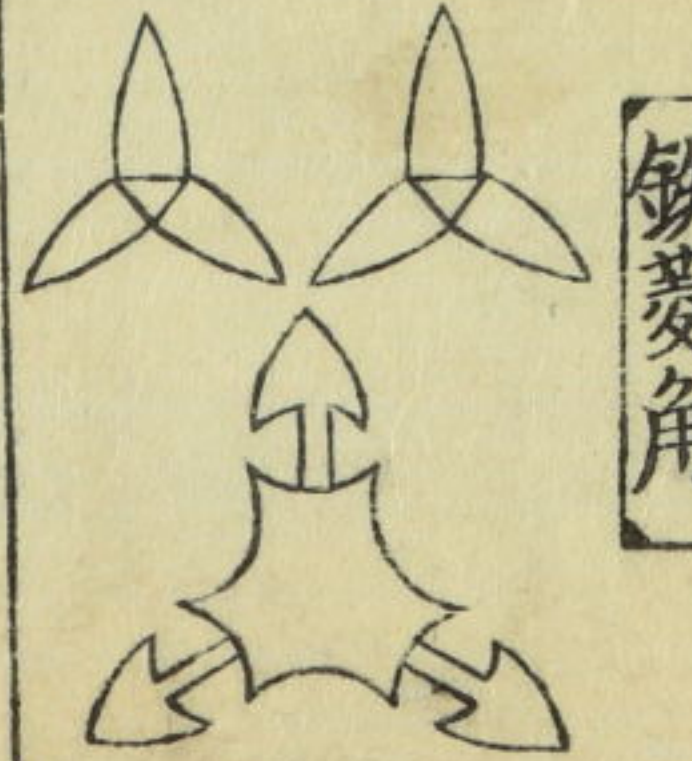
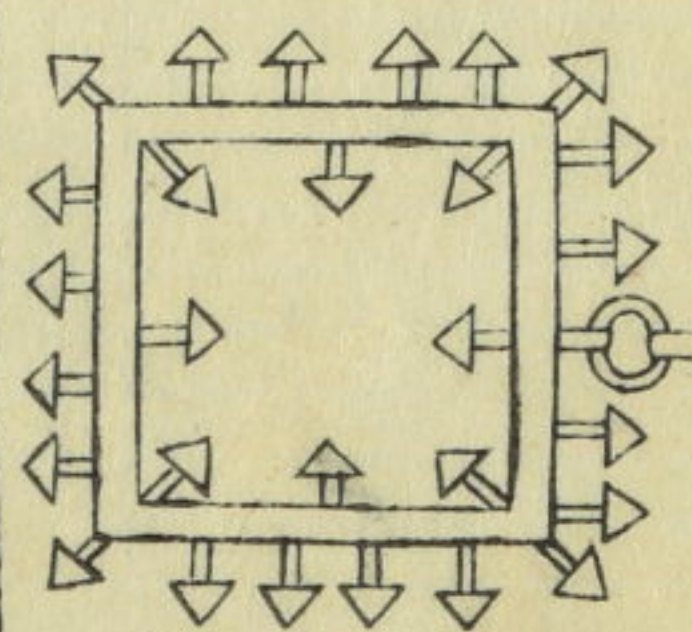
櫓 木



櫓 叉 夜

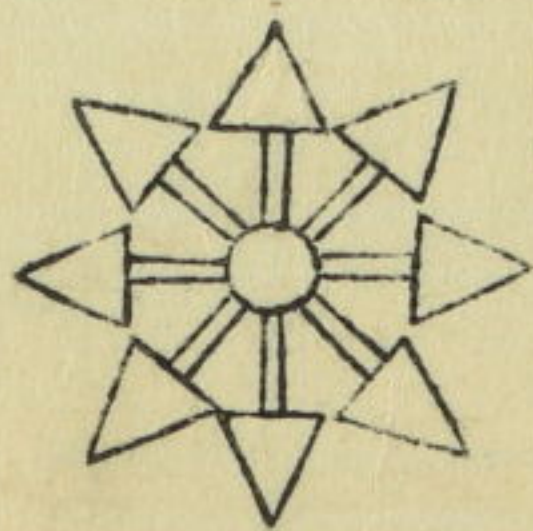
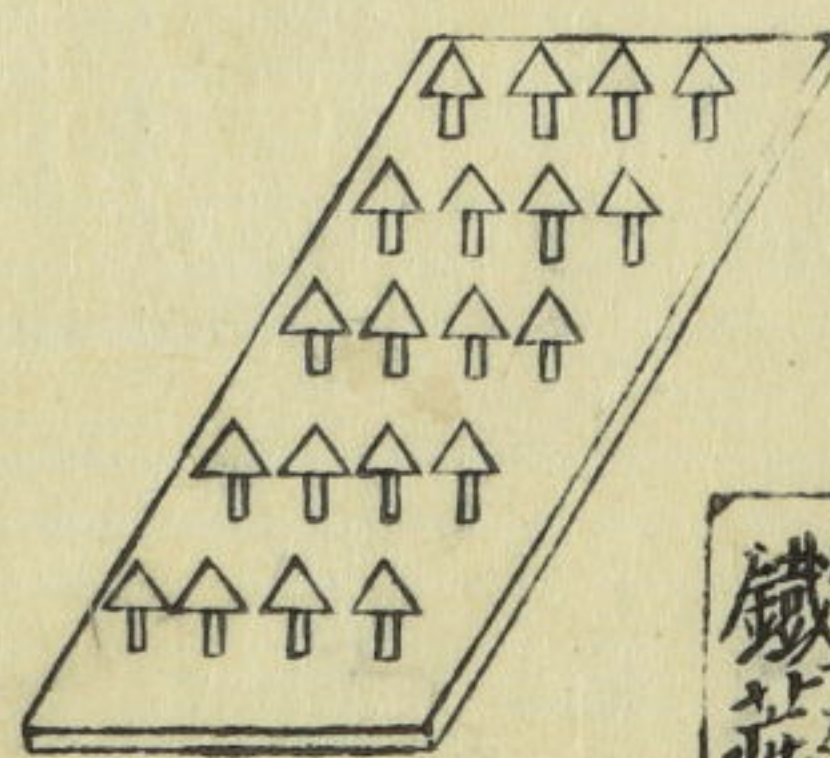


し 刺 鳥 蹄 摺



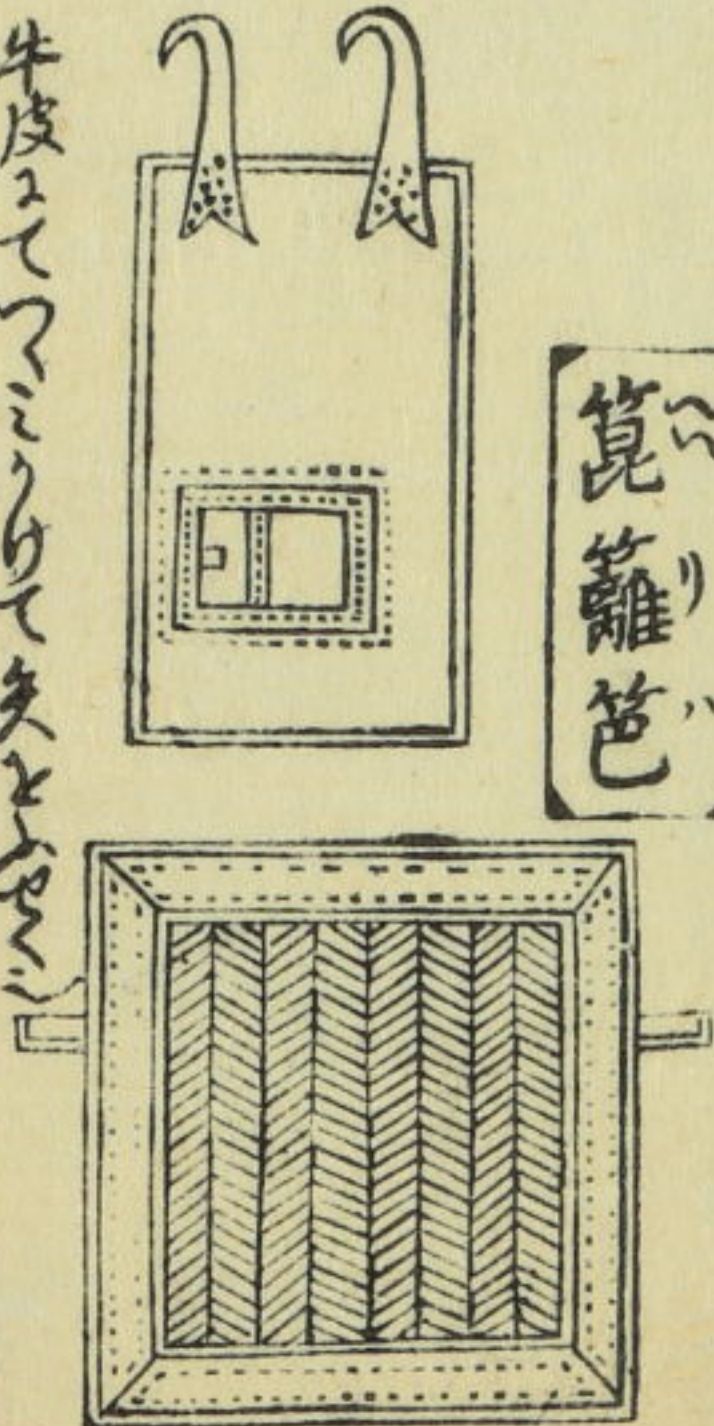
鉄 菱 角

溢 地



鐵 疾 梨

版 鐘 垂



牛皮にてつくりて矢とや

水 用

囊 浮

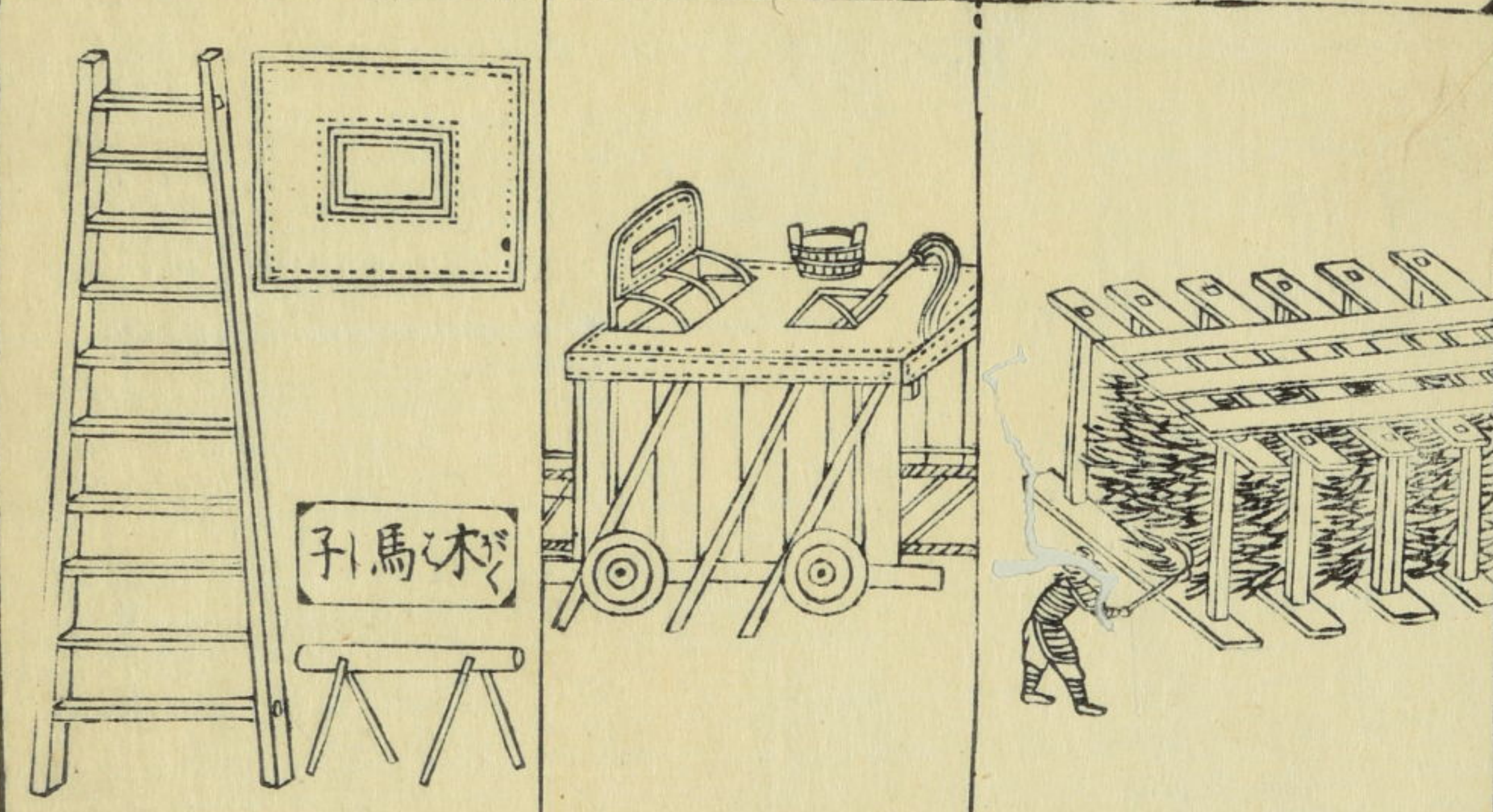


式 組 飛

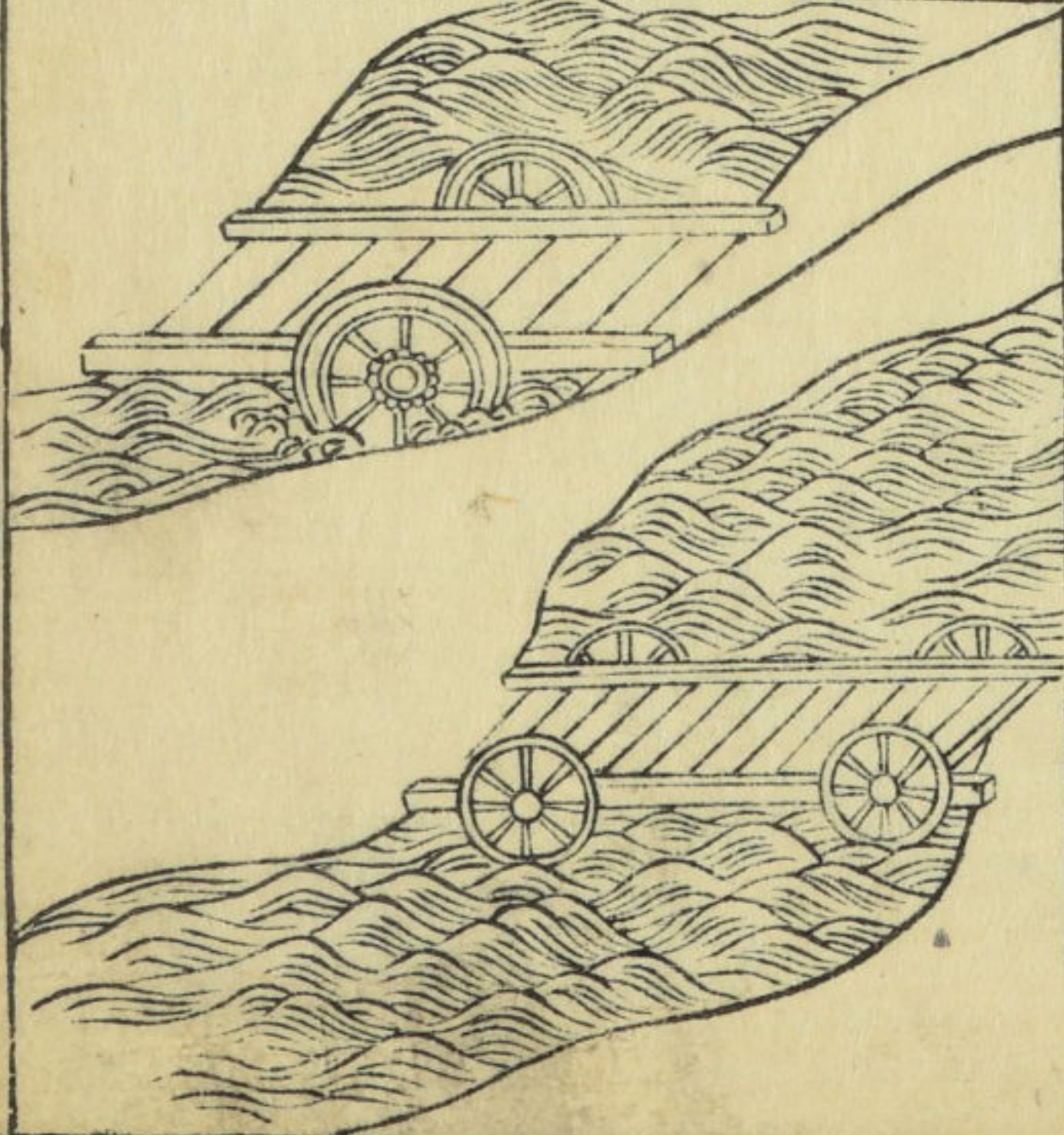


善水と遊ぶ
工とせし後
向の舟は柱と
立大つた有
ておる人敷
とくうの人数
いさやうのや
河ともやん
く越へし

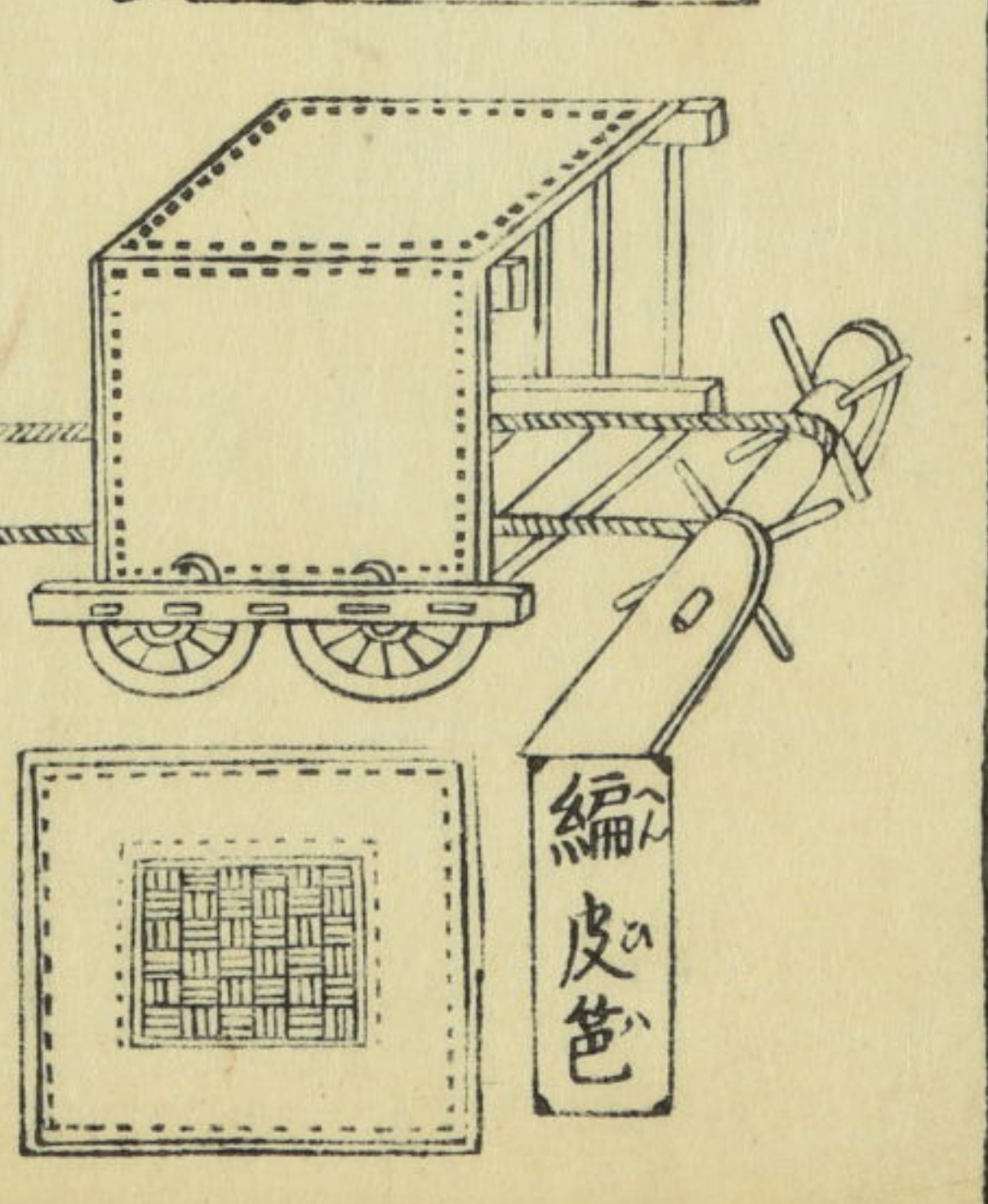
梯車頭上 芭風屏 具せ城を 車頭 器こよに 城と 道地



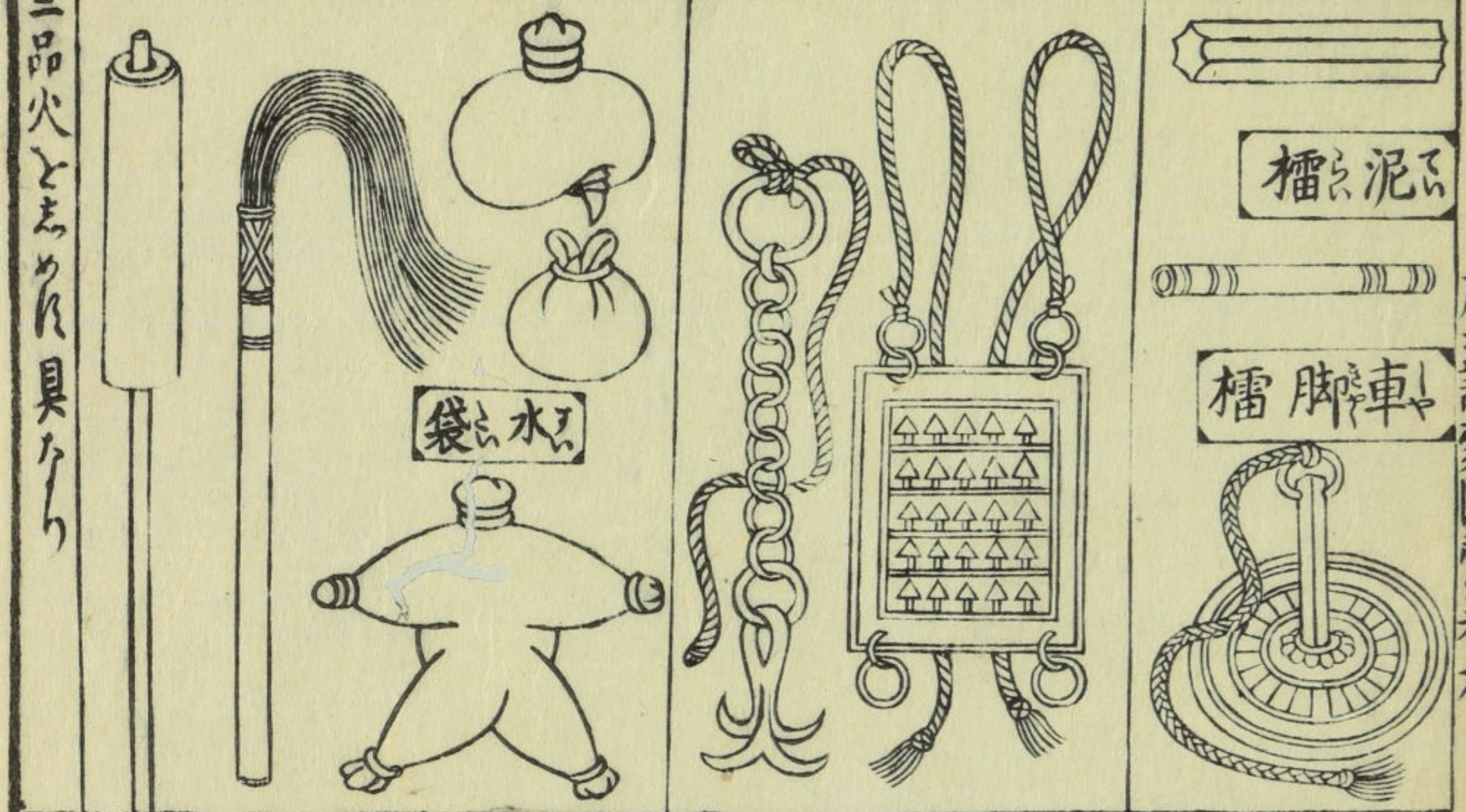
ちし用と接格 橋壕



棚緒搭掛

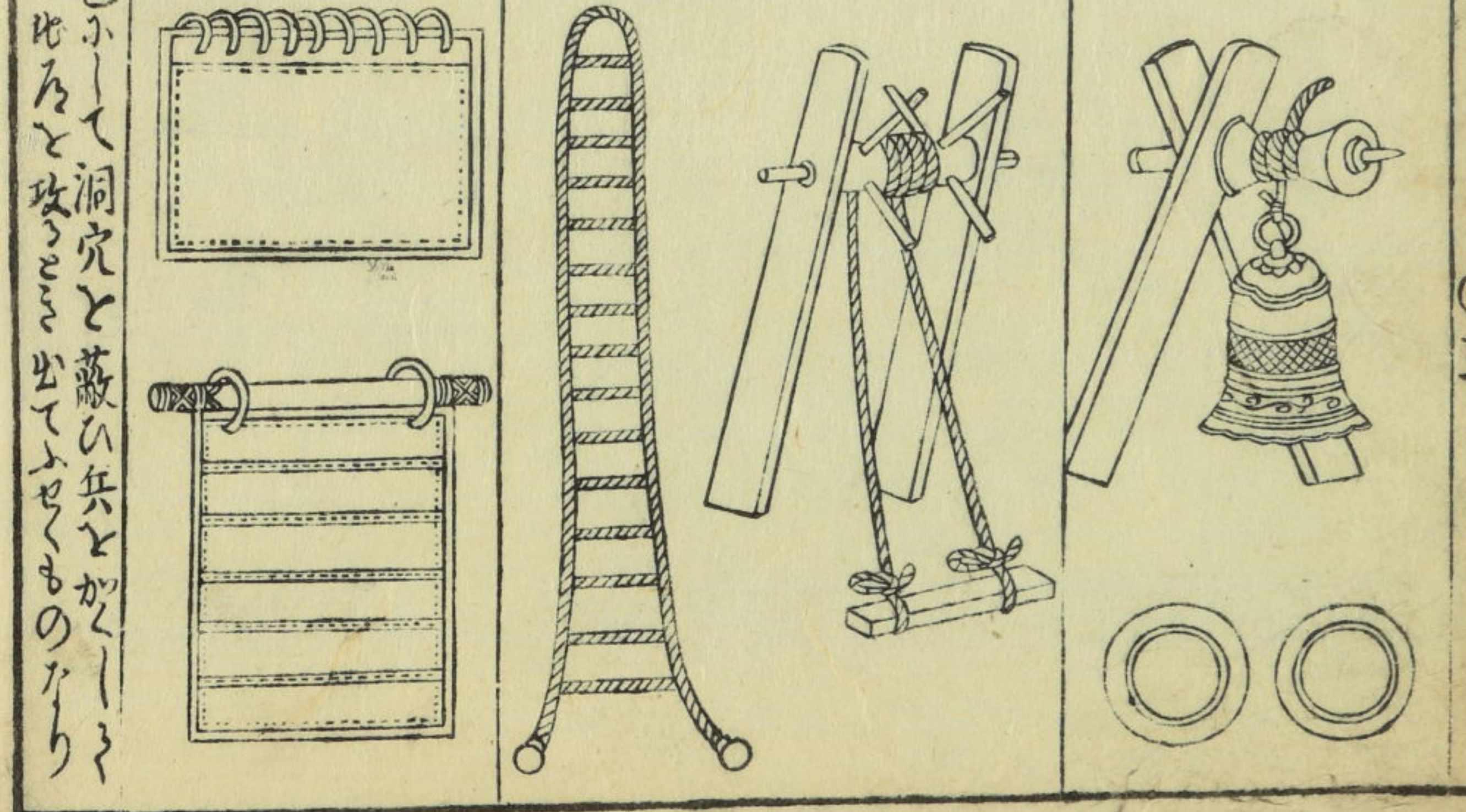


筒唧 搭麻 囊水 鉤飛 拍牙狼 桶塽



土色小して 敵の比厚と攻とささ出てよせくものなり

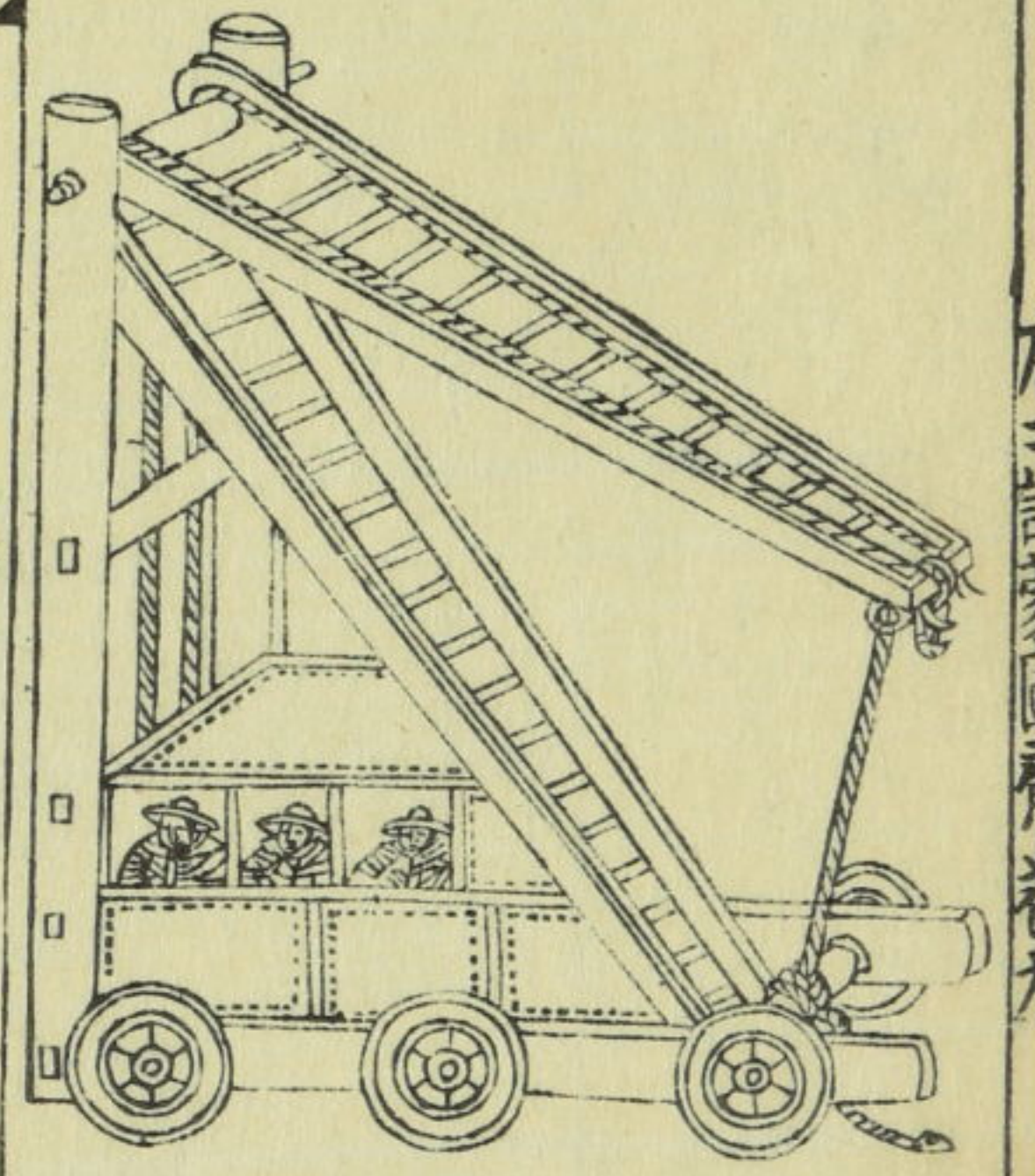
簾種 簾波 梯繩 車絞 城下 木撞鐵



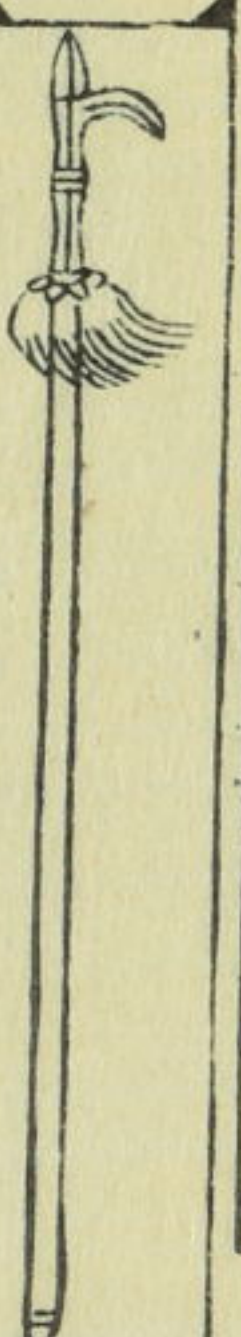
塵土調家屋扇巻

三

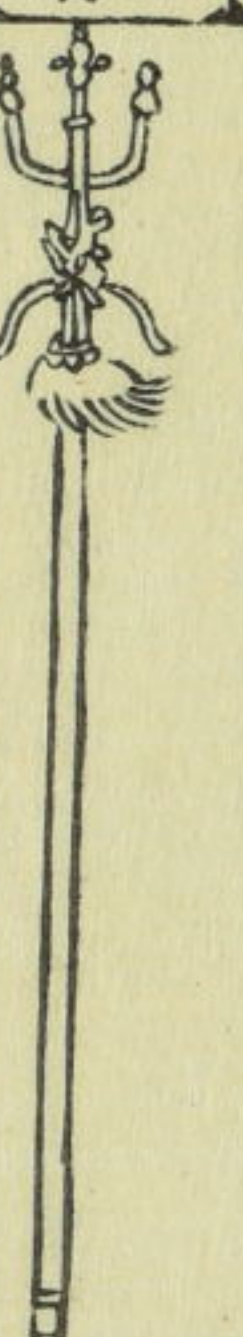
雲梯
くもの
はし
飛梯
この数
頭



鉤鎌



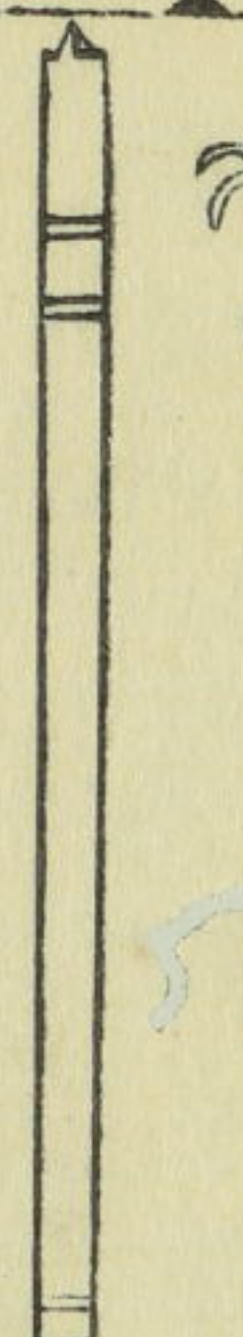
鉄骨朶



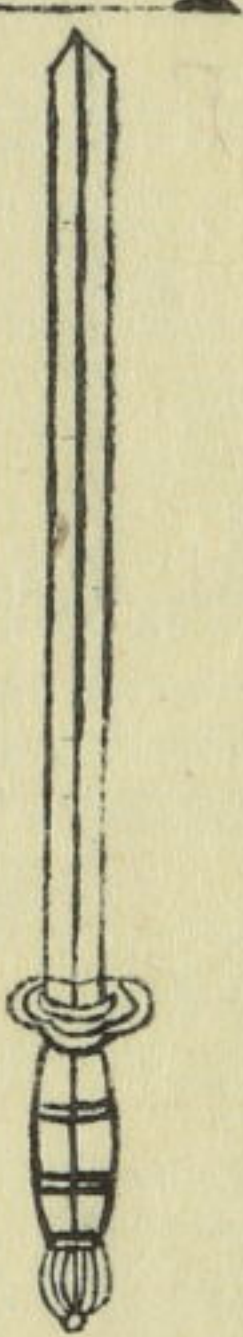
留客住



請人拔



鑑



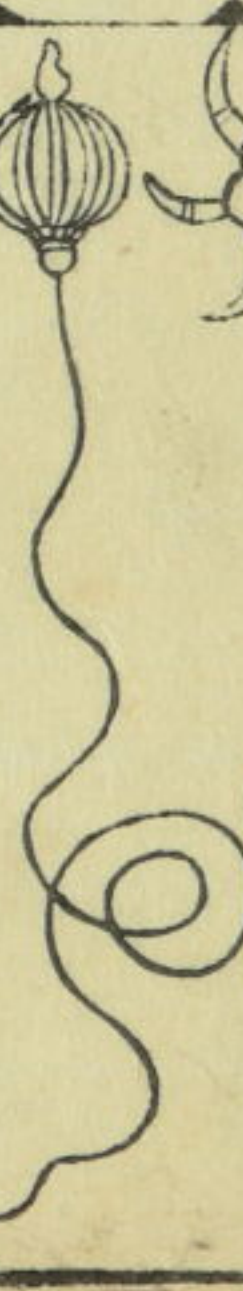
龍叱



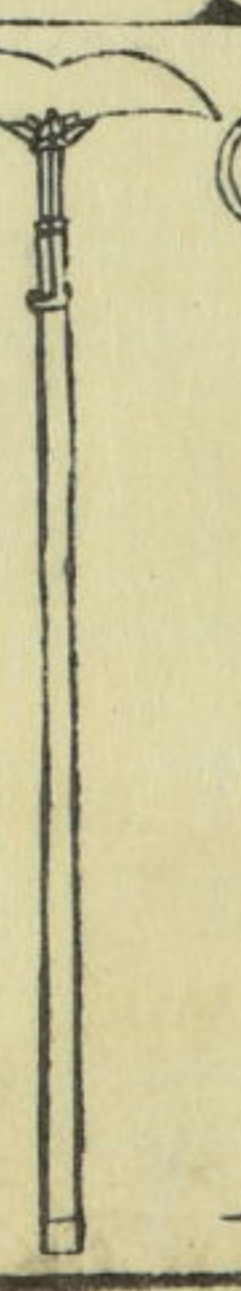
梅叱



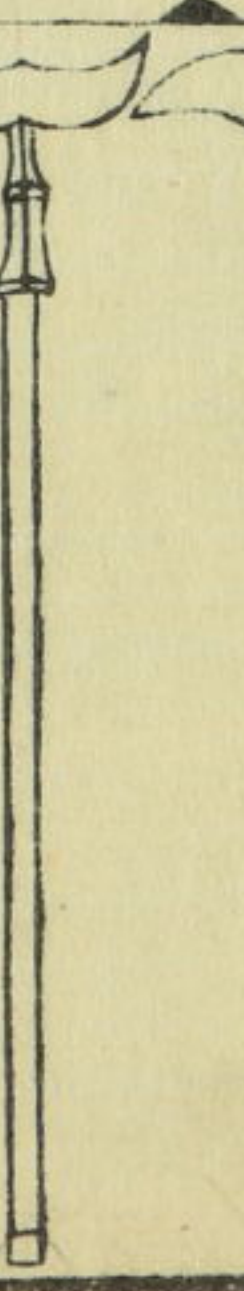
星鏡



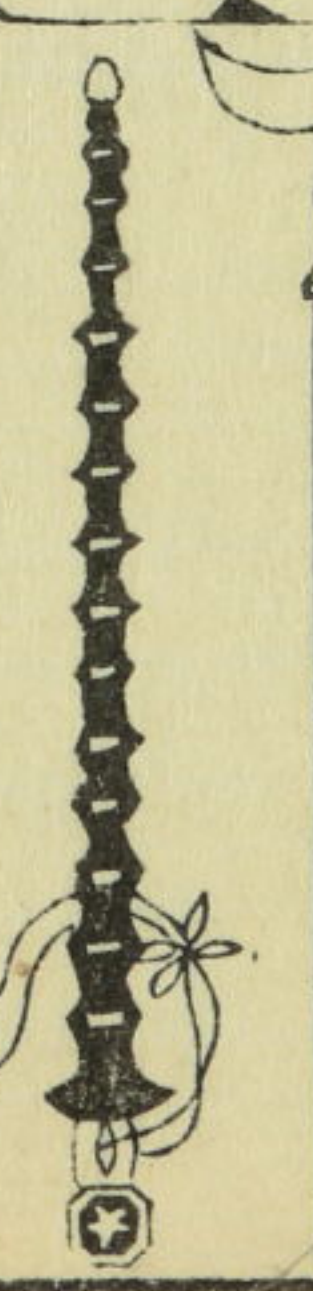
内月牙



外月牙



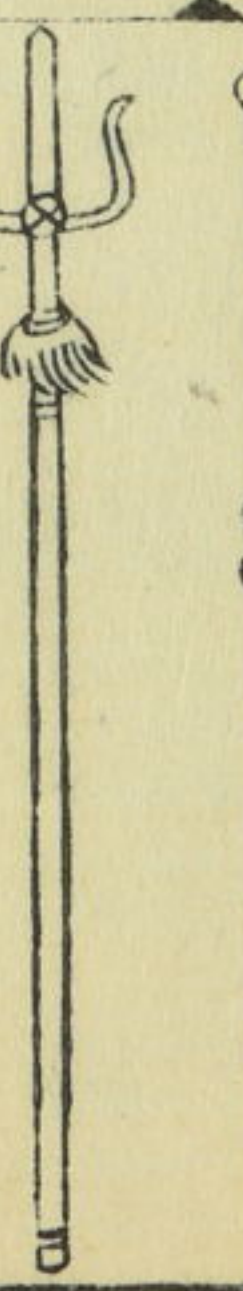
鋼鞭



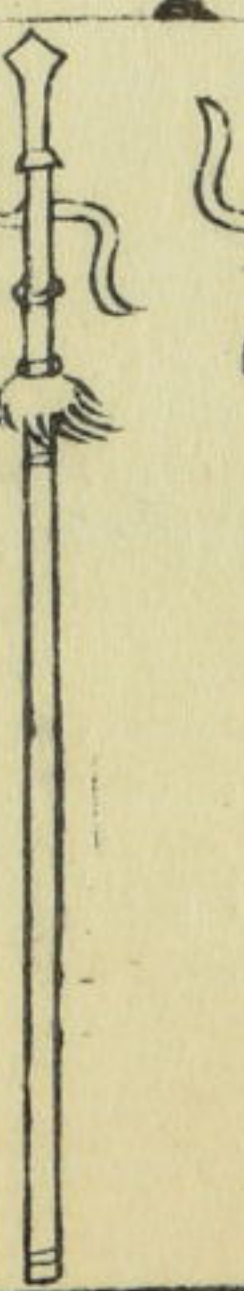
二節刀



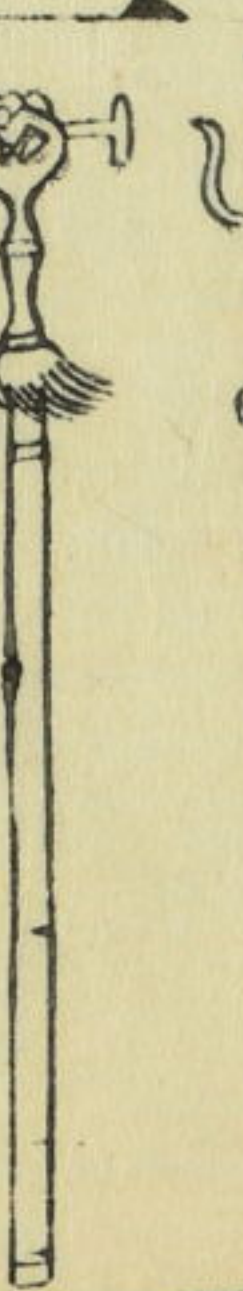
文又



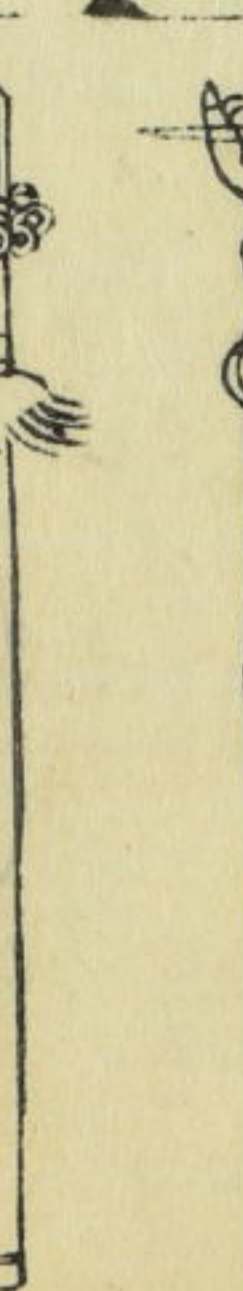
武又



銅拳

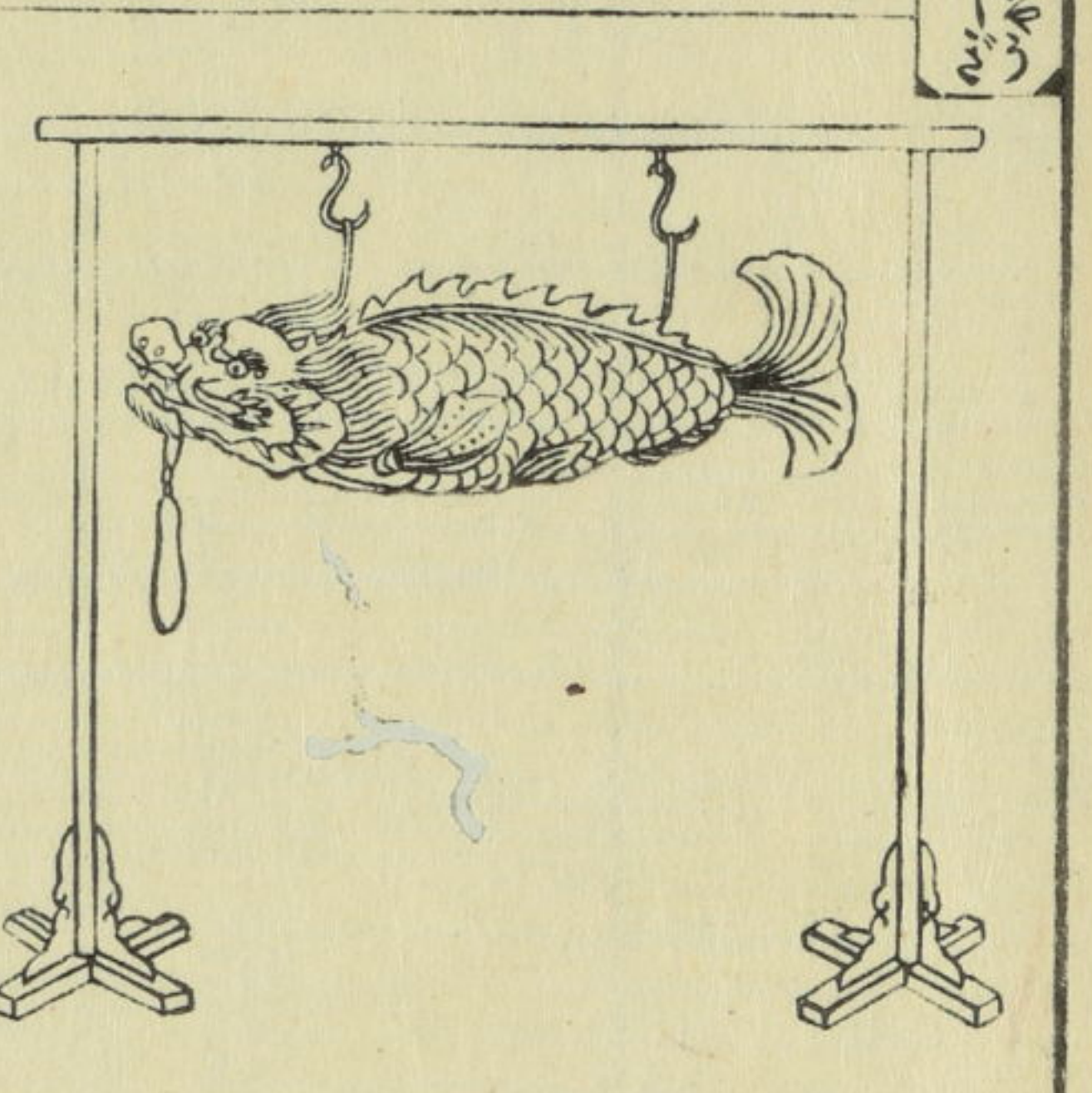


柀結



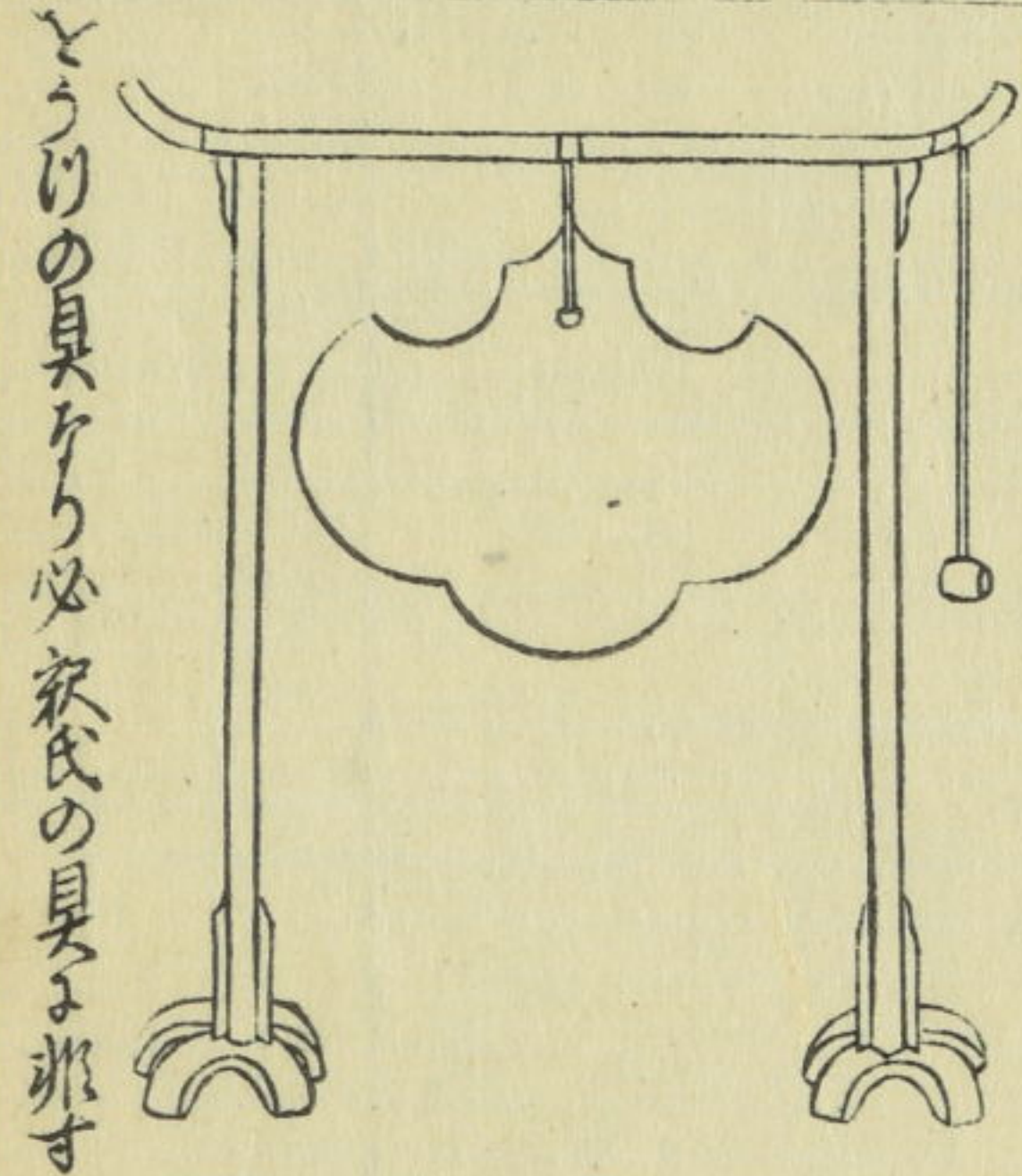
柳
しんりゅう

柳ハ昂ら
柀易曰
重門撃柀
以待暴客
といふを
柀ゆ木
と撃て更
壽と云
者も同

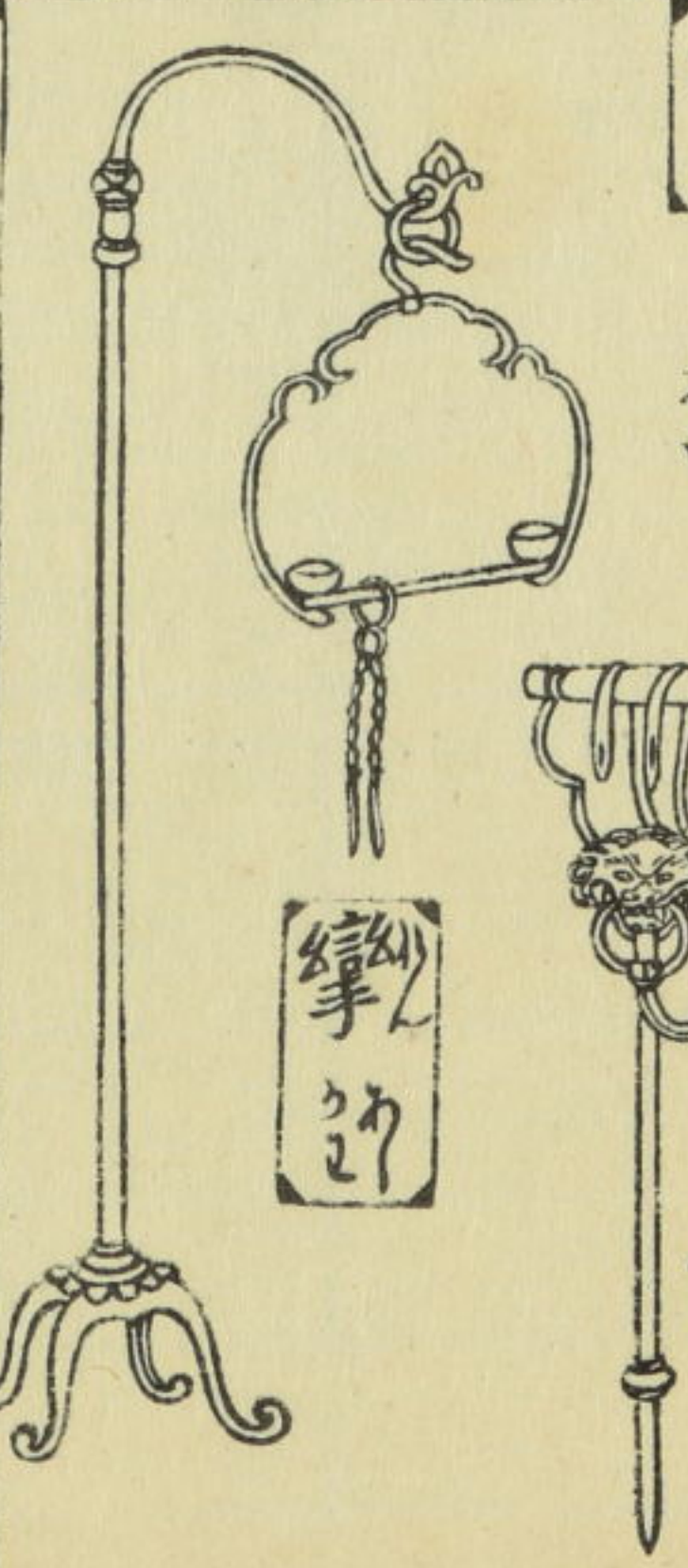


典鐘

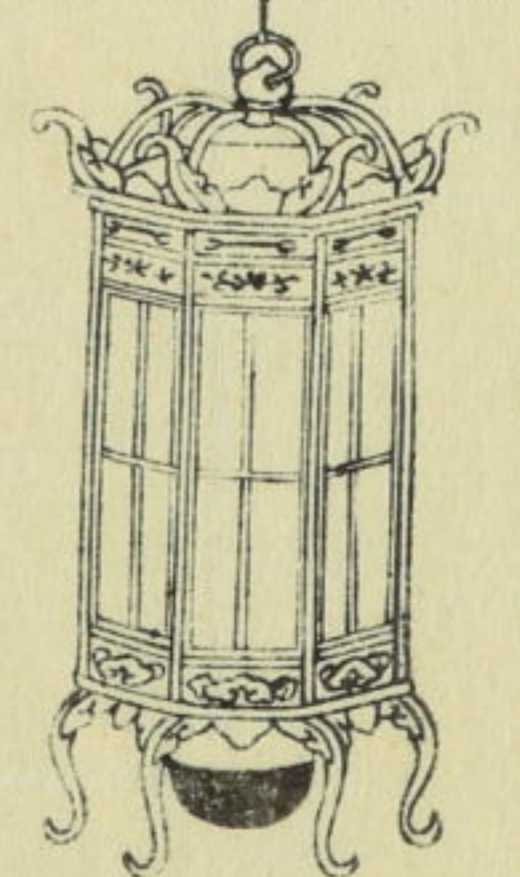
唐六典皆
鐘を撃
大史門
典鐘あり
二百八十人
撃編鐘
と掌
り
○柳典
後大刻
とりの具
けり必
家臣の
具子
非す



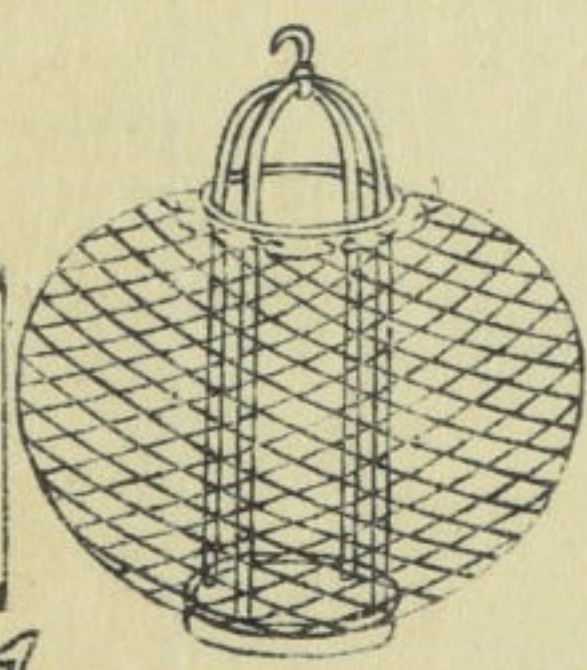
柀



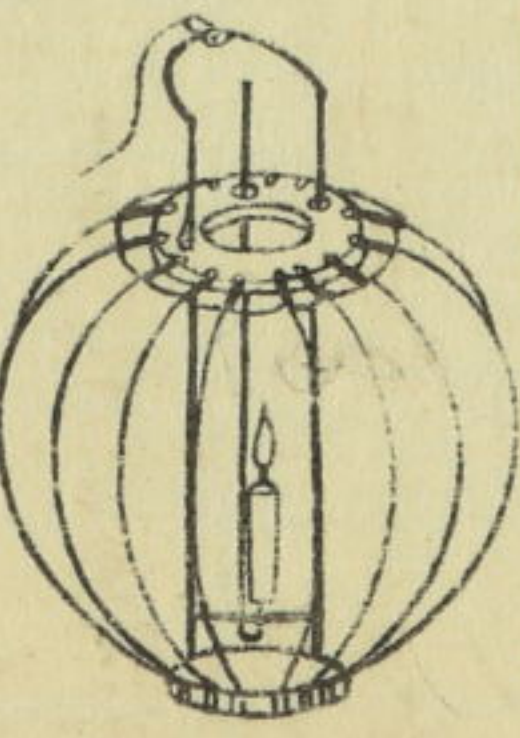
書燈



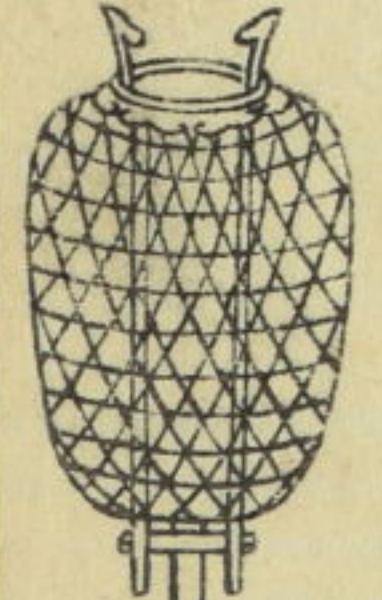
葛灯籠



目灯籠



松火



柀燈





桑梯そうてい

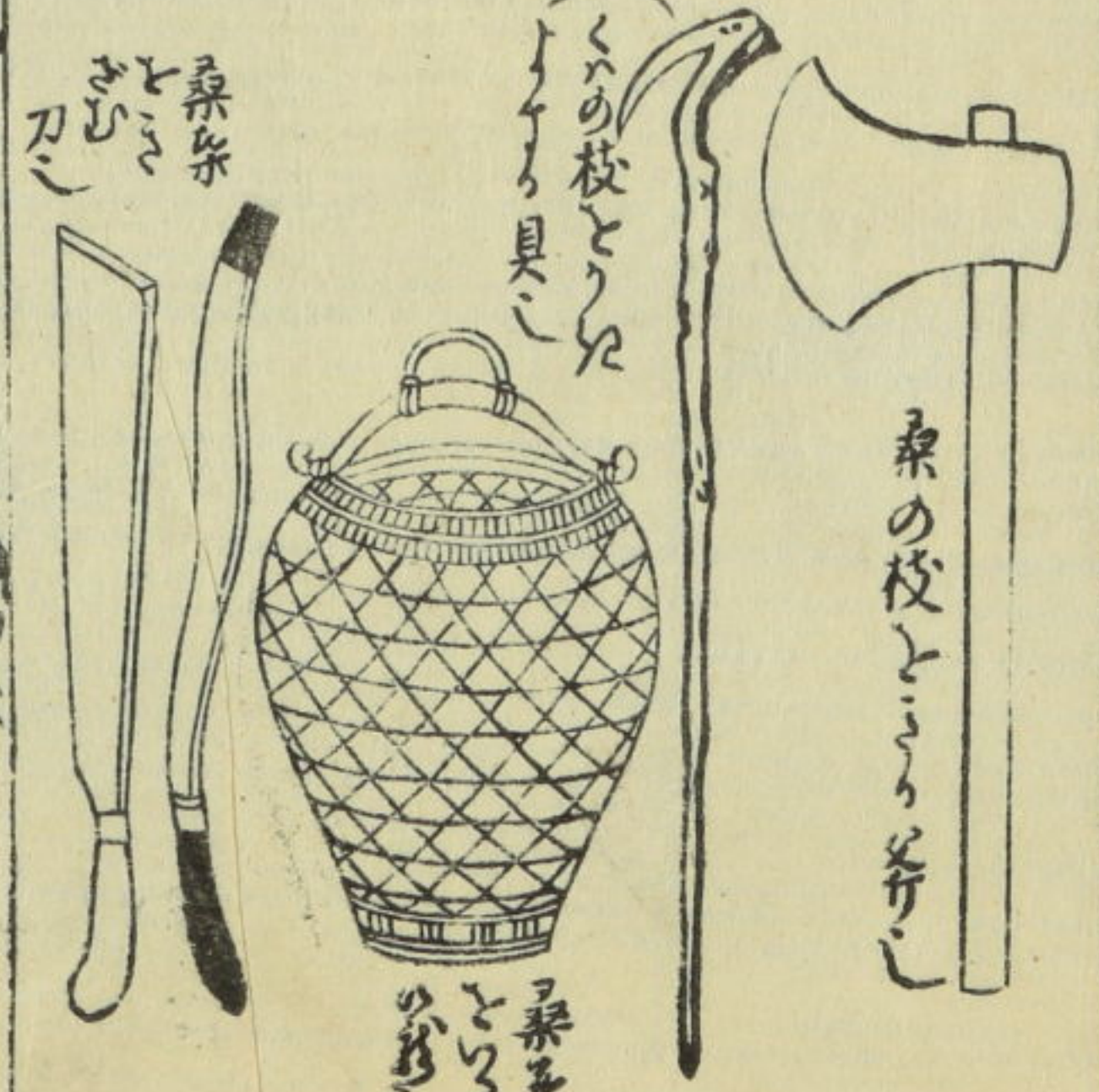


蚕織類さんおひ



桑のこしらへ

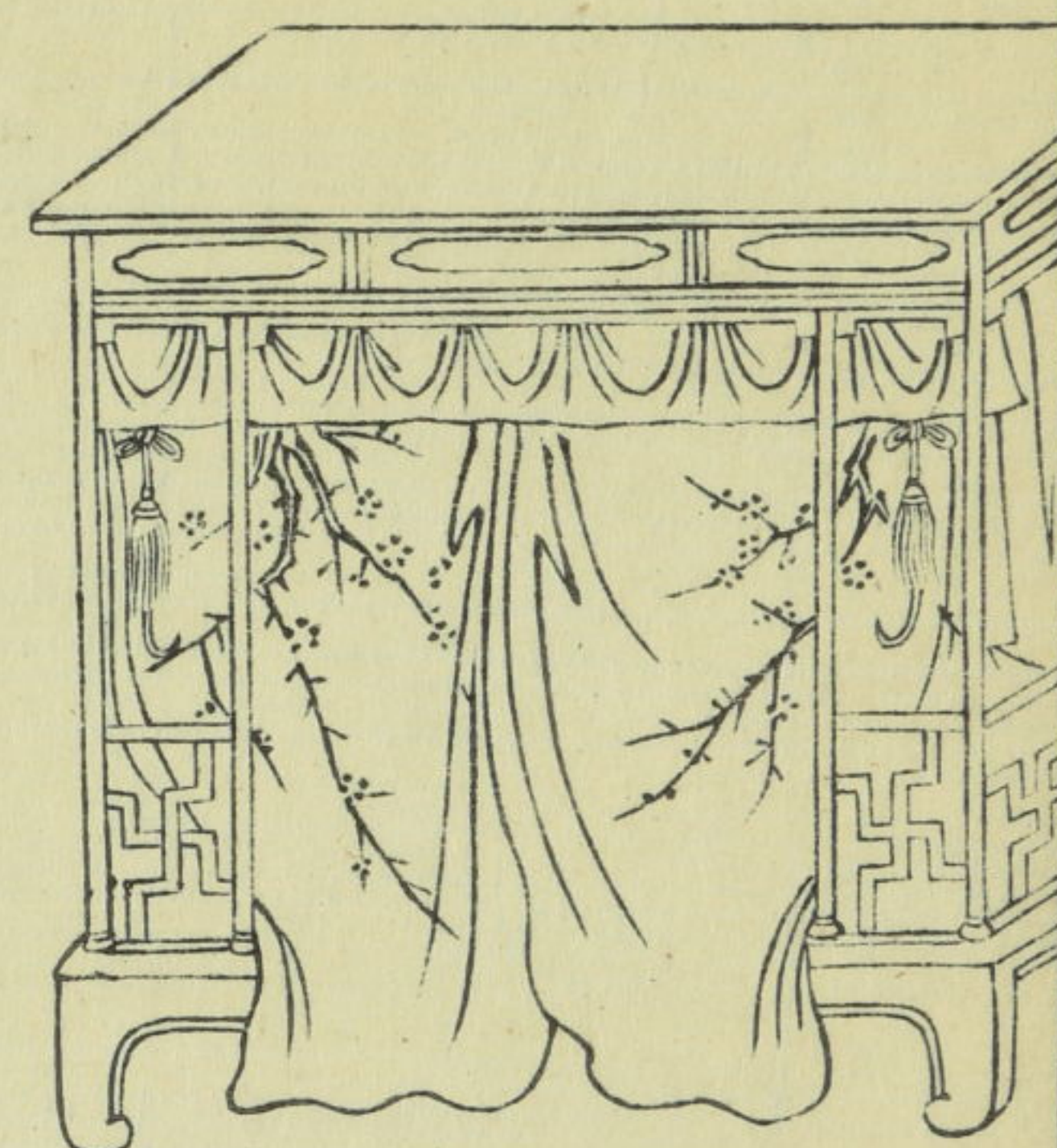
桑網そうあみ 功刀こうたな 劔刀けんたな 籠かご 桑そう 鉤かぎ 斧きりぎりす 斫う



桑糸そういと 桑具そうぐ

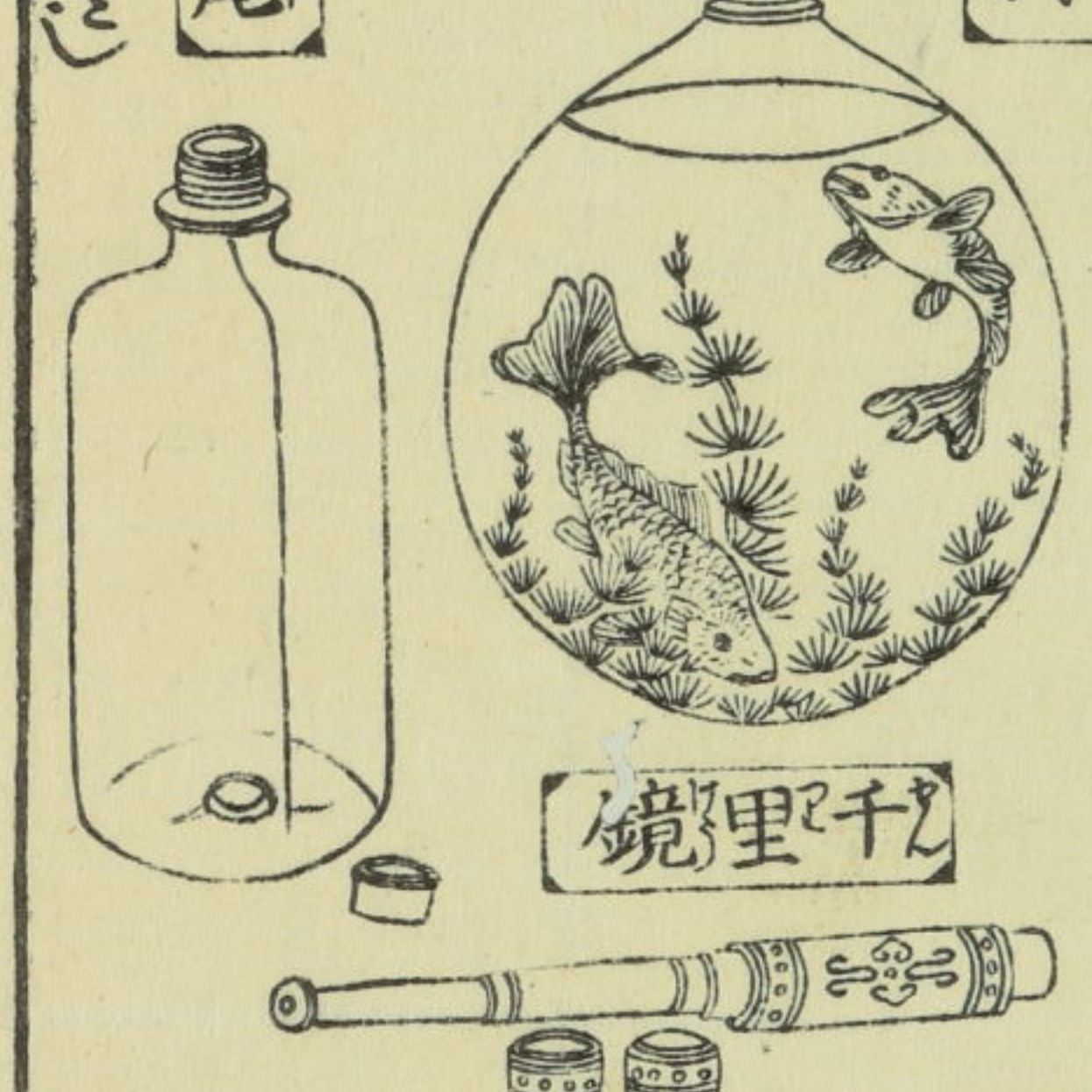
桑の枝とてり斧そうのえだとてりきりぎりす

帳床ととこ



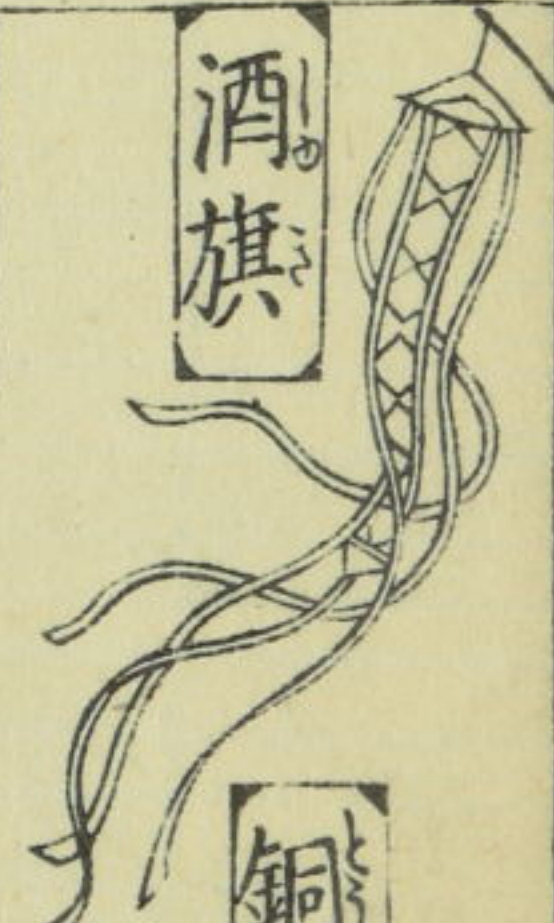
倒鼈氣たうかまき

一名海水精
おまのふい
どら石と云
とてつら
北系エビ
水と入て魚
としなけい
硝子の石
別ゆなり
佛郎瓷尾
おまのふい



千里鏡せんりきやう

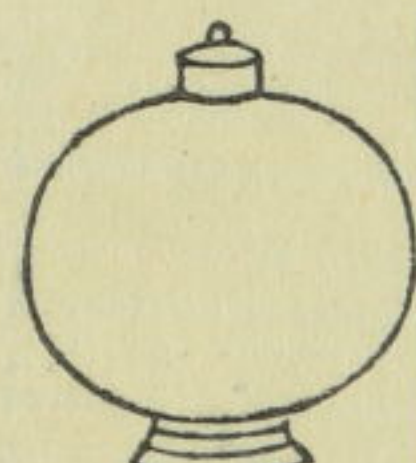
酒旗さか



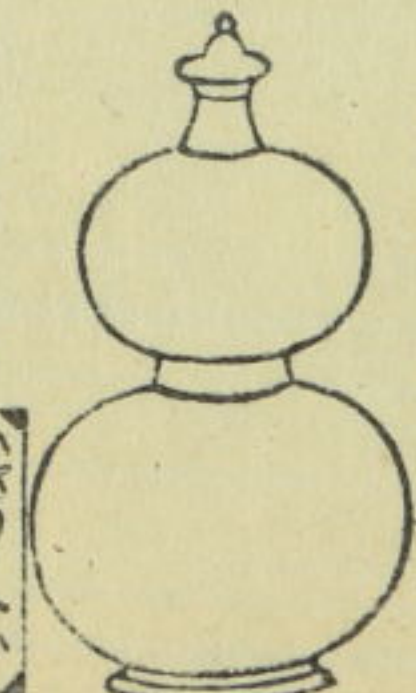
臺盤たいばん



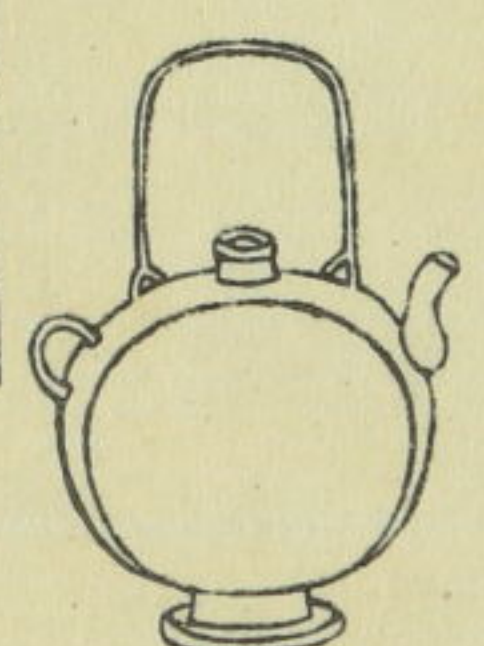
大極尊たいごくそん



葫蘆樽こりやうそん

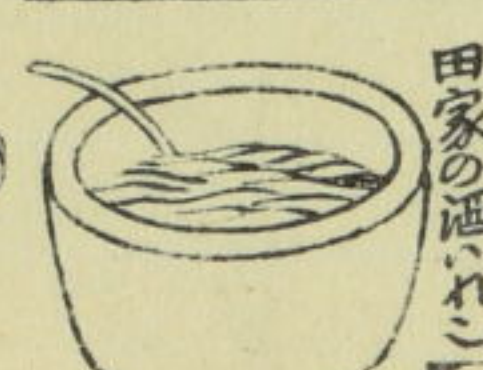


偏提へんてい

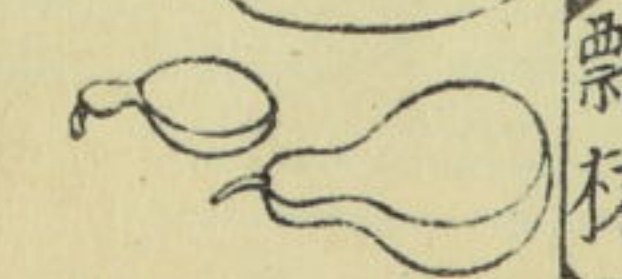


茶瓶ちやびん

老瓦盆らうわひん



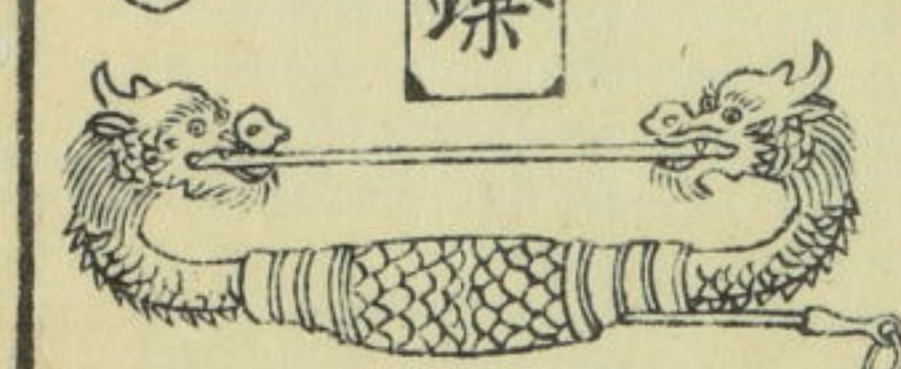
瓢杯ひょうはい



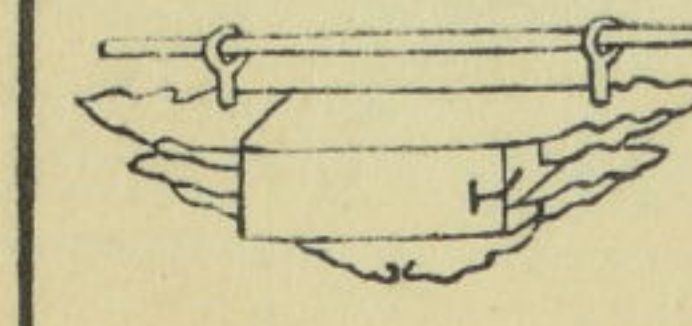
棕將軍そうげんじゆん



鏢ひょう



上同

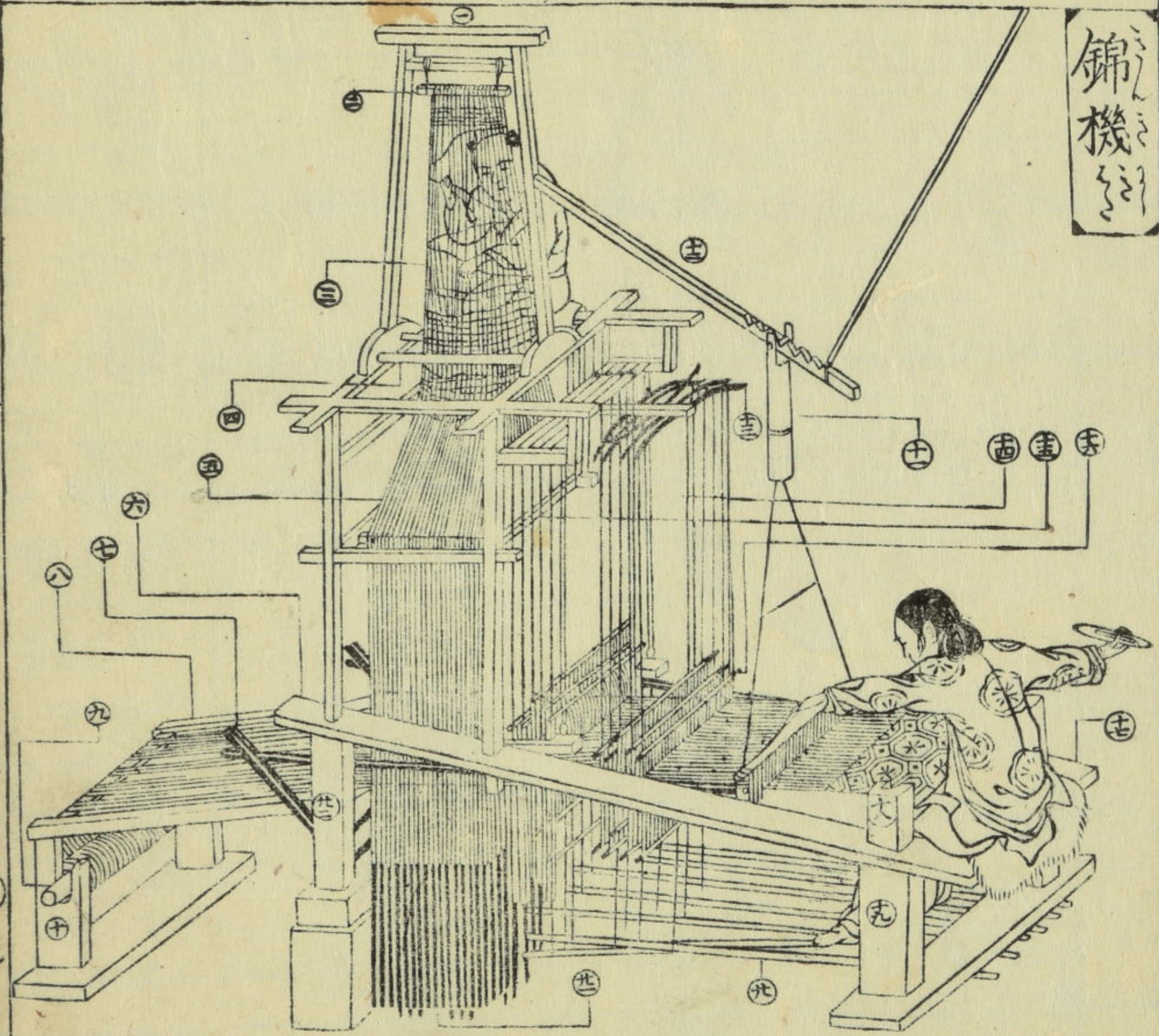


唐土新編 圖説 雜貨

一 トリ井
 ニ モンヤ
 三 スンホ
 四 ロクノ
 五 ヘダナ
 六 キンダ
 七 ヒキエ
 八 シツギ
 九 チキリ
 十 ハジカ
 十一 ラサツ
 十二 ヤリラ
 十三 ユニ
 十四 ムノリ
 十五 キバタ
 十六 フグセ
 十七 シキイ
 十八 チマキ
 十九 ヘツタ
 二十 フミダ
 廿一 イワ
 廿二 ナカツク

機具相文

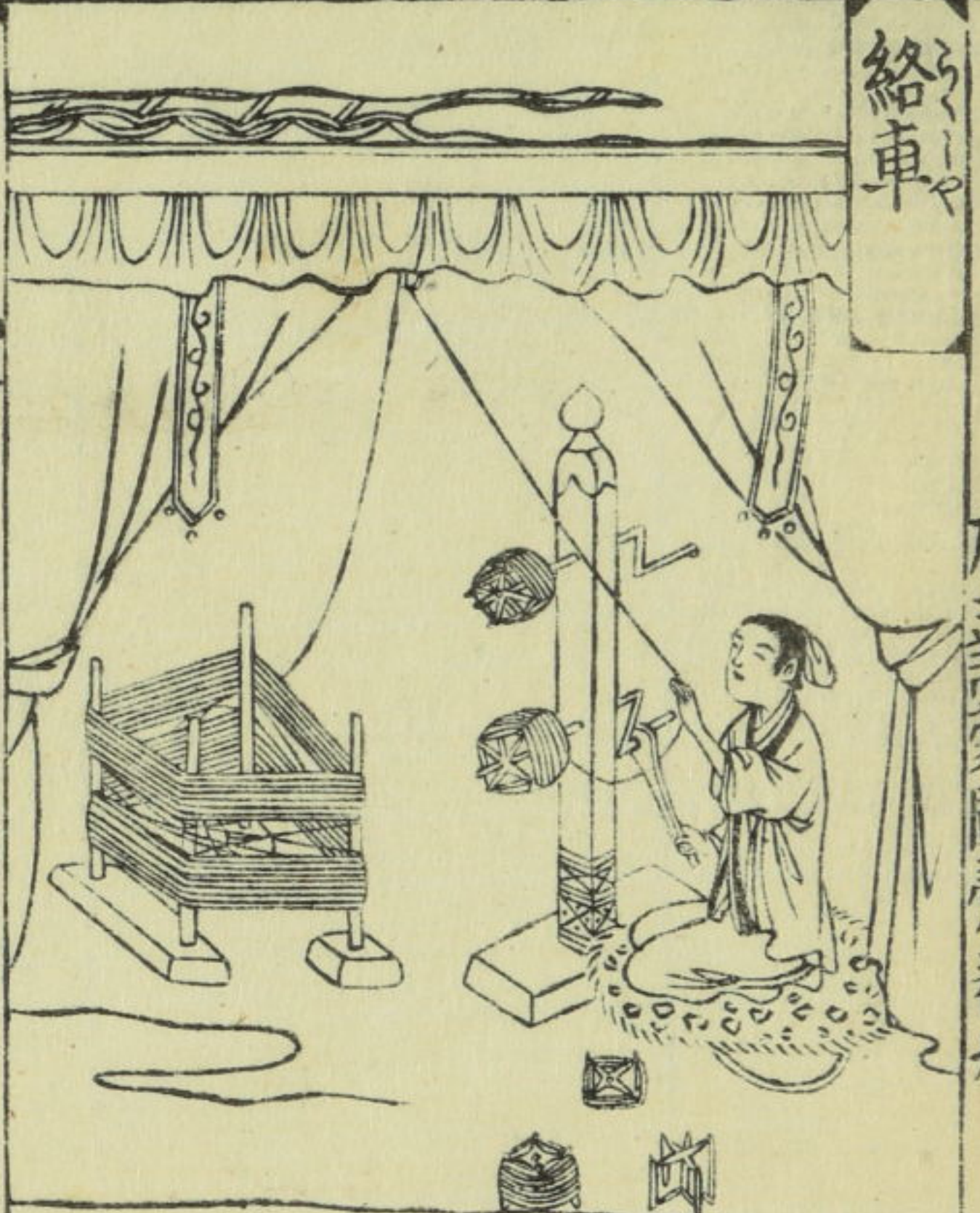
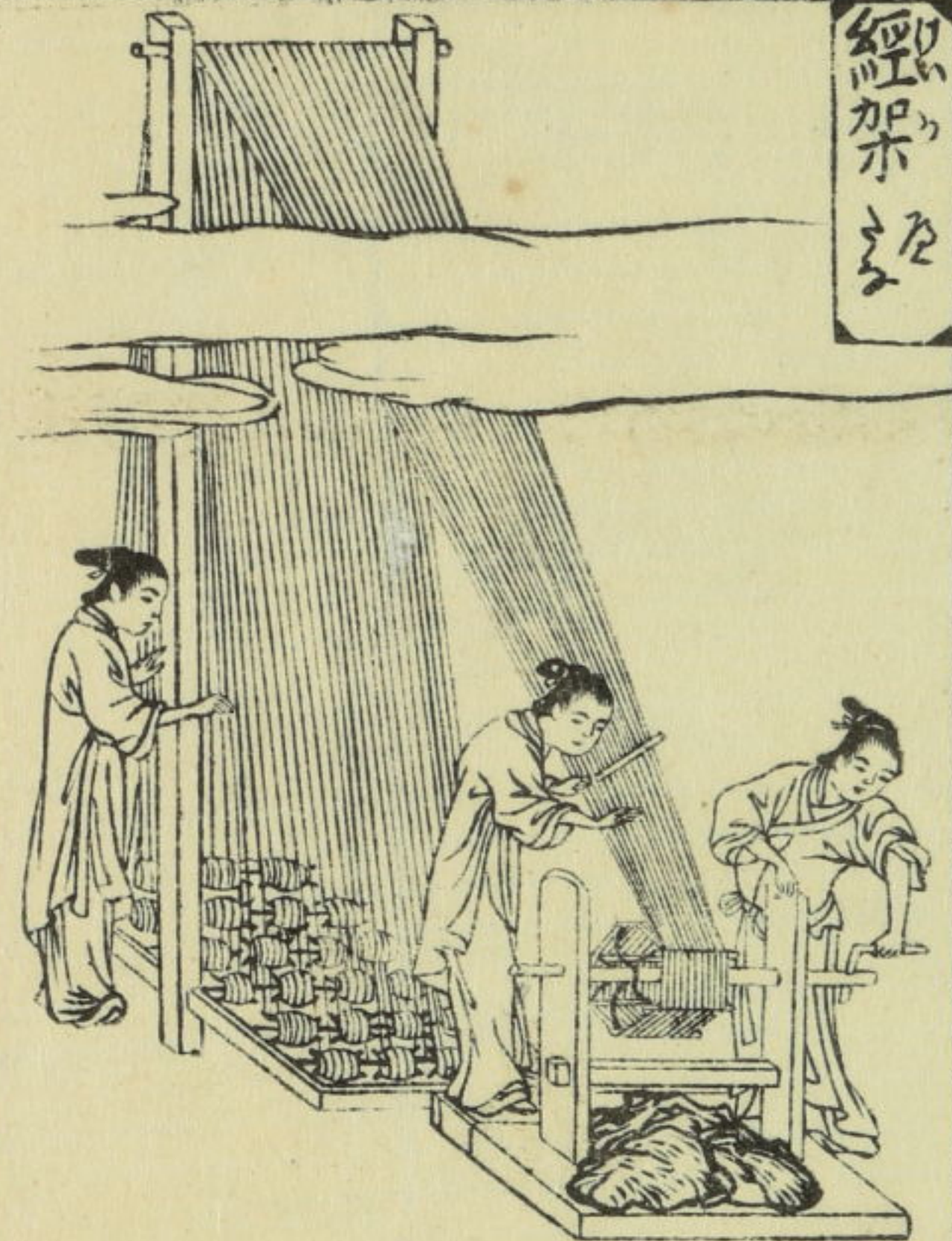
錦機



それ機を
 びうきき
 の后始て
 一のこ
 多の機人
 多く機機
 一の及代
 器して二
 と用の機
 を機は機
 機と用の
 け機工と
 人け文乃
 和名して

經架

給車



唐土訓家區書卷九

綿短
 つい具
 竹本
 尾々々

凡器織の類を具とれり多
 おの利家図彙のせとれと
 らぐそのものとのせと
 好事の人入んてとて

煮絮滑車
 灰湯を
 へて煮
 ついて出
 らしては
 りては



木綿彈子

古制ハ竹を以
小弓とつら
て強つ近代
の制ハ各別
長さ五六尺
弦ハ羊腸を
つら推入
うけその
膨雷れや
今云とめ

木綿經牀

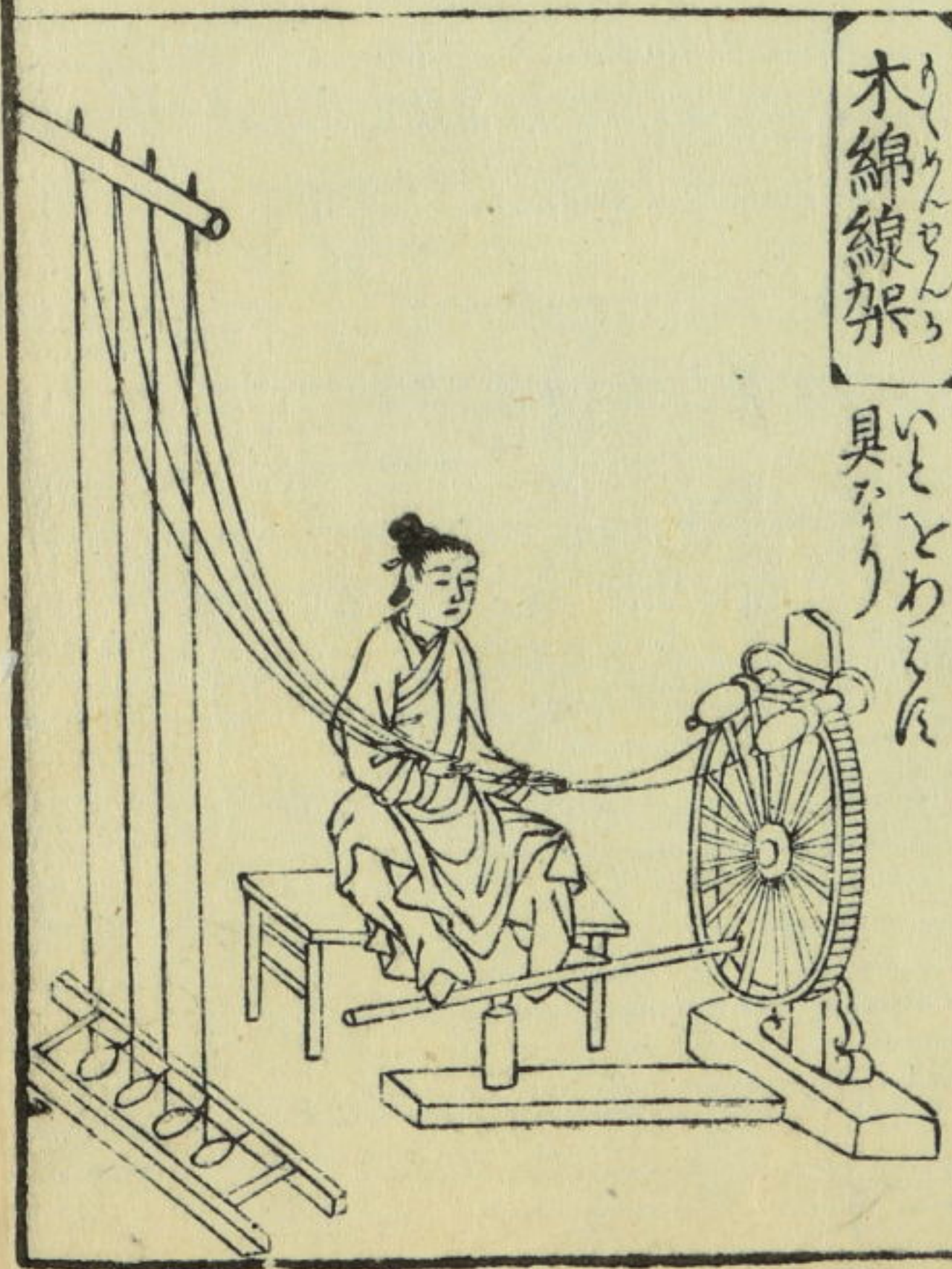


その系と
まの具

木綿捲筵

綿を
糸つて無
節竹を
て筒と
かし牽
紡て糸
今よとの
まき又ぞん
まき

木綿線架



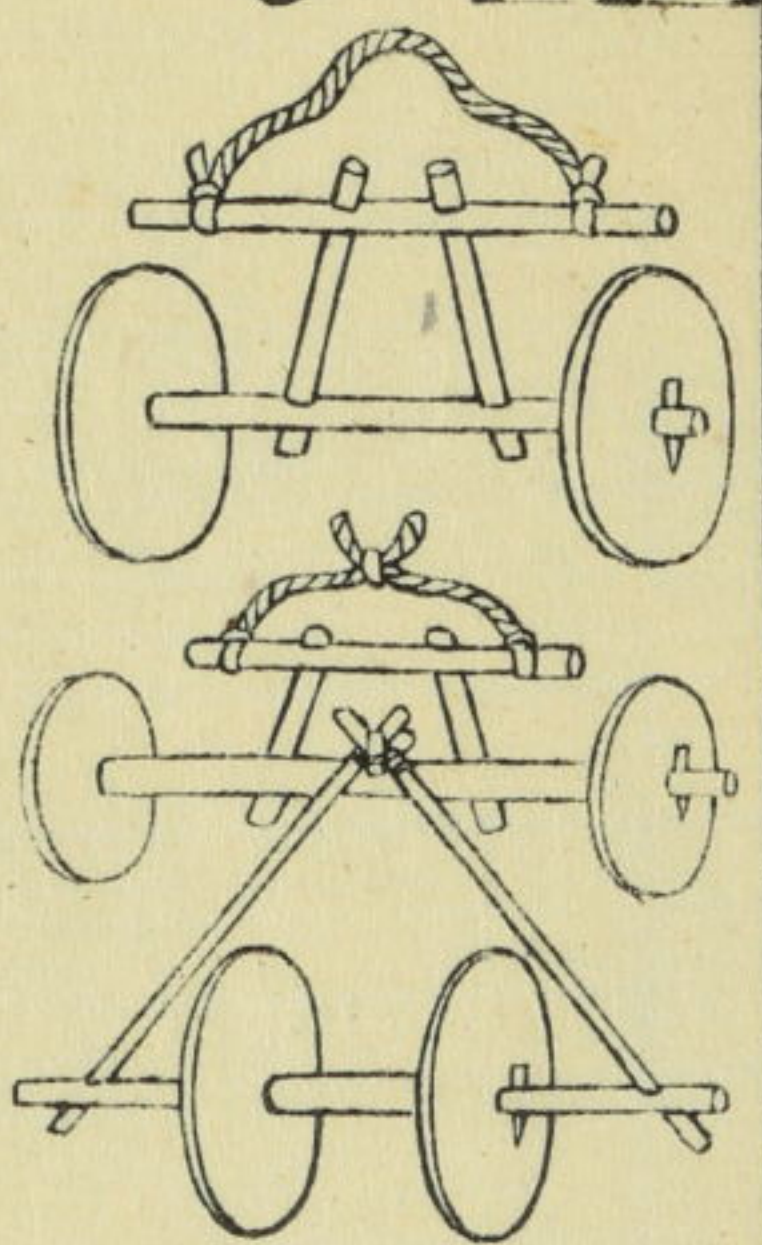
いとわら
具

九

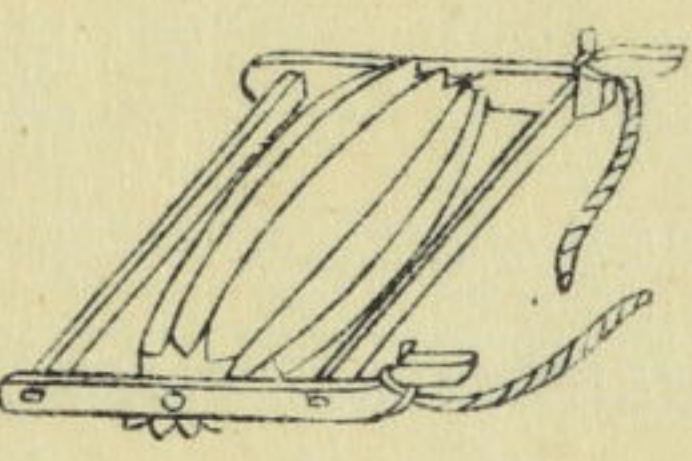
田家農具

砵車

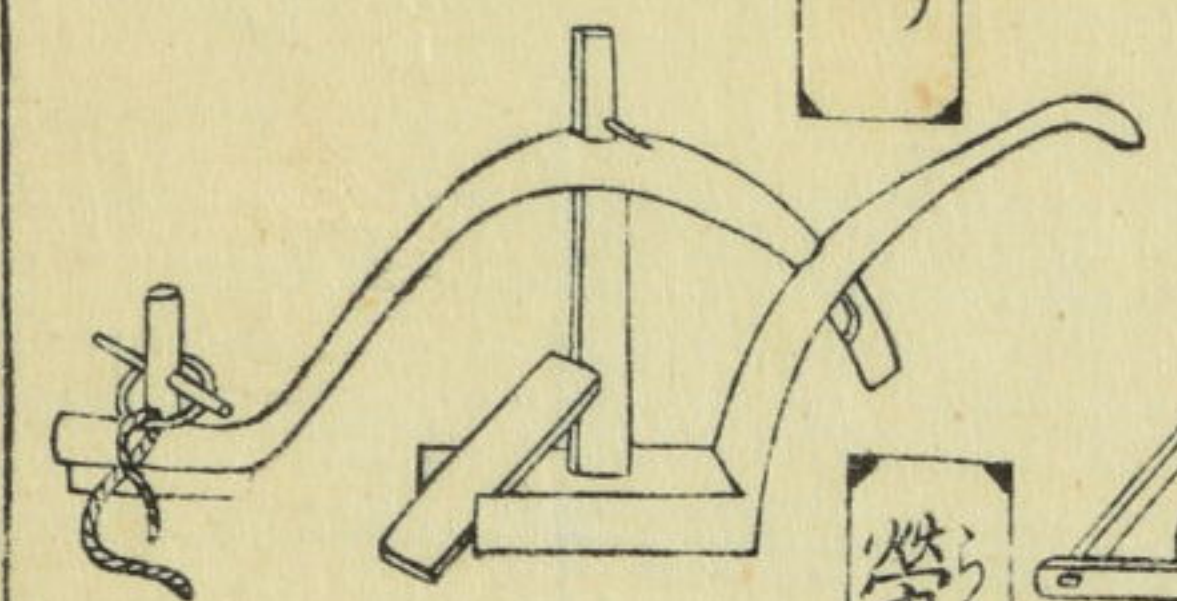
地と
具



礮毒

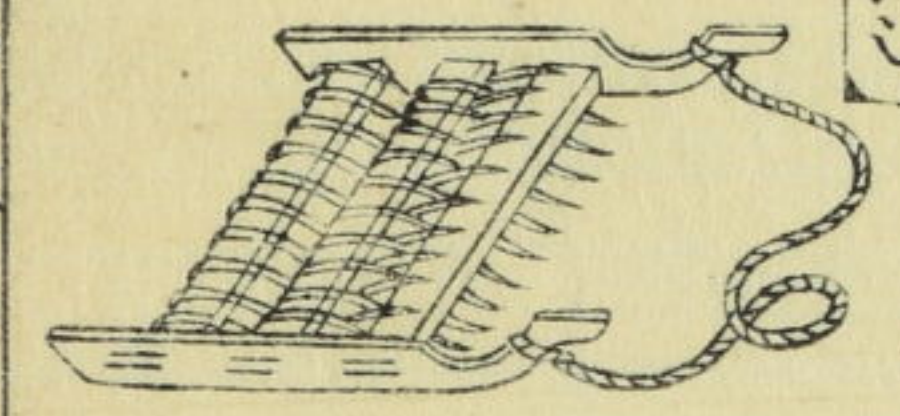
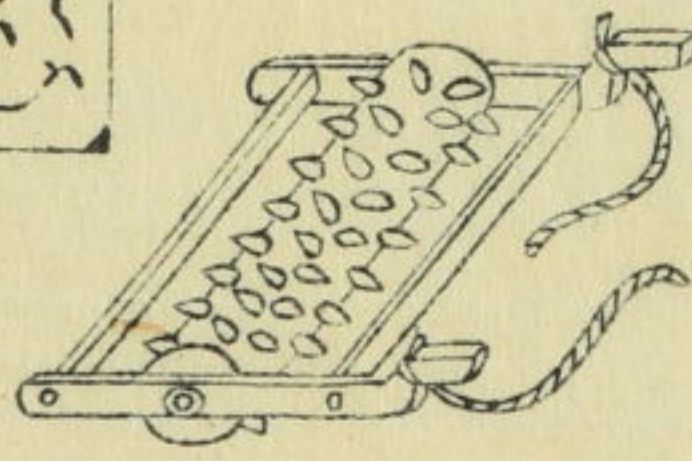


麗刀



勞
の
ま
い
ん

木
礮
礮

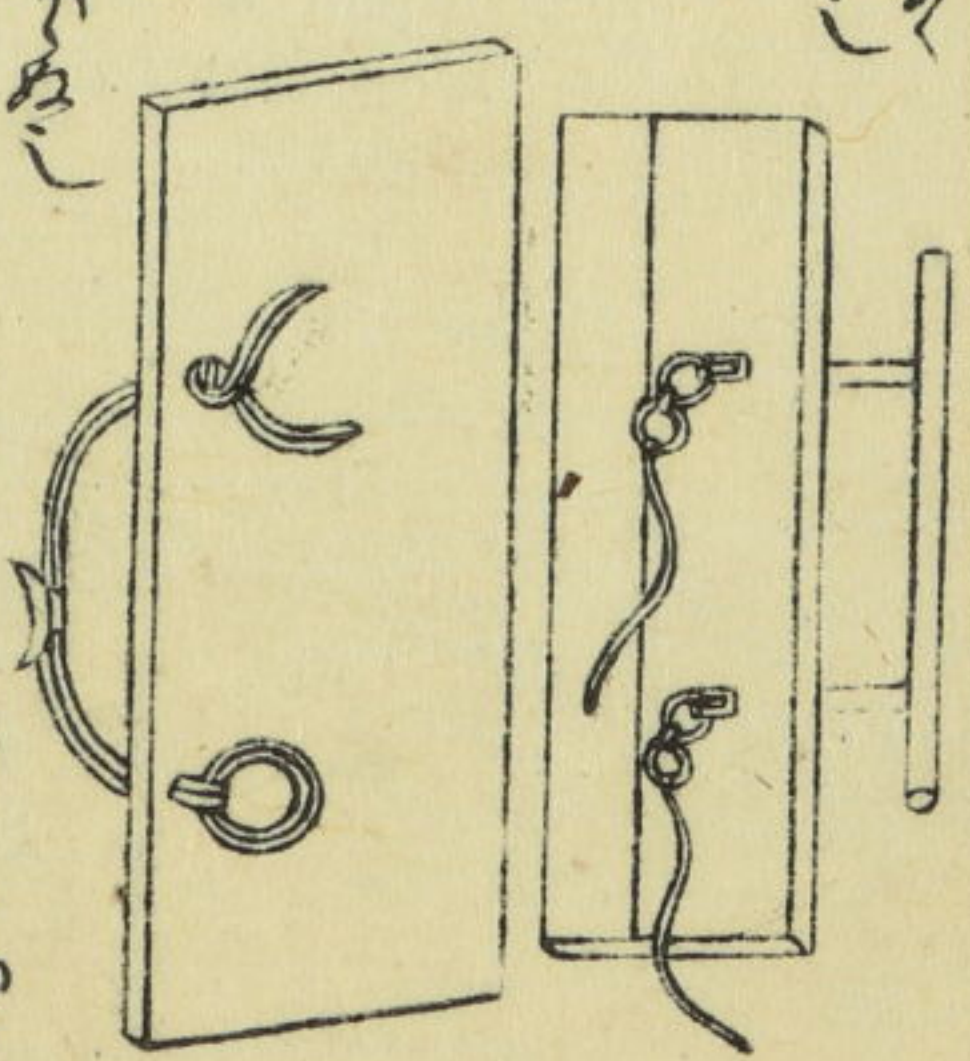


刮板

土と
具

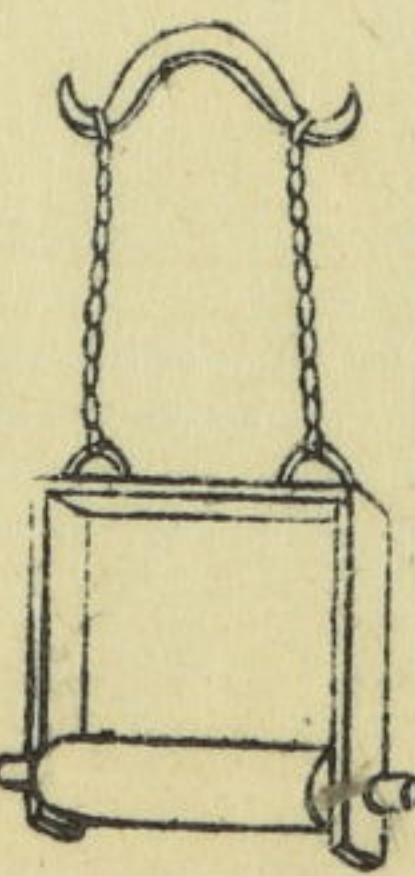
平板

泥田
具
平
板



輓軸

上
具



長鏡

田
具



耒耜

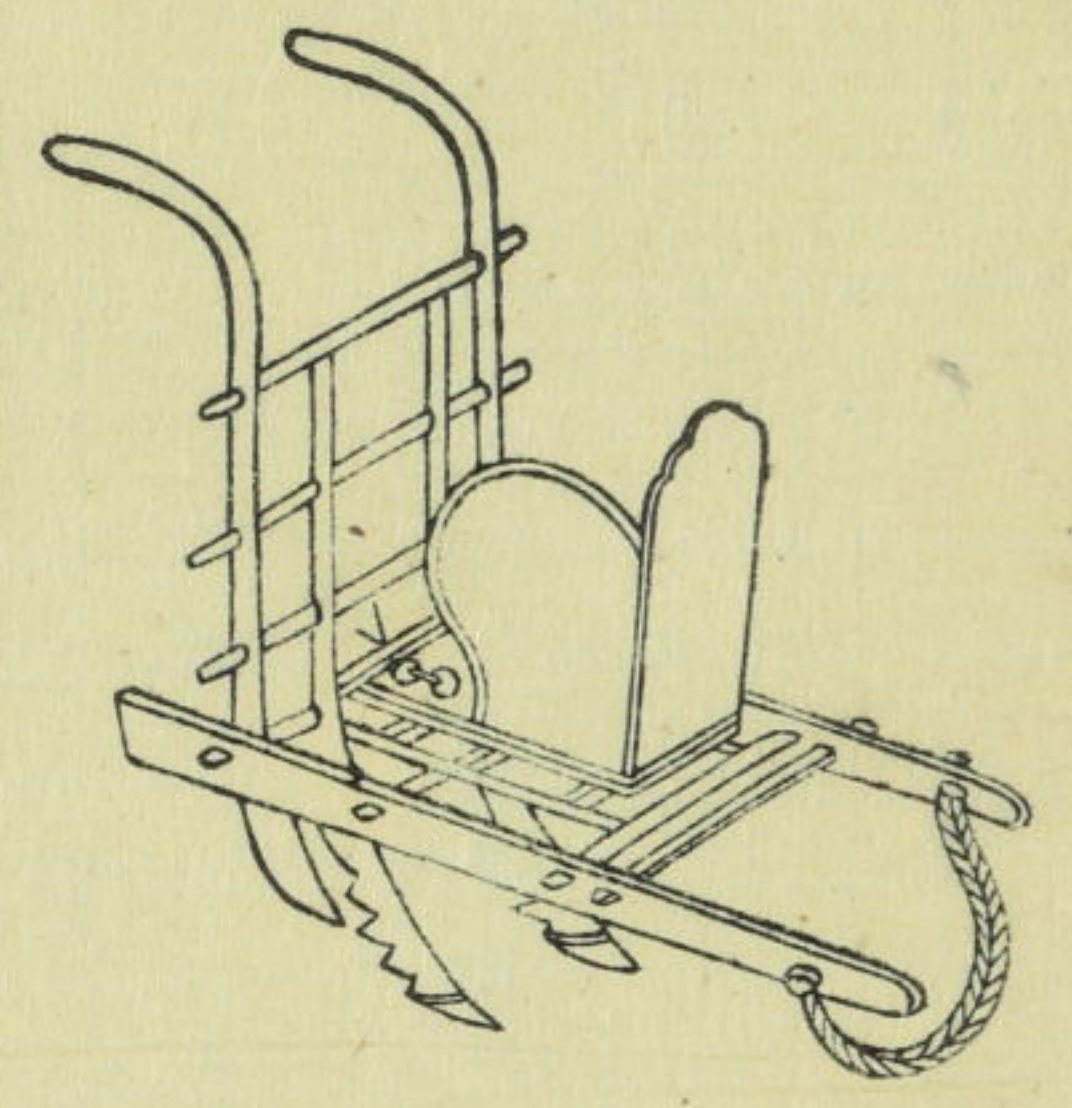
林農氏
の
具



古
上
川
支
國
圖
書
六
七

籾車

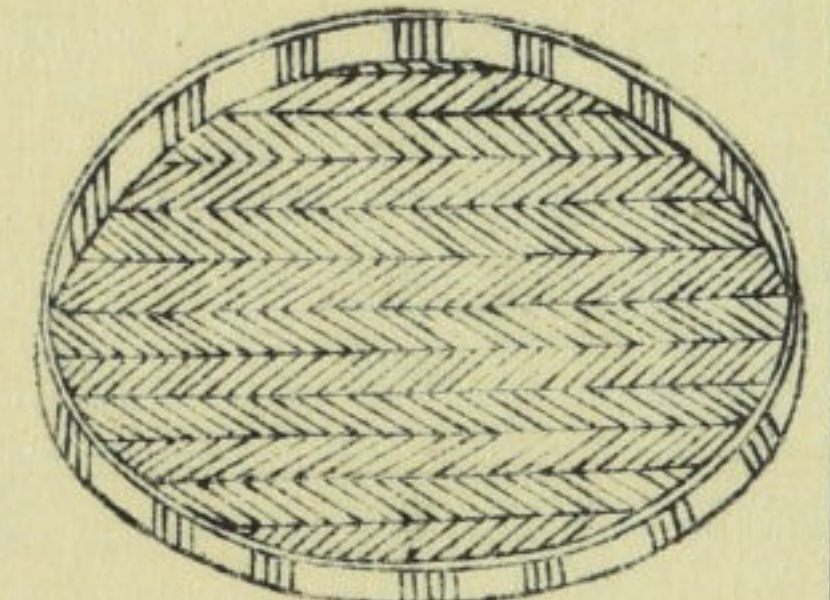
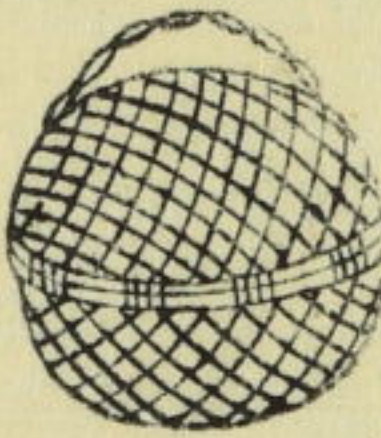
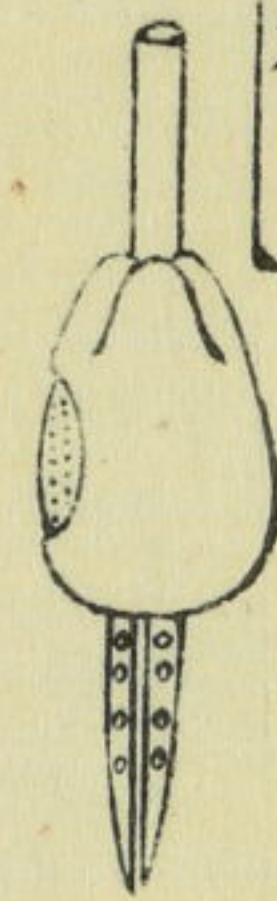
くわまき
しらふ
具し



躰盤

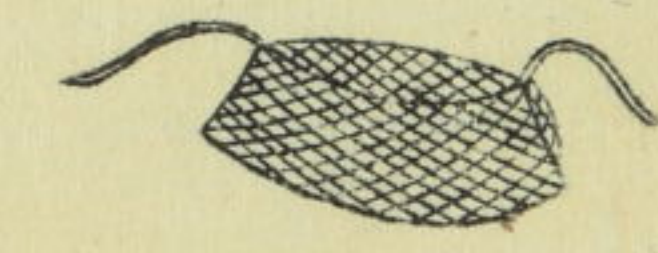
瓠種

種篋



藪馬

田の州とく時
うまき衣のす
そとくさむ具



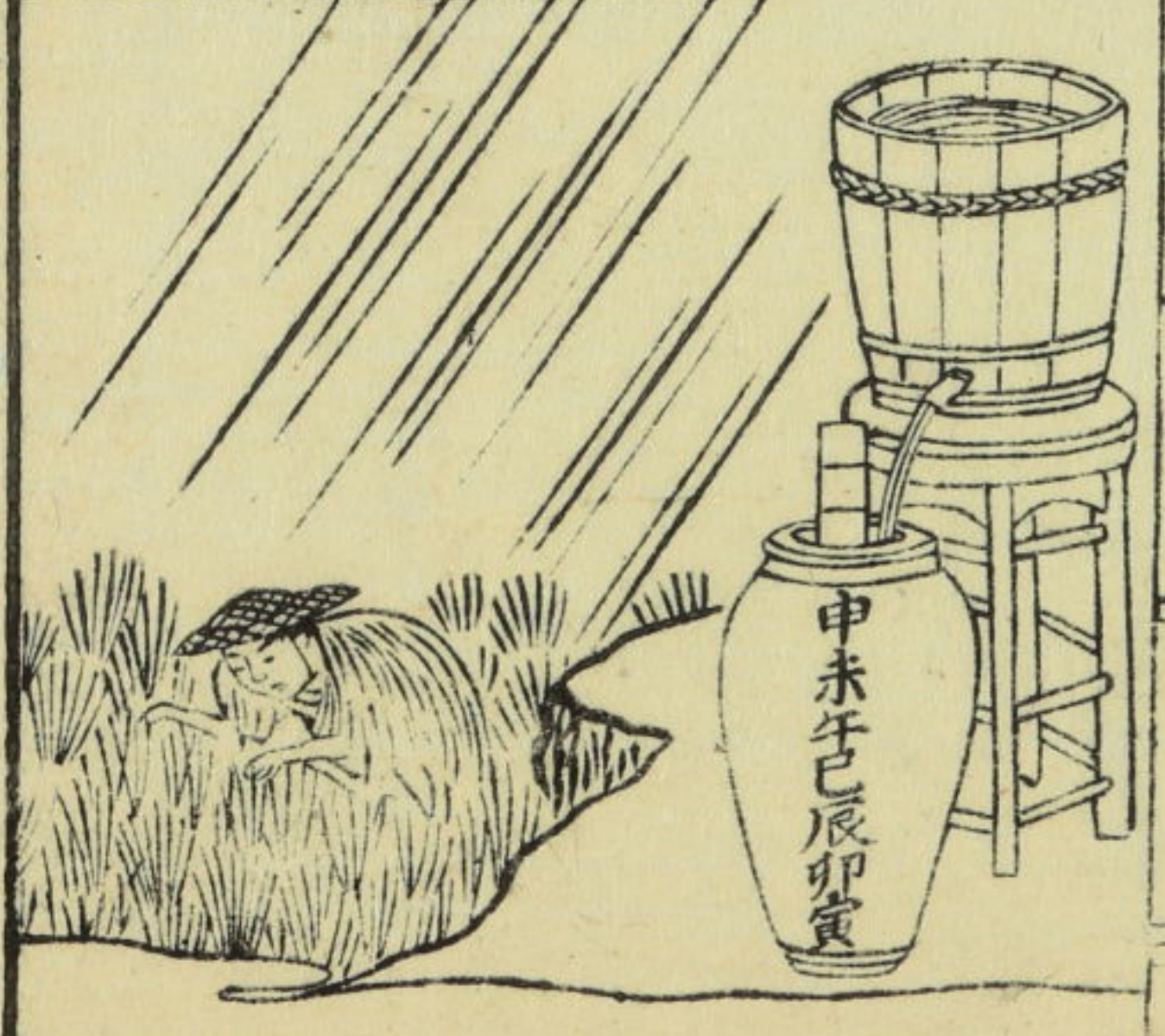
秧馬

泥田は秧と
うまき衣のす
のりものこ

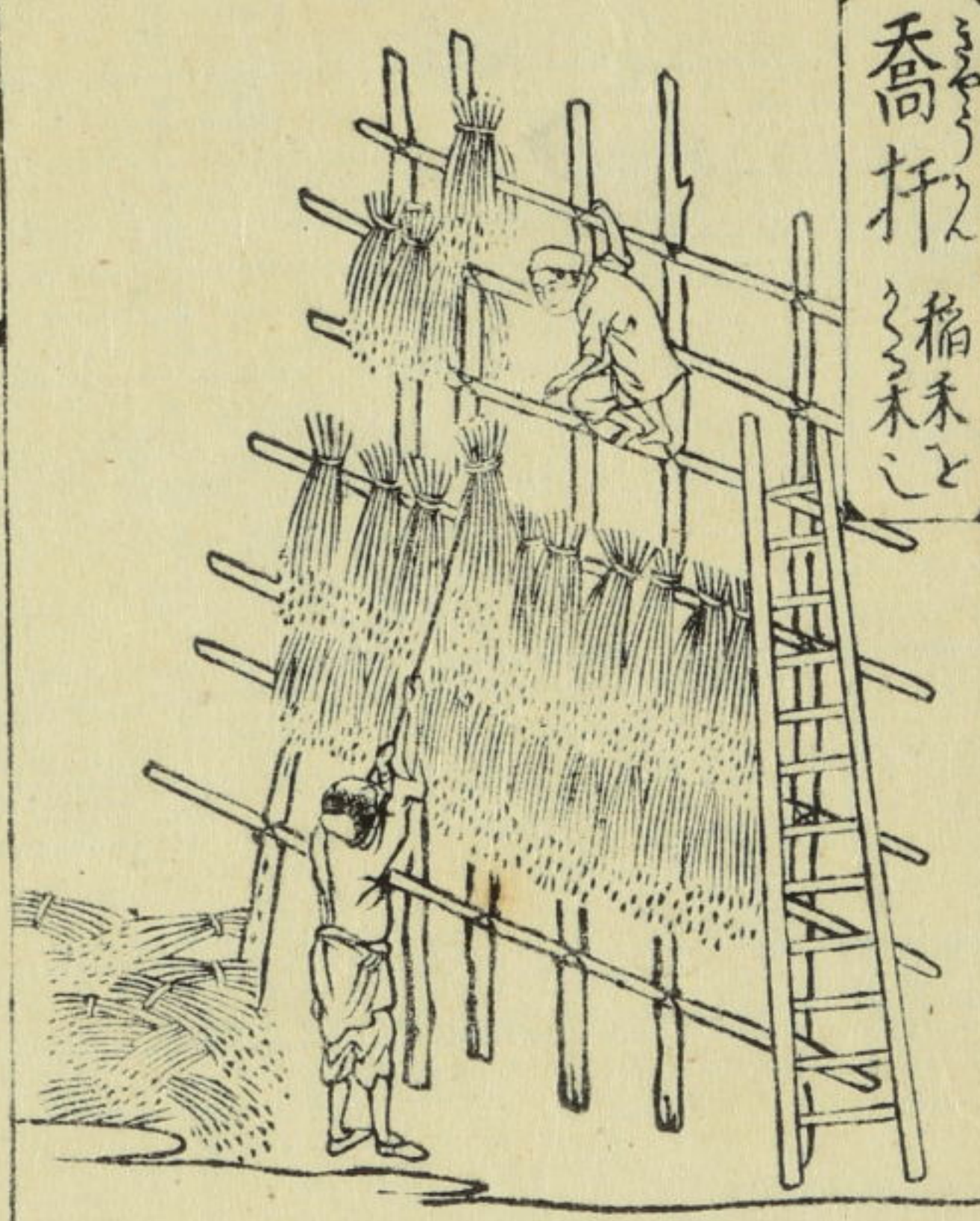


田漏

農家専用
てつり
其制壺
刻むと
いし壺水
下は水
貯て
わつこ

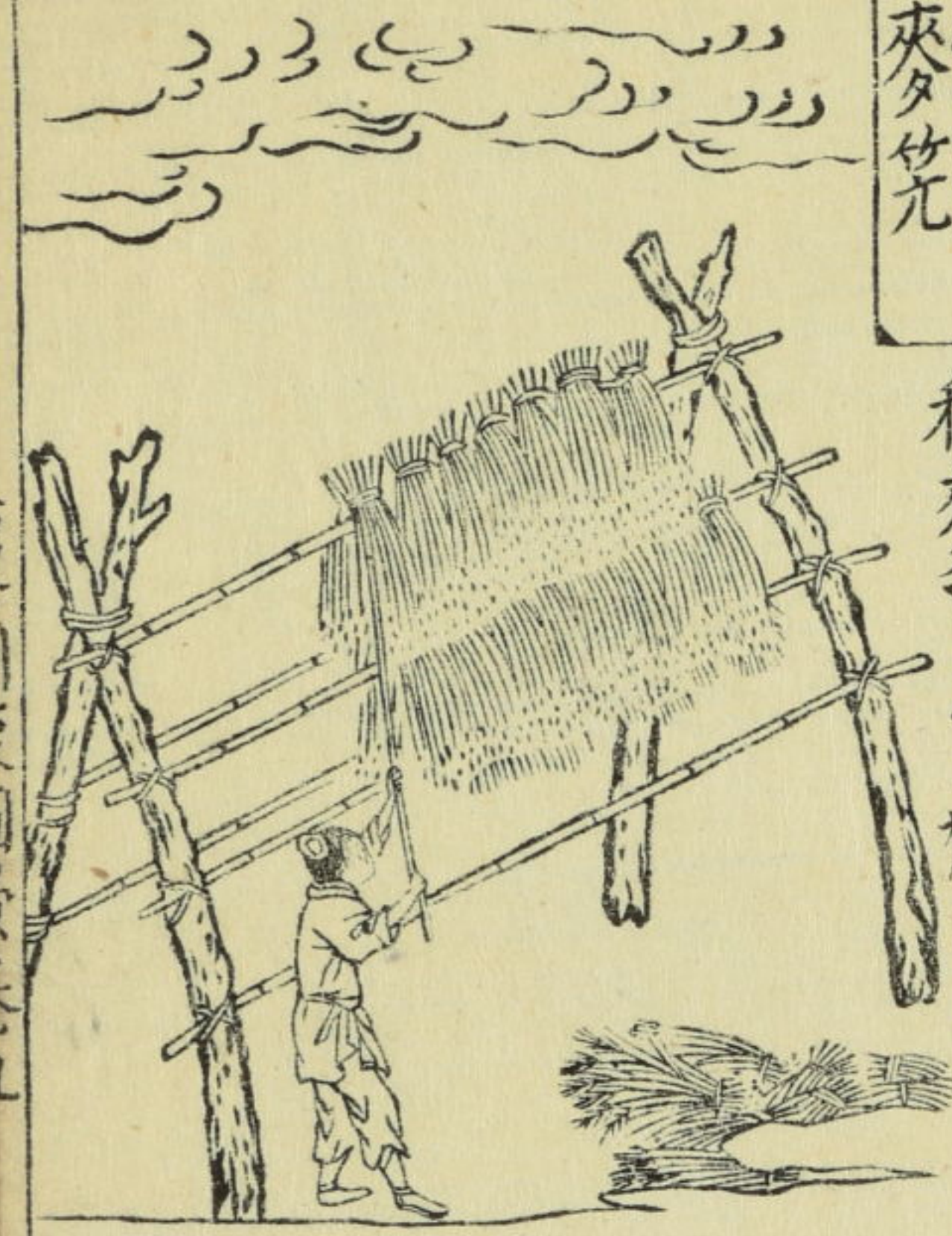


喬杆
稲米



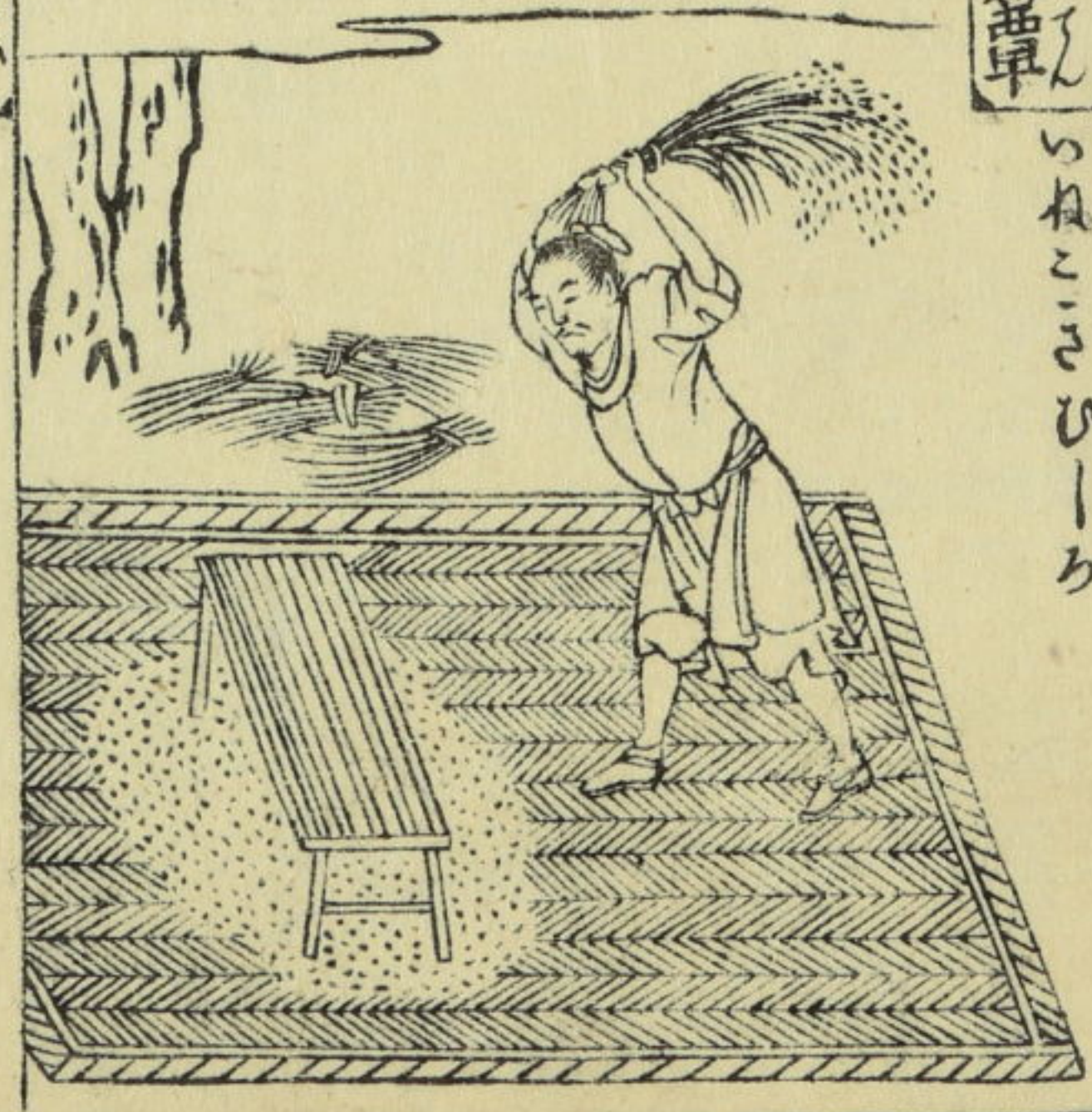
夾笥

稲夾
とうら
架



攪糶

いねこさびり



竹師



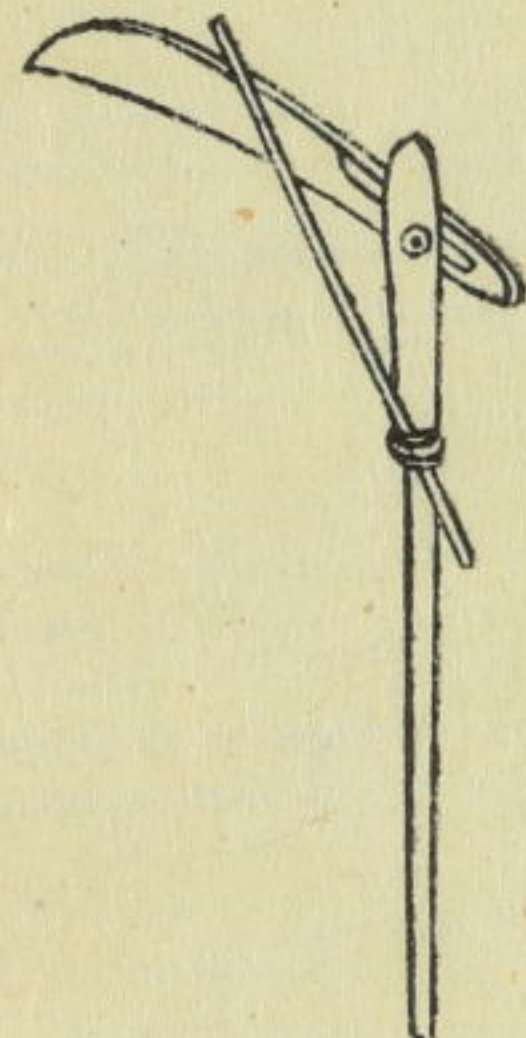
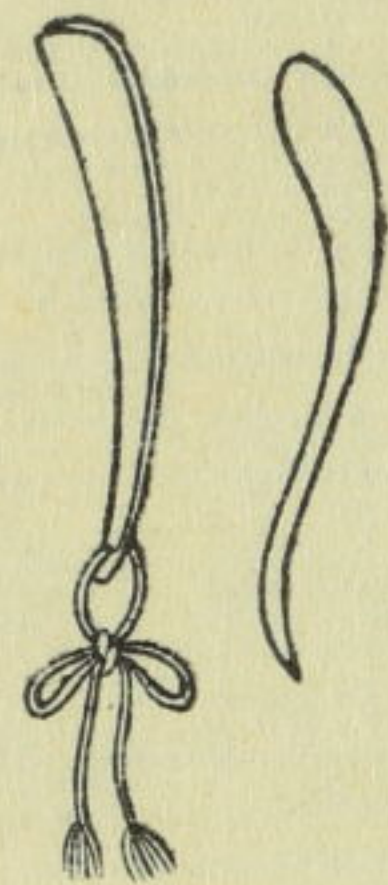
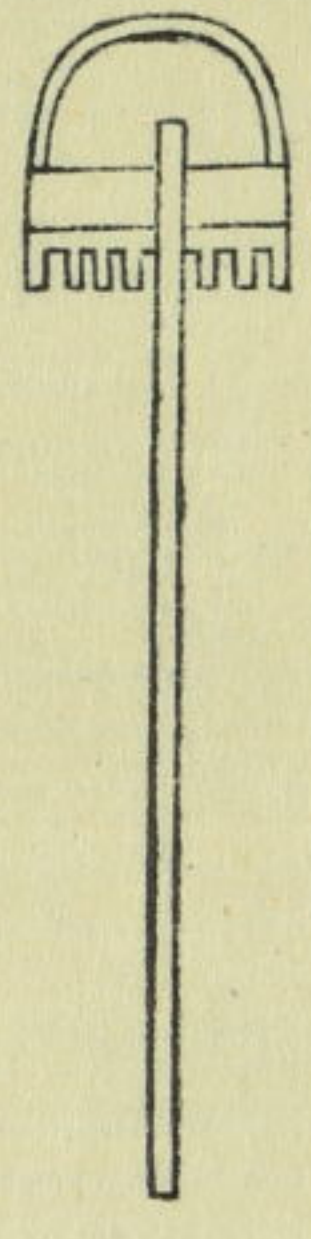
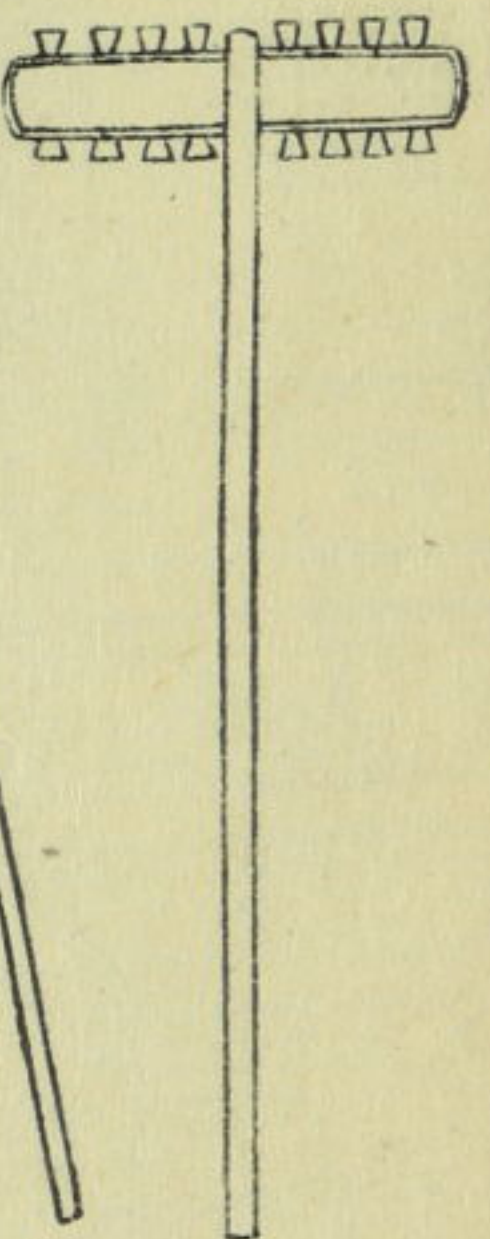
穀把

小把

耘把

麥鋤
掘刀

鋤



竹楊杓

禾鉤

搭爪

呼鞭

穀盅

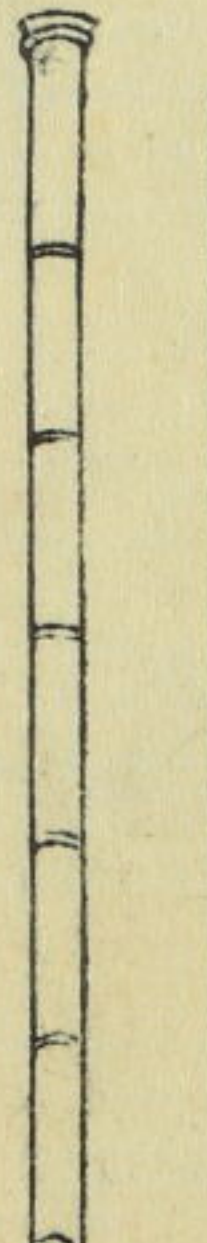
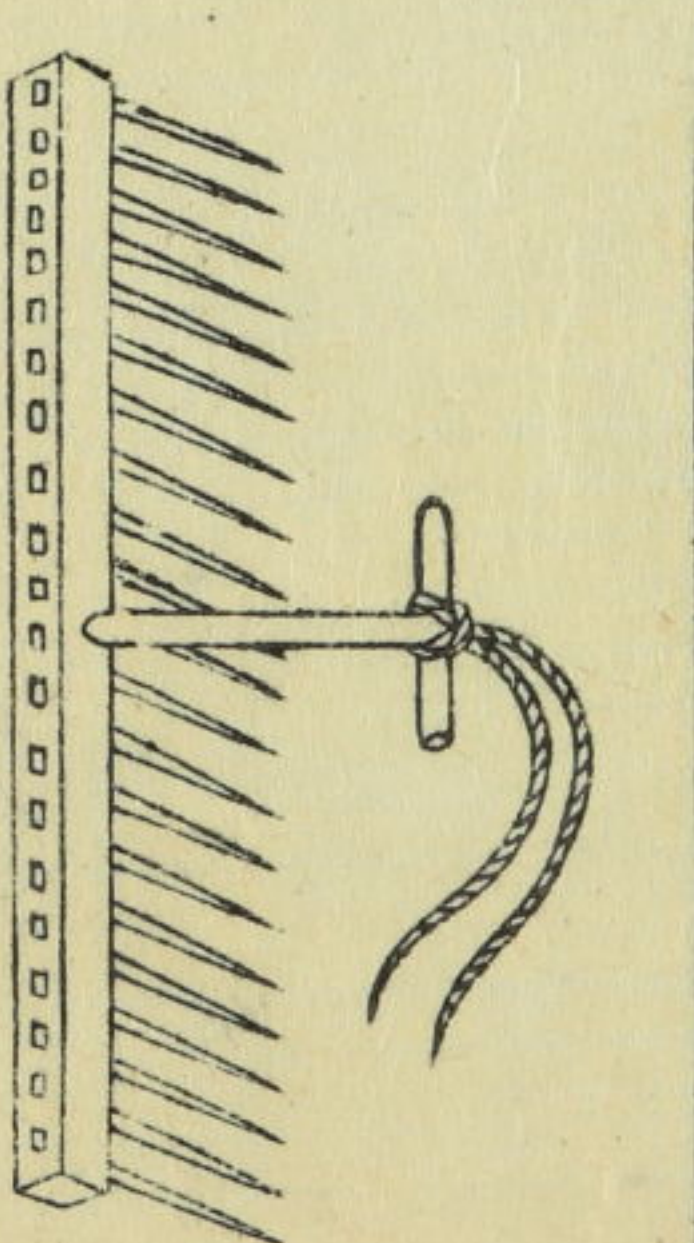
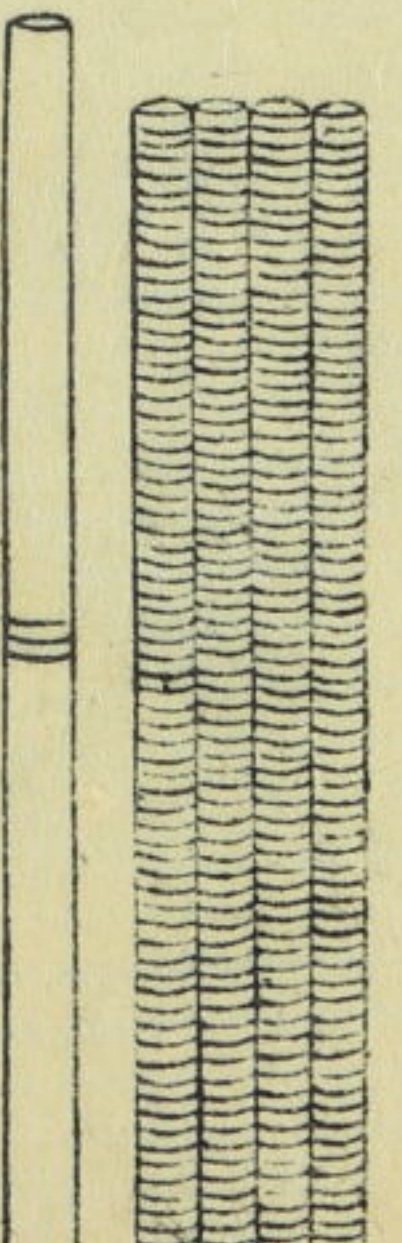
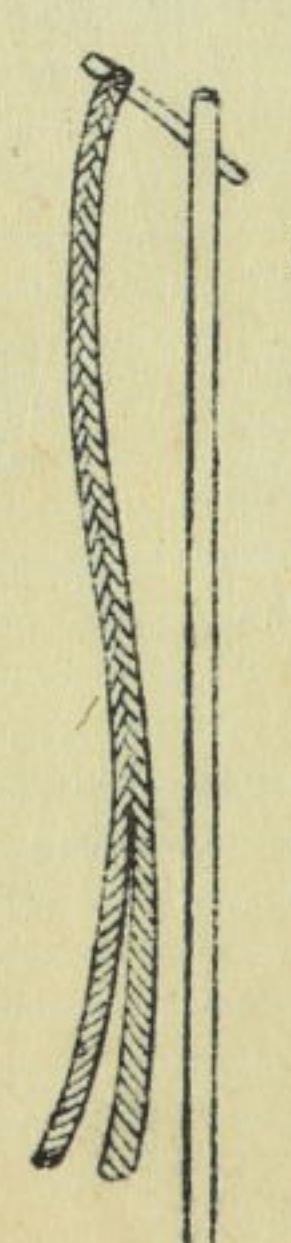
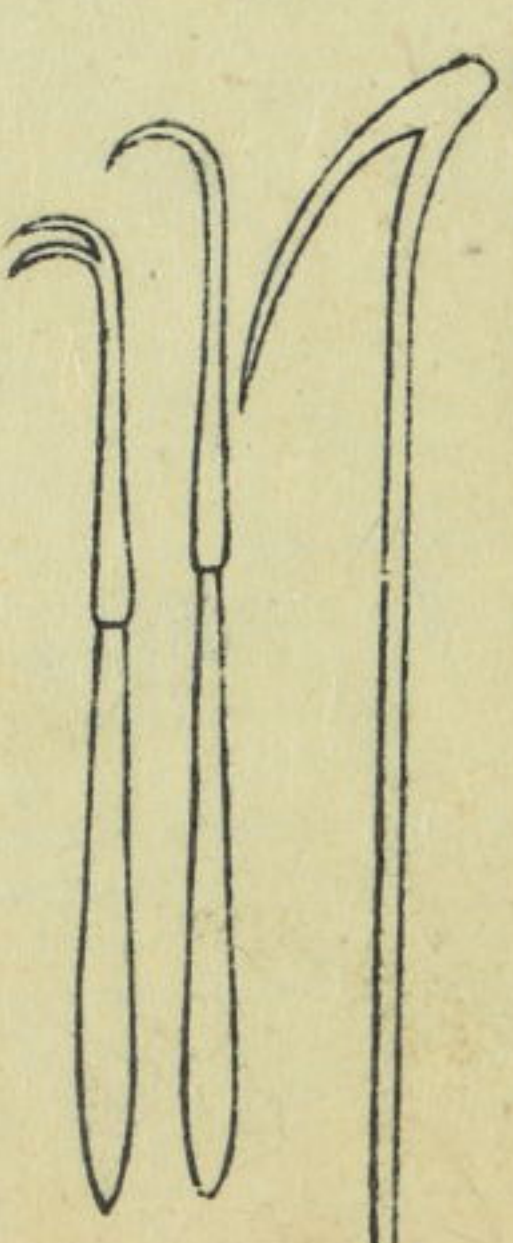
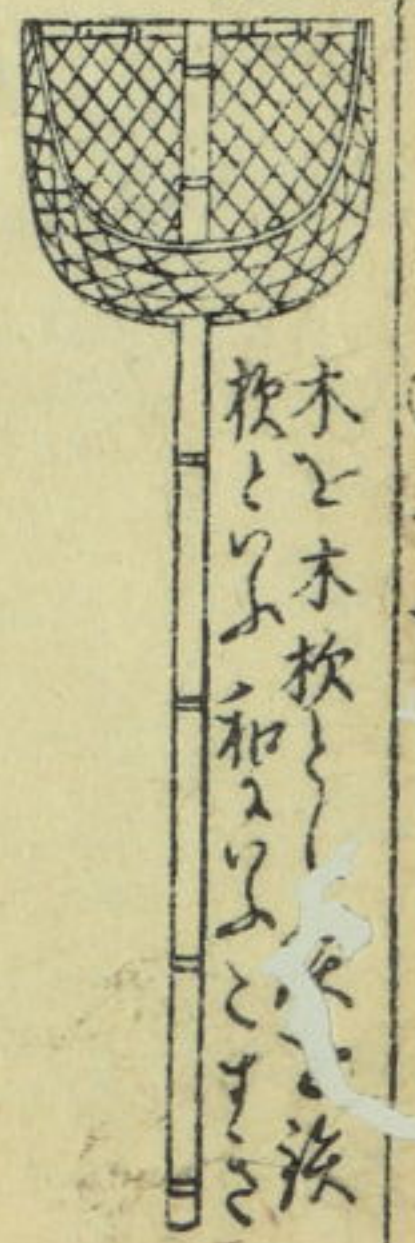
秧彈

拖把

倒麥
とん具

抄竿

上に同



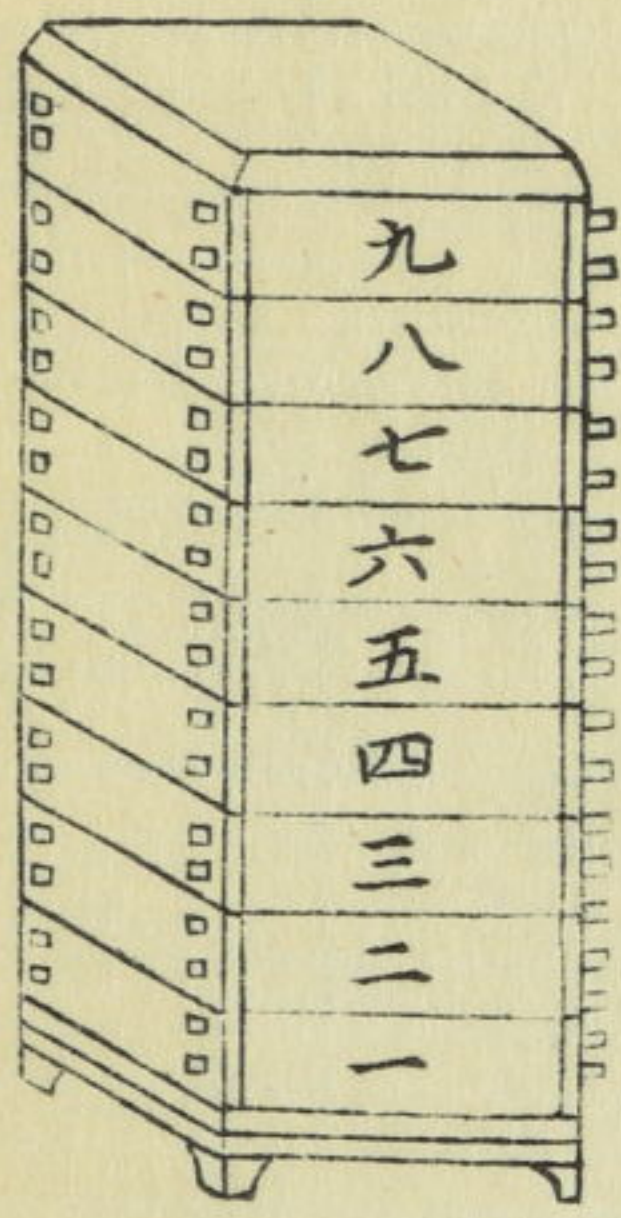
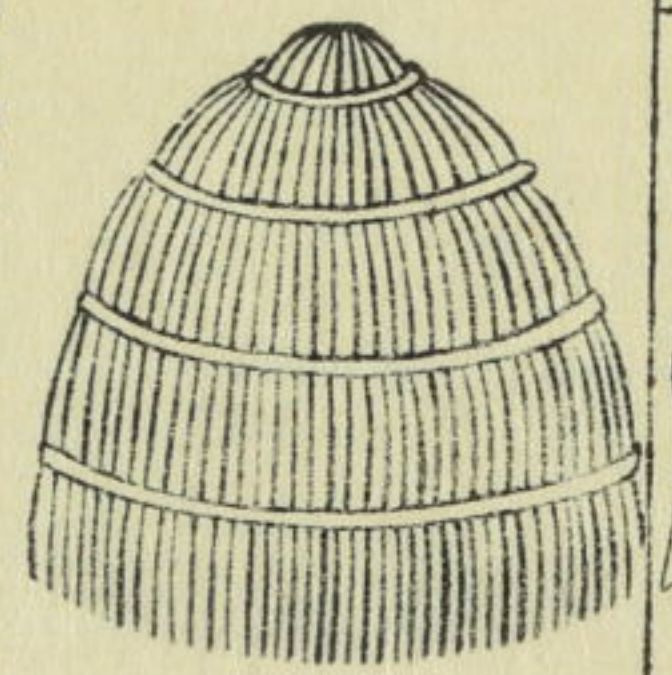
木と木杓
和入り
とす

夾夕
綽

夾夕
龍

積
うらまの
あひこ

穀
匣



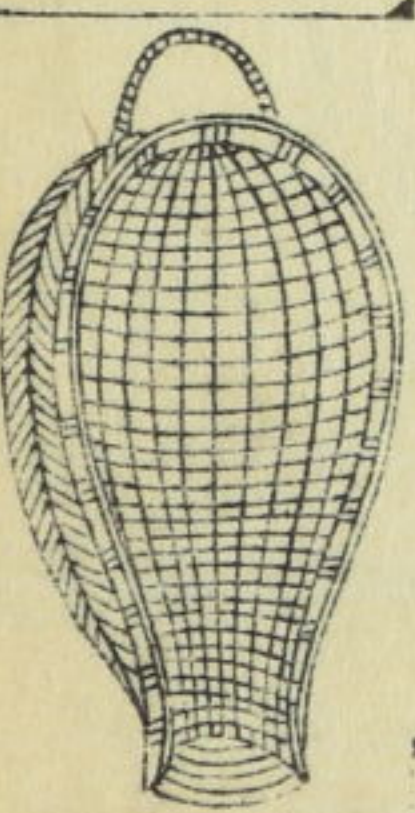
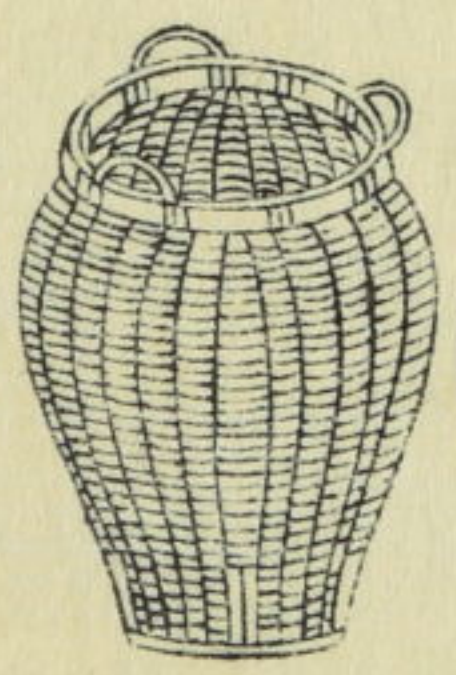
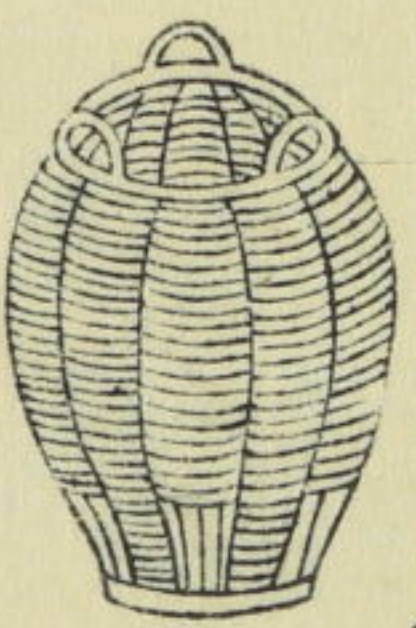
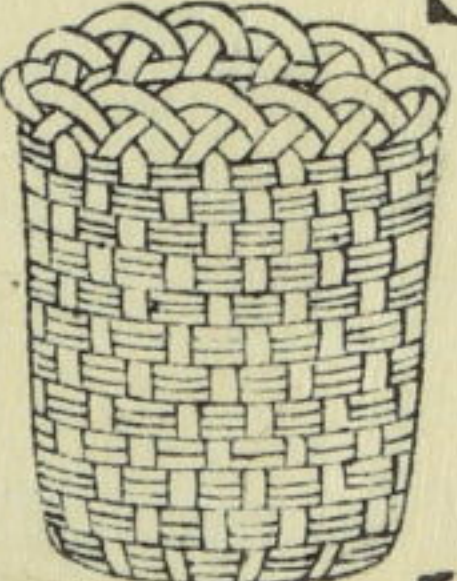
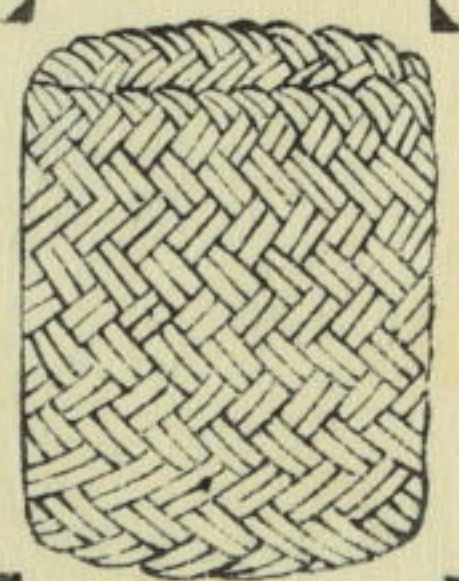
筥
五
と
り
り

筥

筥

筥

籃
賜

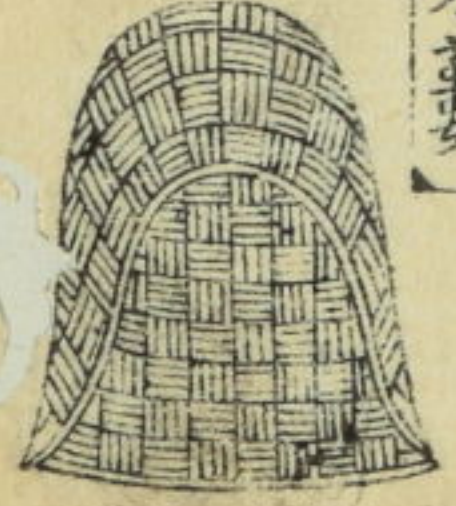
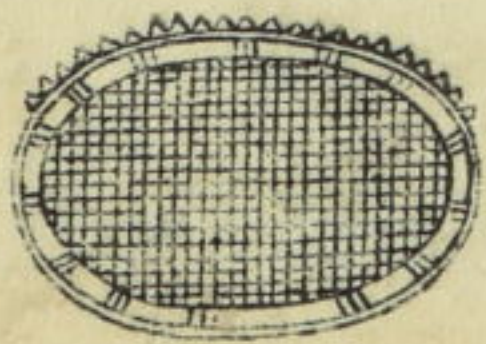
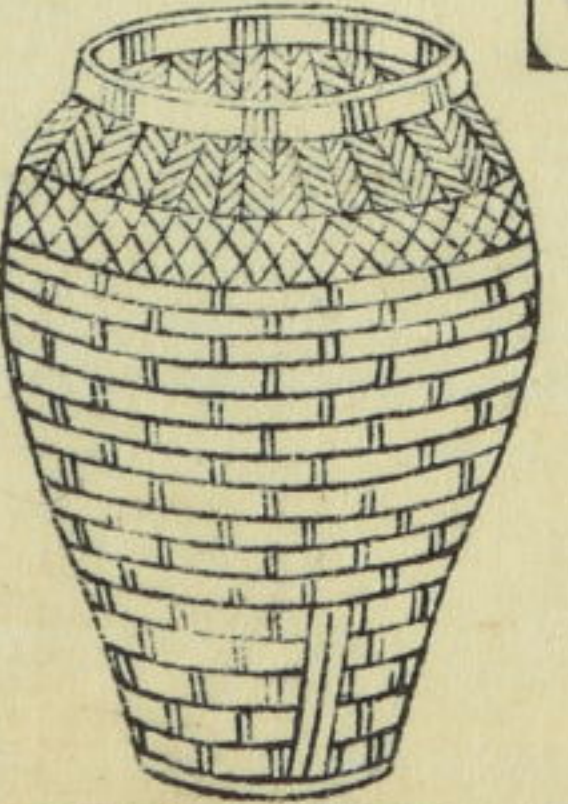
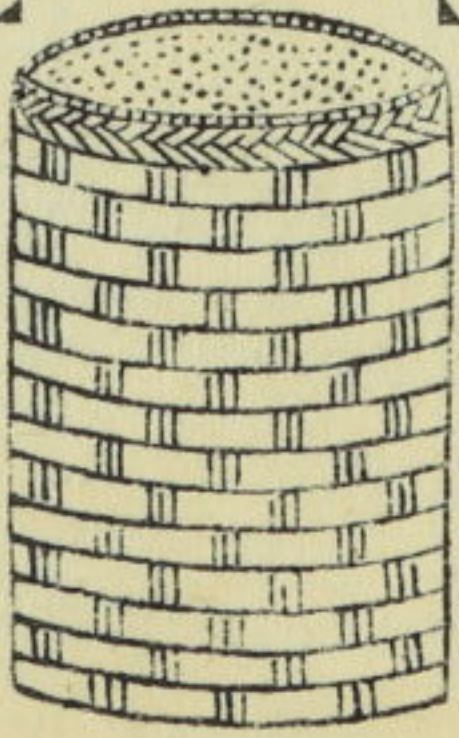


團

團

籐

漉米藪

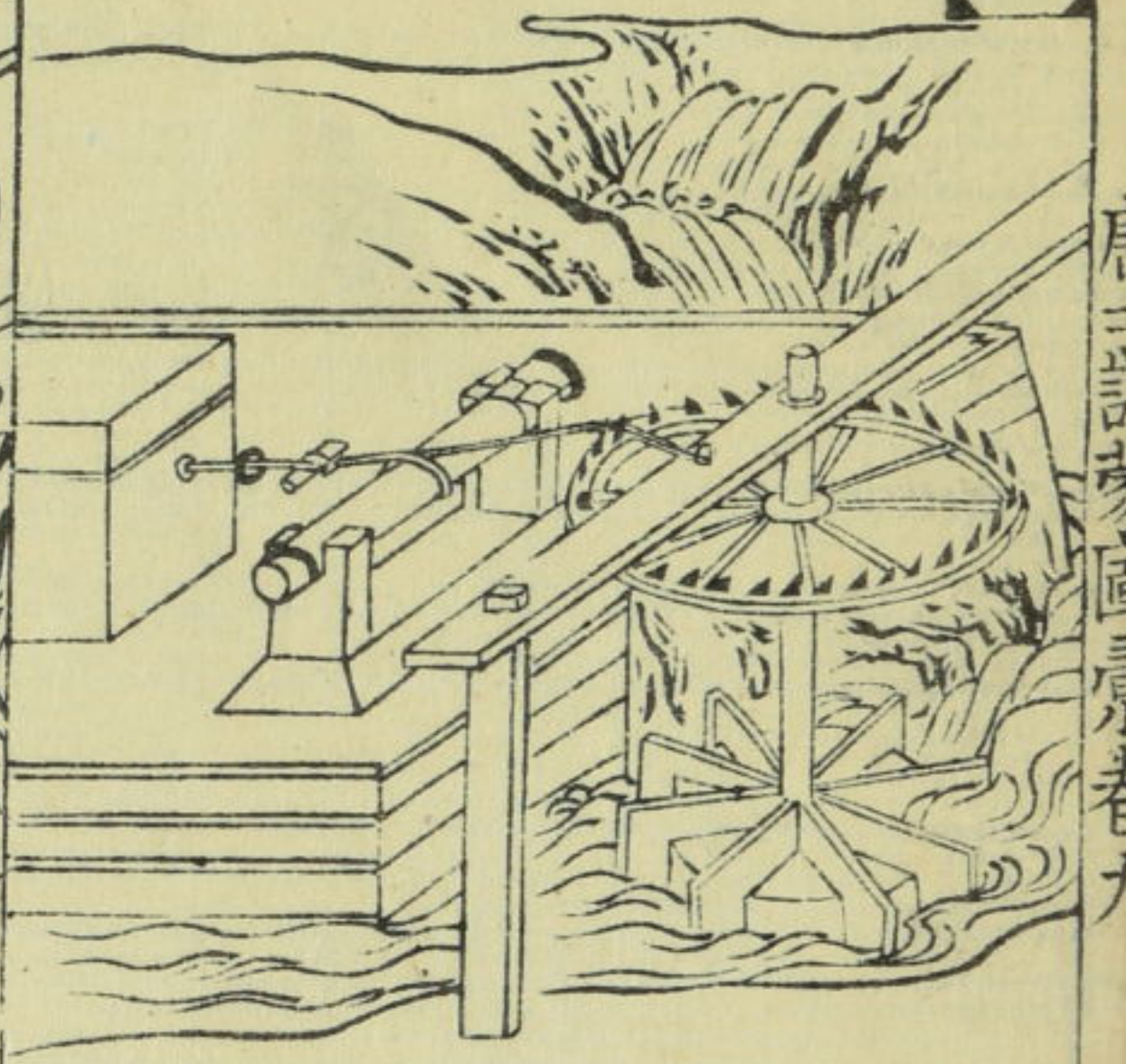


吉野川家園景巻九

吉野川家園景巻九

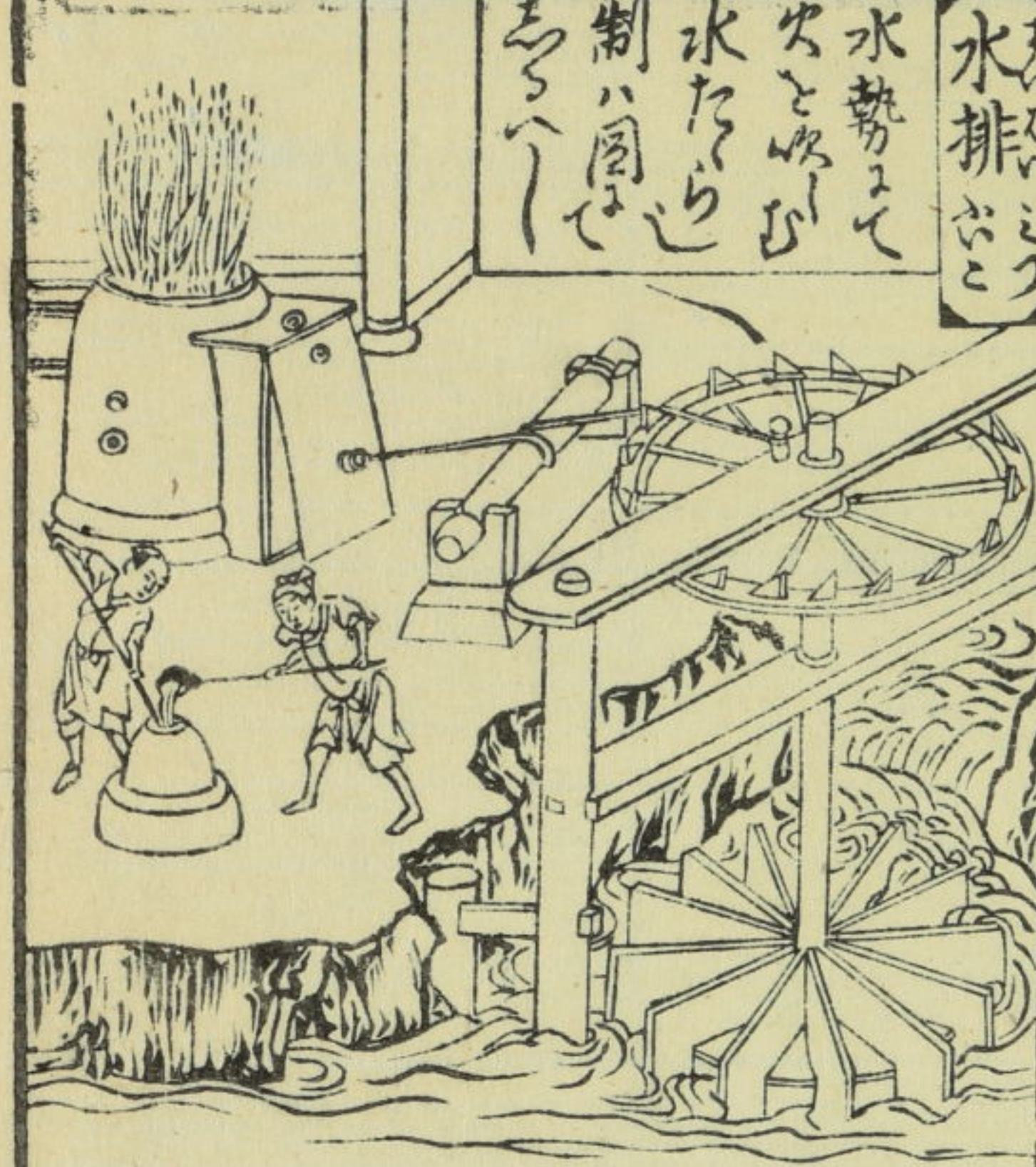
水打蘿

此具水より
隨て用ひ
麵と餅と
人力の及
ばざる
様巧下の
水能と
同し



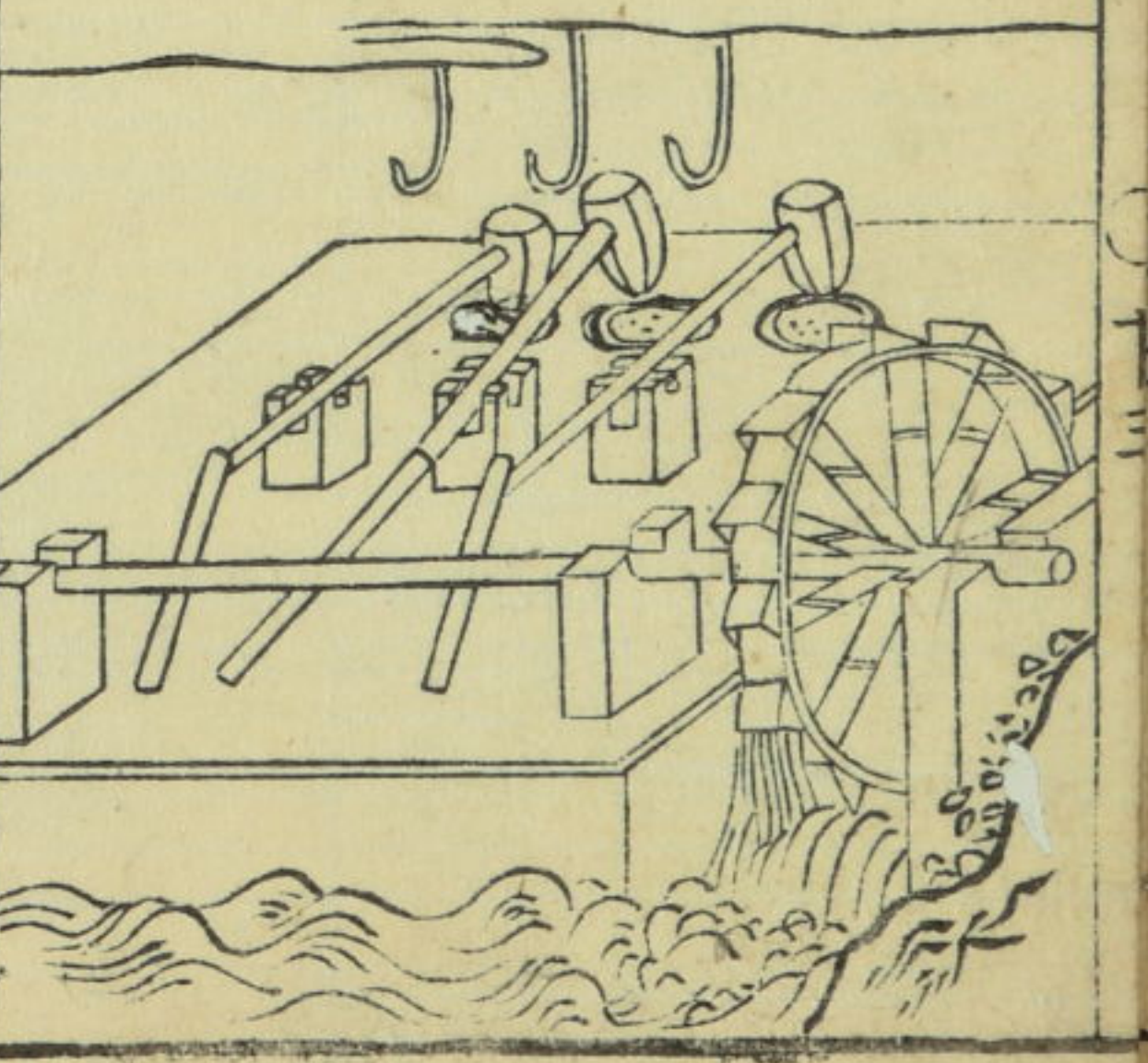
水排

水勢よ
大と吹
水たらし
制ハ固
まへし

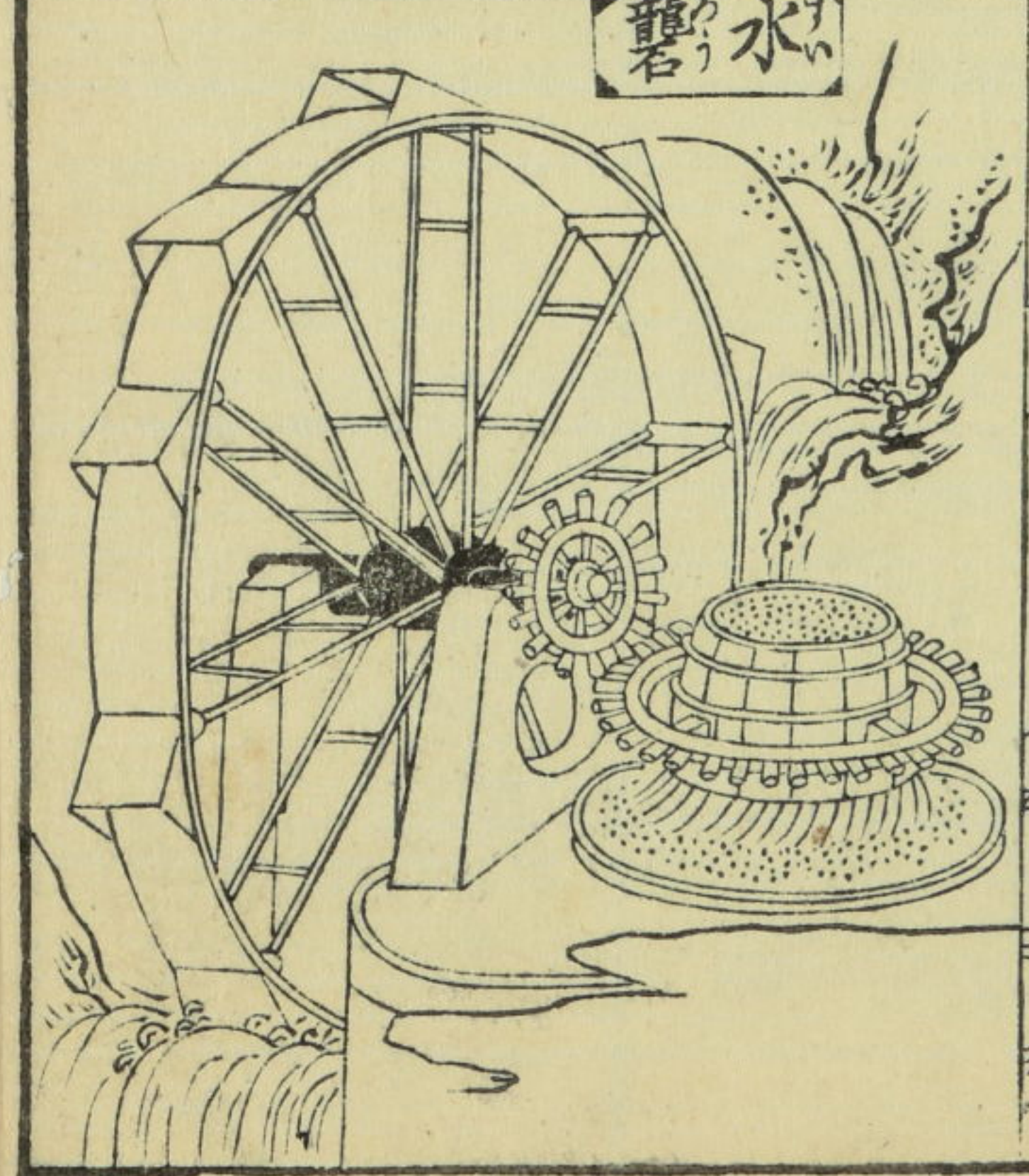


水碓

連棧碓と
水勢
かす
晋の石崇
の家水碓
十區り
あり

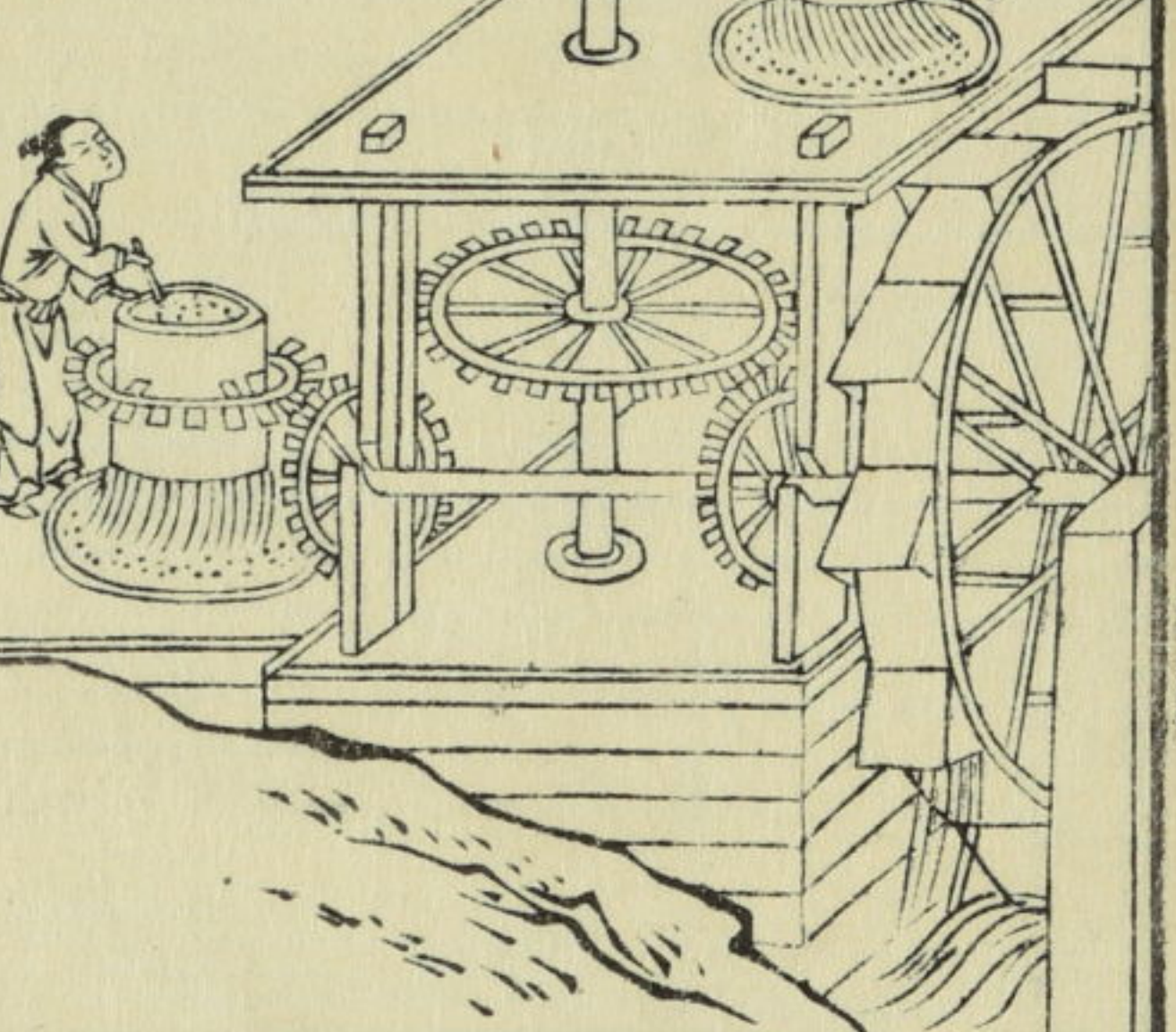


水碓



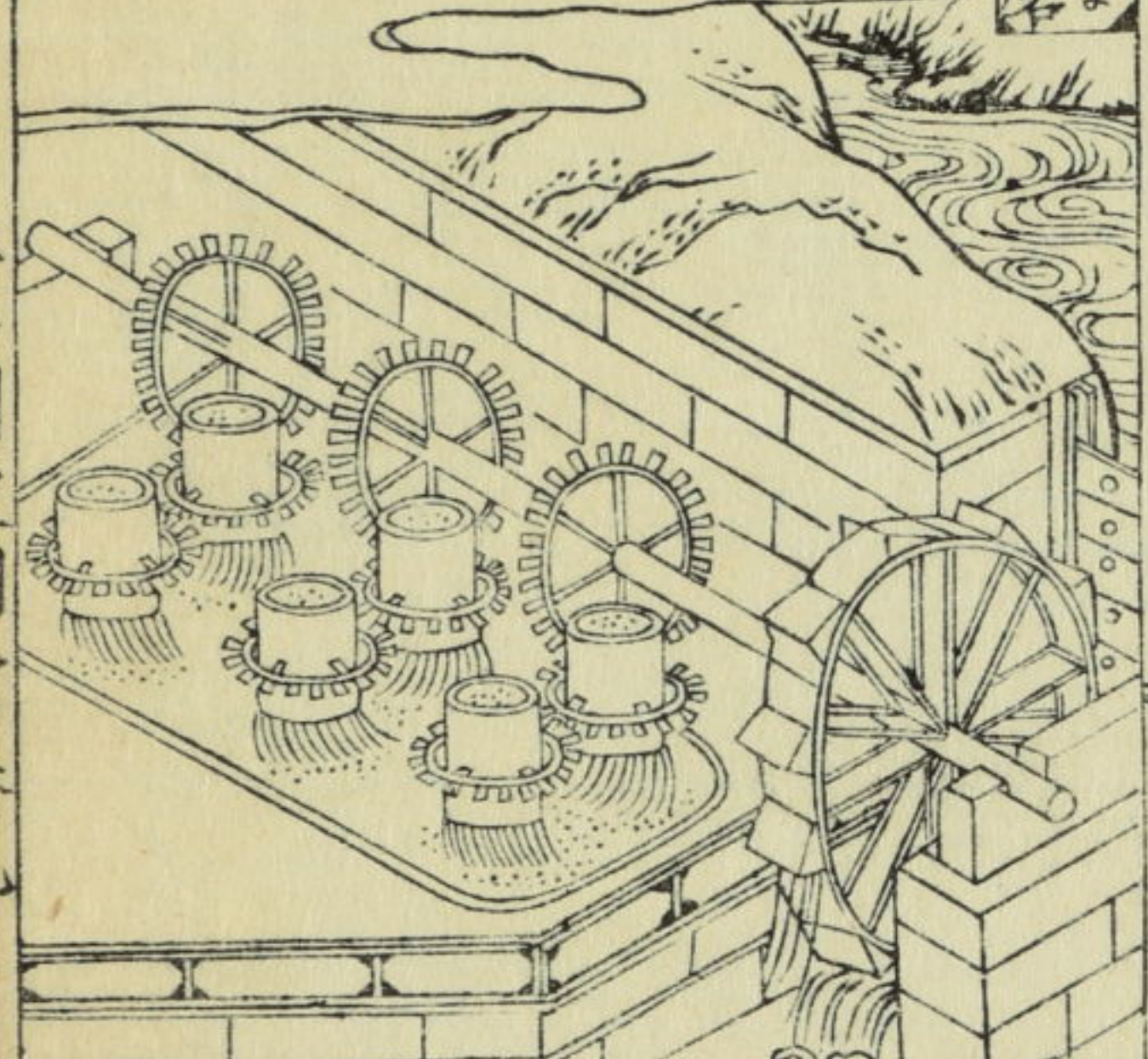
水磨

此磨と並
激し水と
まへし
まへし
まへし



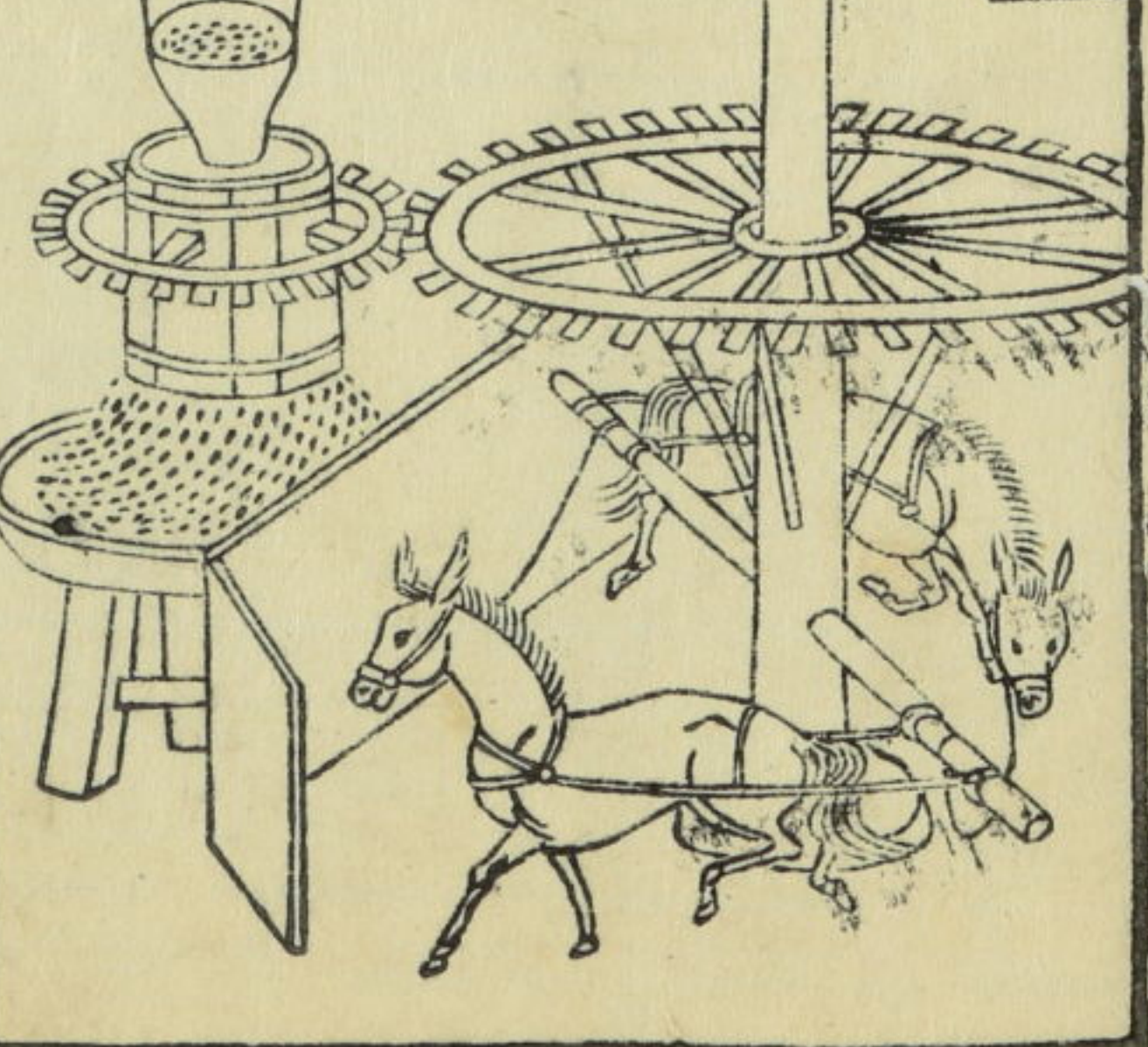
水轉連磨

此制陸轉
連磨と同
急流水
1用故
輪軸
合抱
輪の
果の



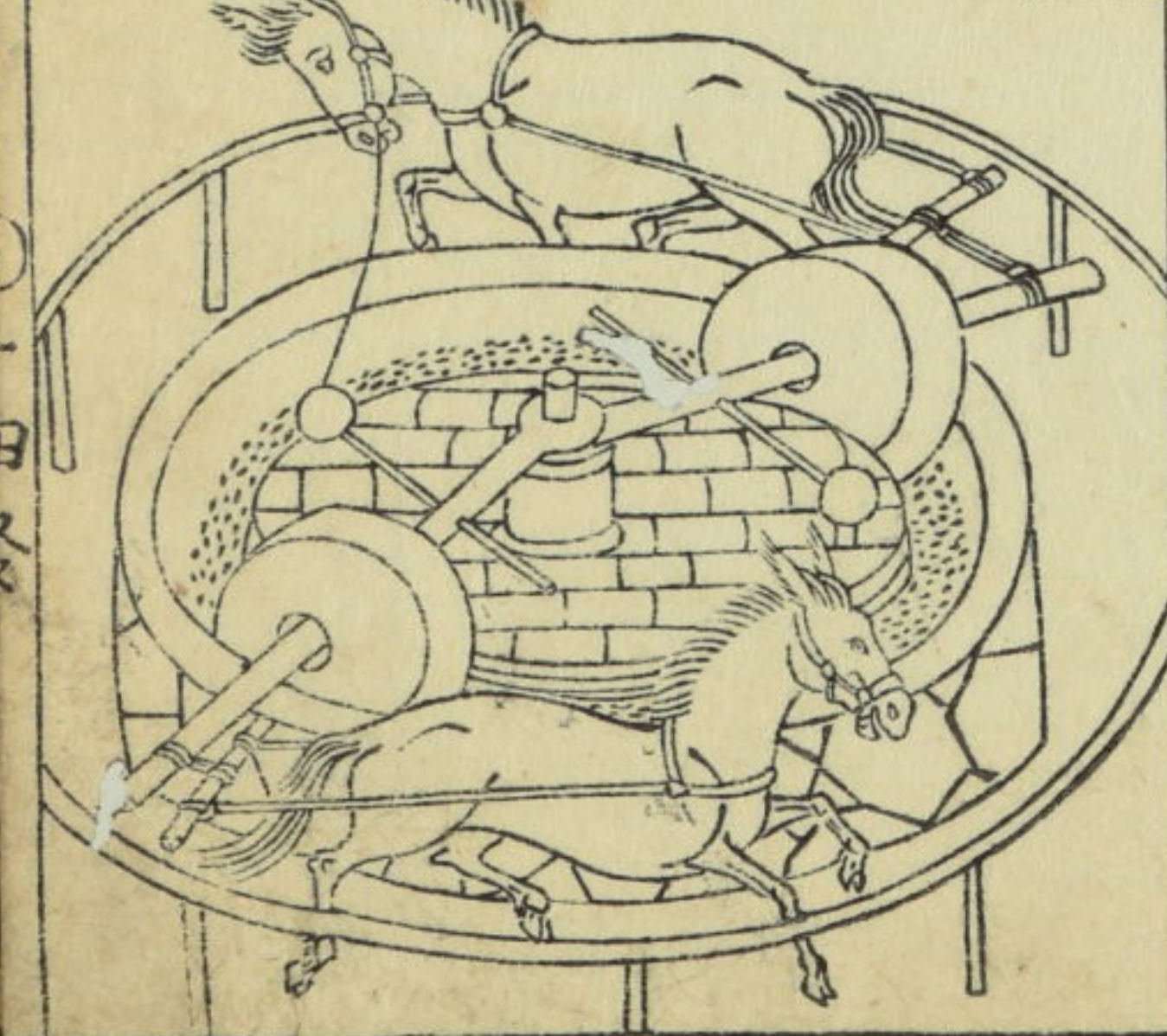
龍石圖

碓穀器
去器
作を
馬と
力と
さぬ



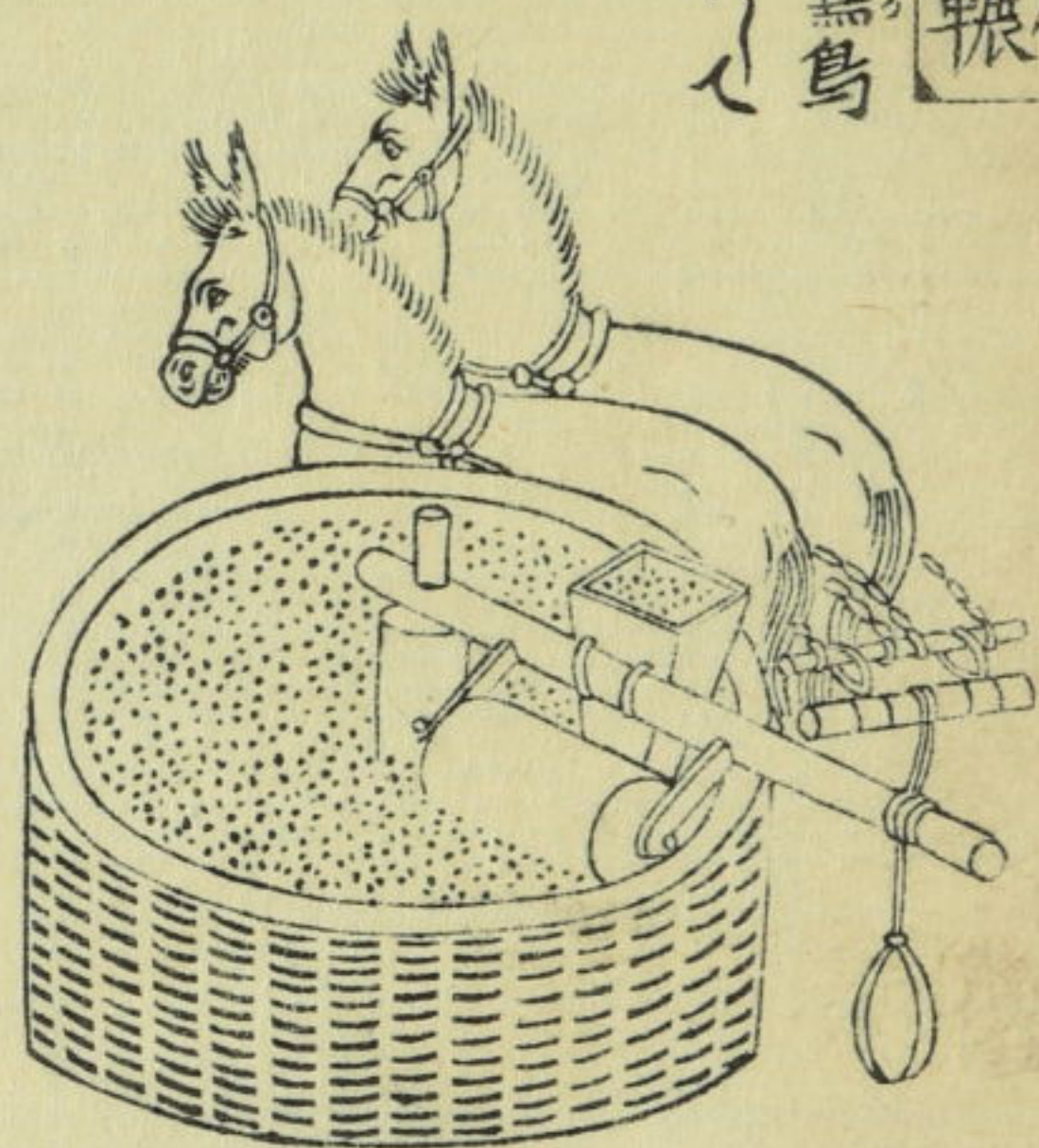
石碾

石碾
乾軸
て石
おの
おの
おの



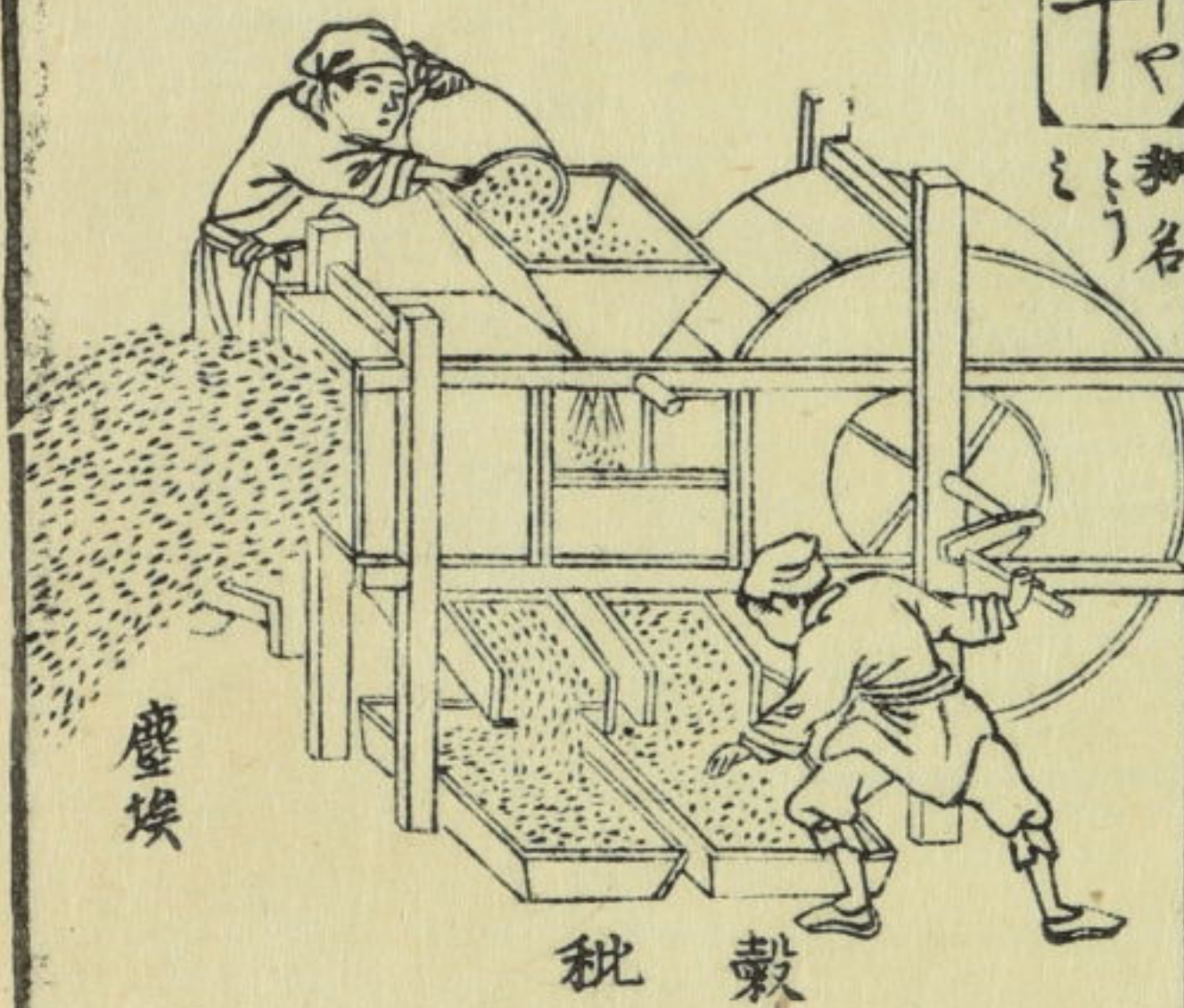
海青輓

此名ハ執鳥
の形に似
て



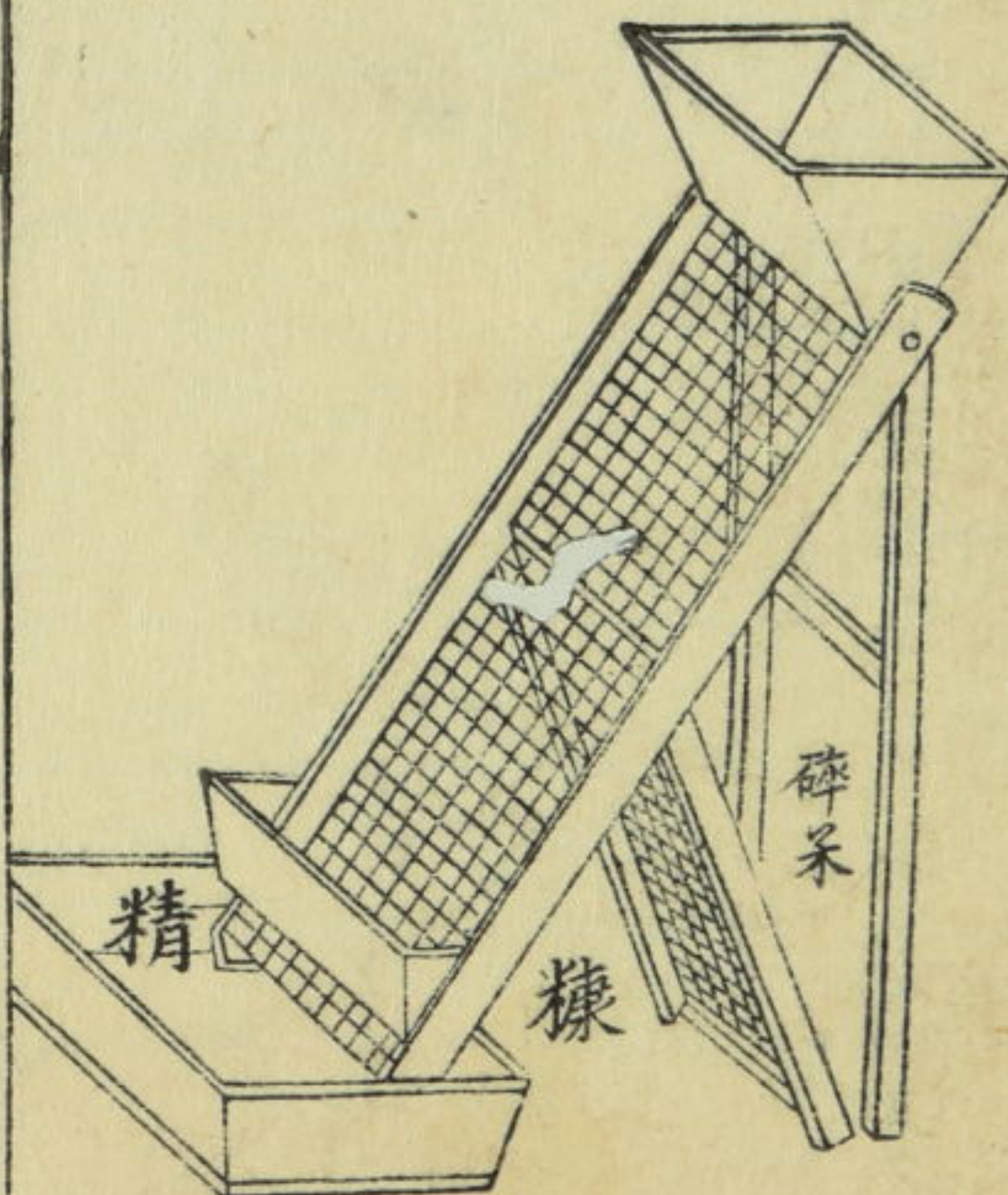
扇米風車

新名



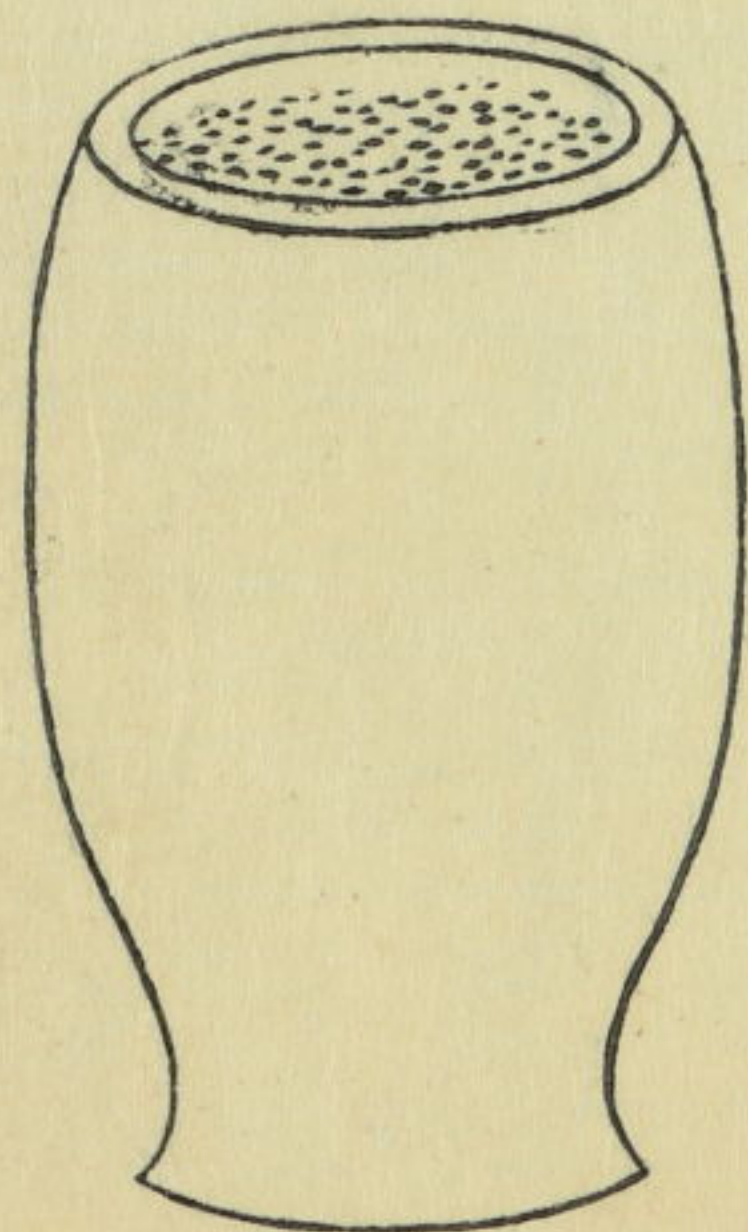
颺風飛

和名ハせんこ



儻

米と貯はつに漢書曰揚雄無
儻石之儲晋劉毅家無儻石
之儲一應劭曰存人名賢受二解



唐土訓蒙圖彙卷之十三

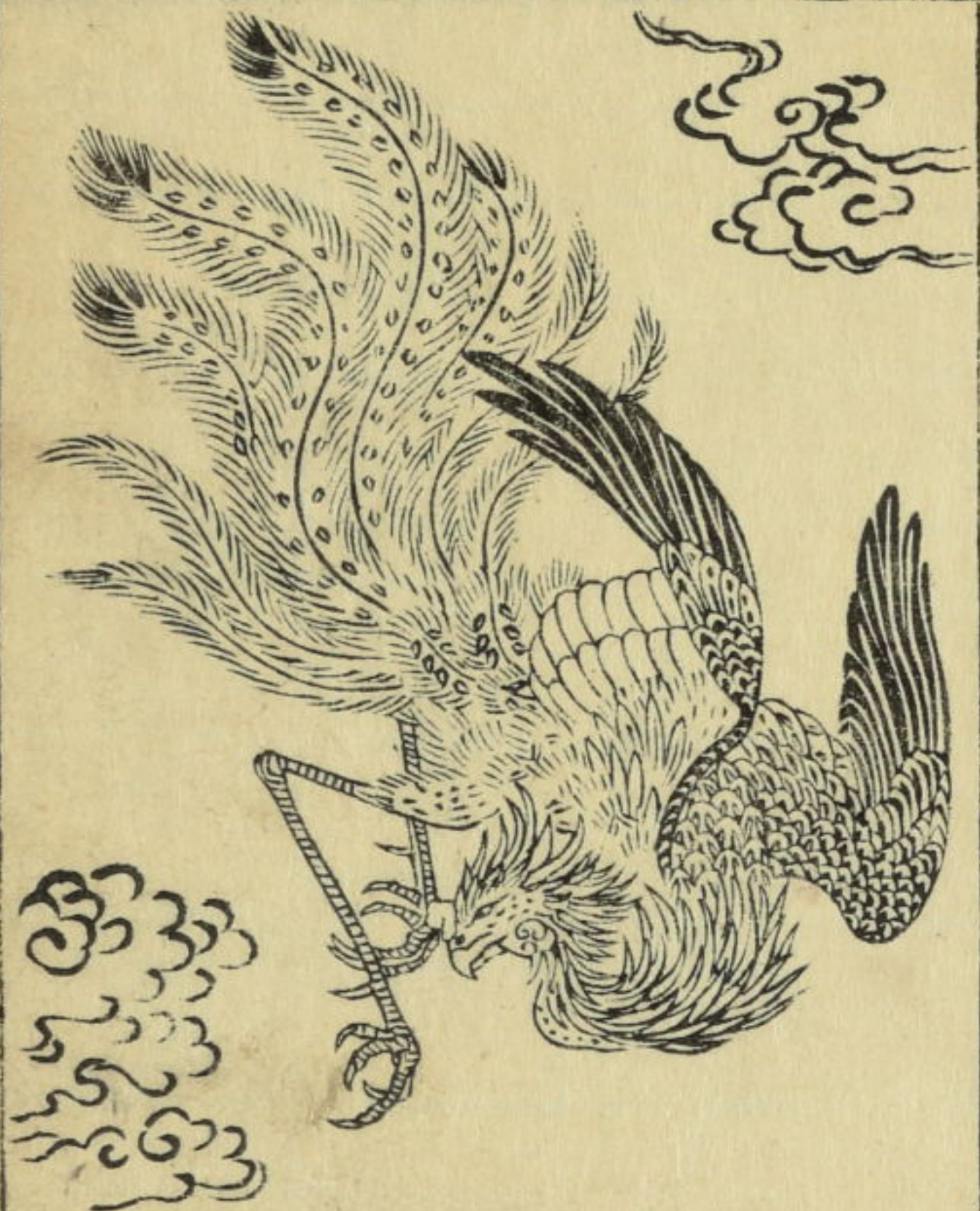
名下子
和名之附

禽獸

此類ハ山川林地水原の畜するもの
なり

鸞鳥

此類多ク一國語ハ周の岐山にあり



世樂鳥

南方より出づる鳥五色あり
丹蒙赤首ハ冠あり王者明德あり
天下太平なる時あり



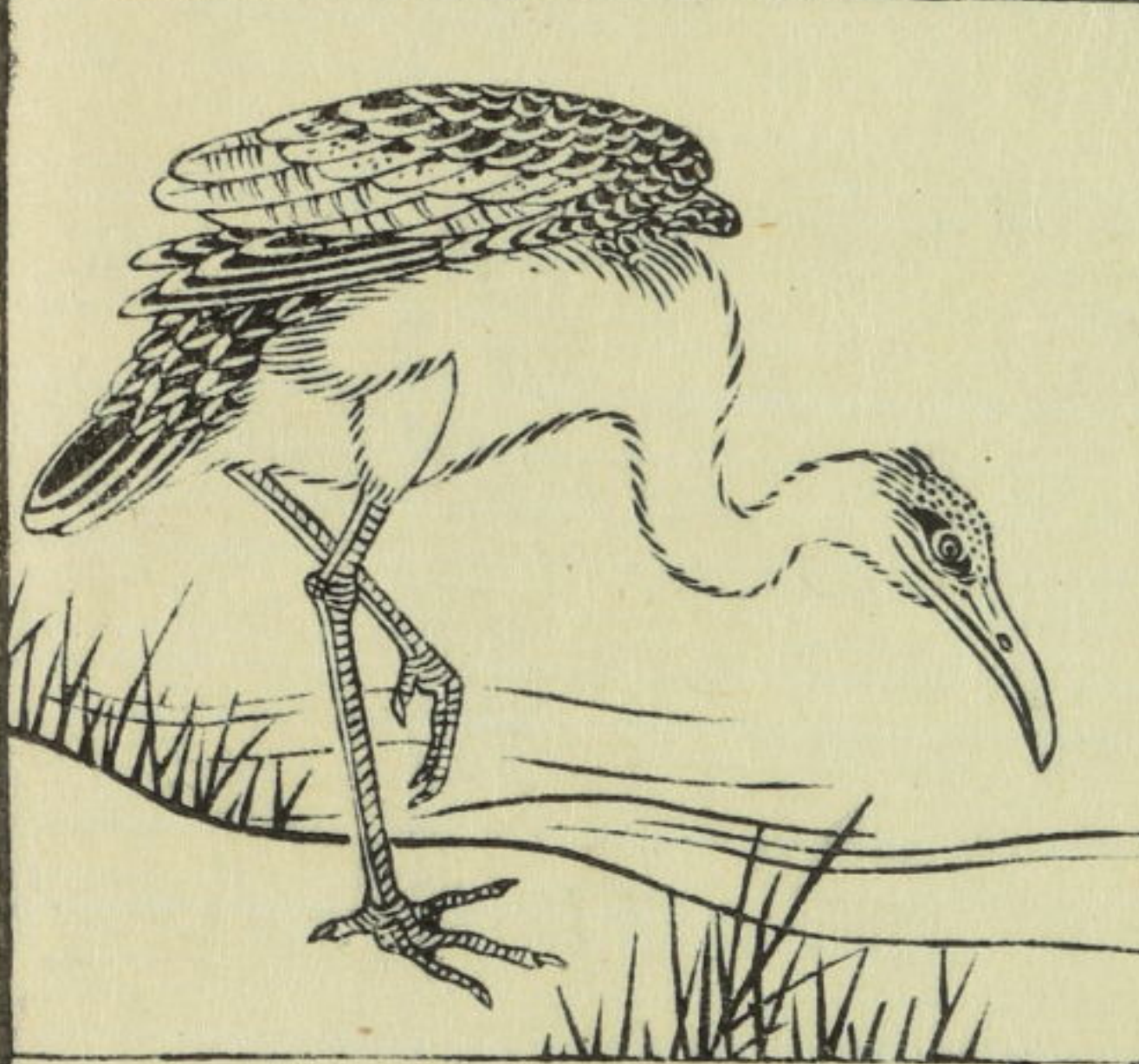
秋鳥

一名ハ扶老
鶴のノト
翼の廣
五六尺
七
尺長頸赤
目乳項
比皆毛
足ハ鶴
ノ



水禽

水禽ハ大
孔雀ノ嘴
長尺餘
口勾リ
二
酒器
物
本葉
糞
香



乾鶴

項金色
嘴紅
其色ハ
三日
去て九
九月
群
香



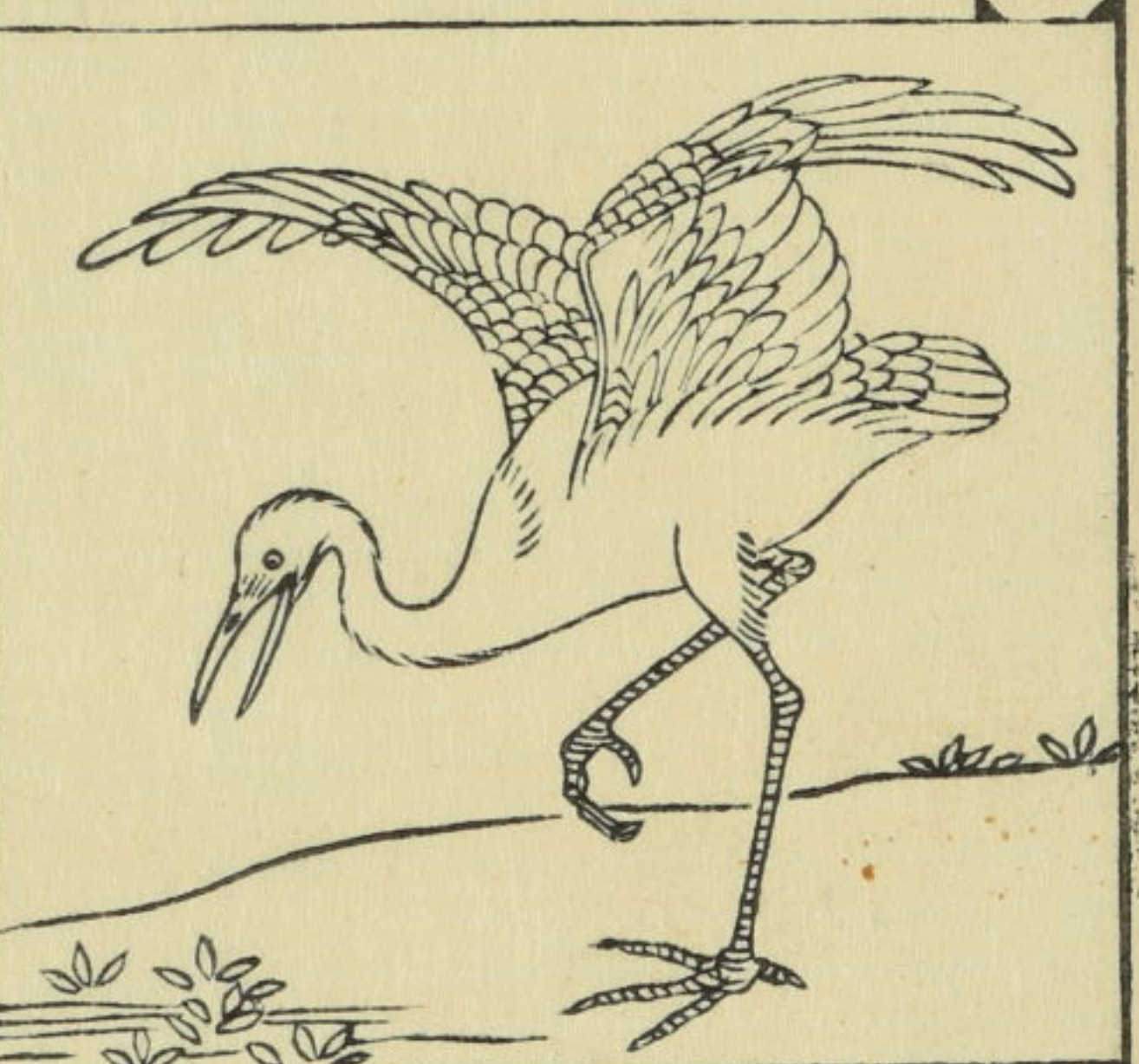
陽鳥

鶴ノ似
殊小
身黒
頸長
一



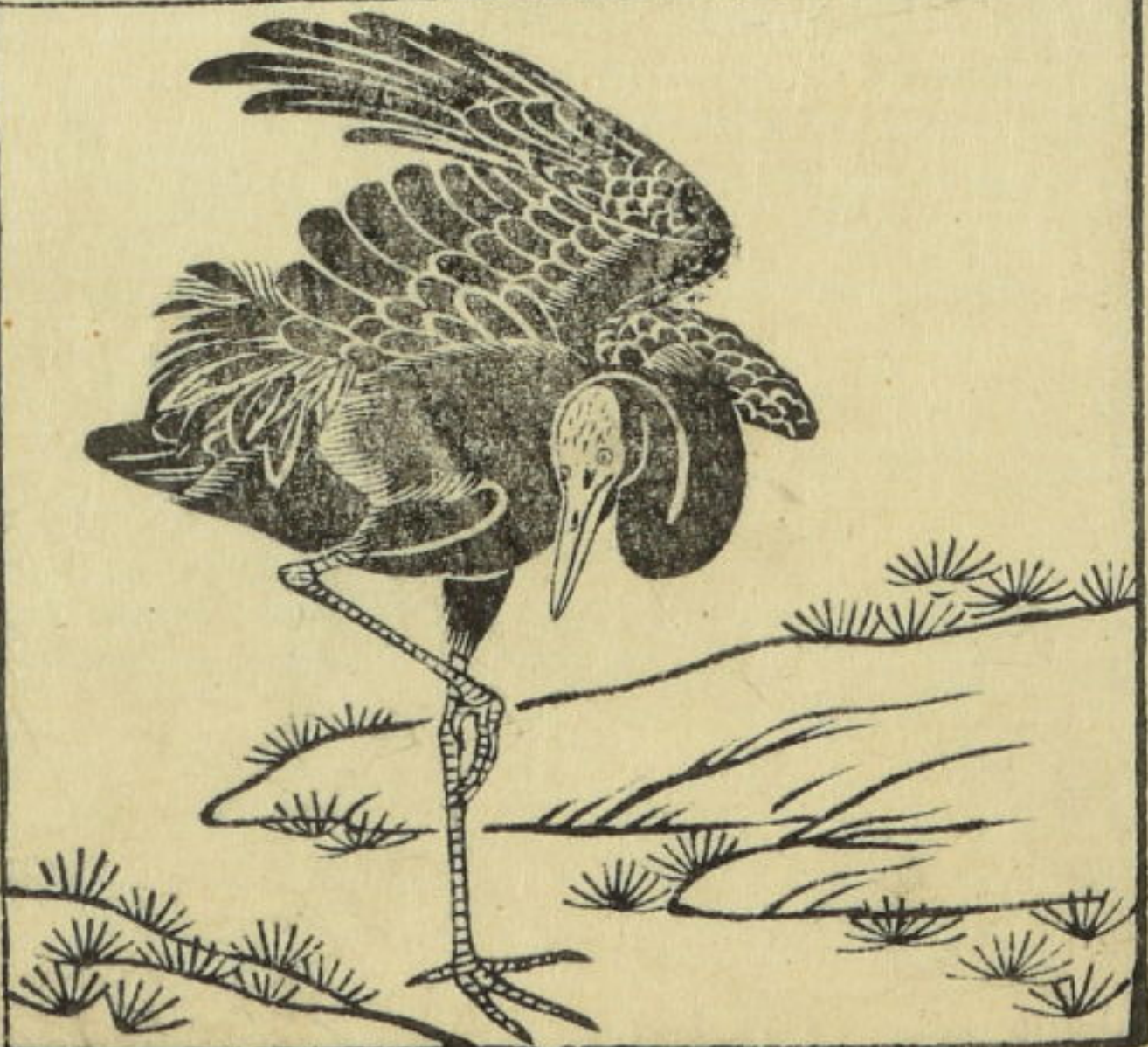
昆鷄

鶴ノ似
其白色
頷長
赤九
啾
悲鳴



玄鶴

その色
音
わ
帝
崑崙
不
何
香



鶉

鶉ノ類
鳥ノ類
田
生



旋目

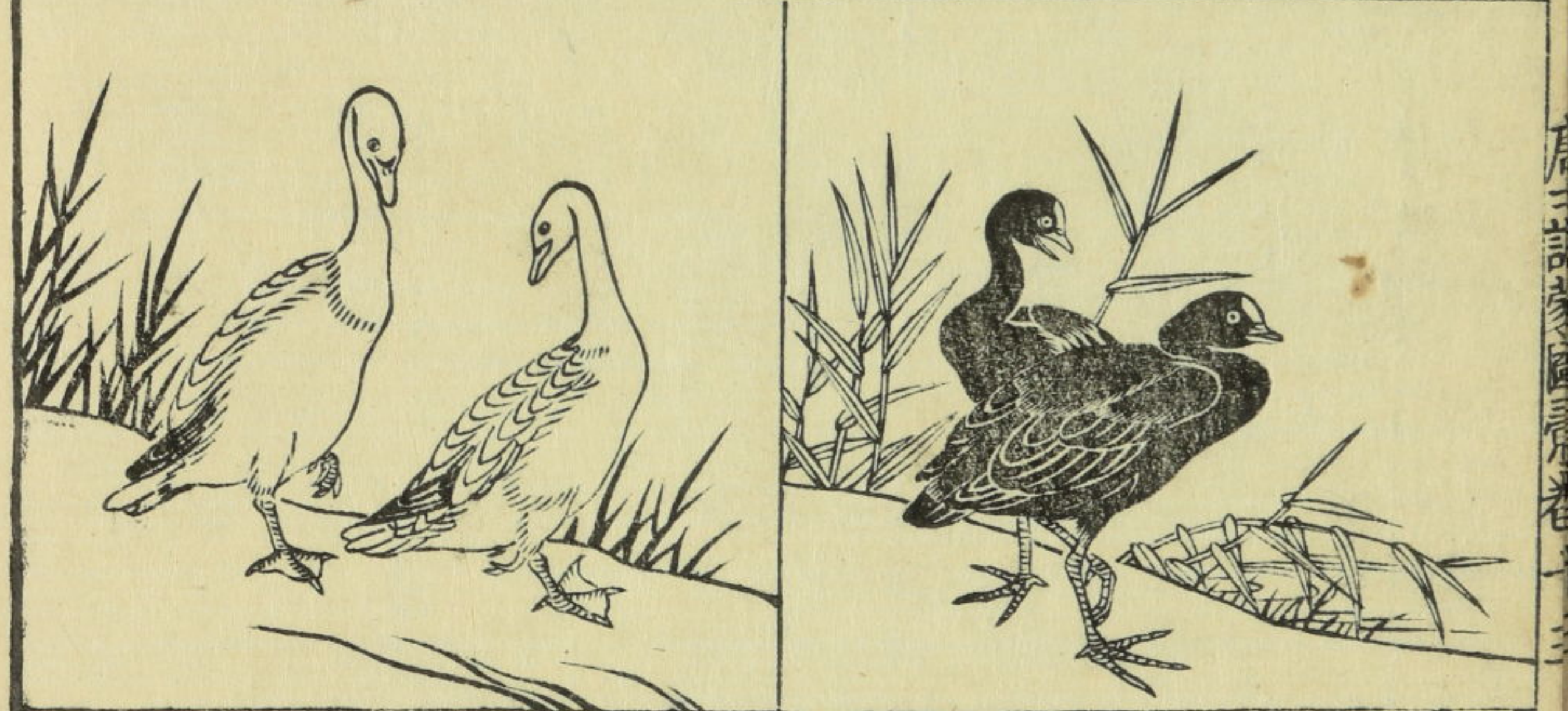
大
加
み
深
目
毛
選
上
林
賦
の



唐土訓蒙書卷十三

唐土訓蒙書卷十三

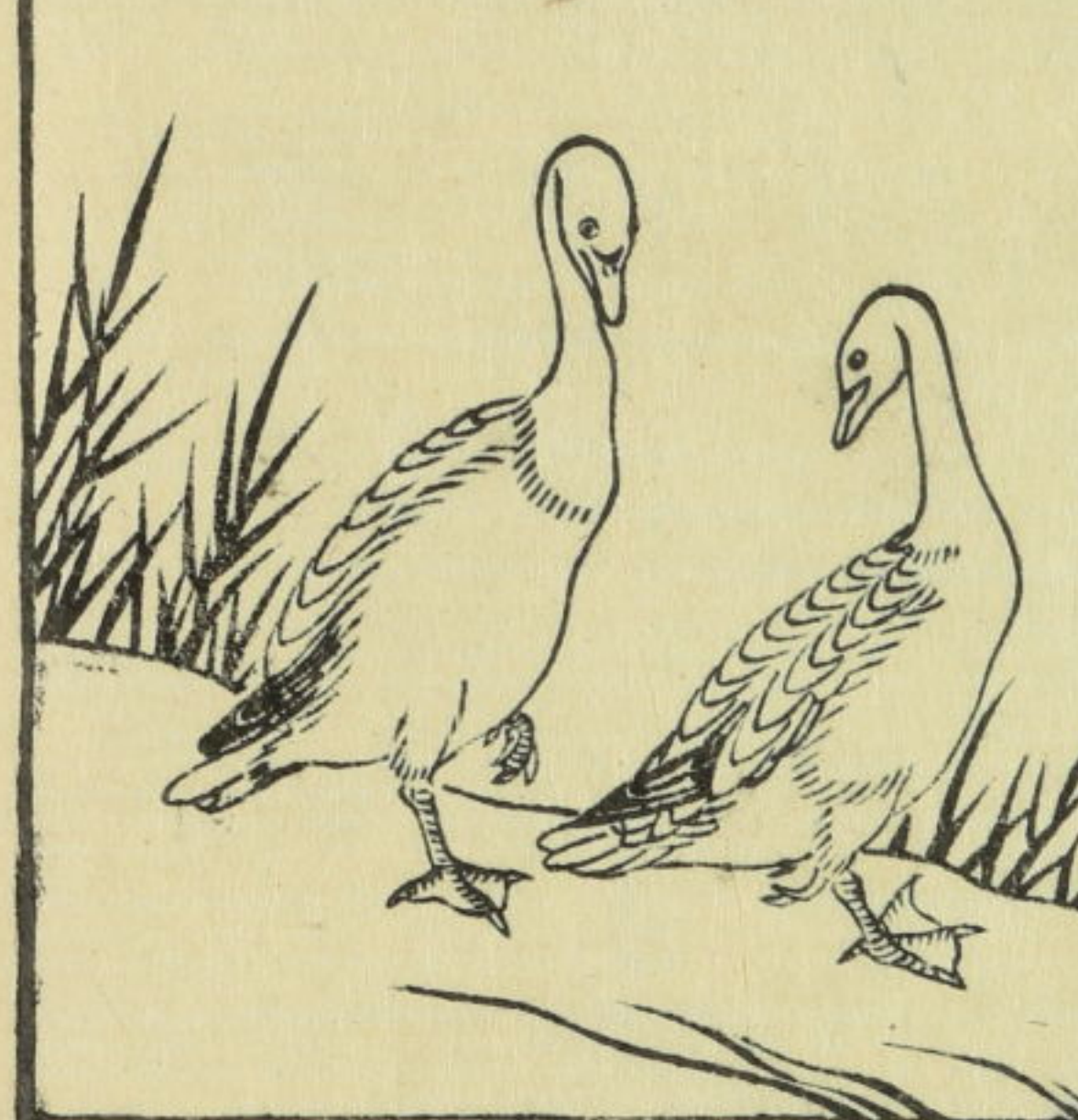
水鳥の類
白く自由冠
あり足の指
鳩より似く
ひろく足
まきまき
いさよ大
小あり



白鷺
鷺の類なり
その色白
形ハ鴻より
まきまき
いさよ大
小あり

艾君鵞

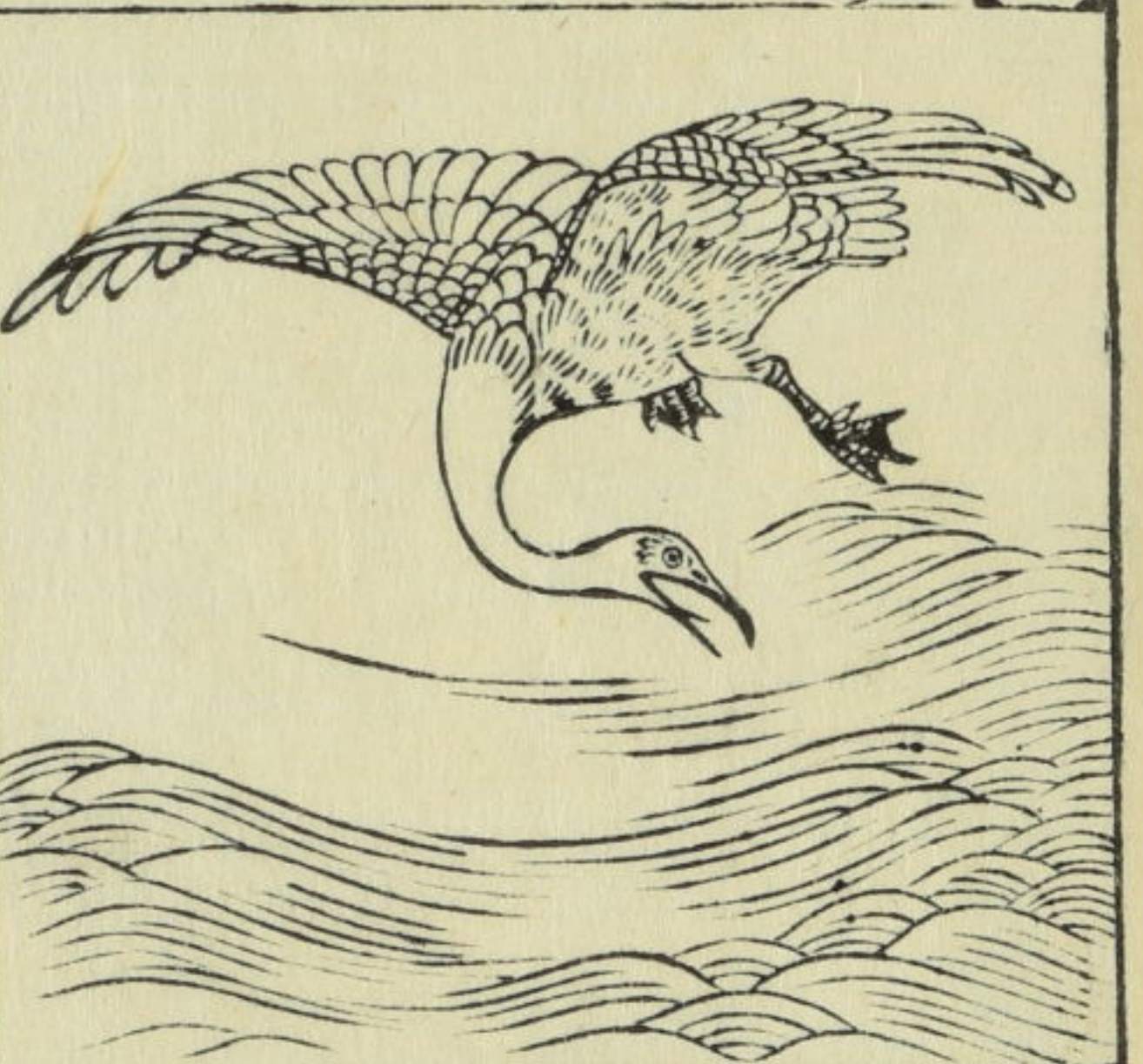
善高く飛
て居る似く
その色蒼白
なり目相
較して孕む
吐て子を
くむ



水鳥の類
白く似て大
長頸赤目
紫紺鷓鴣
鶺鴒似たり
觀るに
名鶴澤水
に沈て魚と
くらふ鷓鴣
の別あり
形鴻より
似く大に
して灰色
なり

鷓鴣鳥

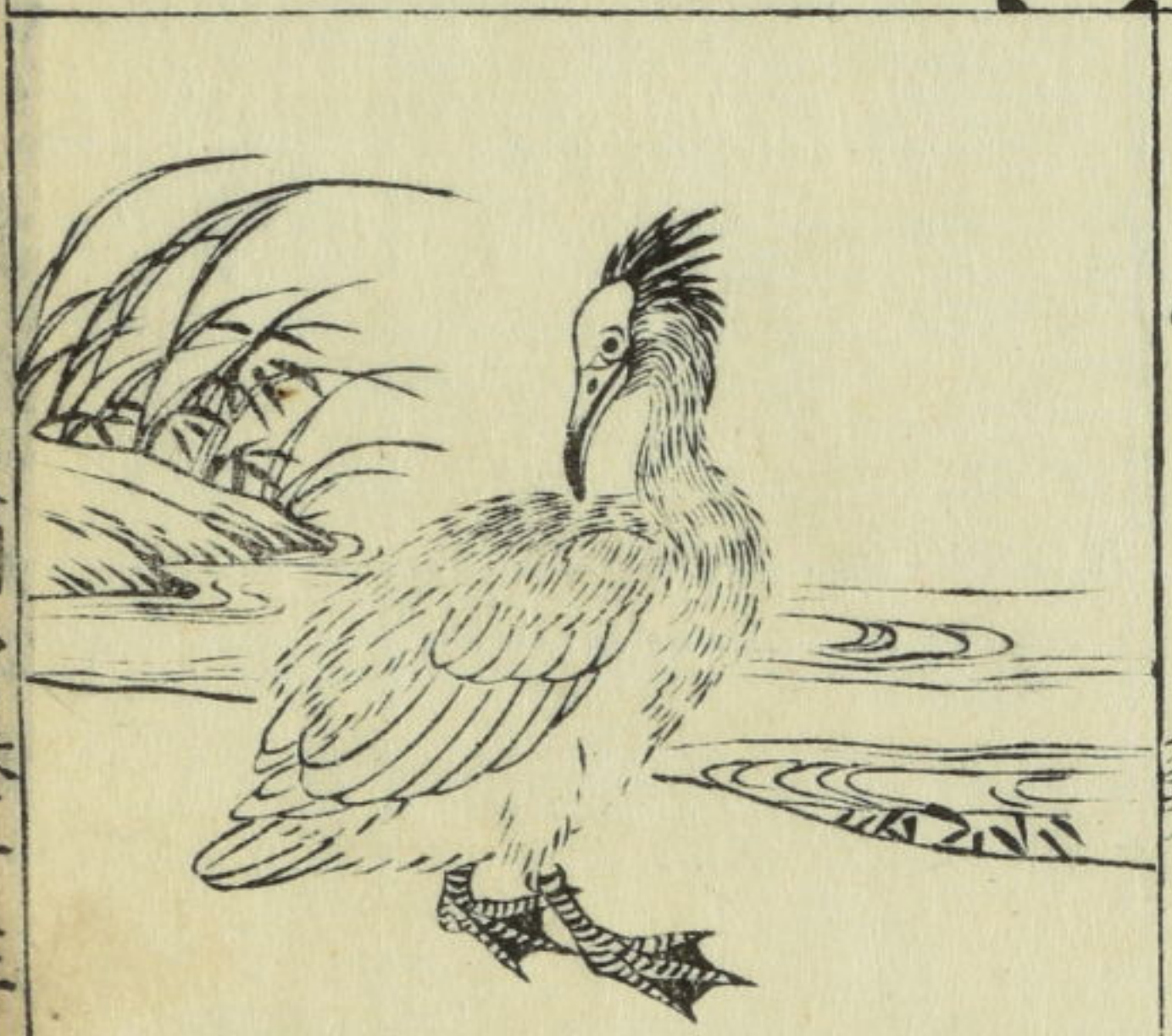
鷓鴣鳥は
白く人誤
て白鷺と
し居る似
く然るれど
風よ水
をよみ舟
首よ急ぐ
る鷓鴣なり



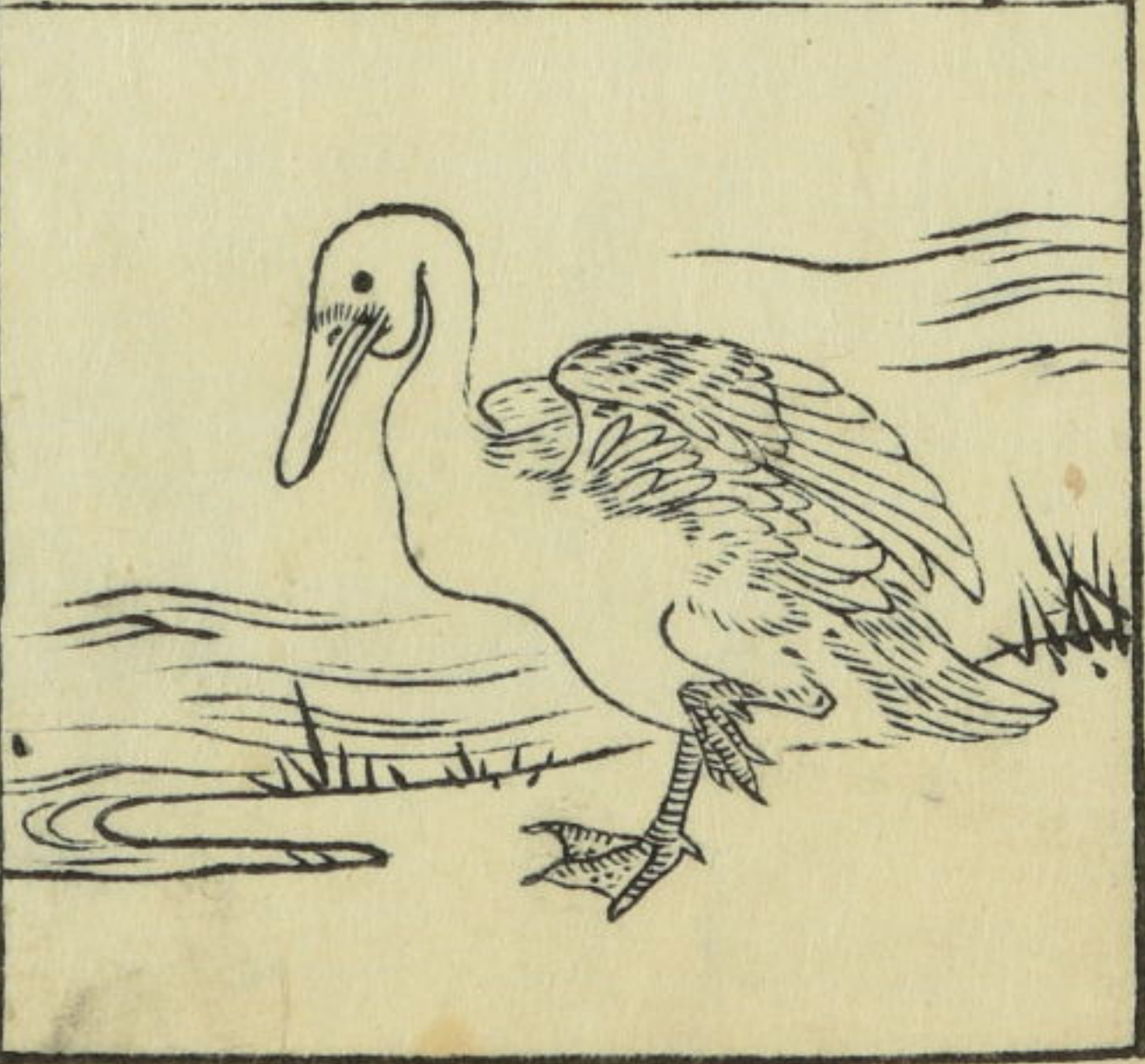
鷓鴣
一名陶河一
名鶴澤水
に沈て魚と
くらふ鷓鴣
の別あり
形鴻より
似く大に
して灰色
なり

鳩

鳩は似て後
指かゝ豹
文あり鷓
鳥より似
く糞を
激して是
を御宗に



信天翁
狀鷓鴣に似
く喙長く水
際よきて鰓
の魚を下
とられしと
陸日魚と
されたりと
か
信天翁
同類
和名フキナガ



鶻鷁

水鳥雁乃屬長頸綠色之形塵似其羽裘



非羽羽卒

魚狗之似大羽水色に居て魚と云う或ハ冠有灰を以て痛御菜の或ハ非羽羽卒の後の



嗽金鳥

昆明國出以形雀之加色黃魏の明帝の時未の獻に真珠と急指と解ん常子金屑をく



鶻

形ハ雀の似て尾長好筆の皮と割て中の虫と食ふ四月の間多



蒿桂

麻雀の似て黒色の間ハ在る故にその原の鳥を蒿桂と云ふ



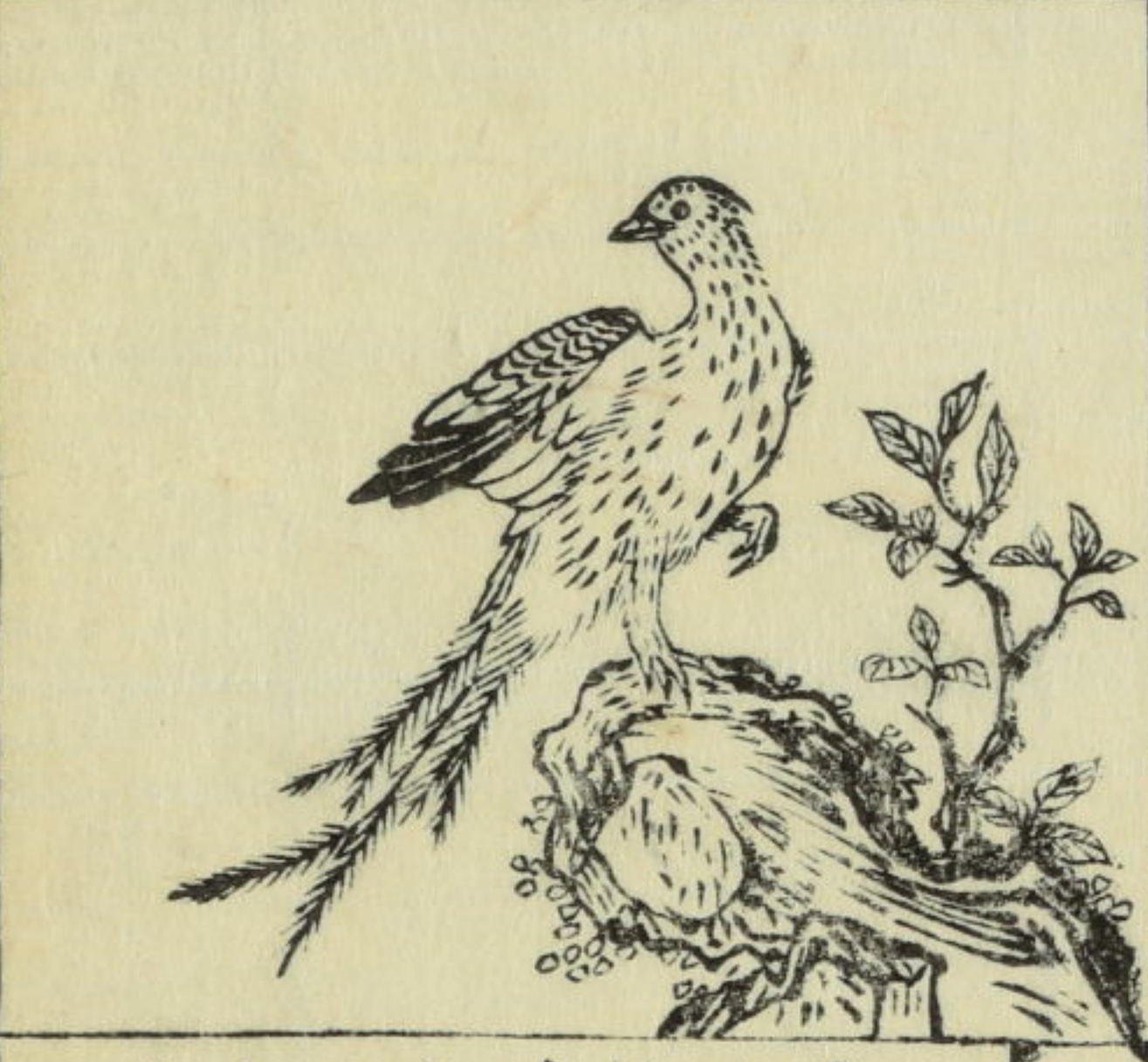
黃鳥

形ハ雀の似て黄色の尾ハ黒色相まじり尖り脚も日かいて



突厥雀

大さ鶴の如形雌雄の尾ハ岐り好て群る



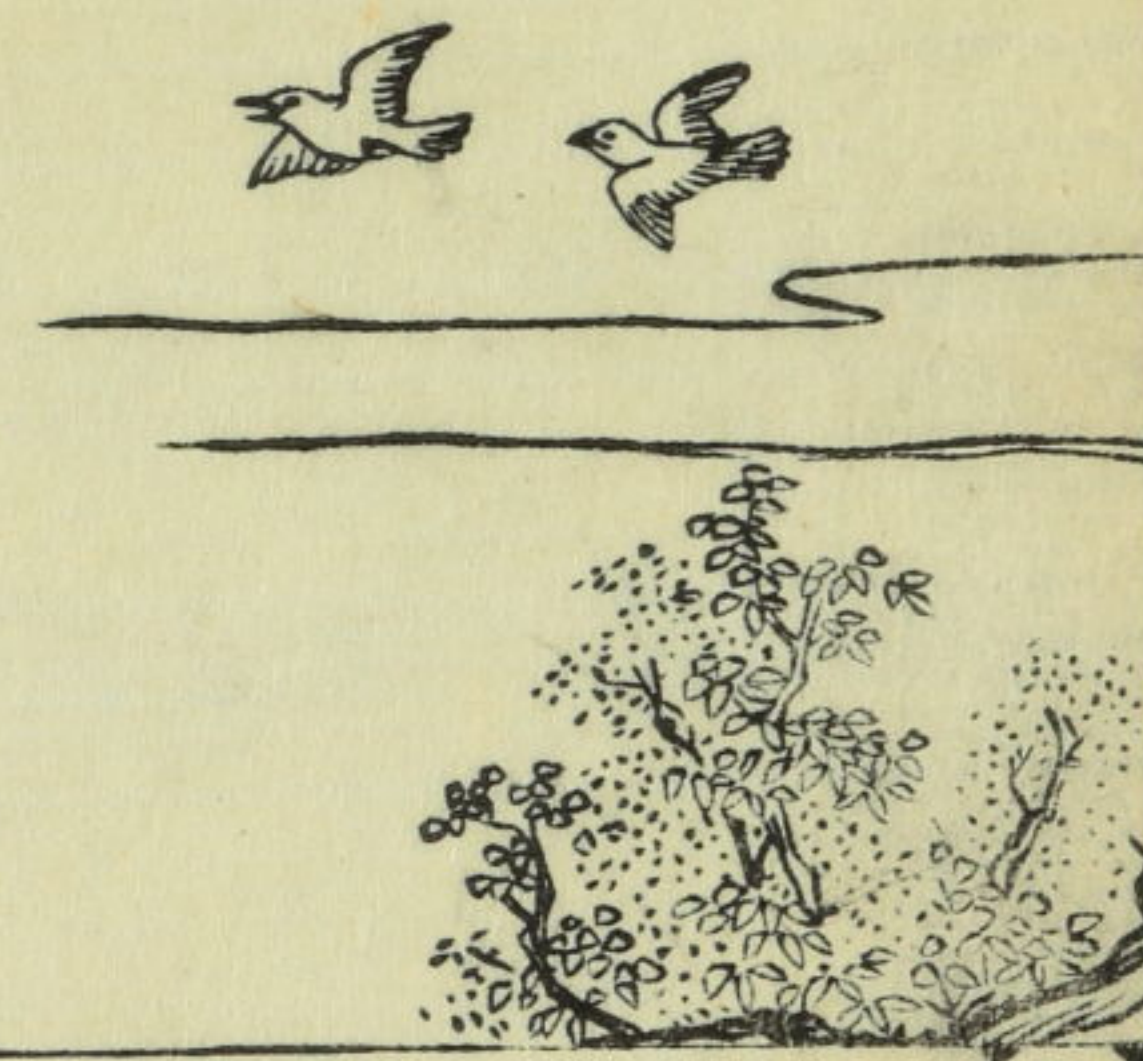
繡眼兒

形ハ雀の似て月白の尾ハ黒色如し眼の色を福を



鶺鴒

此鳥小く七
高く挙る
よみて中には
故に射候よ
るさわりを
務む
此鳥と交
るてうと
すハ非し



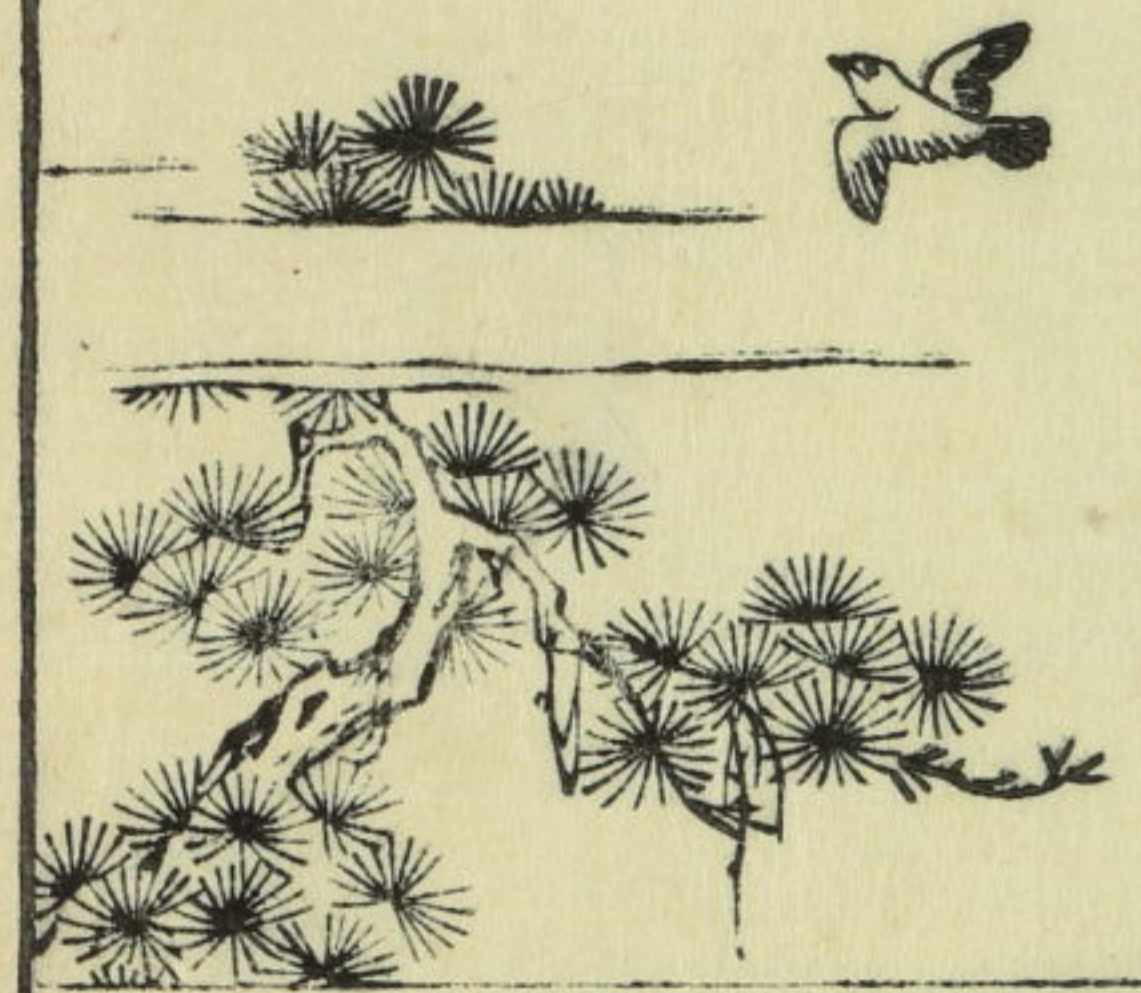
反舌

まねて鳴
て五月に
至て止ま
ると及易
と及易れ
百鳥の鳴
み效ふ又百
舌と名
け



正鶺鴒

正ハサカ
鶺鴒小く
て飛と疾
して最射
候故に
布侯と盡
し七
ふれと
射



杉鶺鴒

形鶺鴒
の如く
は黄毛冠
ありて頬ハ
赤色
岳邊の如
杉樹の上
よと名



民眠母

大さ鶺鴒の如
黒色に南
方池澤の
菰の中
に生れ其色
人の吐する
其色
故に二
休と吐



鳴鶺鴒

その形鳥
の如く
して尾
赤色
り
御火と
い



鶺鴒朝

その形を
鶺鴒に似て
その目鶺鴒
似たり尾ハ
屈候おこ
縋縋の如
あのみ羽
あのみ羽



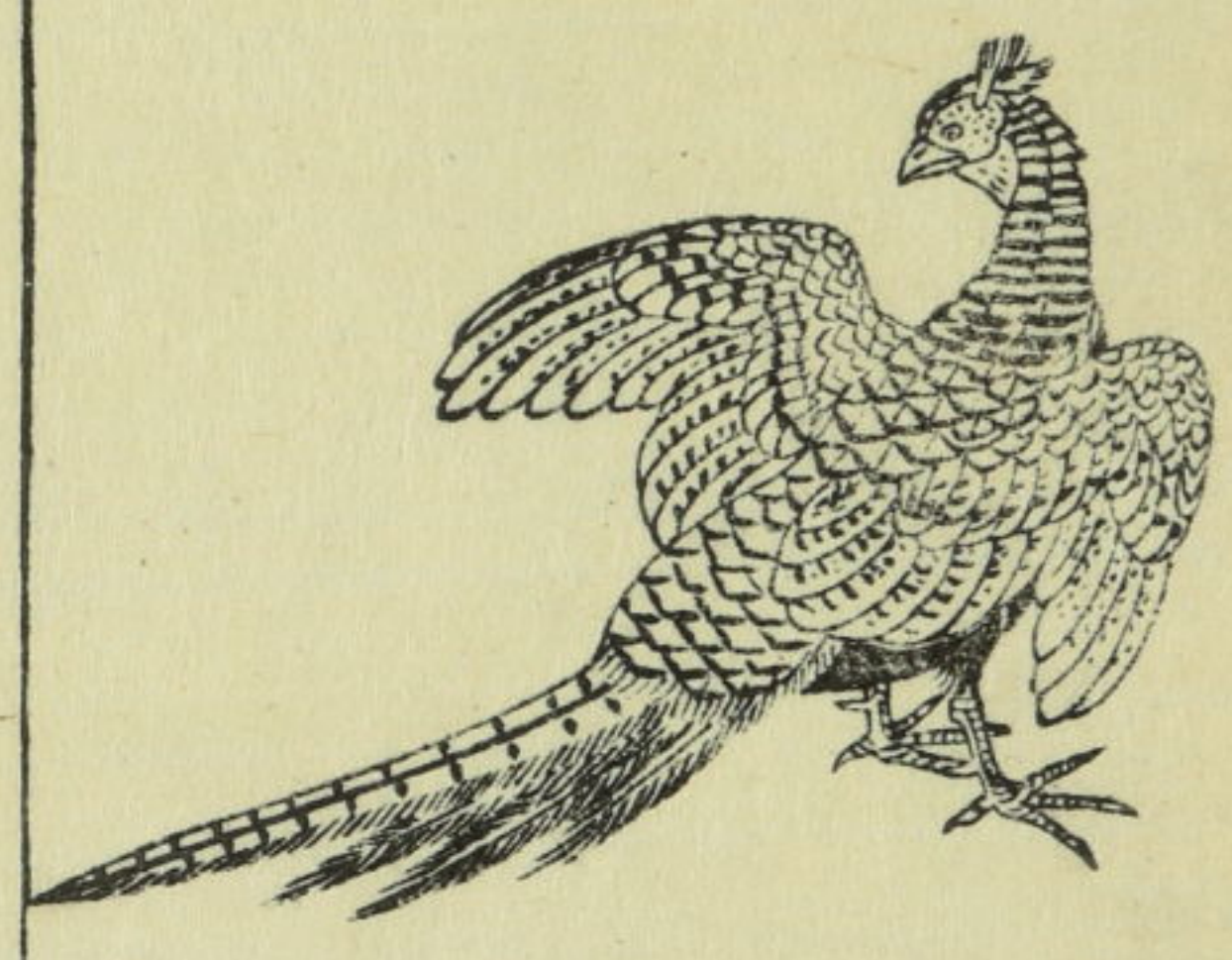
鶺鴒

青要山
鳥あり狀
鬼の如く
身より
して赤尾
なりこれ
と食の子
孫
魚



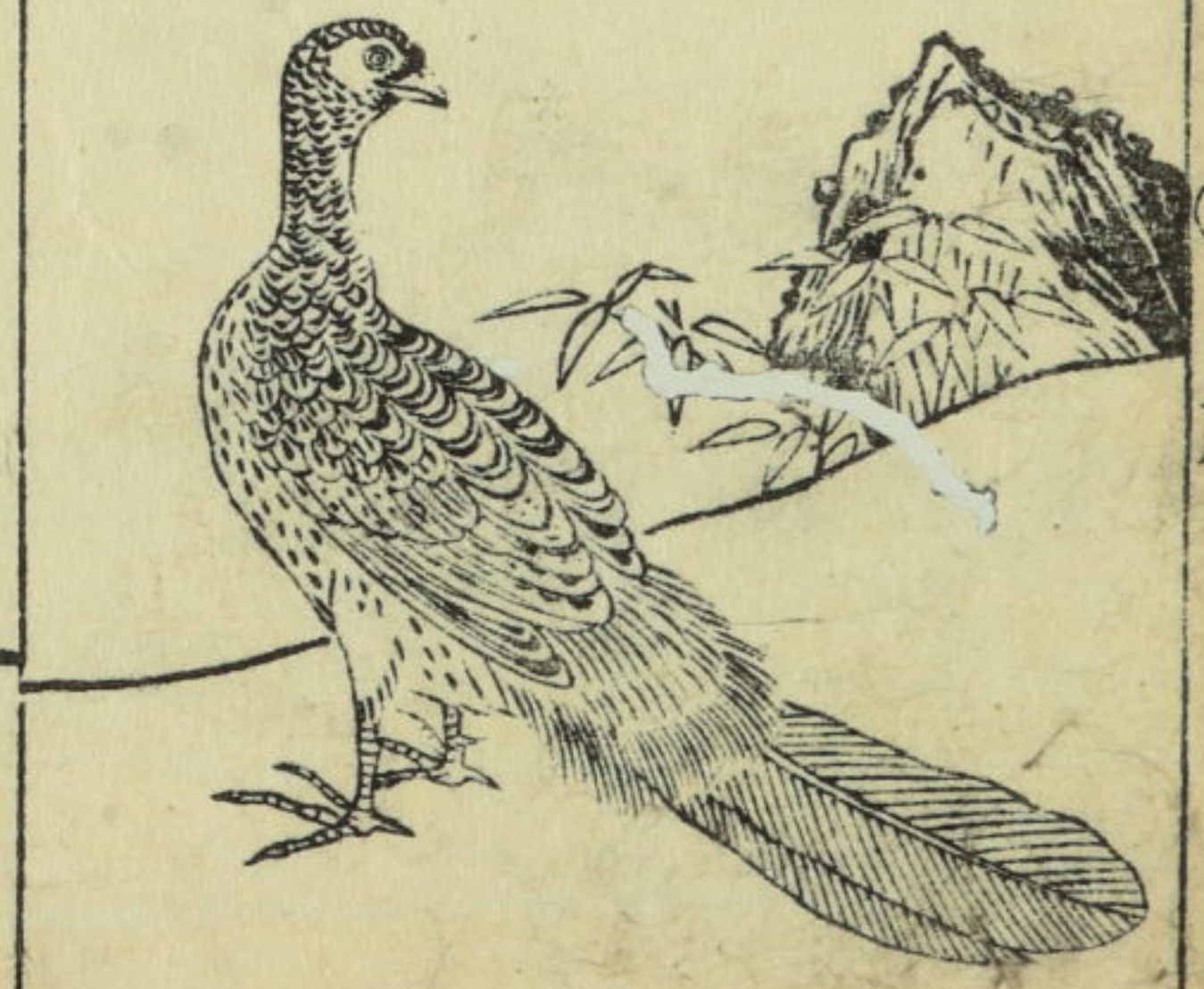
華鳥

つらら終
似て小
冠背毛美
は頂上正色
鮮明脊腹
洞赤し雉子
のくぐみ
是十二章
は五がゆ



當扈

そのくぐら
雉子の如
うて尾ハ
芭蕉に似
たり人食
とんハ
目
まじ
るに



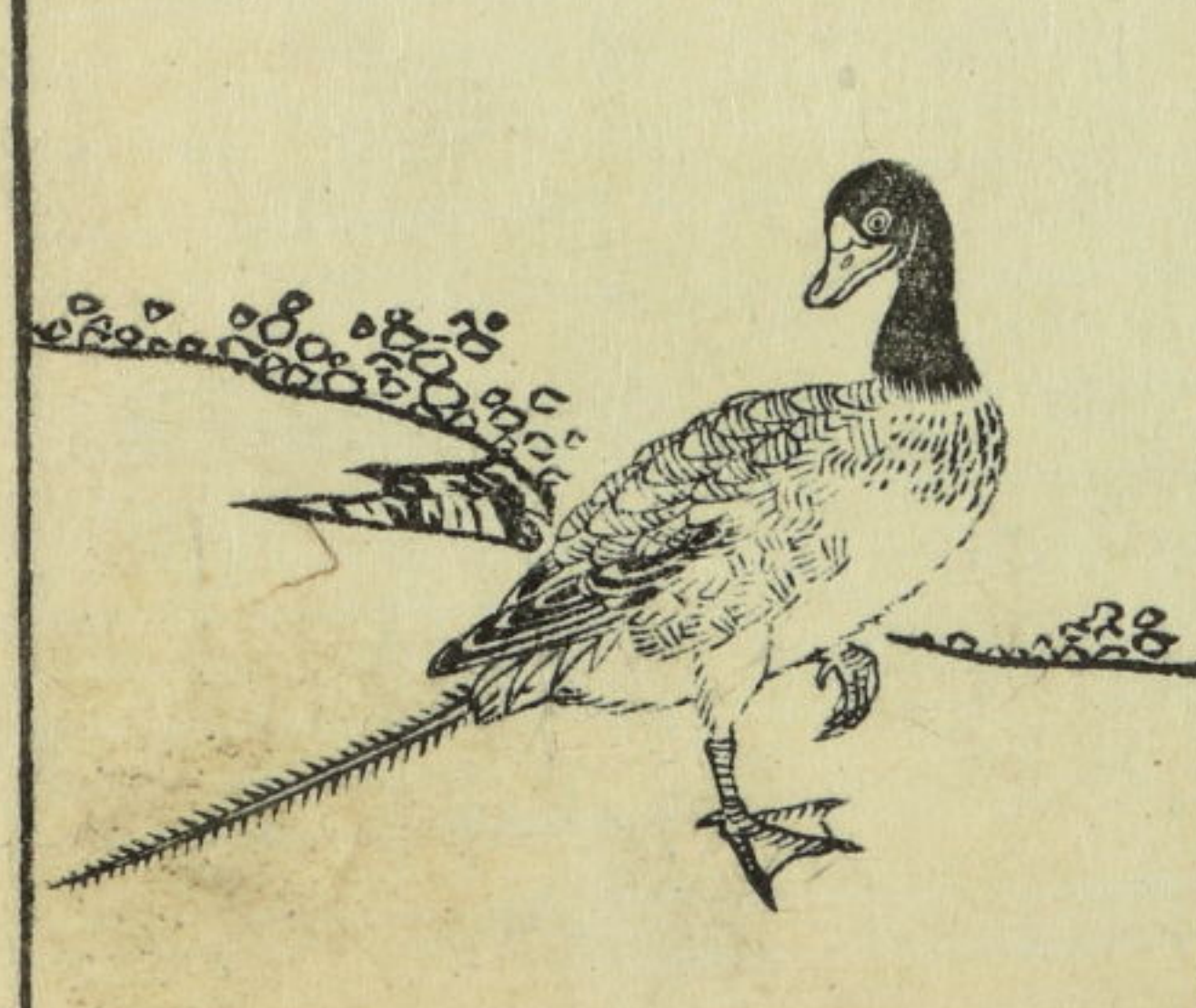
鷓鴣

雉に類七
大に其黒色
首も角々
冠のみ
性も堂々
むしとと
まて死
といはれ



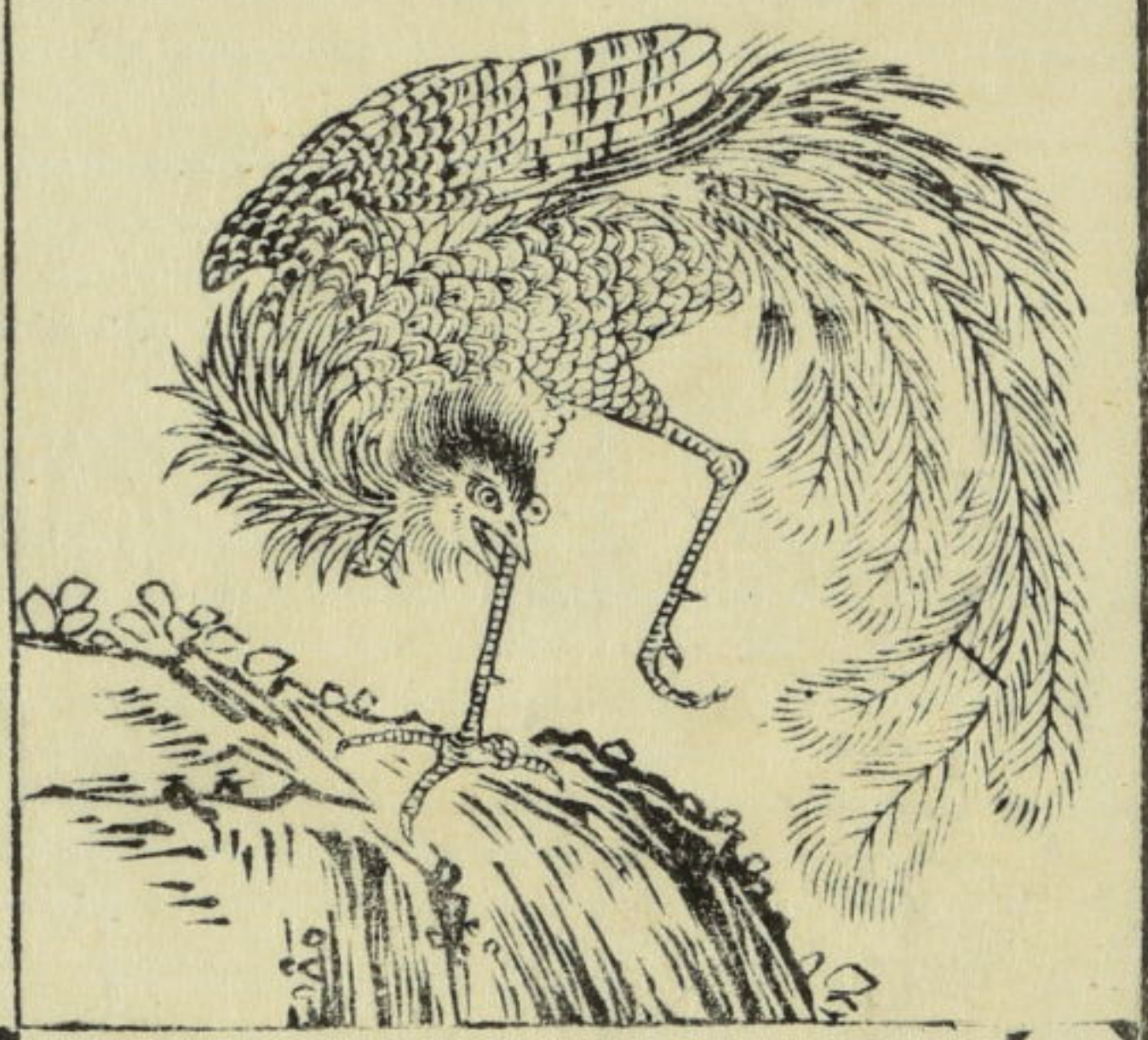
潔鉤

そのくぐら
鳥のくぐ
尾ハ亂り
似たり
な
の
と
ふ
と
ふ



鷓鴣

鳳に似く
神鳥なり
郁離子曰
南方神鳥
わり五彩
うて鳳
の形と
かん



精衛

神農の女
女娃と名
けく昔海
に迷ひ溺死
し化して粒
衛と名
に山の木石
と收て東海
と填るといふ



鷓鴣

鷓鴣に似く
不祥の鳥
魚と
うて雉
のくぐら
文家わり
接スルニ北越ニ
イハルサケビニ



立月耕

そのくぐら
白冢白首
尾以て夜と
禦へし
鳴と
う
な
り



雕

そのまら
くわらう
のまら面
人まら
目まら
まら
わら



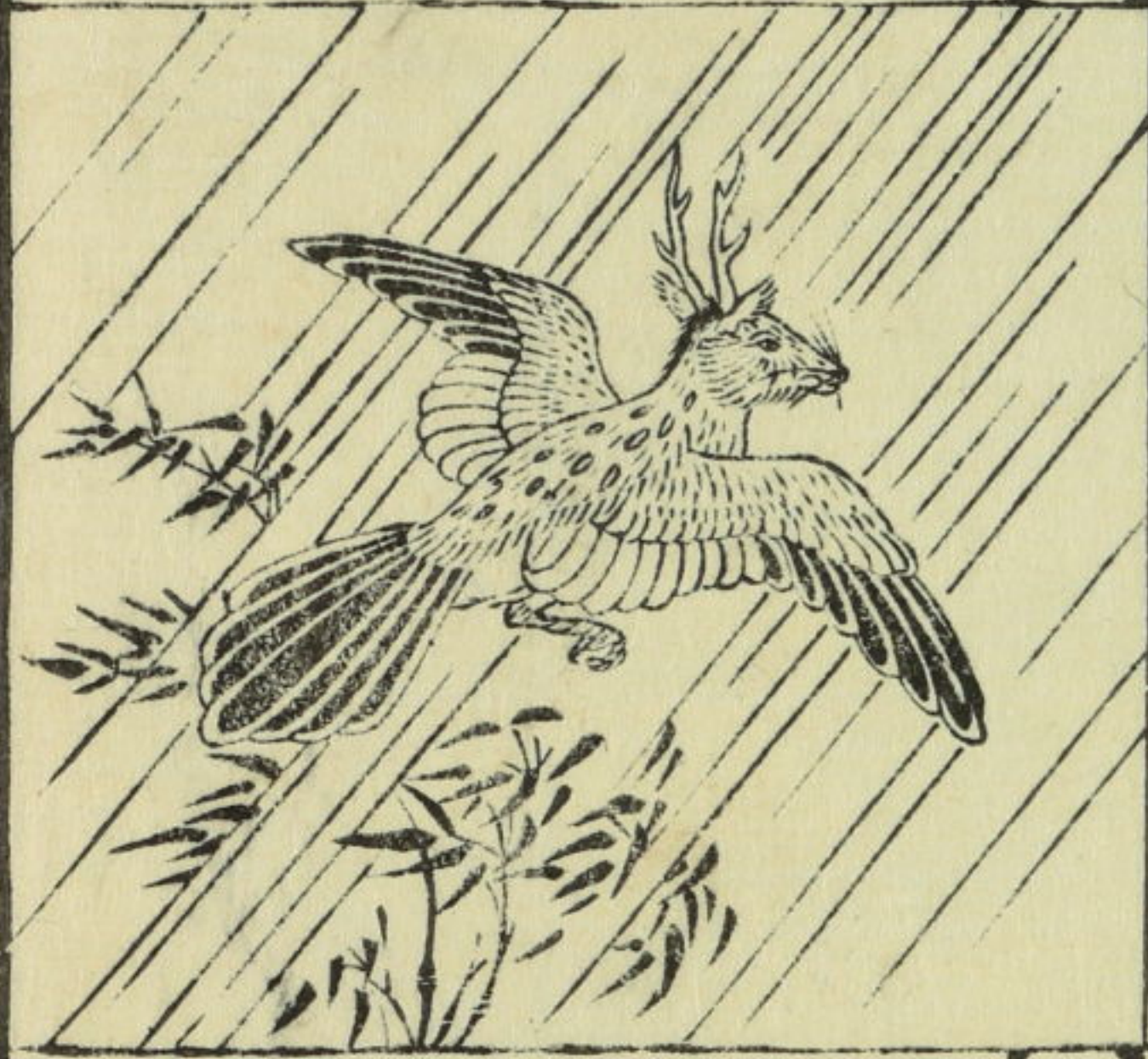
鸚

そのまら
鸚のまら
一首まら
三まら
まら文
頭まら
まら



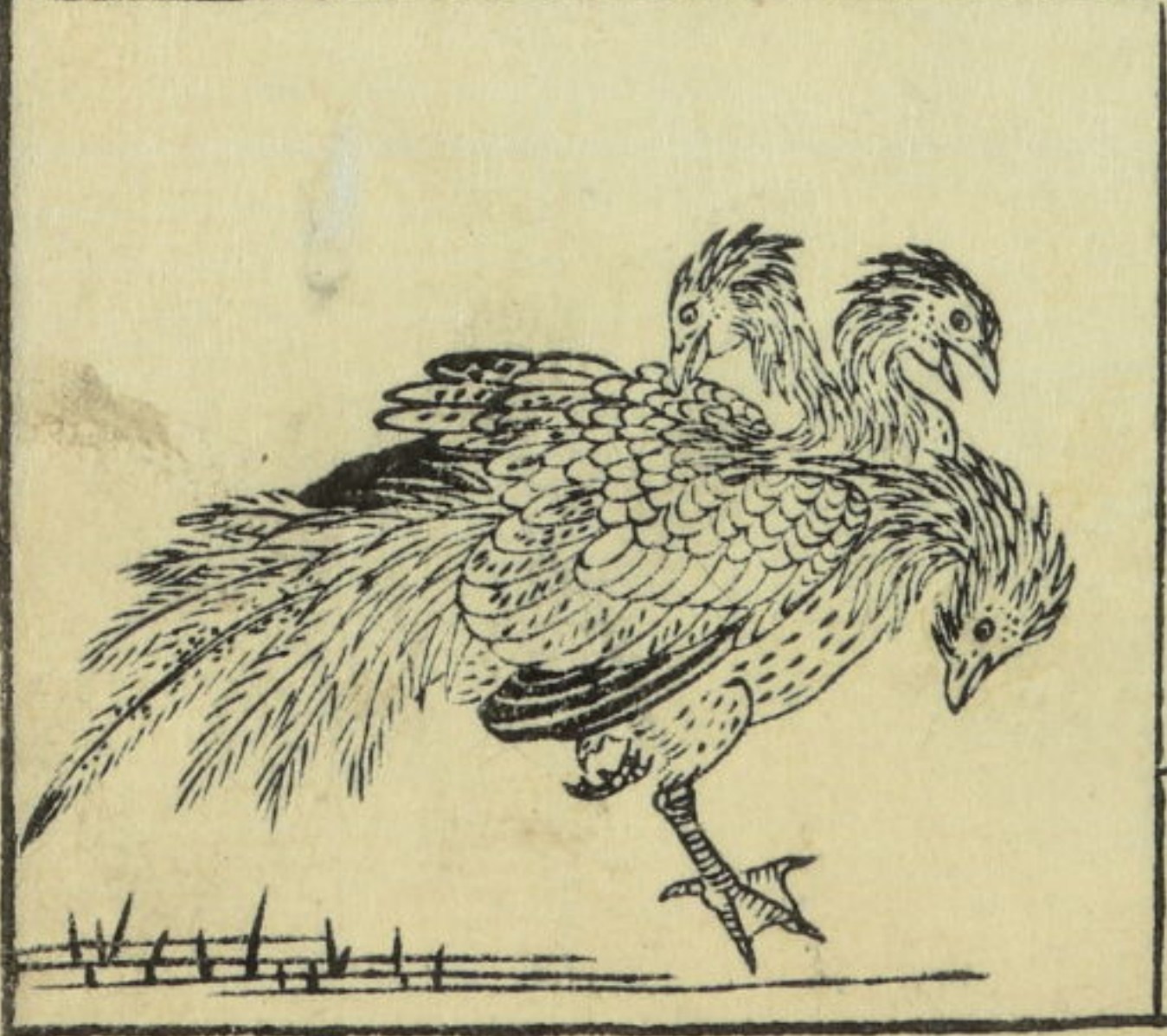
飛簾

鳥うて
鹿から風
俗通日飛
廉神雀
く風雨
と致れ
いり是こ



眼佳如

そのまら
鳩のまら
三首まら
足息まら
そまら
尾
長



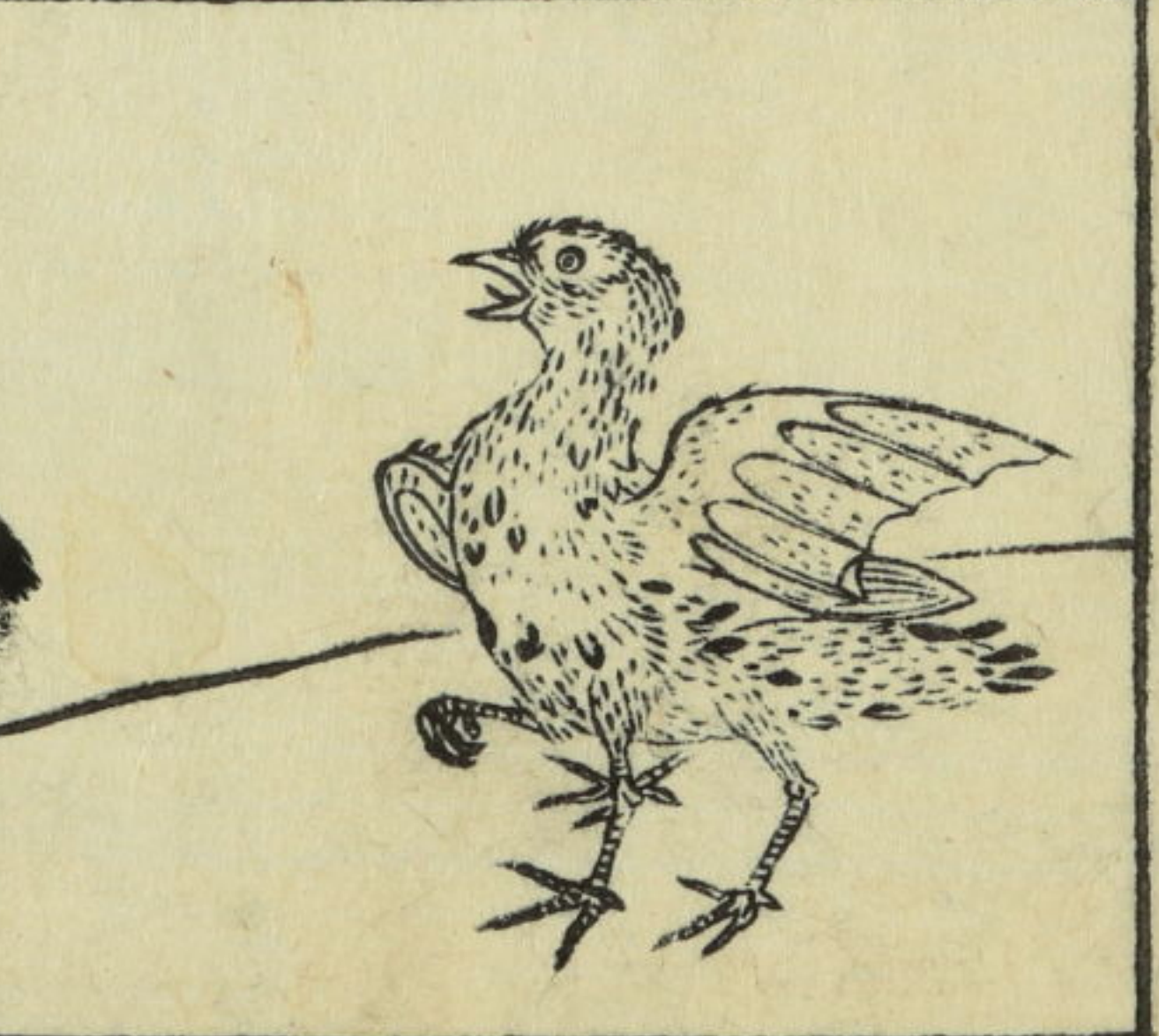
鷓鴣

鬼車鳥
天陰
刀車の
係
い
人の魂
と收び
物のみ
満
昭
呼



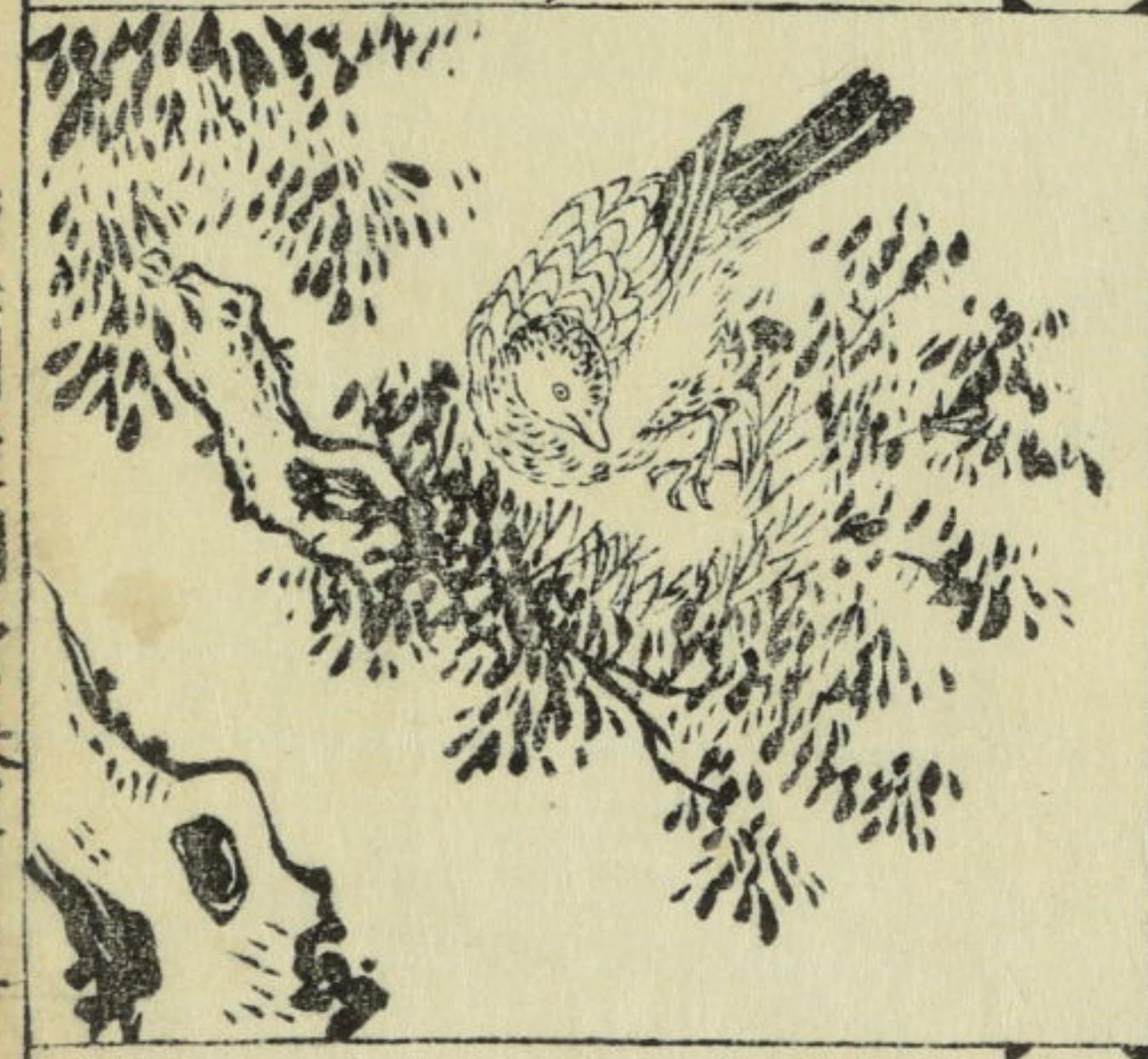
寒號虫

寒號虫
の如
肉翅
月毛
自ら
も
久
毛
且



治鳥

大さ鳩の如
多色
穿て
く大
体
聖
同
先
あ



石燕

石燕
乳穴
の中
状
他
石
わ



唐詩苑圖卷十三

芸窓日記永く讀耕の供に書冊を枕して宰予と學ぶ
 とくは忽ち客あり桑樞と啓て入る寒暄畢て後札上の冊
 稿と標て閱る禽部より一巻と掩て嘆一且怪して日
 今此圖の如きものありお人論ありて未だ猶もあつもの多し
 多しと云ふ多しと云ふ亦彼大鵬のこゝに北周既して存後
 王所探て圖に今も載りて遺忘しと云ふありと云ふや
 將疑しと云ふと闕る請う其後と問んと云ふ佛徒と云
 曰く否何必大鵬と云ふや夫鸞鳥族の禽也靈秀あり
 して聖代よ出て岐山をかく壁人の中に聖賢を云ふと
 大鵬の禽中の怪物也海に出る九天と遠く程人中あり
 身壯老ると云ふ一説皆去誕荒唐なり故に今春を
 屏り疑ふと闕る惟々の質の知やなくして未だ圖を云ふ
 ともとの世の希有にして圖に記地と云ふてありと云ふ
 是も亦格物窮理の一助なりとの況又王所も知く
 圖すれと云ふは説も亦軒渠すしと云ふと云ふと云ふ
 也と云ふと云ふと云ふ予復書と云ふて日の函すると云ふと不知

鹿野

此畜を信うて礼に應はる
 の額赤き目五の蹄仁と合はる
 と懐き音鐘呂一中を行規知りあり



龍馬

馬八尺以上と龍の昔伏羲の附り
 黄河より流るゆき背は旋毛あり
 一より四にのり伏義ありて八卦と畫し
 とまふいまの向圖ありと云ふ



白澤

東望山は沢
 獸の能言語
 王者徳幽遠と
 照は時八至る
 昔帝巡狩
 東海に玉の時
 此獸言語

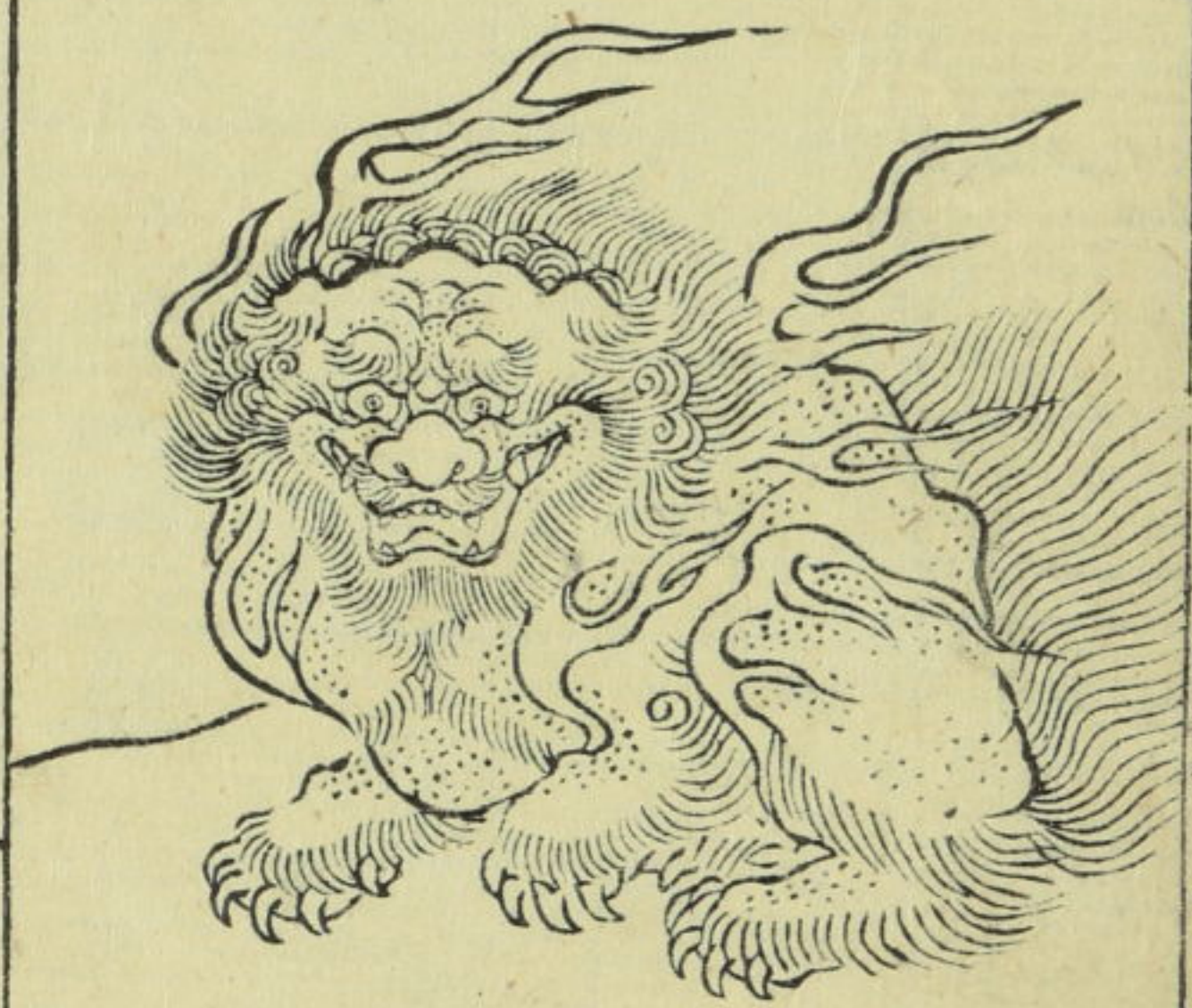
果然

化獸也後より
 大に体三丈
 すは鼻孔
 天にひし面
 時八木上を
 尾は七尺と
 毛長く
 柔く白黒文
 天子衣衣十
 二章ありと
 宗彙これ



金猊

形獅と似て
その性火烟
とこのひ故
香炉の蓋
乃上より
世に排子乃
香炉と云ふ
わきまあり
猊なり



類

状ハ釋の
髪あり
牝牡と云
是と云ら
へんは
姑まだ



三角獸

西凸山イ
三角獸
すれし
瑞獸なり
先王法度
脩明なる
時



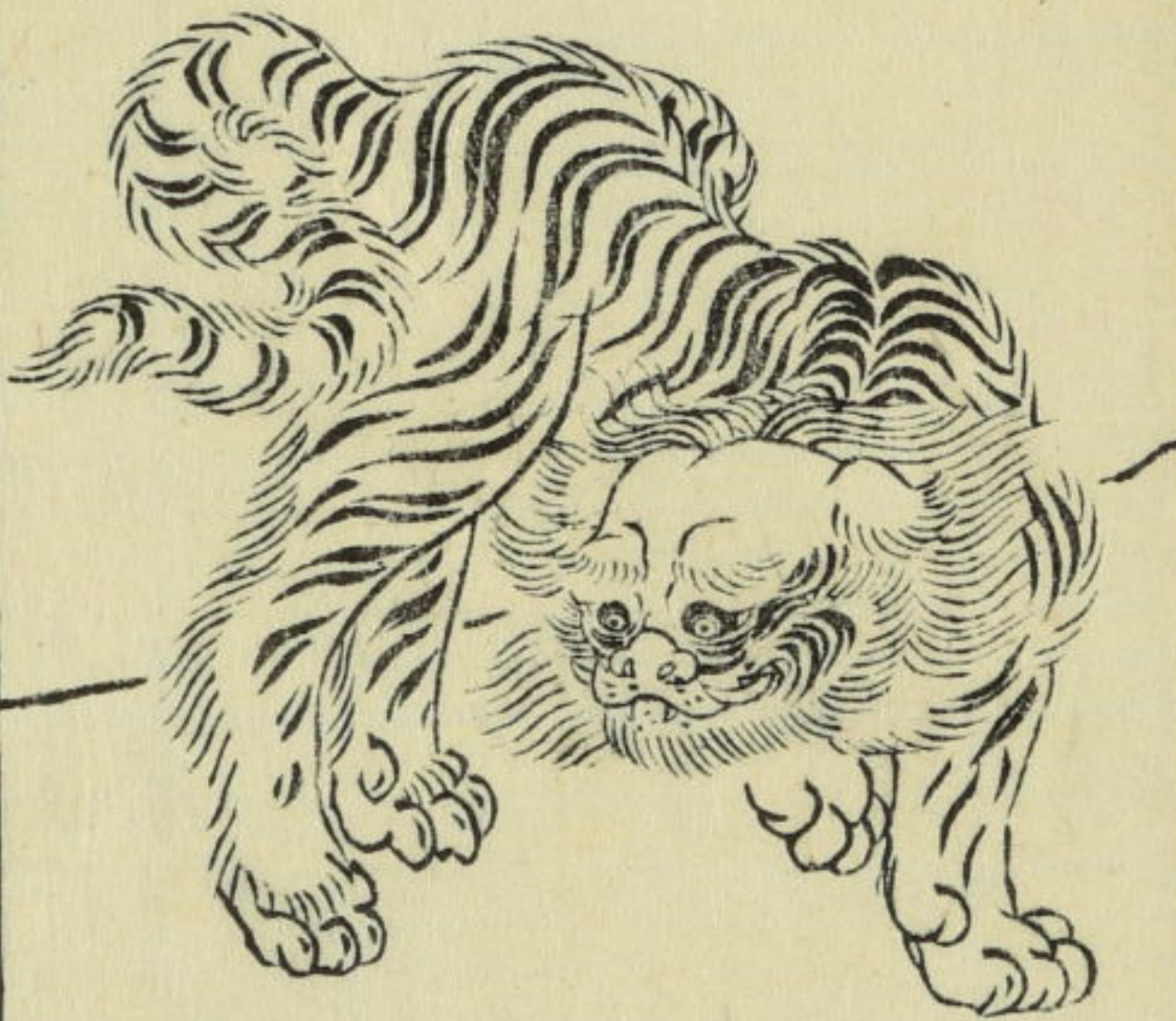
角端獸

東山は角
獸あり瑞物
なり六合天
下同一く太
平あれん
わんをえ
のつらと
いなり



擣杓

獸の至て
悪者し爾
と好ん死
云々は状ハ
虎の毛
の長三尺面
虎爪日天
八尺人と食



豹

豹の類
猛獸なり
國よ此詩
經曰獻其
皮陸機曰
豹ハ虎より
或ハ能ハ
なり



羆

虎の屬
立秋の目
獸と云ふ
柳文曰羆
ハ虎と云
虎ハ羆を
畏ふと云
と云ふ



赤豹

眷山は
虎と云ふ
宋あり毛
赤し毛詩
宣王の詩
赤豹黃
鬣



唐土記家國景卷十一

ナ

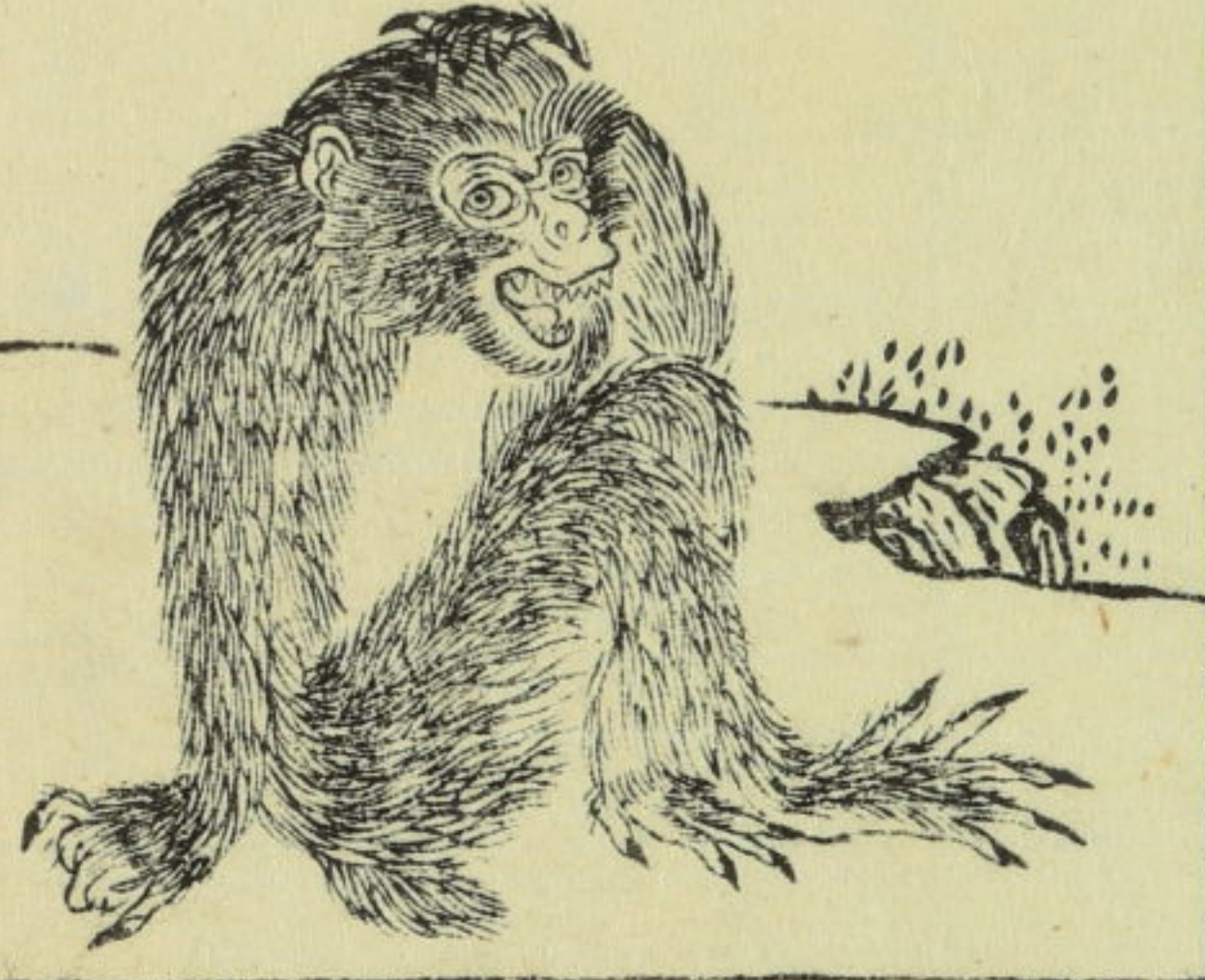
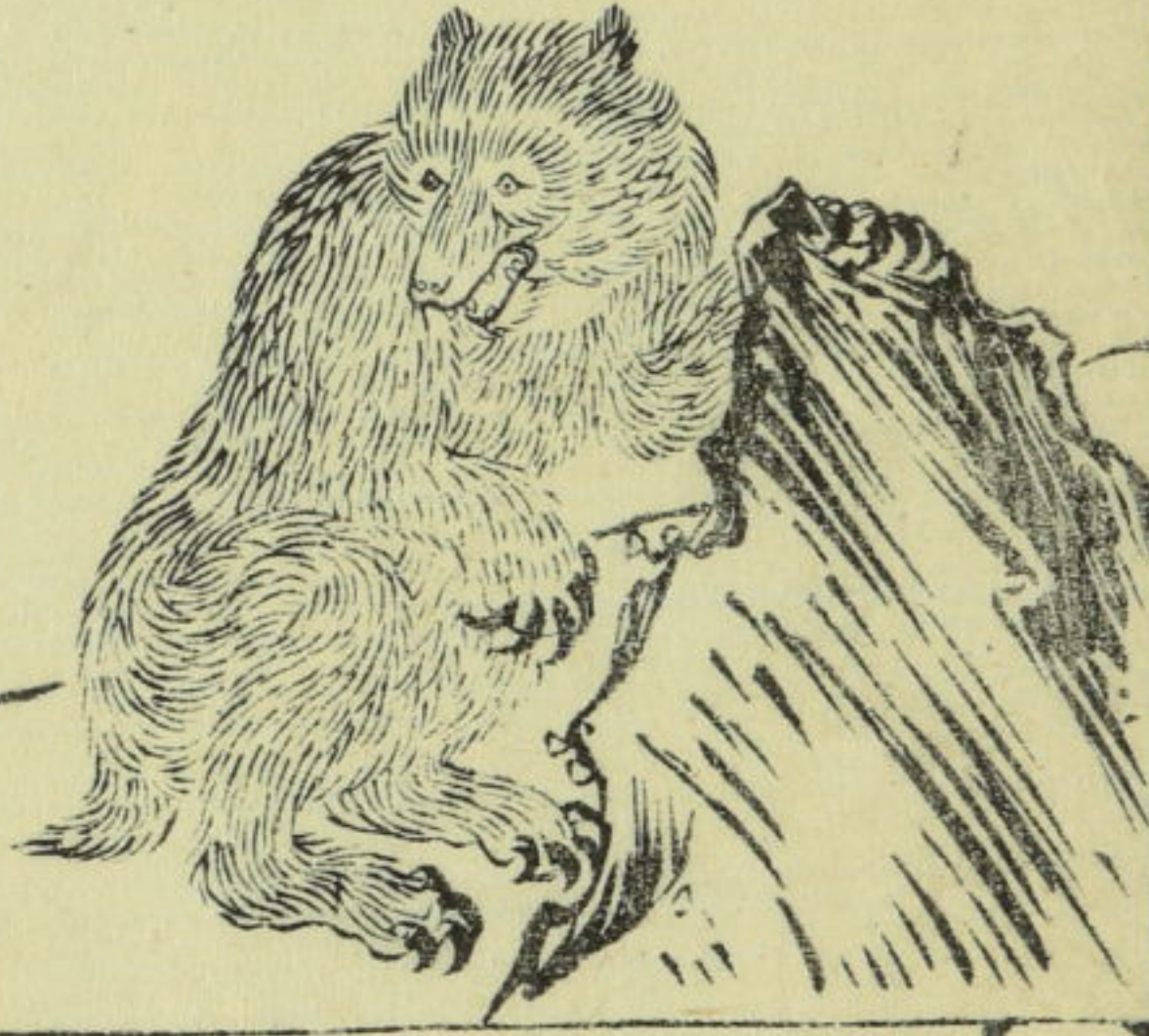
四能いぬ

狀くま 狀くま 狀くま 狀くま
白文あは 白文あは 白文あは 白文あは
頭あは 頭あは 頭あは 頭あは
脚あは 脚あは 脚あは 脚あは
性あは 性あは 性あは 性あは
加あは 加あは 加あは 加あは
人のあは 人のあは 人のあは 人のあは
と

害あは

獲あは

色あは 色あは 色あは 色あは
能あは 能あは 能あは 能あは
持あは 持あは 持あは 持あは
人のあは 人のあは 人のあは 人のあは
てあは てあは てあは てあは
或あは 或あは 或あは 或あは
歳あは 歳あは 歳あは 歳あは
考あは 考あは 考あは 考あは



猯あは

狀あは 狀あは 狀あは 狀あは
身あは 身あは 身あは 身あは
毛あは 毛あは 毛あは 毛あは
好あは 好あは 好あは 好あは
又あは 又あは 又あは 又あは
すあは すあは すあは すあは
せあは せあは せあは せあは
と

獬あは

後あは 後あは 後あは 後あは
尾あは 尾あは 尾あは 尾あは
腰あは 腰あは 腰あは 腰あは
のあは のあは のあは のあは
とあは とあは とあは とあは
握あは 握あは 握あは 握あは
乃あは 乃あは 乃あは 乃あは
捷あは 捷あは 捷あは 捷あは
乃あは 乃あは 乃あは 乃あは



野あは

狀あは 狀あは 狀あは 狀あは
類あは 類あは 類あは 類あは
正あは 正あは 正あは 正あは
人あは 人あは 人あは 人あは
髪あは 髪あは 髪あは 髪あは
俗あは 俗あは 俗あは 俗あは
而あは 而あは 而あは 而あは
りあは りあは りあは りあは
らあは らあは らあは らあは
いあは いあは いあは いあは

獨あは

形あは 形あは 形あは 形あは
てあは てあは てあは てあは
とあは とあは とあは とあは
相あは 相あは 相あは 相あは
接あは 接あは 接あは 接あは
してあは してあは してあは してあは
とあは とあは とあは とあは
獨あは 獨あは 獨あは 獨あは



蒙あは

狀あは 狀あは 狀あは 狀あは
小あは 小あは 小あは 小あは
所あは 所あは 所あは 所あは
とあは とあは とあは とあは
交あは 交あは 交あは 交あは
とあは とあは とあは とあは
とあは とあは とあは とあは
とあは とあは とあは とあは
とあは とあは とあは とあは

羆あは

狀あは 狀あは 狀あは 狀あは
小あは 小あは 小あは 小あは
兒あは 兒あは 兒あは 兒あは
赤あは 赤あは 赤あは 赤あは
身あは 身あは 身あは 身あは
長あは 長あは 長あは 長あは
とあは とあは とあは とあは
とあは とあは とあは とあは
とあは とあは とあは とあは



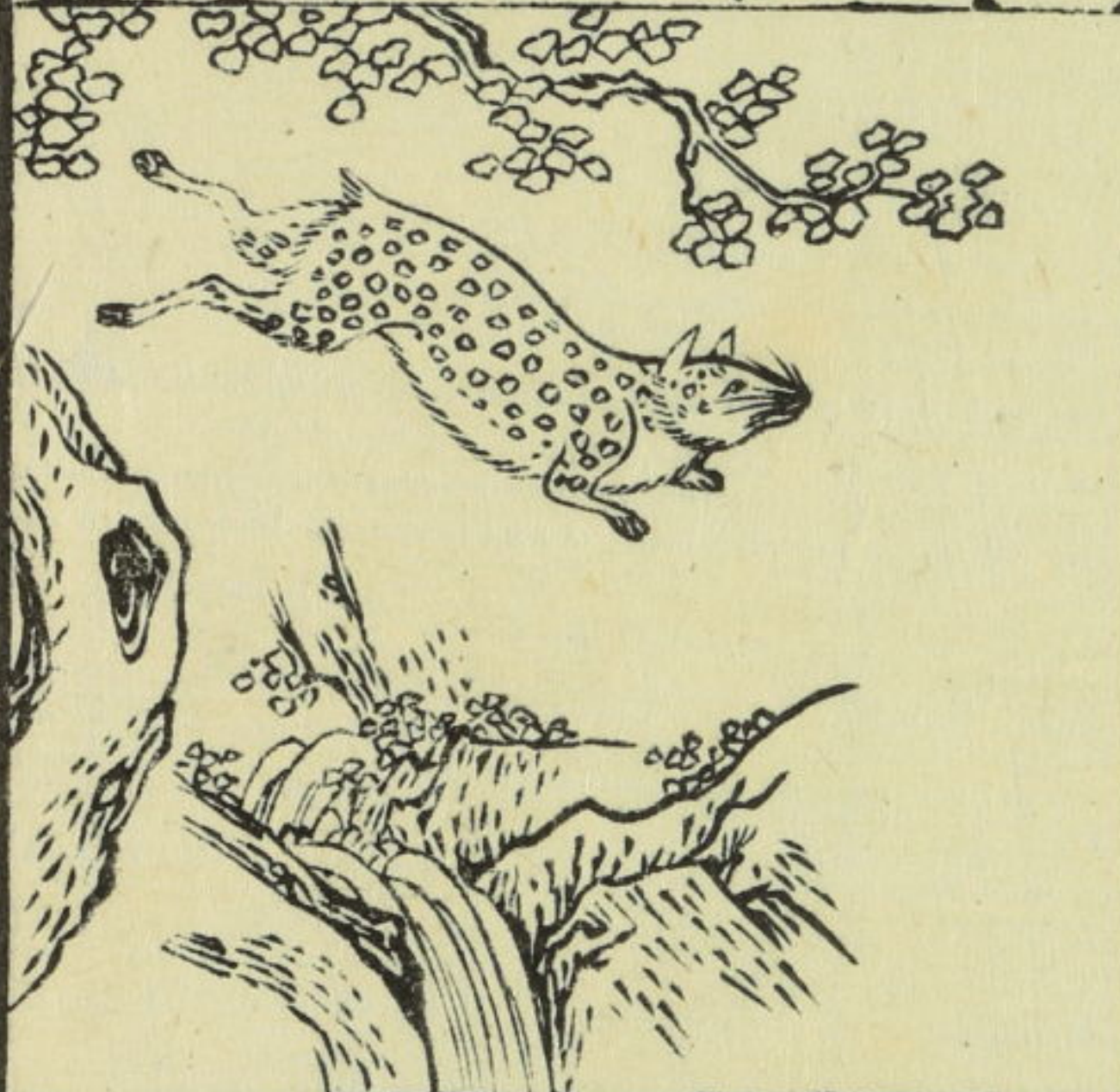
赤狸

西海あり
周文王乃
姜里子囚
散宜生を
と獄して
逐て西伯
の難と
まねる



風狸

風狸は
のくまを
まはる色
一風伏て
樹より本
うつと能
るのくま
をくま
風とくま
れく活る
人定中一
くま



乘黄

西海の外
白
民國あり
自身髪と
被り状狐
の角其背
上角あり
これ乗
壽二千歳



玄狐

玄狐は
法新あり
穆天子是
と得て河
すつ周礼
と辨海と
らゆと能
死此地氣
とくま
といつ



天狗

陰山は獸
あり狀狸
のくま
蛇と合
其音猫
野と色
佩と山
と禦へ



狡

玉山は獸
犬の狀
新の文牛
乃角あり
犬の形
は目と
あつと
天と



新

胡大は狐
似て小
思くあり
新の故
干杆意
君子皮
未家つ
ちりお



黒狐

北山は
あり神
王者能
平と致
は獸わ
四夷来
周の成
時いつ



麋

麋草の類に
うく木に上る
虎の如きと
必吃て鹿は
若ておしむ
麋草より毛
長く足物の
なり



挑抜

鹿子似く
尾長く角
ひらわり
えんと天禄
とに西角
かんのものと
辟邪とに
一名扶拔



茶百札

その状鹿子
似ておれ
よく毒草
とららよ
又一種ハ状
鹿子似お
後上野あり
一類ハ合し
一類ハ中
とららよ
矢と薬に



麋

鹿子似て大
なり其尾ハ
麋と辟く
茜帛を
中に巻え
歳一とて
も赤色と
黠とらら
といふ



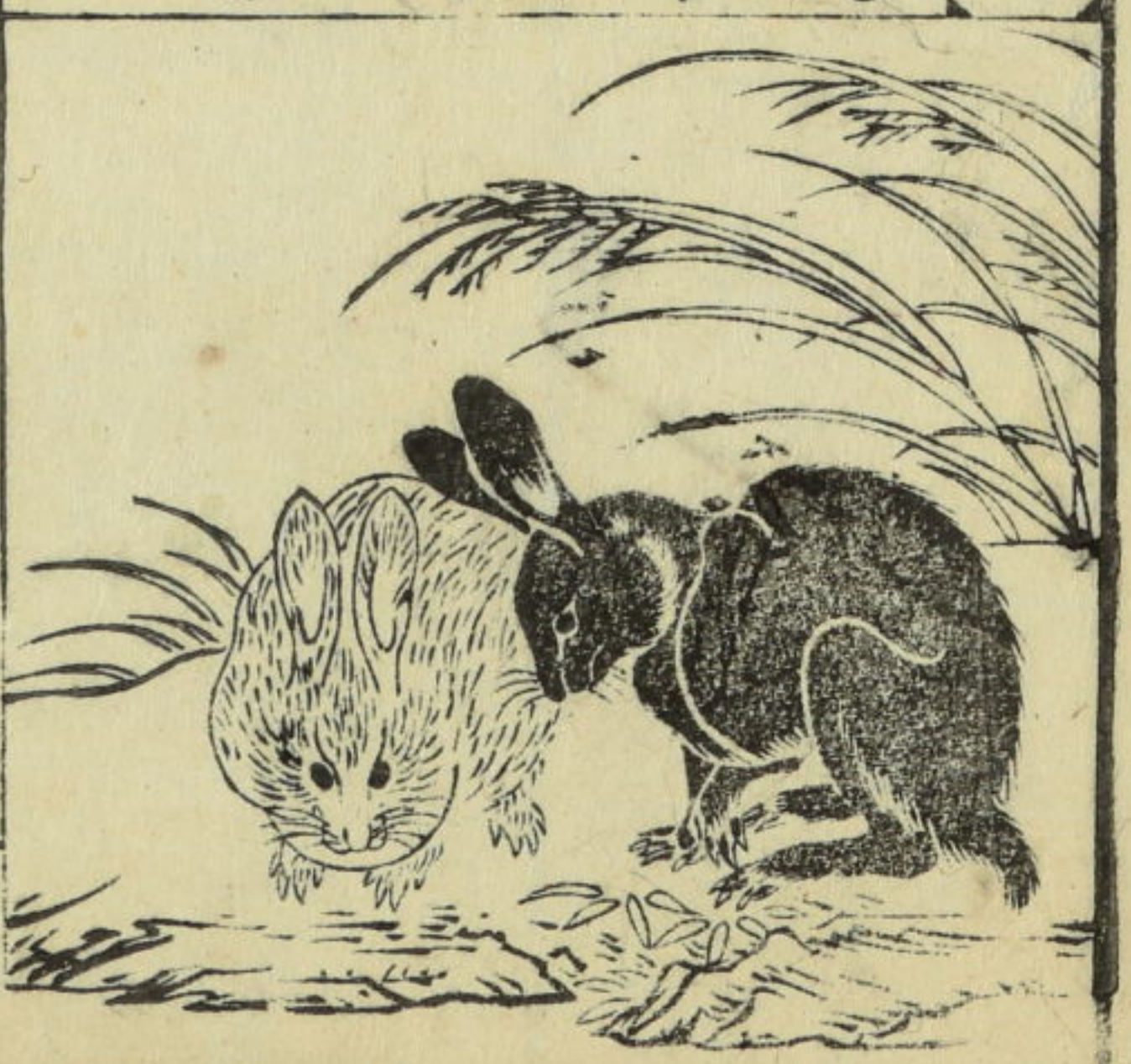
比肩獸

西方此獸
なり其狀
鼠に似て
後ハ兎に
一名ハ
恐
癩



狡兎

狀兎の如
雄ハ黄雌
銅鉄とく
ら昔呉王
の武庫の兵
器とらら
是とらら
後中野
は誤なり
といふ



隱鼠

大さ半の
くく飛ハ
鼠に似く
脚ハ鼠に
似て蹄を
踏くと毛は
灰毛絨
お尾上白
色にカ
てらら



碩鼠

飛ハ兎に
似て眼お
く夏を
毛は赤色
して冬を
白く色
とりて脚ハ
夏も向
和名
あらうさ



天馬

馬成山ノ
獸あり狀
白犬の如
みて然ハ
人々之ヲ
とて心北
ハ獸とモ
豊穰ニ



猛狗

南山ノ獸ニ
熊子似テ毛
彩光澤
あり
銅孩
ハ



矮爬狗

番國ノ
いハ
ハ似
ク身
尾
長
一
馬
哈
吠



木狗

獸物ノ如
ク
ノ
皮
ハ
氣



復犬

天門山ノ
あり天物ノ
生
十
風
雷
電
び



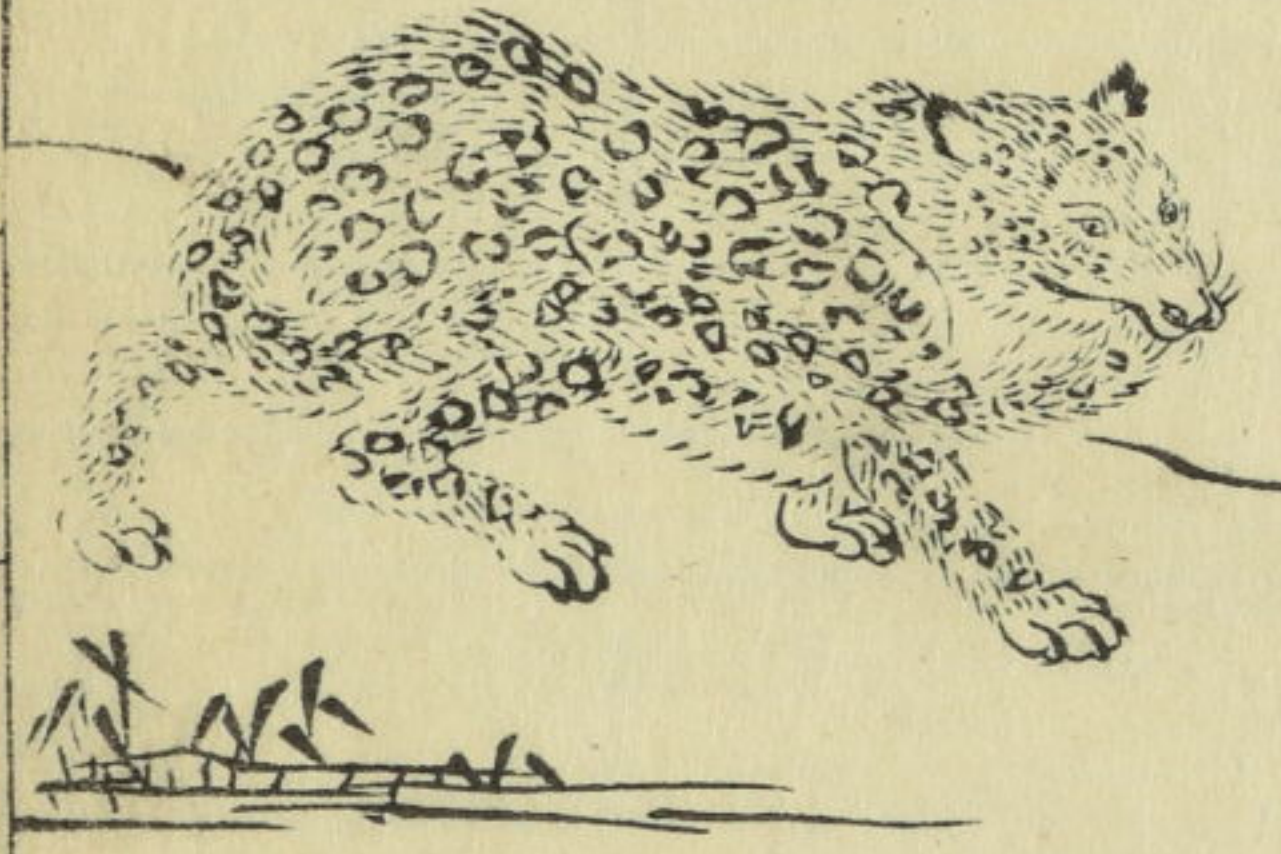
當庚

欽山中
獸あり狀
豚乃
其鳴
自
天
穰



諸捷

單張山
あり狀豹
のめ
鼻牛
目直
と
少



羆

狀ハ
白首
白尾
大
風



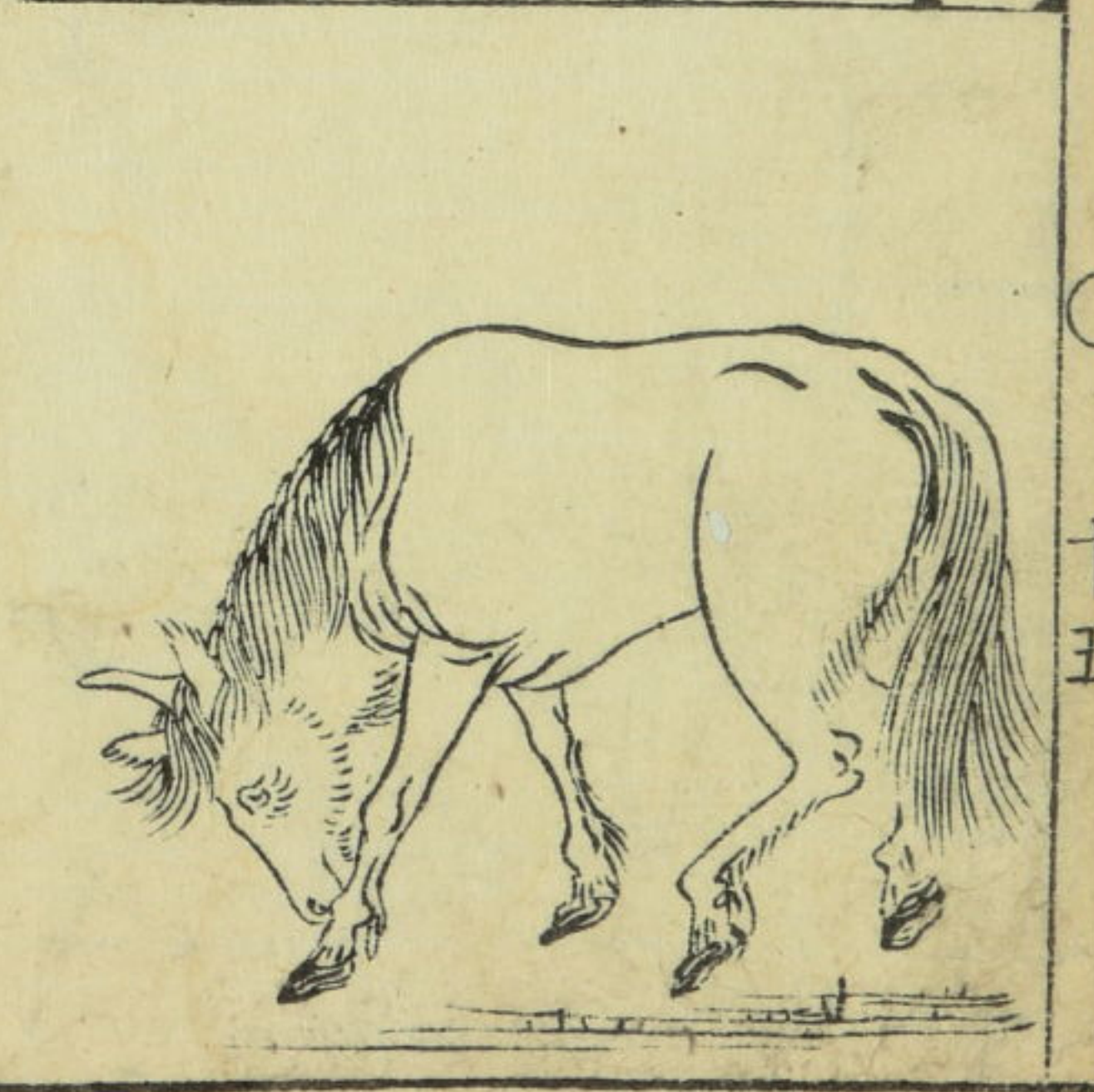
猛棍

譙明の山
一獸あり
狀類
毫あり
鼯鼠
赤



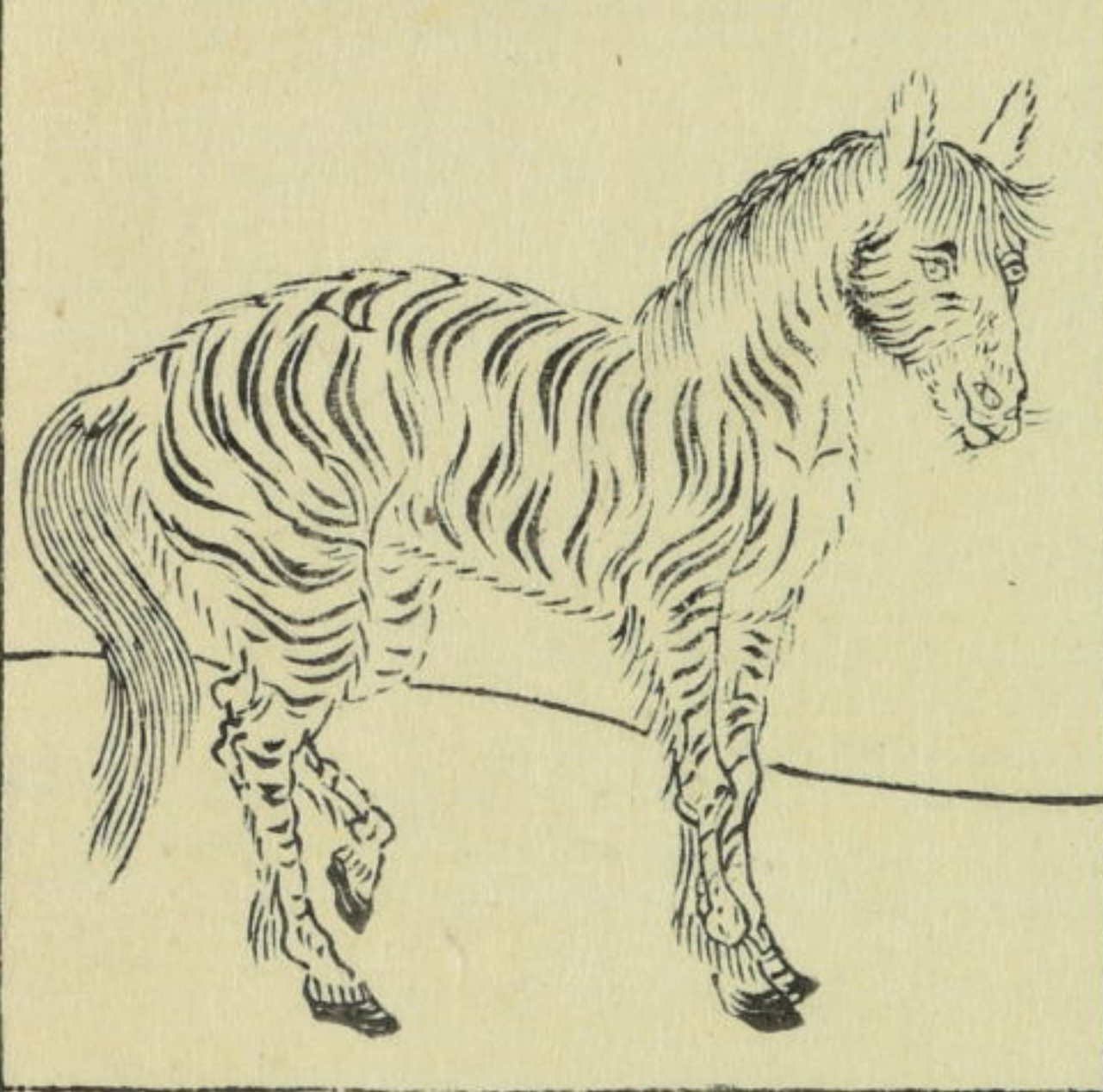
腫疎

一獸あり
馬首
角あり
以て
石と
錯へし



鹿蜀

扭陽の獸
あり
狀馬の
白首
尾赤く
人此皮
移り
孫あり



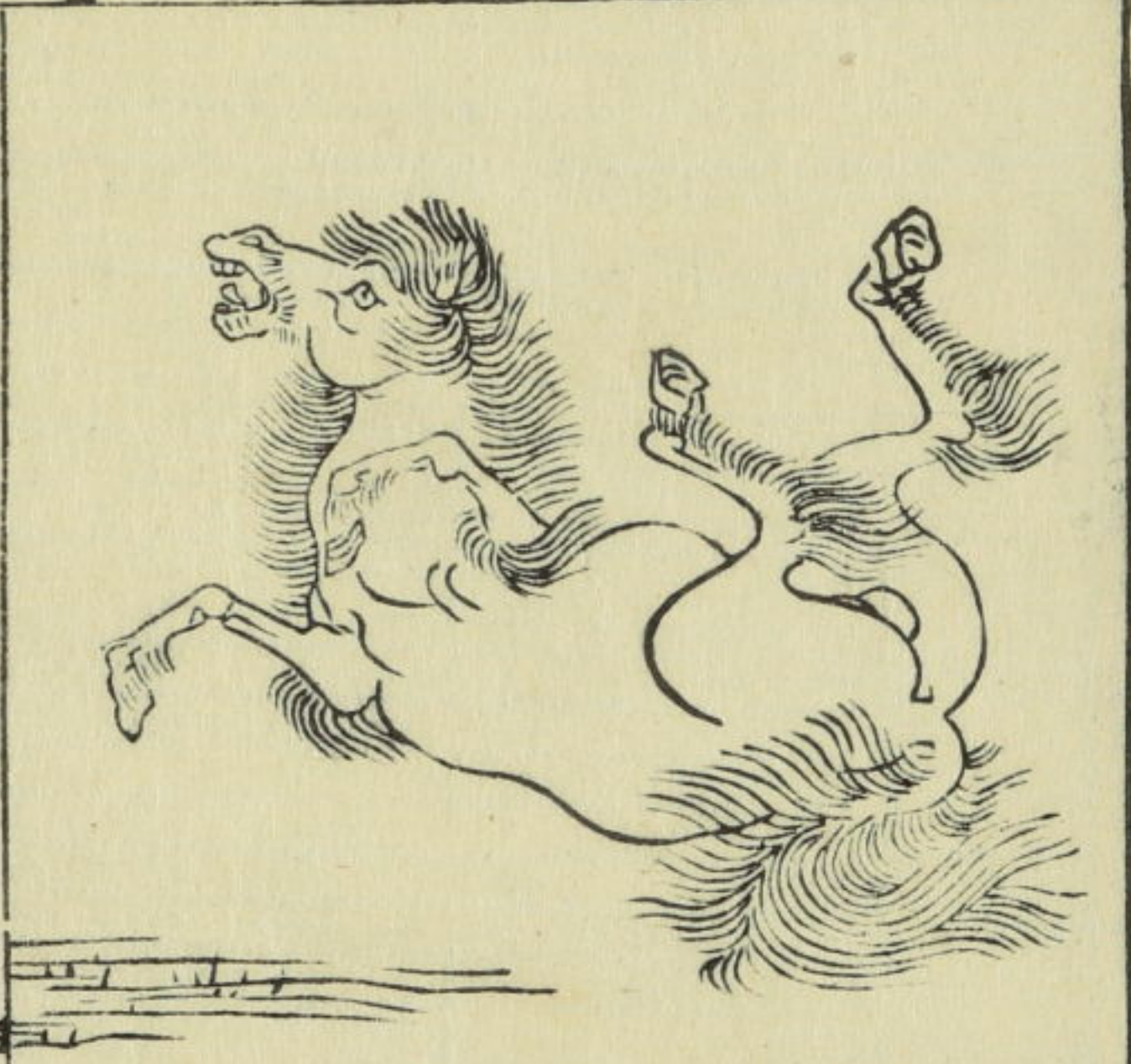
駮

馬より
あつら
舊中
産す
乃奇
畜あり



旄馬

南海の外
あり
狀馬
の形
あり



山驢

強れ
角ハ
但於
や大



果下馬

此の馬
極て小
のり
果と
和名
トサゴ



海驢

狀野の如
秋月
のり
皮ハ
て馬具
和名
トド



唐土訓蒙圖彙卷之十四

名下
和名と珣

魚介蟲

以於の魚鱗甲類州虫のこらひ
のせと乃あはるりぬ

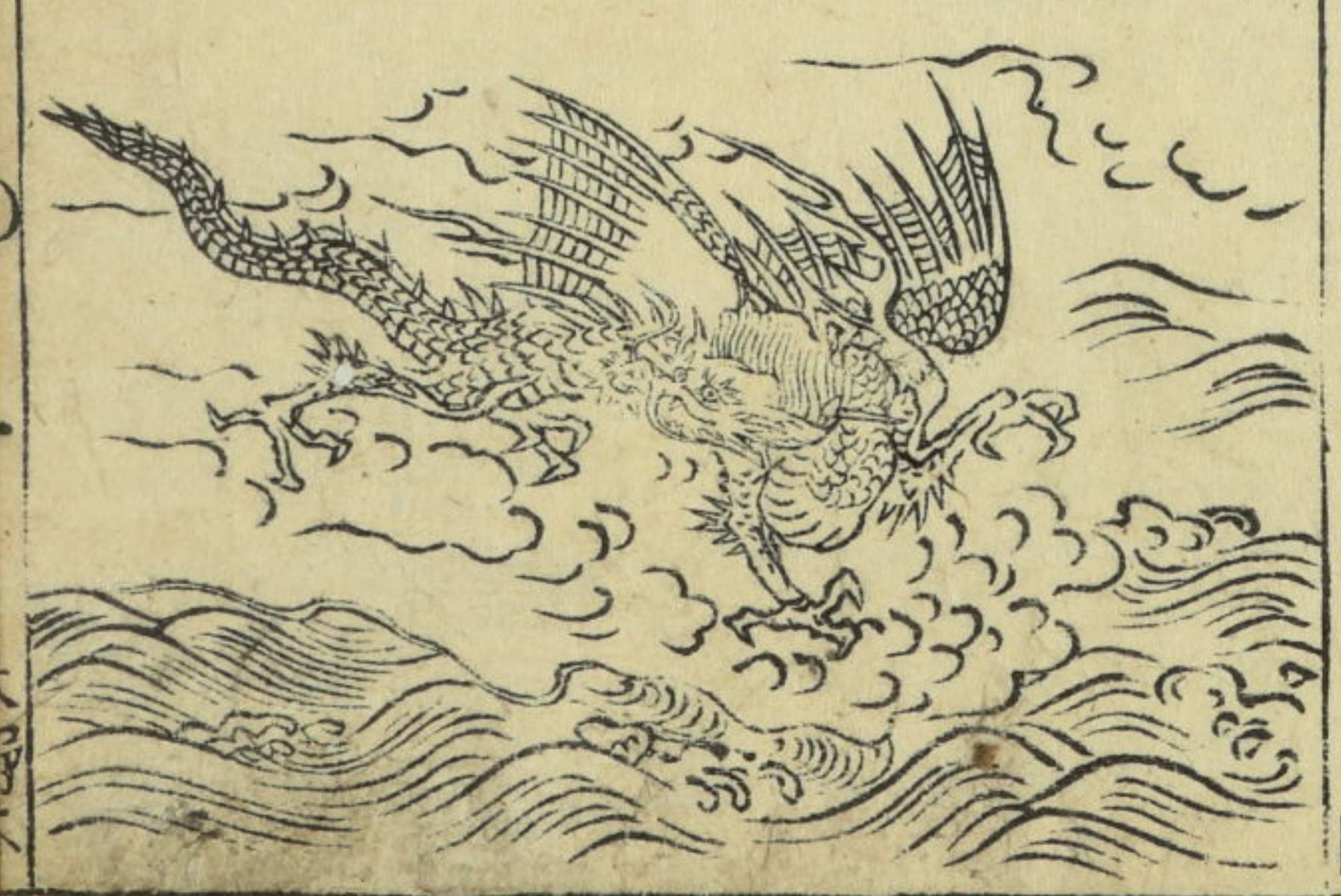
屋

その形蛇に似て大角ありて鱗の状のこらひ鬣ありて後以下鱗のこらひ逆ふよりと氣と呼吸橋臺城郭のこらひとあり是と屋樹又海市といふ



應龍

恭丘山の
意龍あり
翼あり
龍やむ
黄帝を
龍の野
御の
り



鼉龍

狀守之文
如ふして大
一二丈五色
背尾皆鱗
甲ありよく
旁とらたぬ
といふも
夕鼓の如く
夜更に應に

鹽竈龍

その長一丈
餘あり籬
は銀盤を以
し中王
乃盃を玉
ののちえ
垣と解り
ふつひ結
才より垣と
いふと
おさむ



斗牛

龍の類なり
甲は龍に似
て但し其角
灣り其爪
三つ形乳
筋は類し
陰雨に雲
霧を
なす

肥鱧

陽山の神
お身六足
四翼あら
く其肉ハ
其国大ニ
早にひり
湯の内ニ
あらし



騰蛇

蛇の類なり
雄の尾上ニ
多に雌も
風下につけ
こよく重
き方と云
子曰騰蛇遊霧
飛蛇乘雲雲龍
霧除與蛇同
失其所乘故也

斫木蛇

い蛇つゝ
樹上より
人といれ
跳て唾く
又樹より
て蛇とれ
人の哭
とて
ちさ搗衣
の

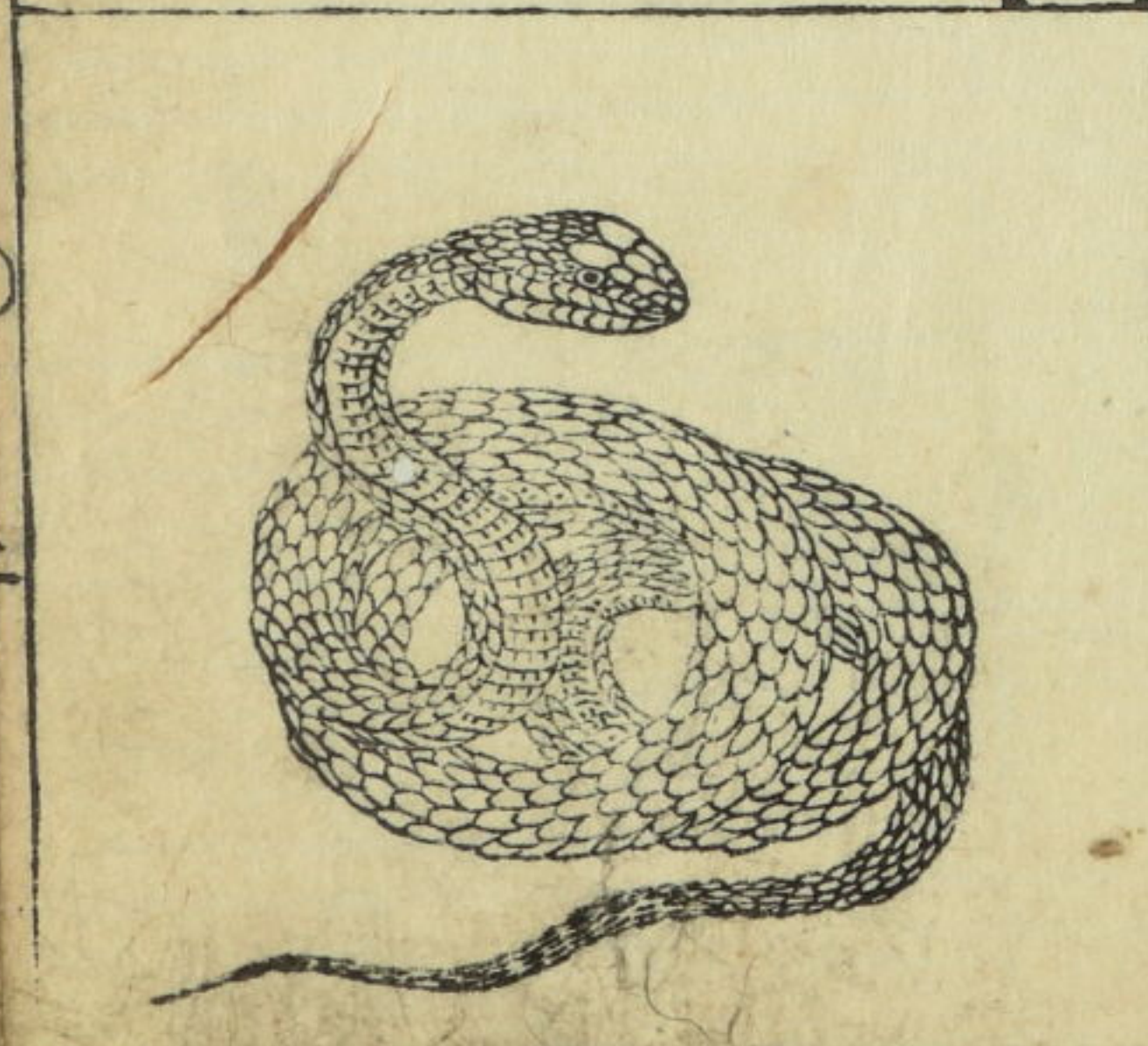


蟒蛇

その形大
く鹿馬
とのむ
湖文ありて
錦縵の
雷加の人
膽とて
貴し
一名南蛇

青蛇

屏山
蛇あり大山
のめ一才の
高百餘丈
目野獸
と捉
数



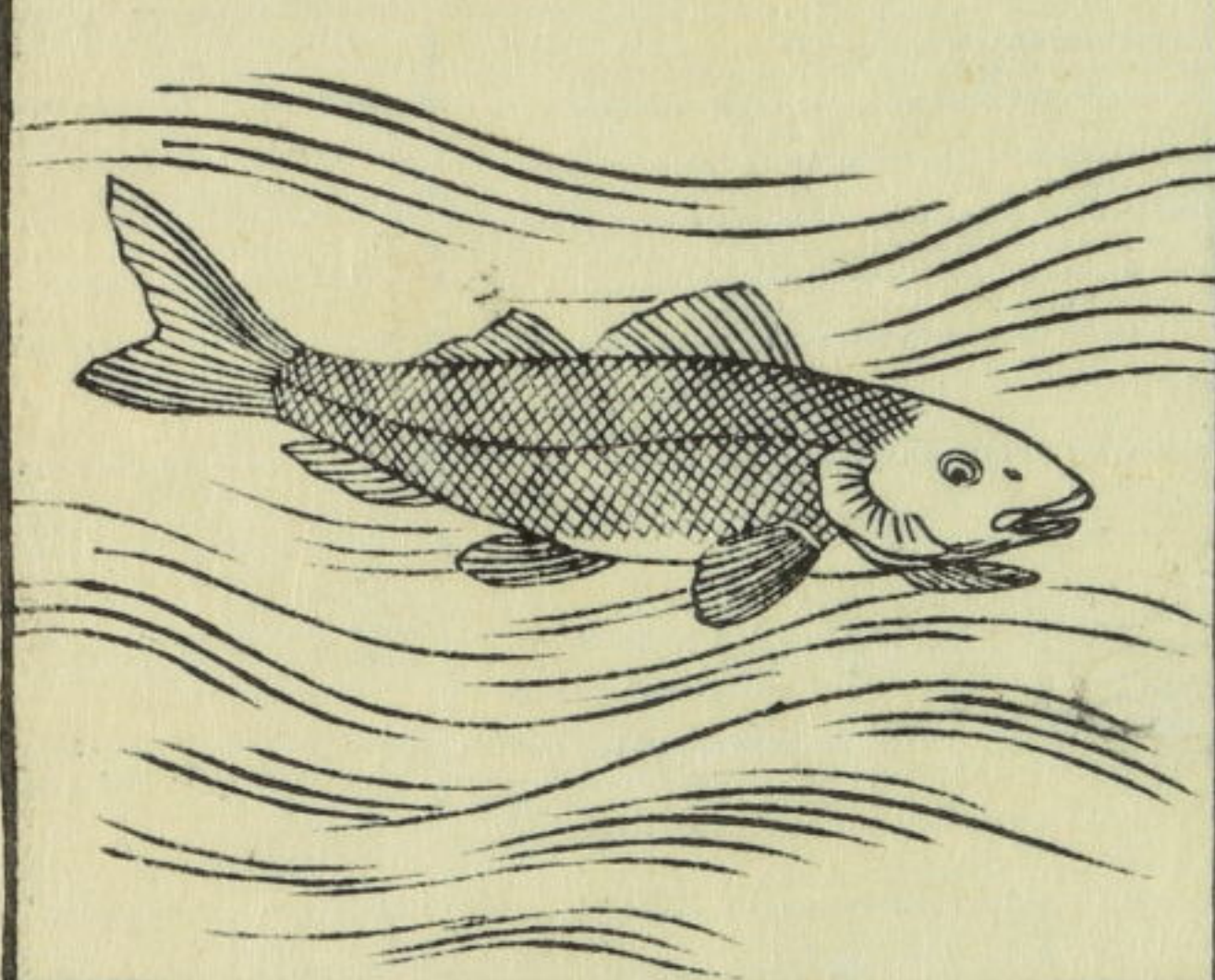
鯢 鮪

飛鯉より
似くは白
くは鮪と
いふ鮪の
こゝ後の
かりがし
江湖に
多



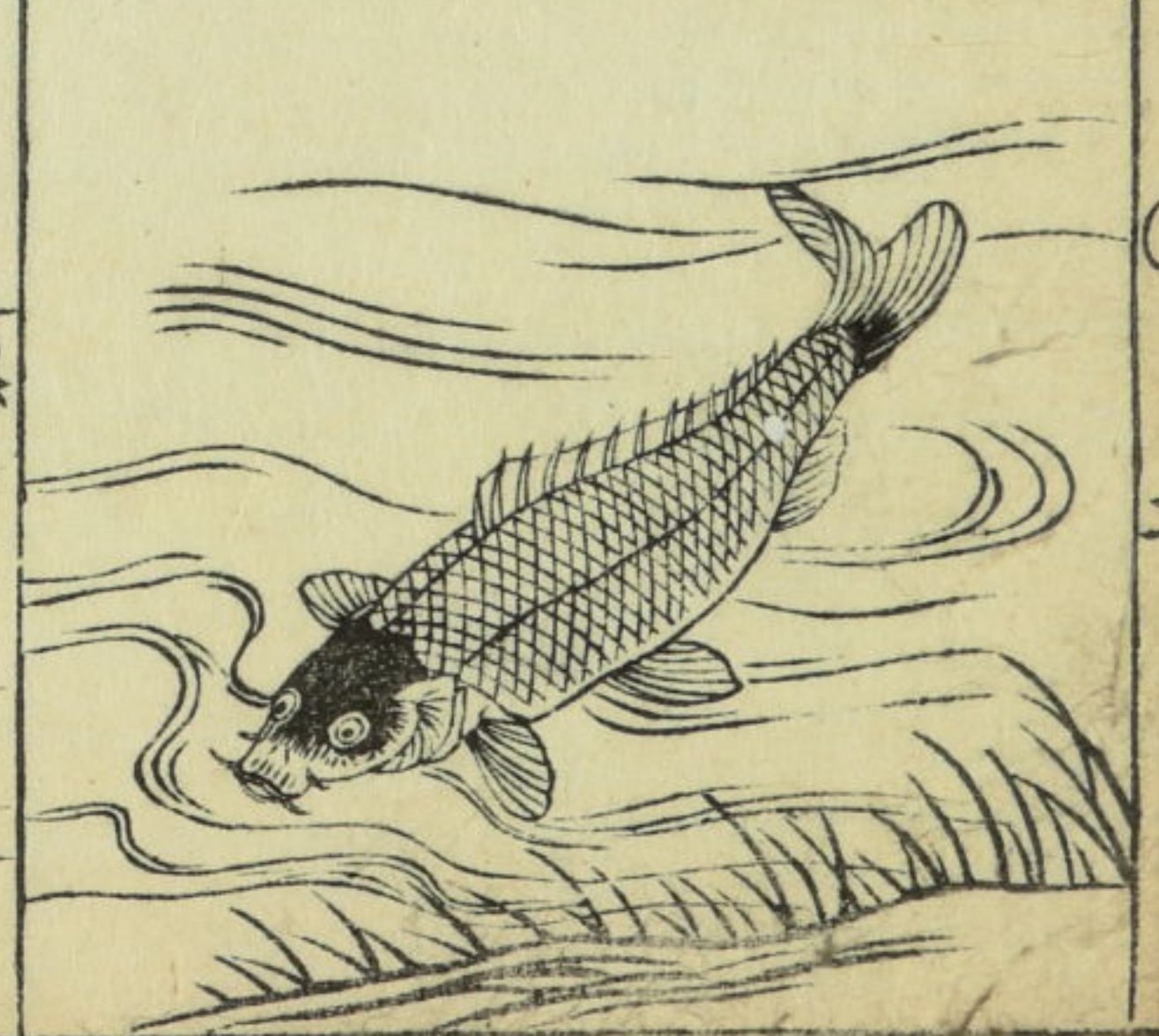
石斑魚

石斑魚
其狀白鱗
りて黒斑
虎のこゝ
若月鮪と
交つ此魚
水面より
人の字を
圓く記し
ふくみ



石鮪魚

溪涧の中
一生は長
けず背
裏後の下
わし鮪
とて合
一名山ハエ
山ブチハエ



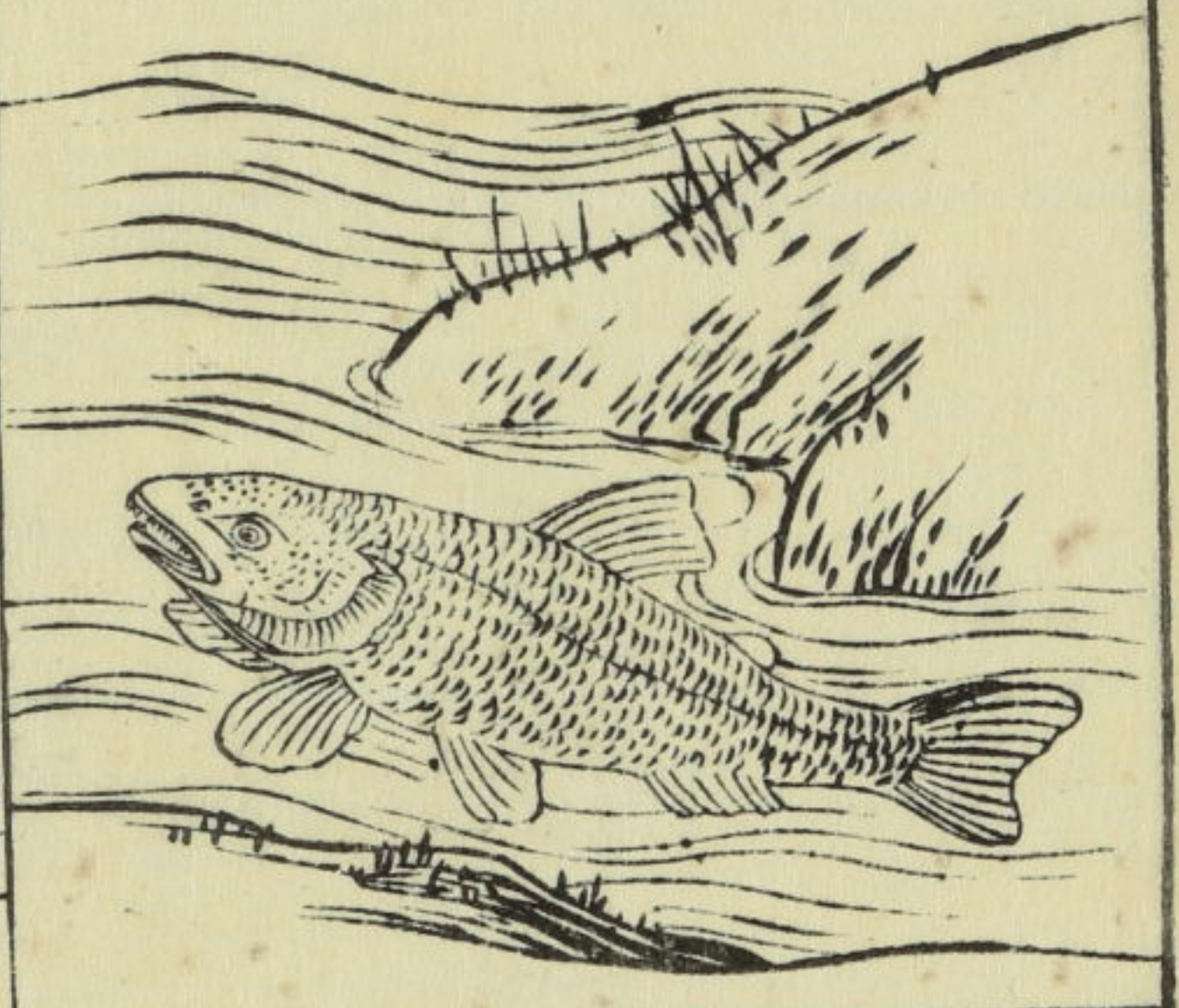
嘉加魚

鮪ハ鯉より
りて鮪と
鱗より紅
肉ふらふ
美なりい
魚丙穴より
出川南都
賦あり



騰魚

狀ハ鯉より
蒼
丈赤尾水
中の達
水豚
の属



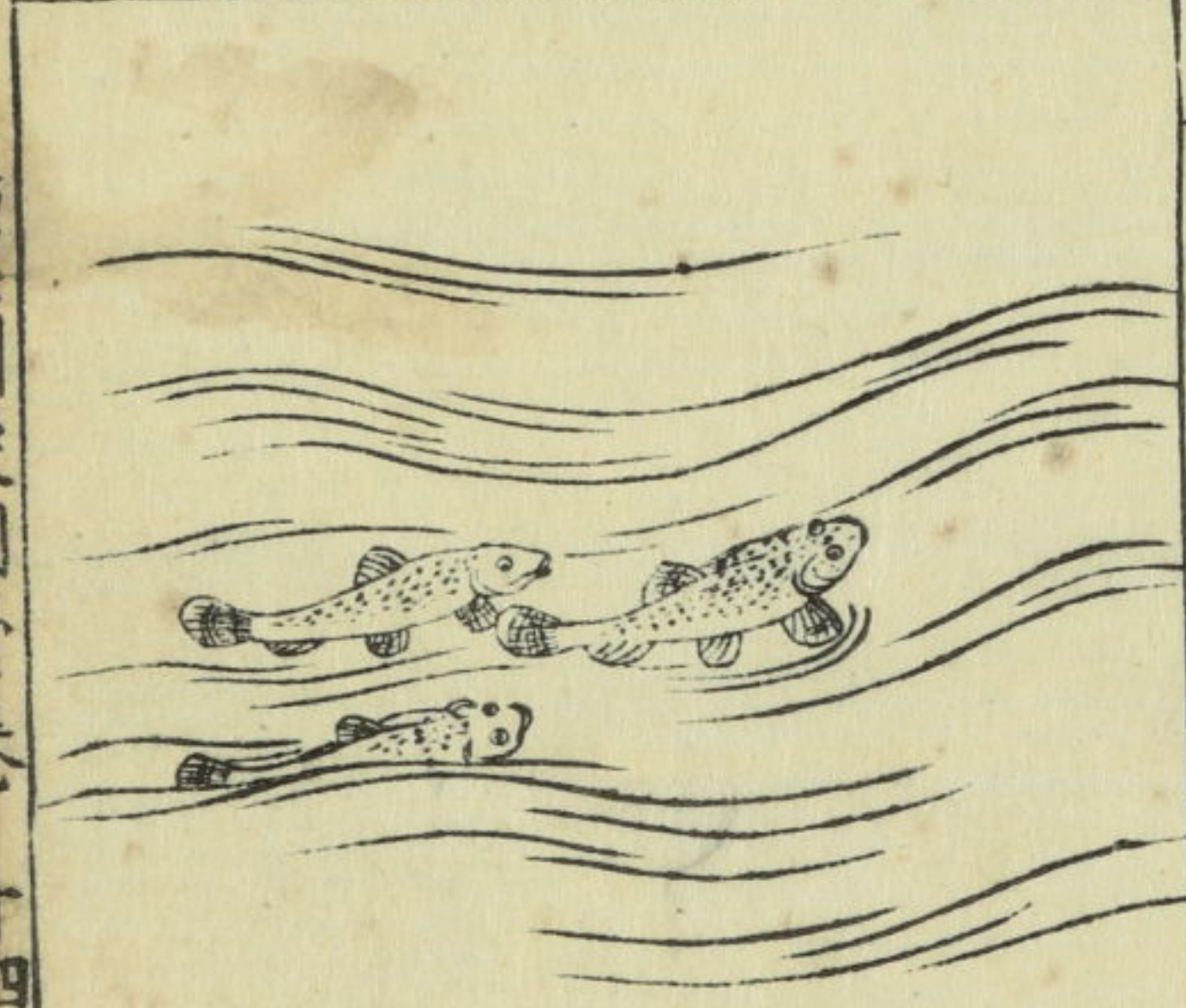
勒魚

狀鮪魚の
細鱗腹の
下硬刺
ありて人
を勒に
一名ハ
東南海中
四月



鱒魚

そのこゝら
海魚に似
まののり
小魚より
或ハ鮪
の苗より
とハ鮪
お種かり



鱒魚

其狀鮪に
似て長二
尺あまり
よりて肉
白
むし武
其の母
入一白魚
これかり

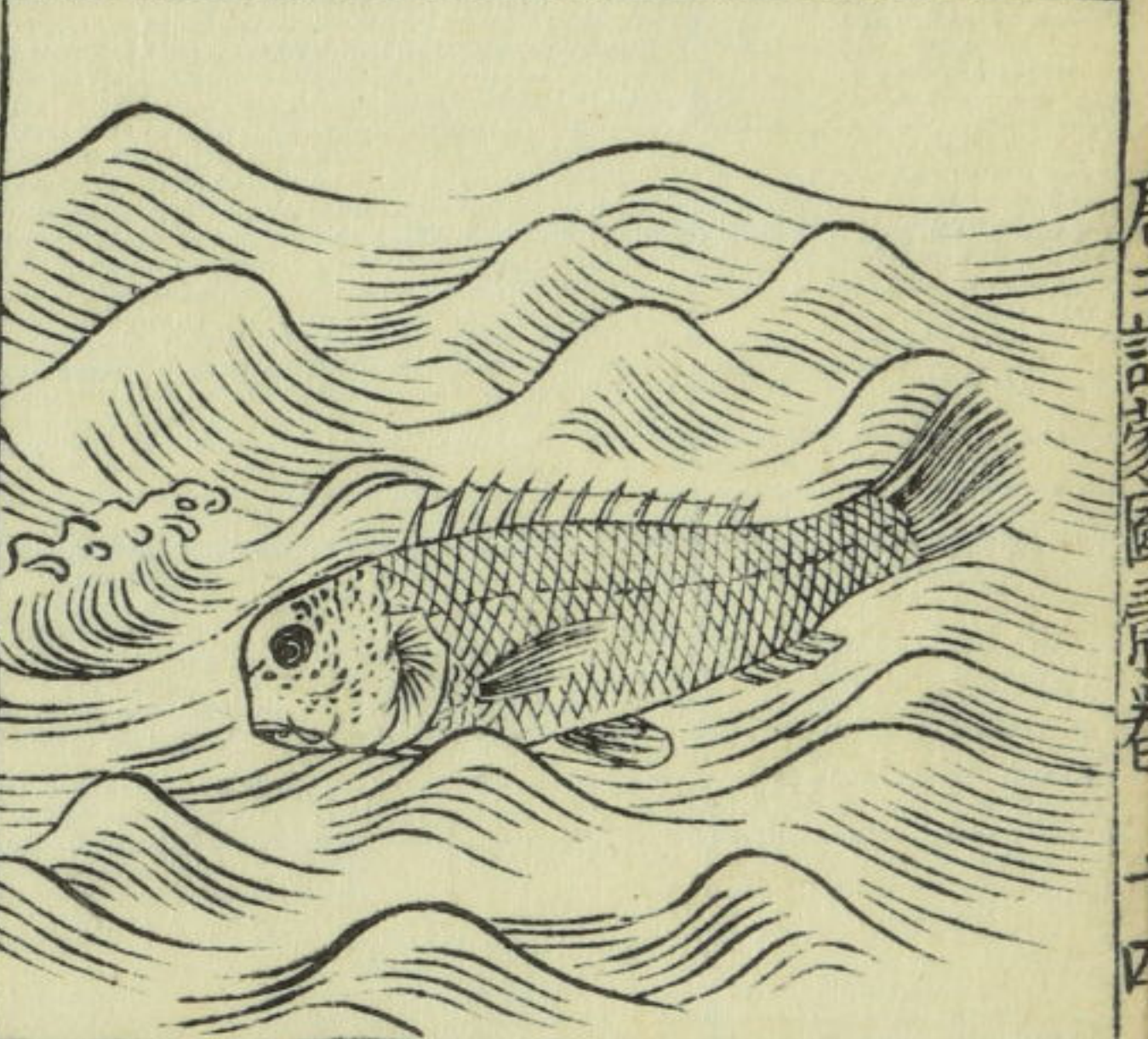


方頭魚

くまら合
線い似く
大なりひ
さいの骨
九一尾
に岐を
和名あま
とい

金線魚

魚れく
て細長く
とわら
頬の
り合線
て游泳
探刺時
系とよ

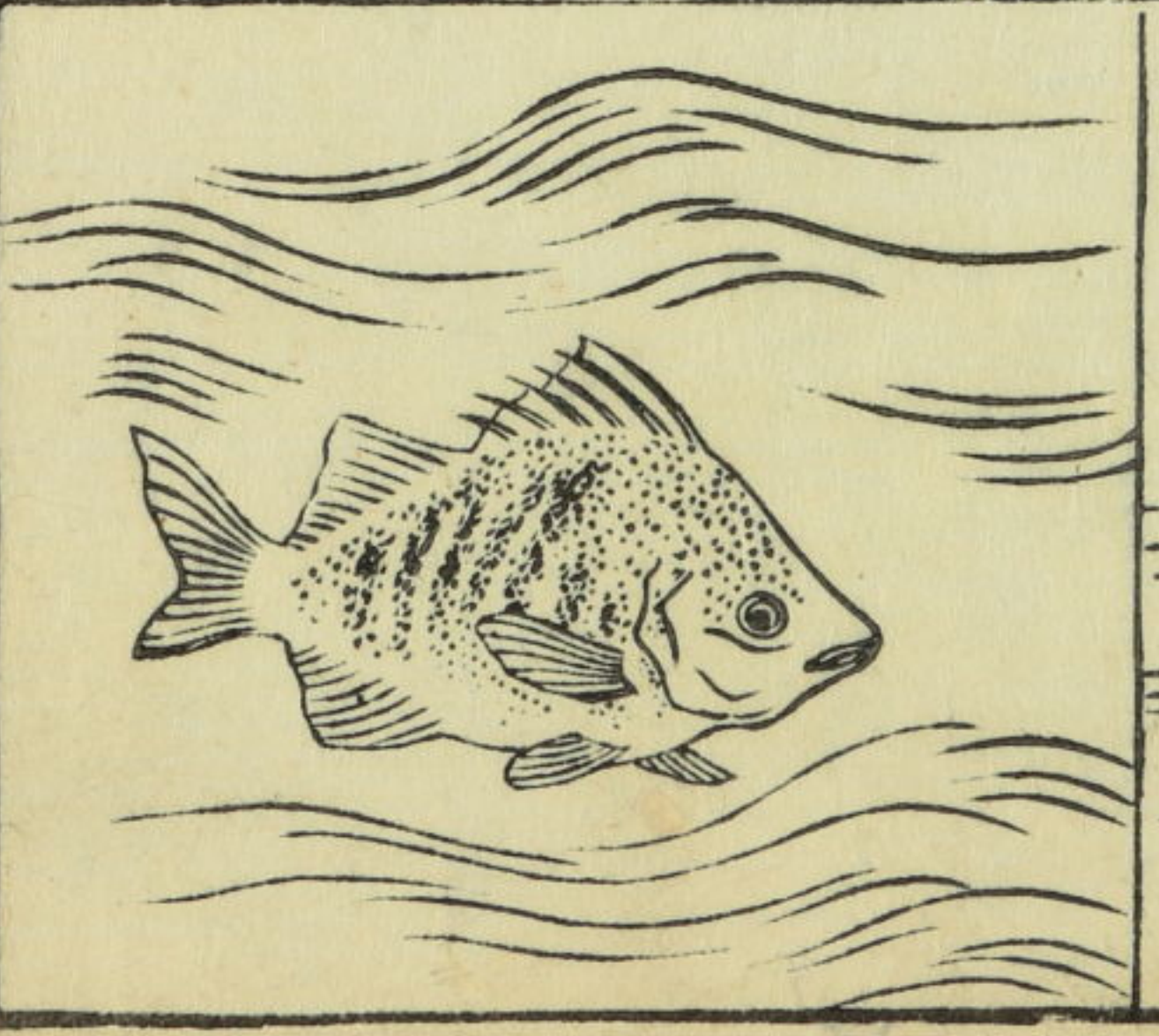
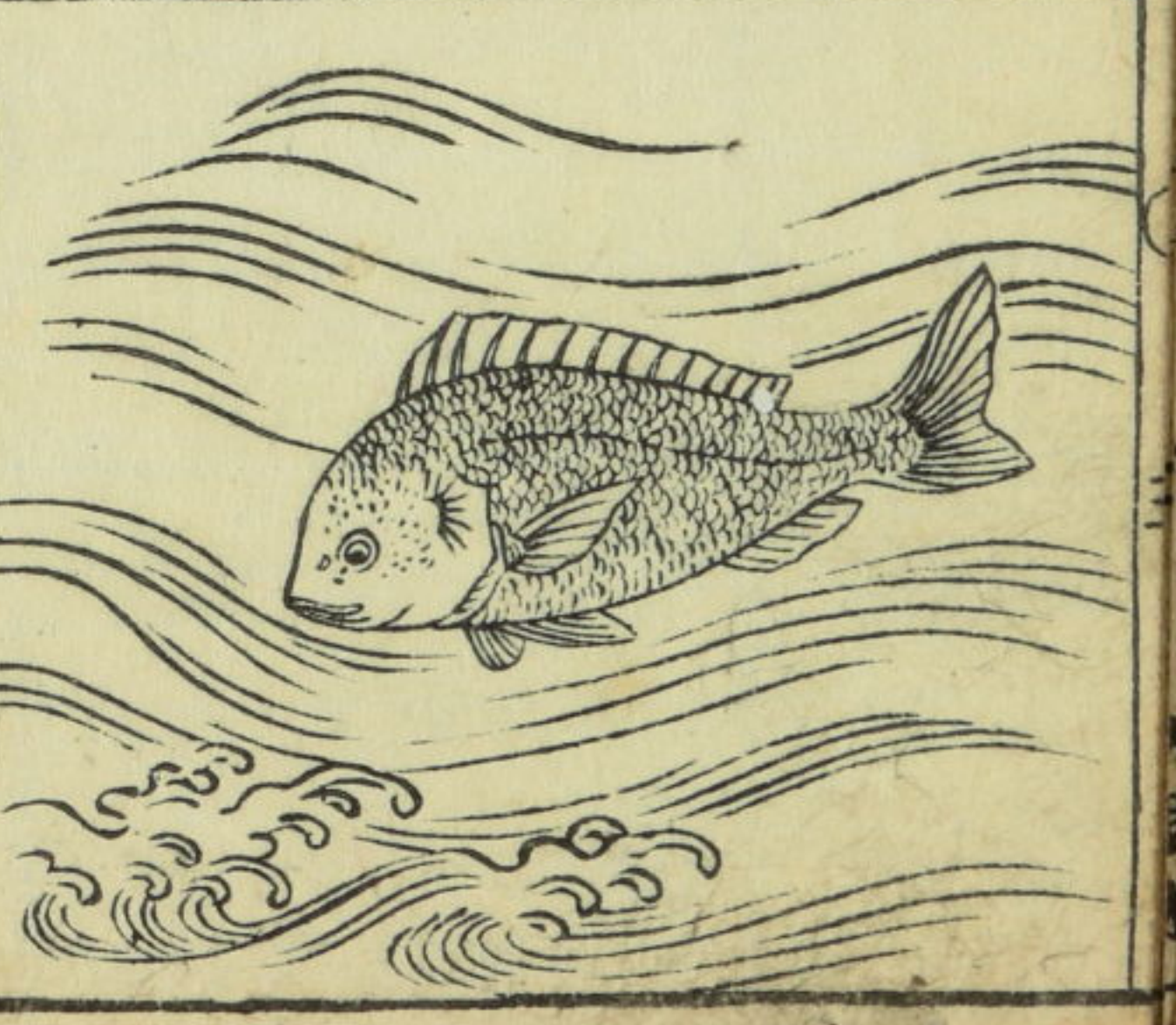


緋魚

状ハ紅紫
魚のく
長入六寸
くら後
紅紫の敷
りわはに
目大
色朱の

火焼鰯

鰯尾
吻似く
脊骨隆
赤き鬣
尾連て翼
鰯幅の
尾骨赤
色網意



肋魚

鮒魚
骨
りりて
との雪
映魚と名
佳味
佳なり

玉竹肋魚

身圓
物の
微
茎を
時
肥

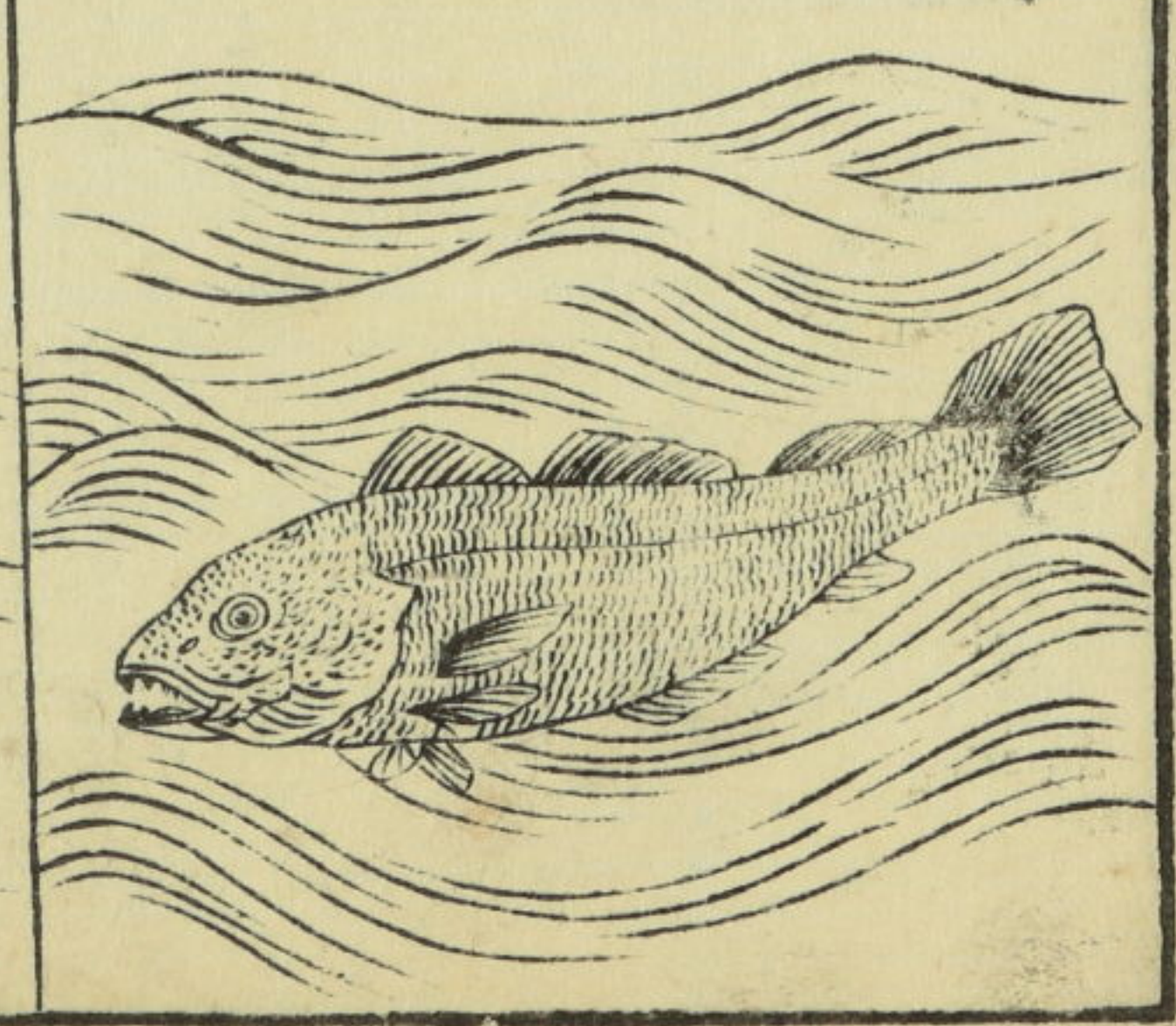


大口魚

その状鳥
頬魚
色淡
細線
い魚水油
り出
脯
佳

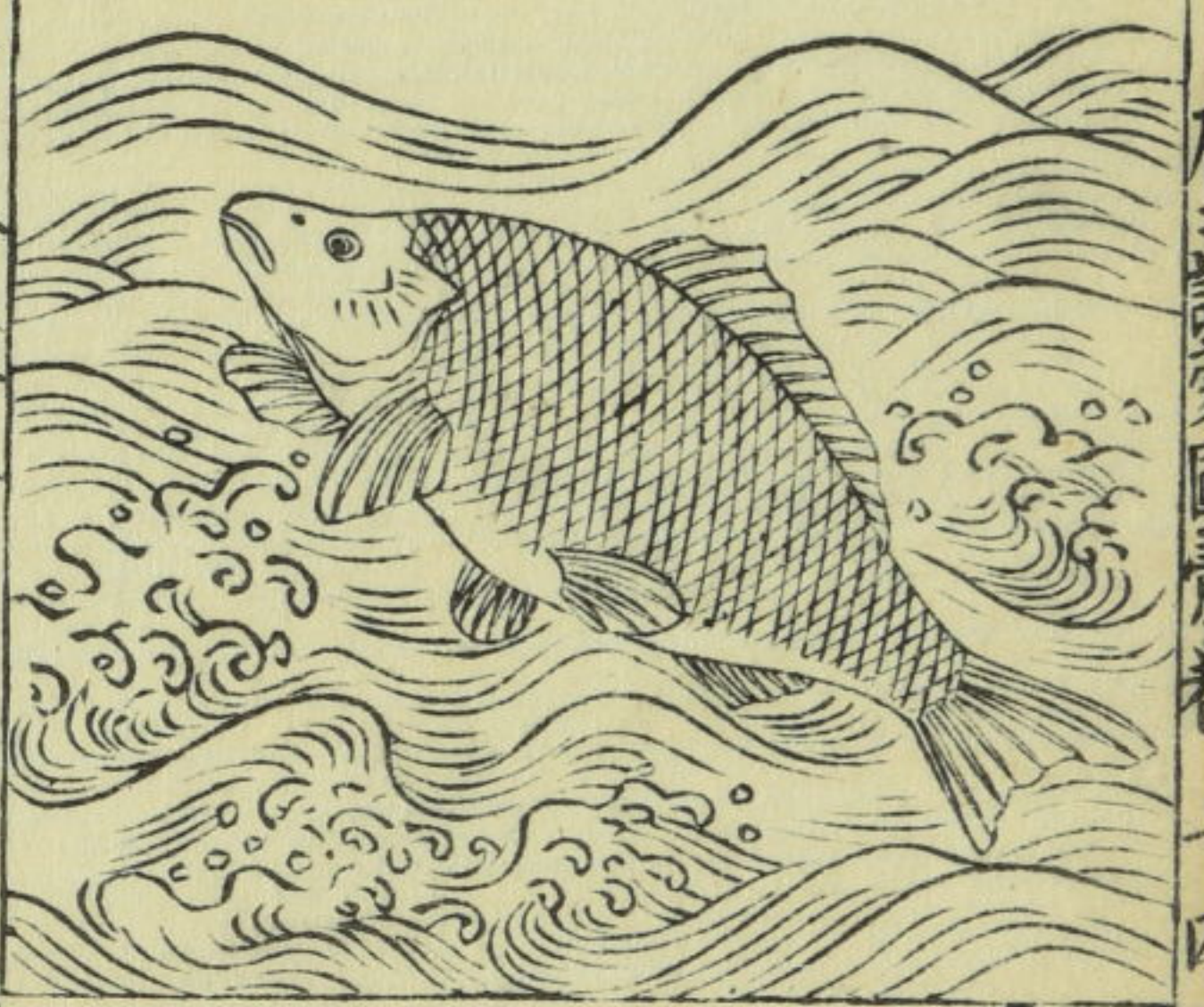
竹魚

状ハ魚
のめくは
骨刺後
色竹乃
くとの
を



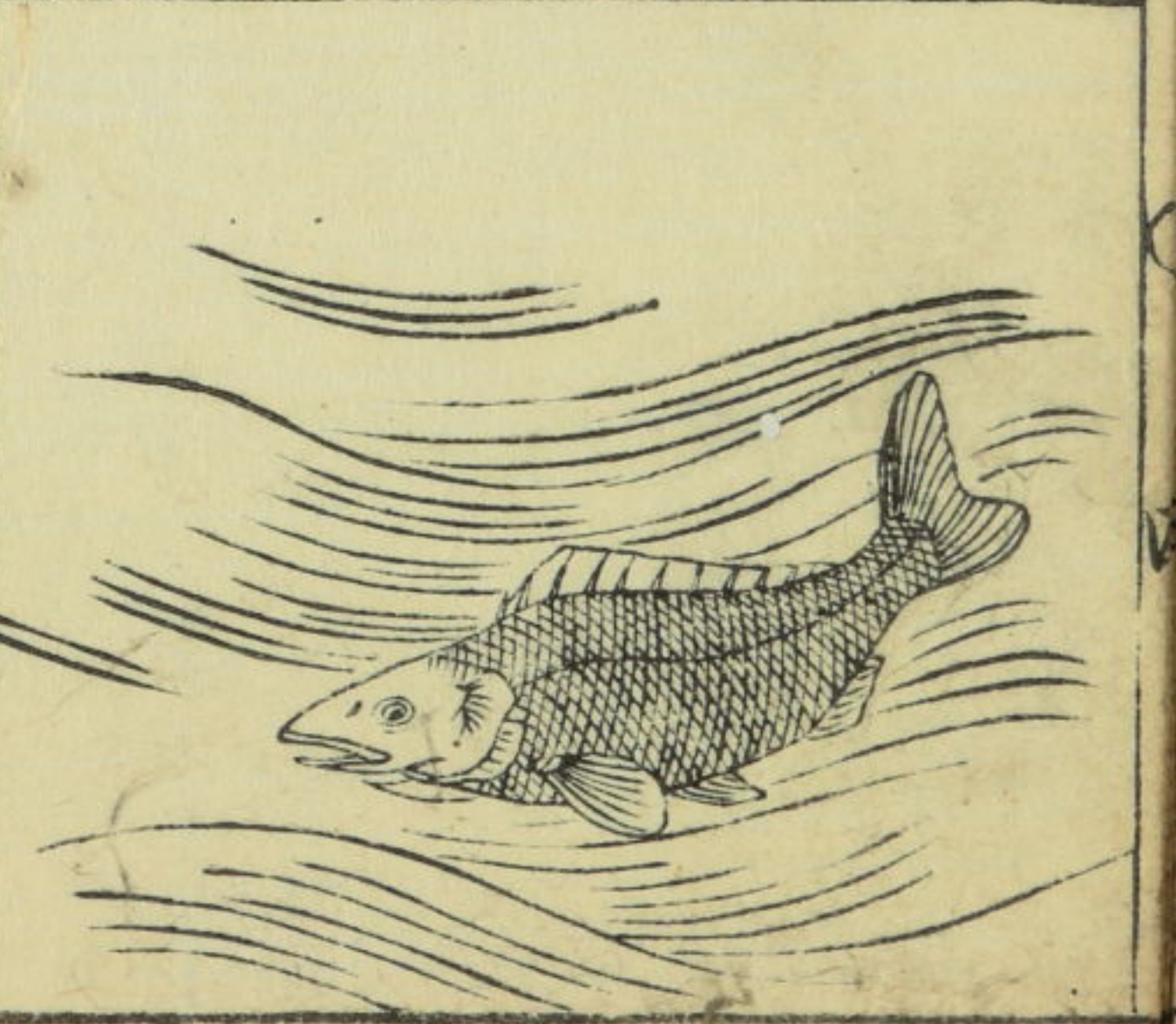
鯽魚

狀鱗の如
みて頭
小形扁
をた細
鱗腹肥
と名家も
白
一名連魚
といふ



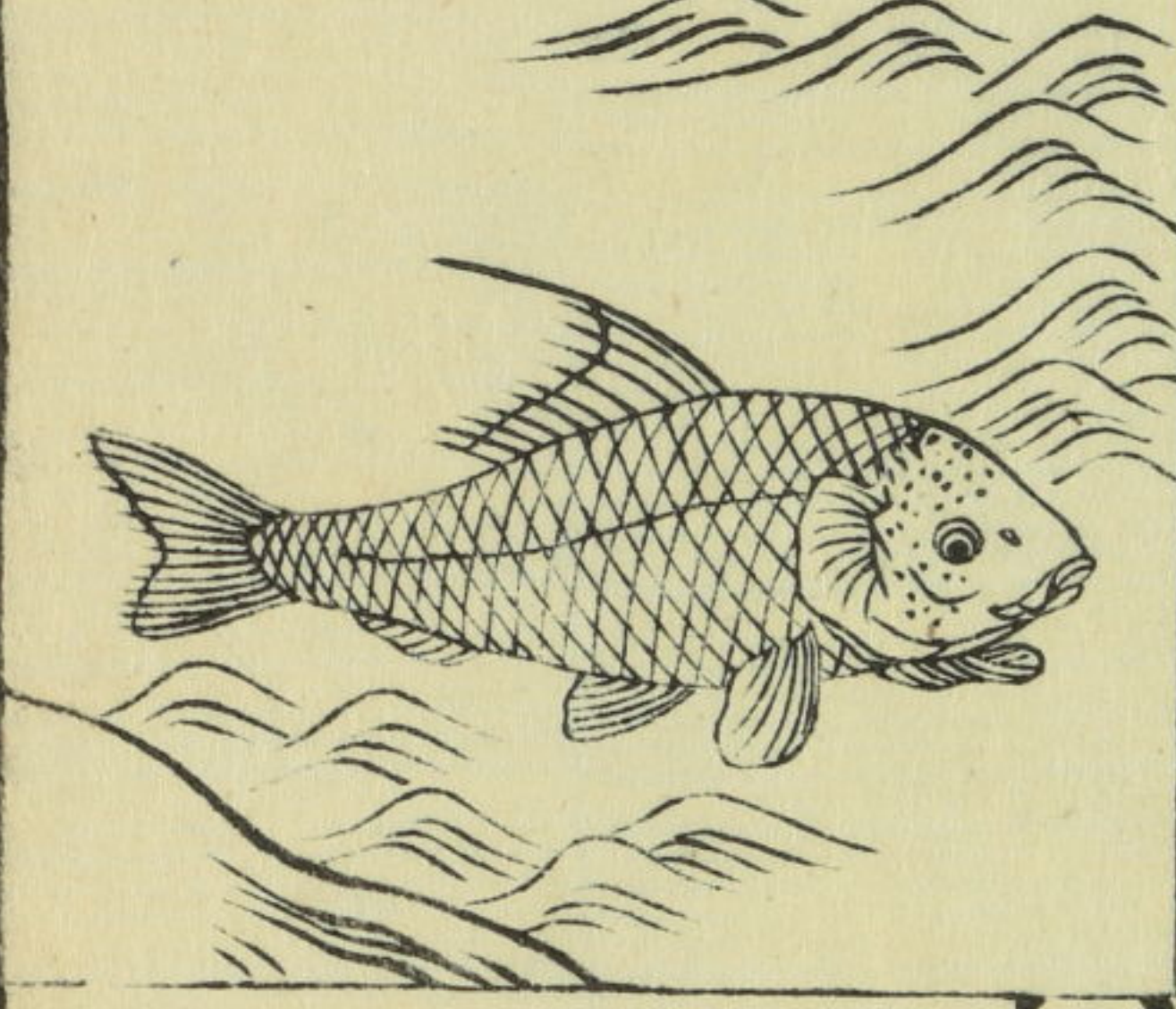
鯽魚

舟の鯽
似て後年
は鱗は似
大し鱗を
細く似て
名は鯽ハ
細なり大
名老三四
十斤あり



鱖魚

其狀鯉
似て名
其家大
なり目乃
旁に骨を
と名は
其臭ア
のこ



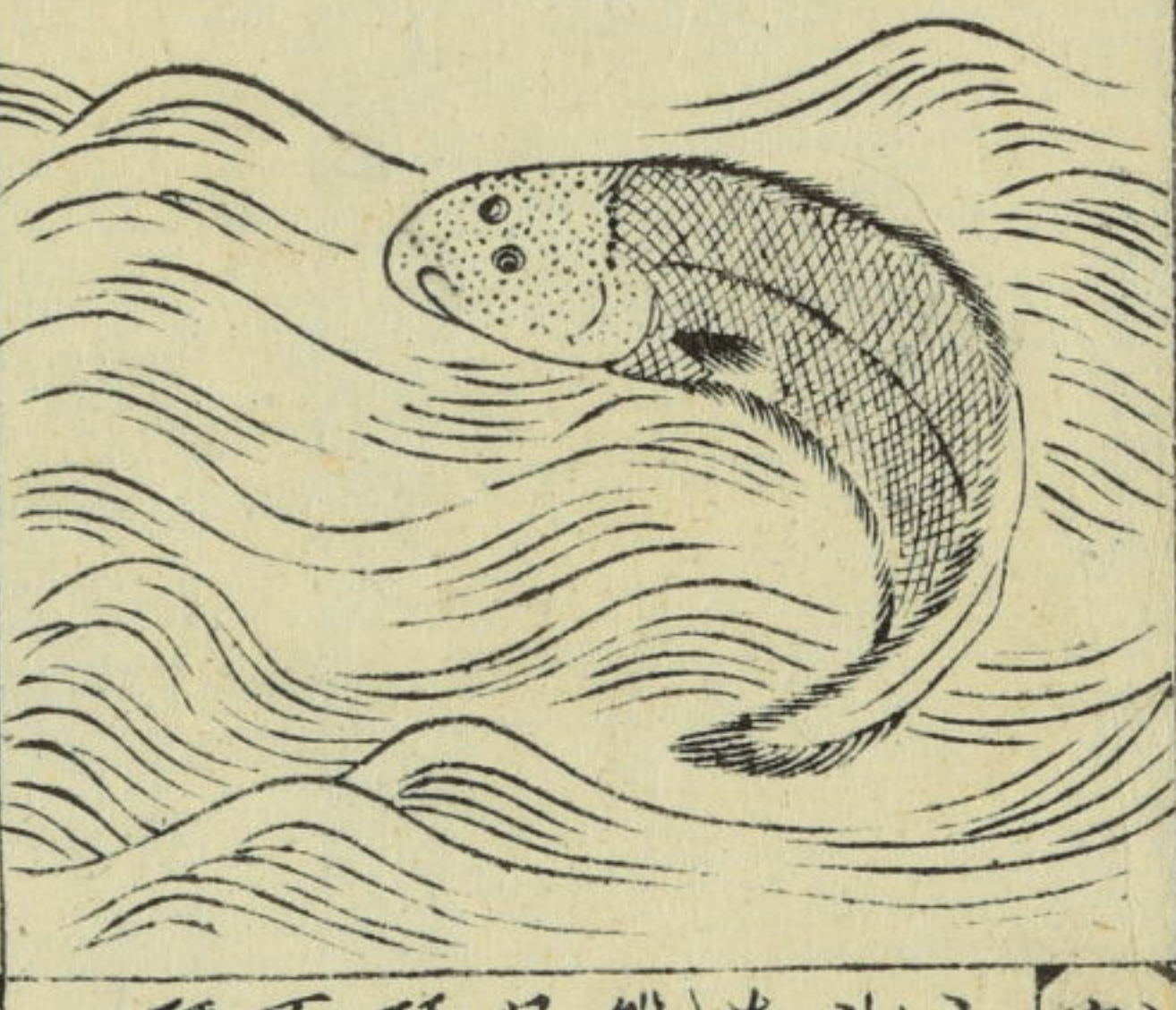
黑頭魚

狀ハ鯉子
名は長
尺くろ
其名して
名は如
名は白子
二三枚あり
一名北斗
魚



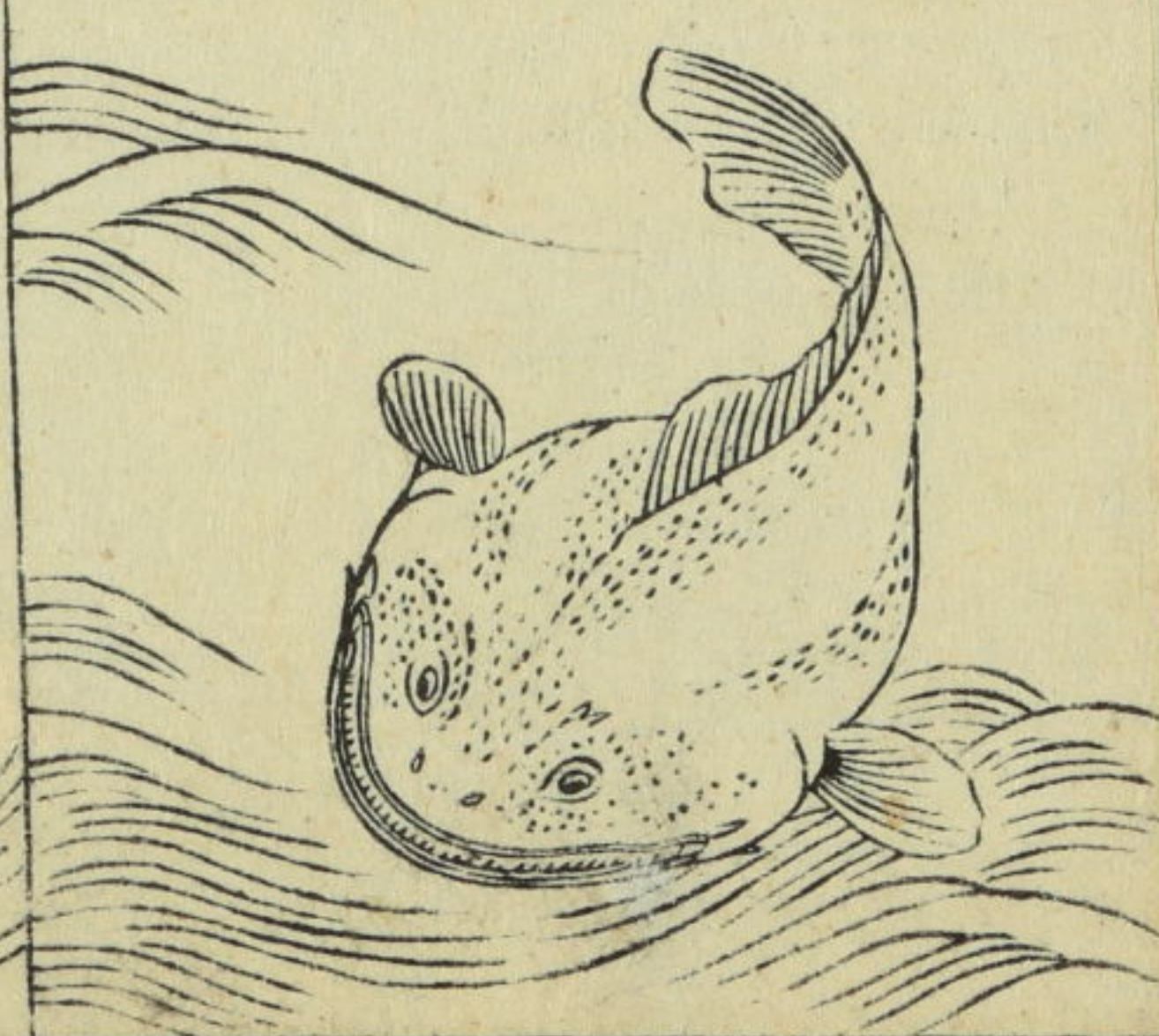
鞋底魚

狀牛脚乃
又女人
の鞋底の
細鱗紫白
色して
半斤の
名目ん
あり
俗に
の



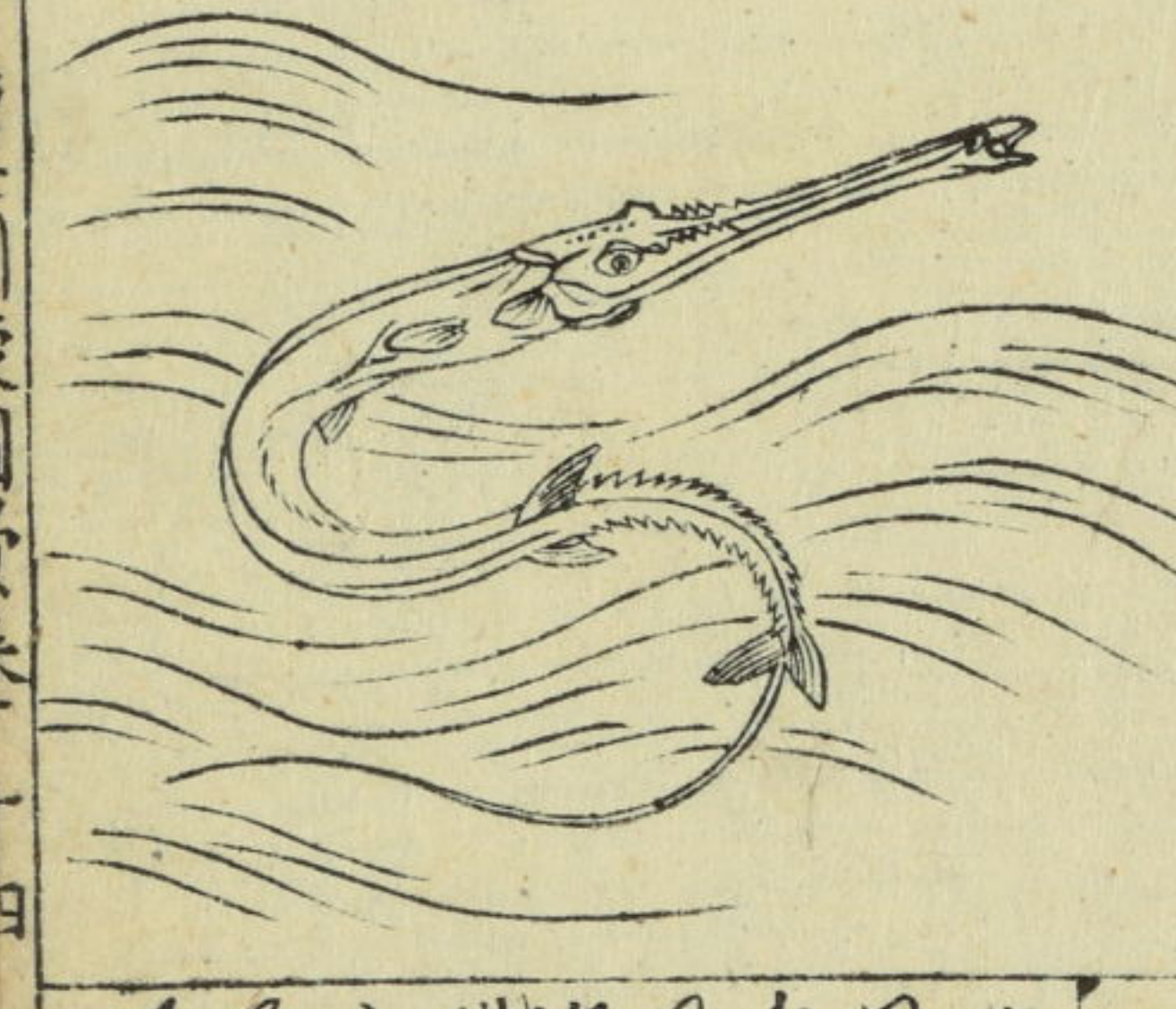
華脐魚

其狀
大なり
盤の如
吳都賦曰
琵琶魚鱗
而形似琵琶
和ニ鯽鯉ト
名ハ非ナリ



鱖魚

形ハ馬鞭
似たり
尾上岐
と名わ
肉白
或ハ鱗の
名も
鱖ニスコト
非



鱖魚

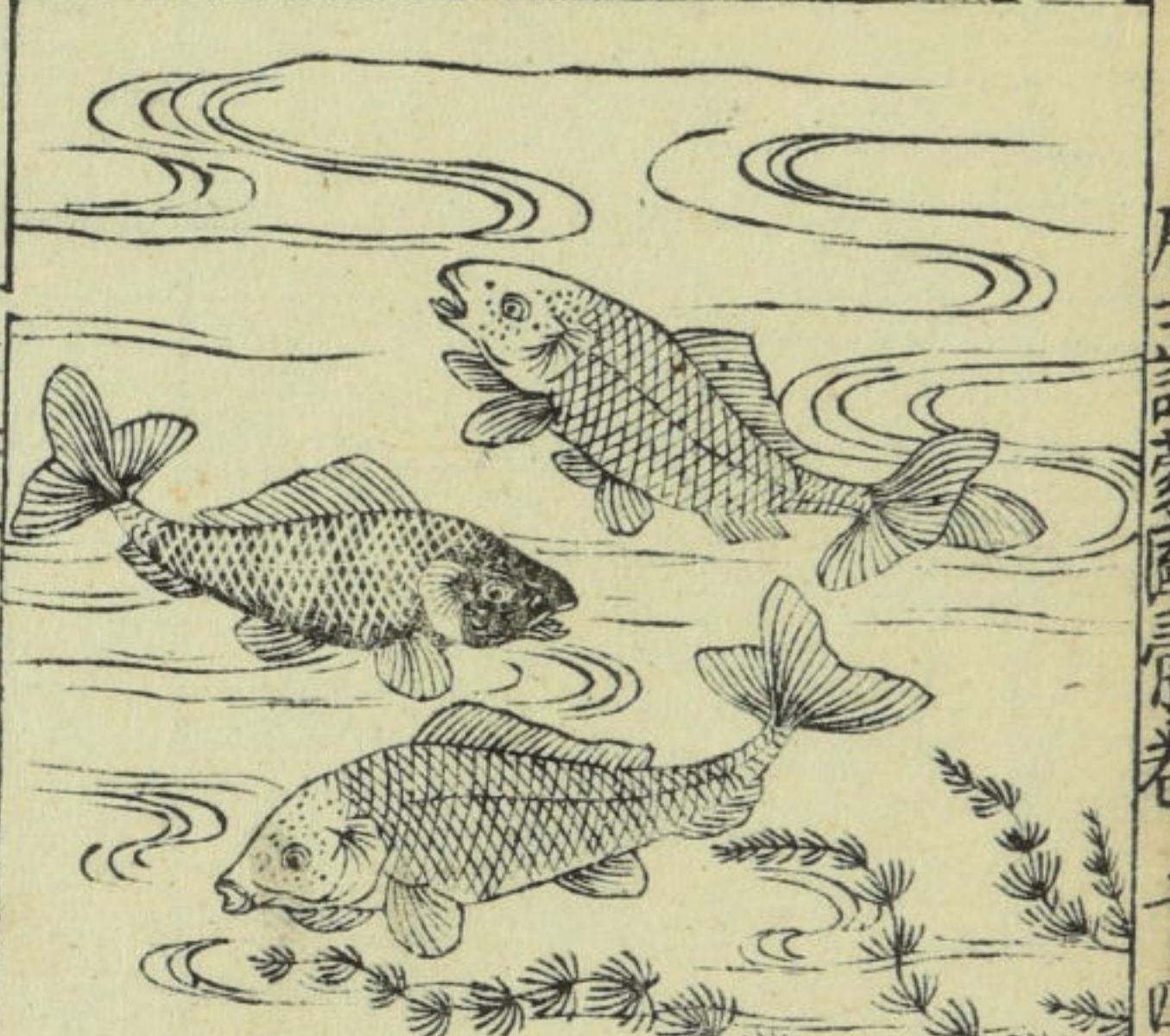
狀長く体
固く尾
おひ
名は如
名は如
名は如
尾上岐



唐土... 鱖魚

丹魚

形細乃
岐あり尾
色丹の如
尾の端
金をり
鉄魚ハ状
同一く
と云ふ



鯽魚

その状鯽
似て小
三と率
六ふ二後
一あり
故に魚
鯽魚あり



鯽魚

形ハ肉厚
鉄細ハ七
色文あり
小魚ハ
沙と吹
わさ子の
巧付



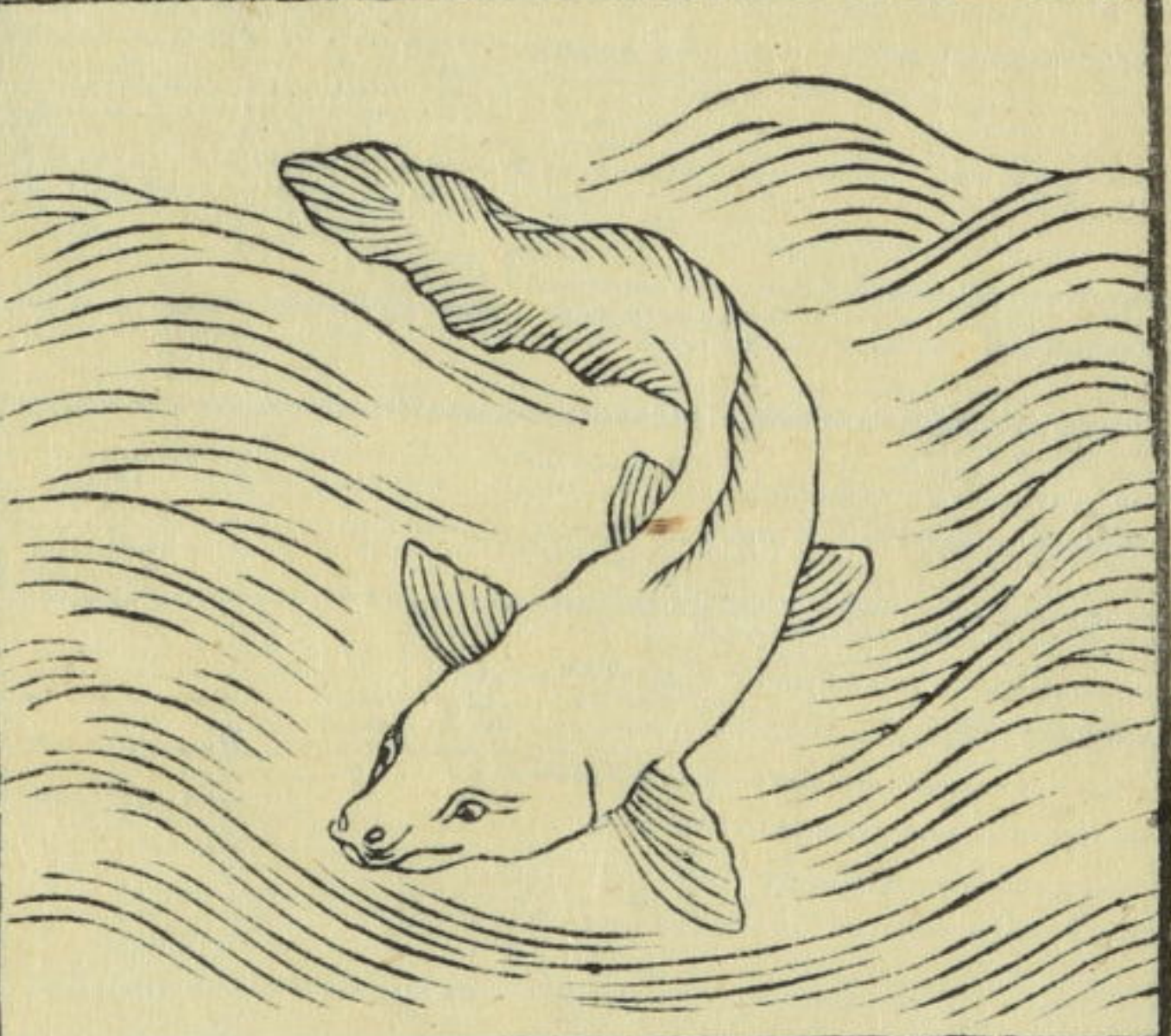
彈塗

一名ハ蘭胡
形小鯽
似て短
大なり者ハ
長三五寸
潮退て千
百群とか
して跳



牛魚

狀ハ體乃
斑文あり
腹の下
牛子似
とて名
鯽の属



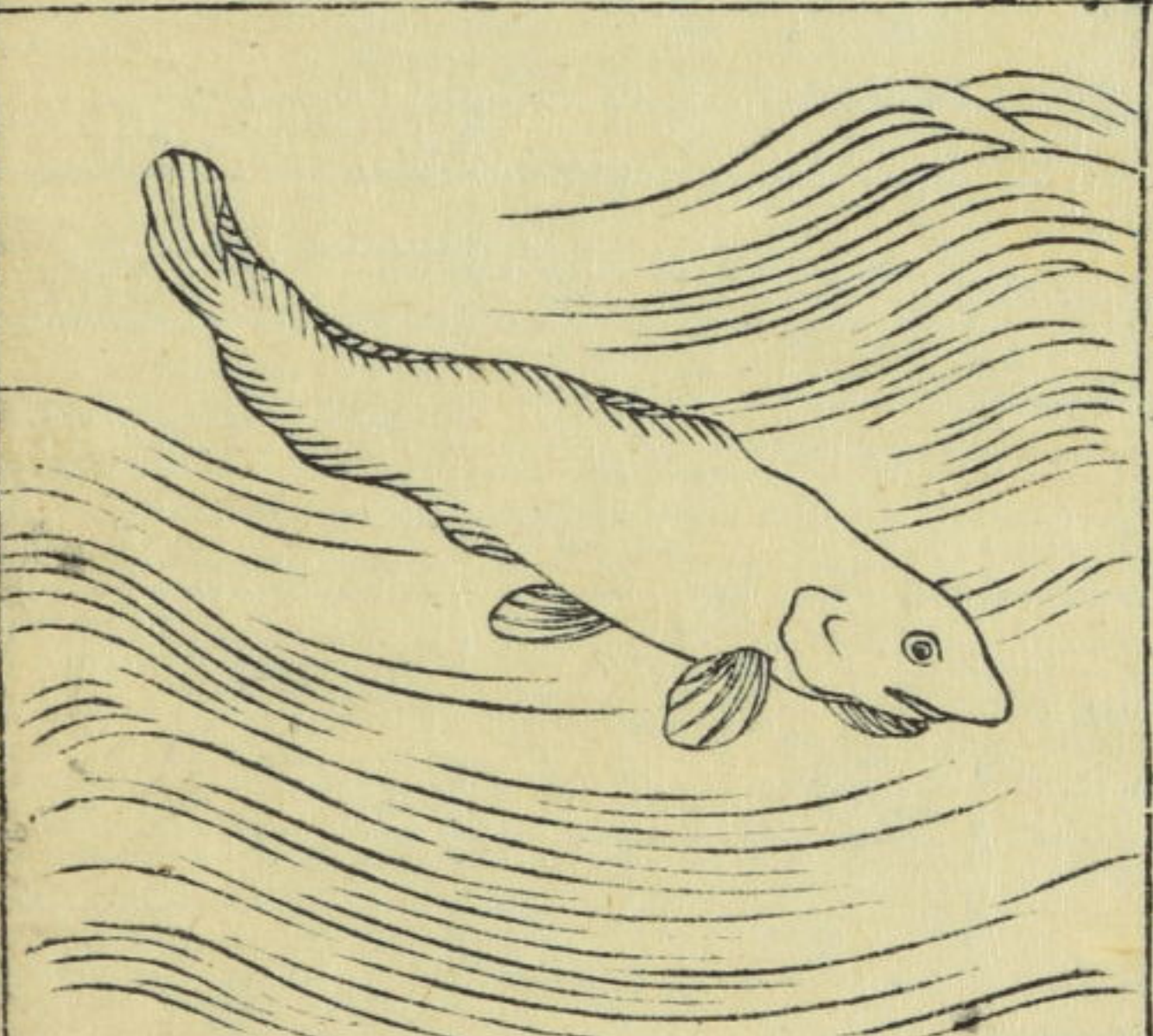
海龍

その
龍乃如
足多
毒あり
和云ハ
カハ



鮫魚

形細
似て色白
鼻ハ
口頷の下
あり腰
粘ハ肉
著あり



龍魚

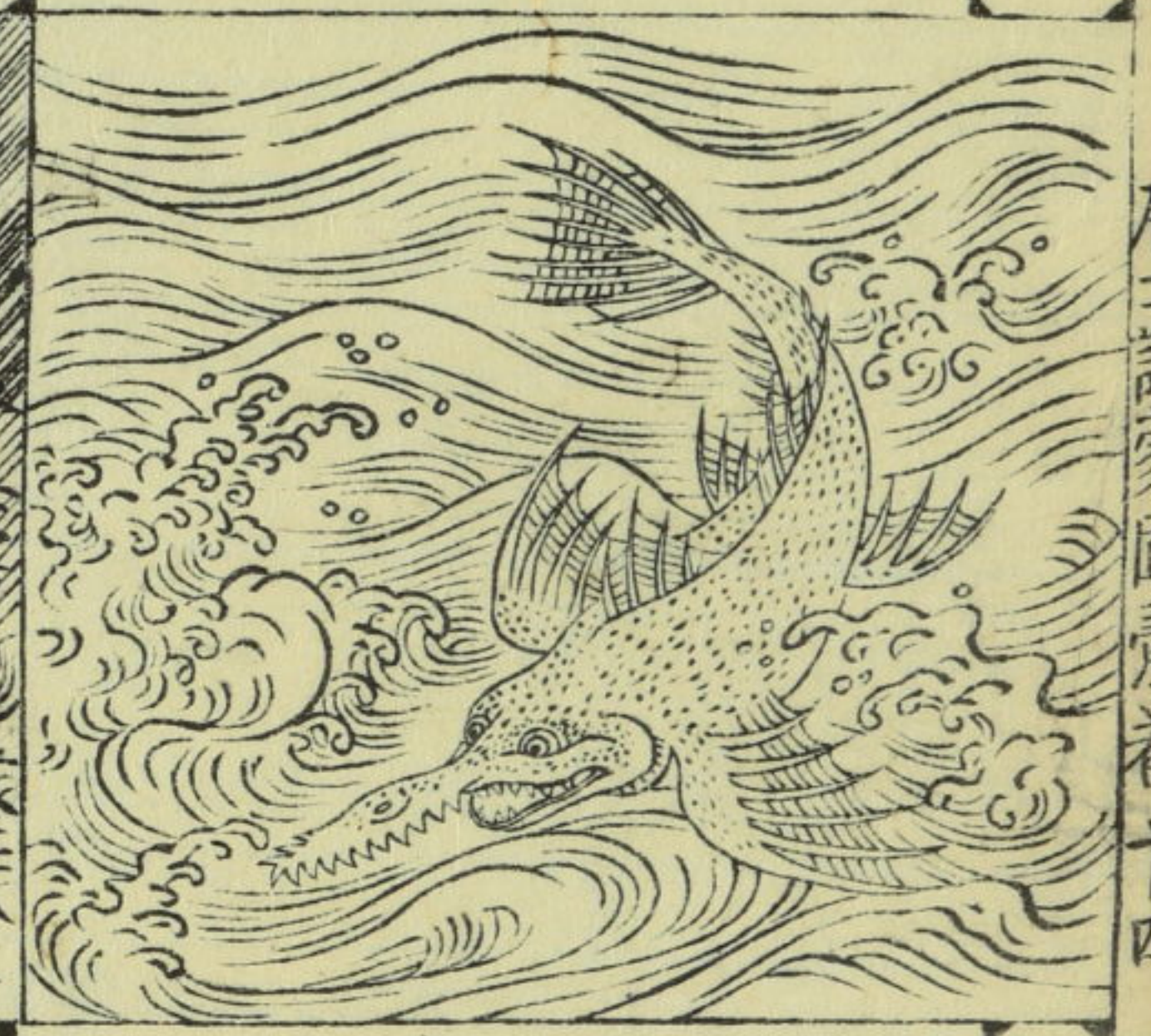
狀ハ龍乃
骨ハ
その味
佳なり
明海
了出



唐土前漢書卷十四

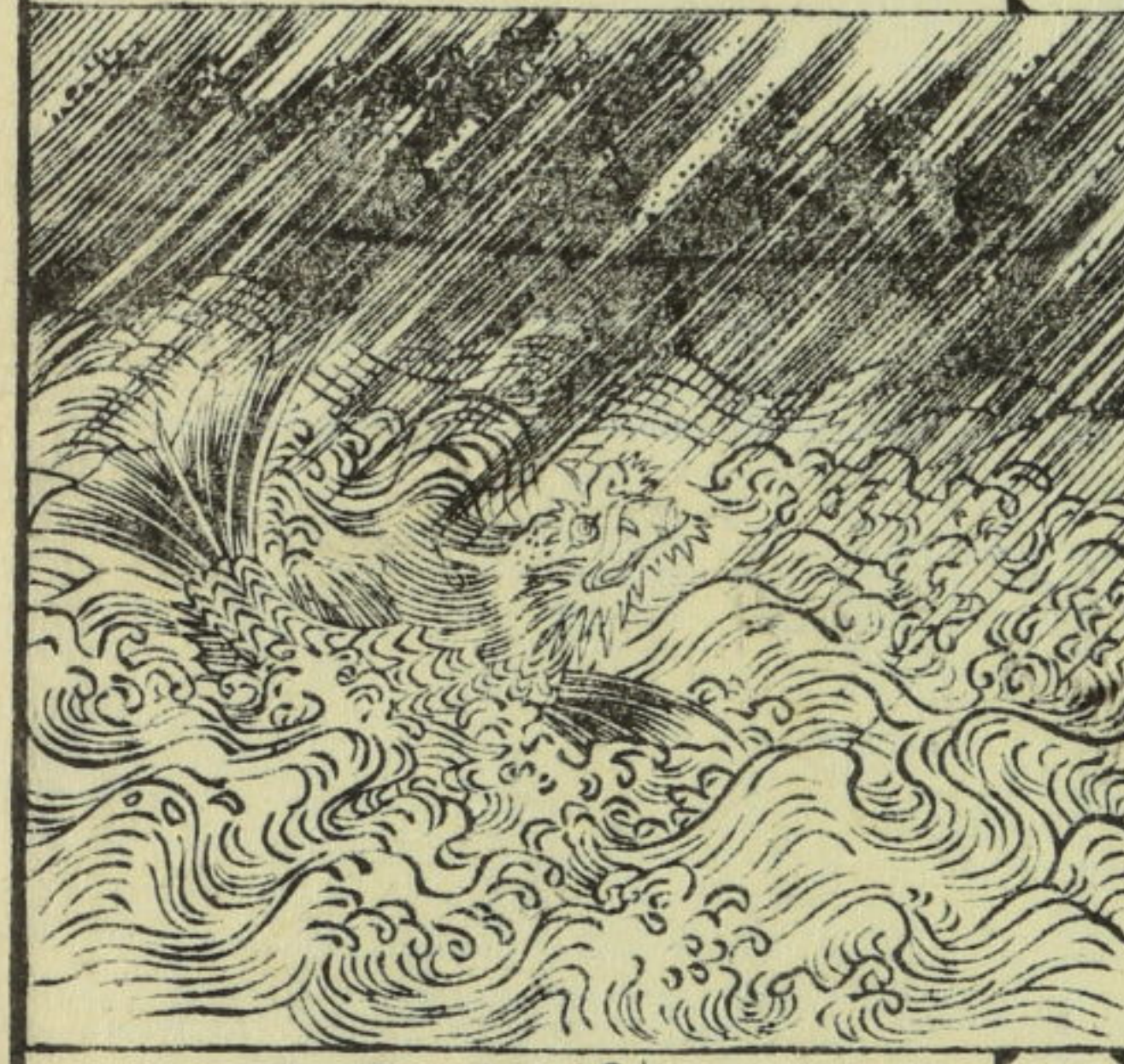
胡龜

その色は
くして背
上は河を
大なりもの
長又俗
小なりもの
三つを人々
案板の



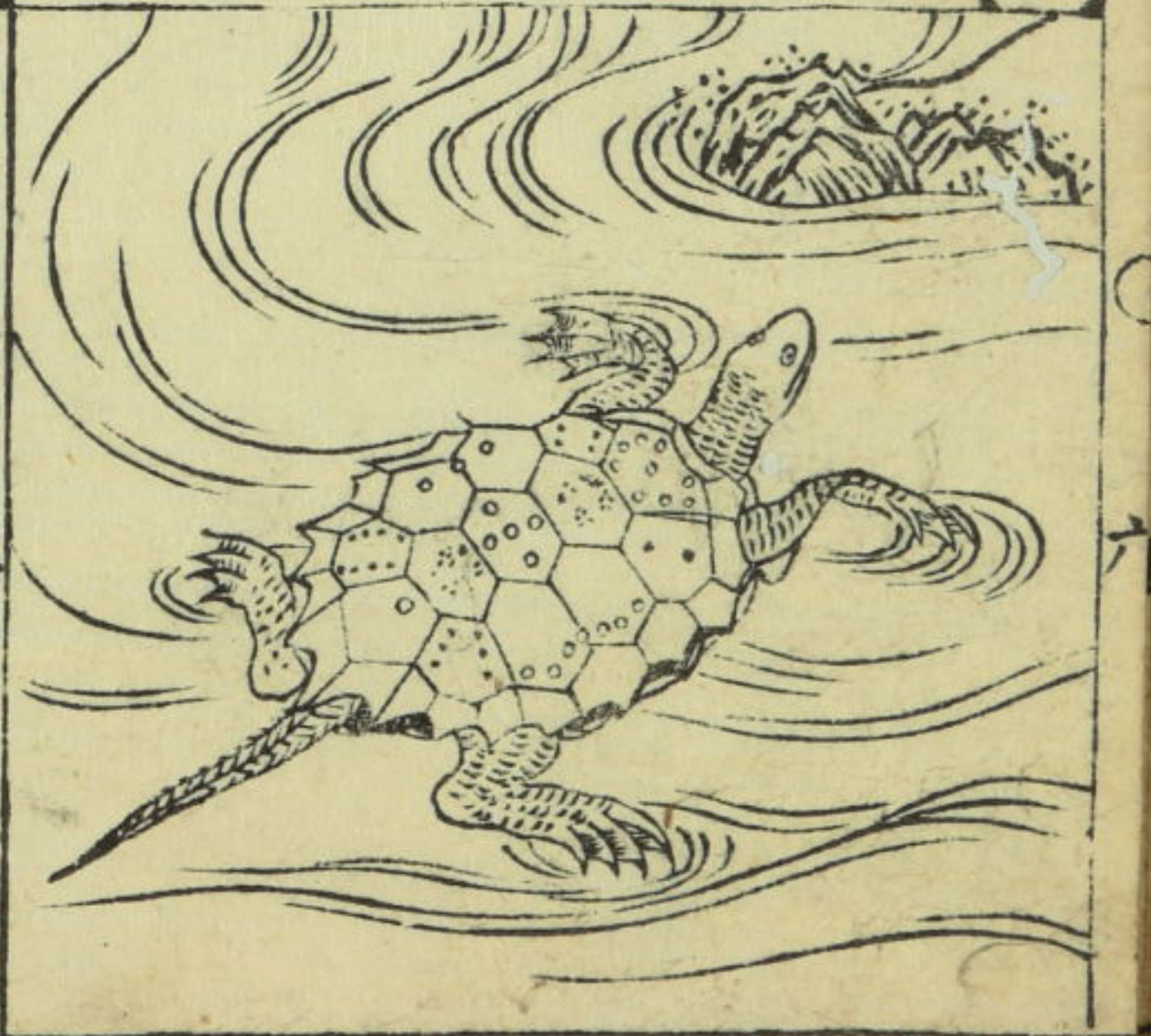
鳩尾

狀ハ龍
浪と激
内なる
屋上の瓦
像と作
火災と威
かき
鳩吻
同し



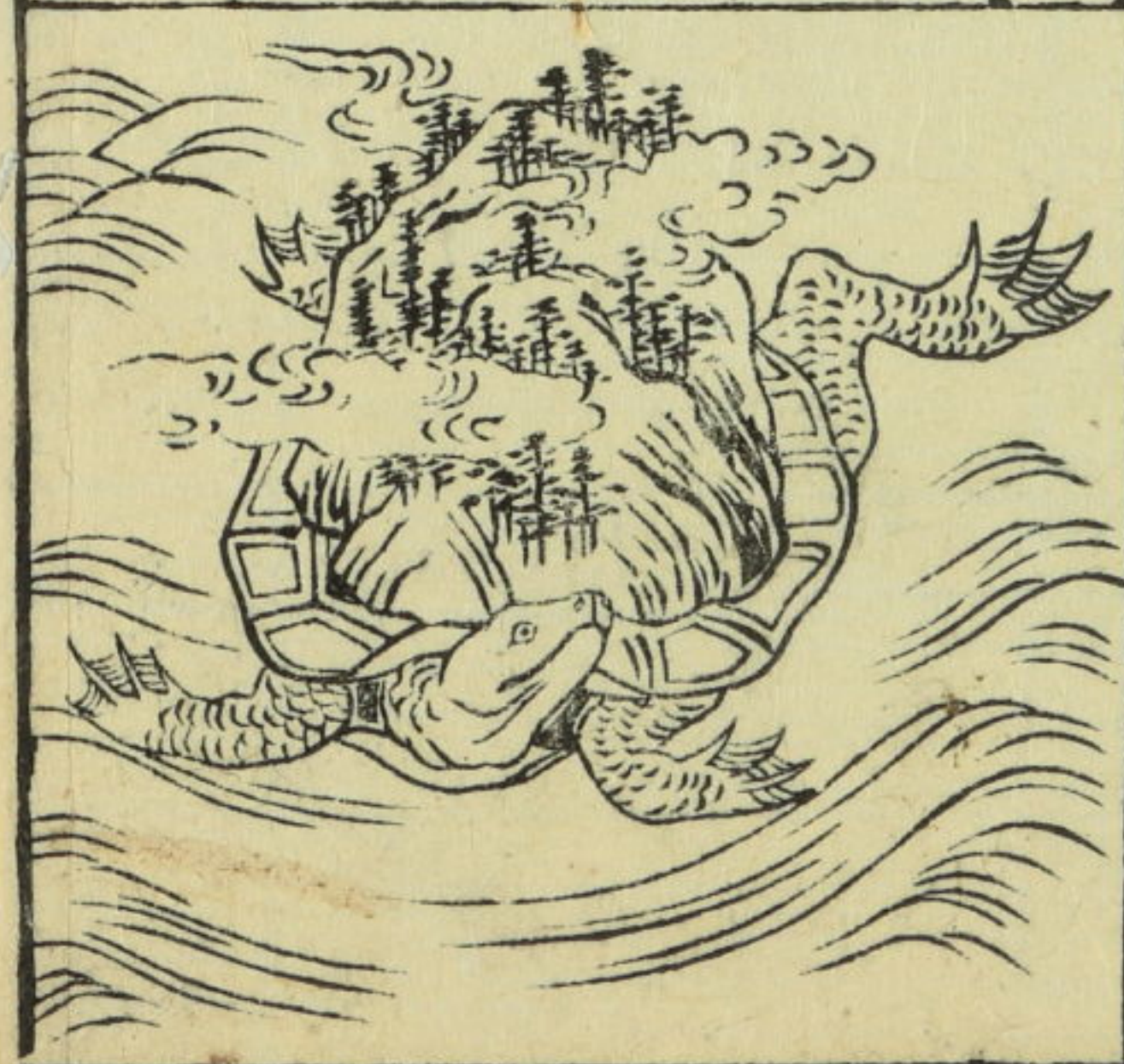
神龜

夏の禹王水
と浴王の時
浴水より
龜如く
其甲より
文ありて字
畫の如し
禹王の
形て九龍
の洪紀し



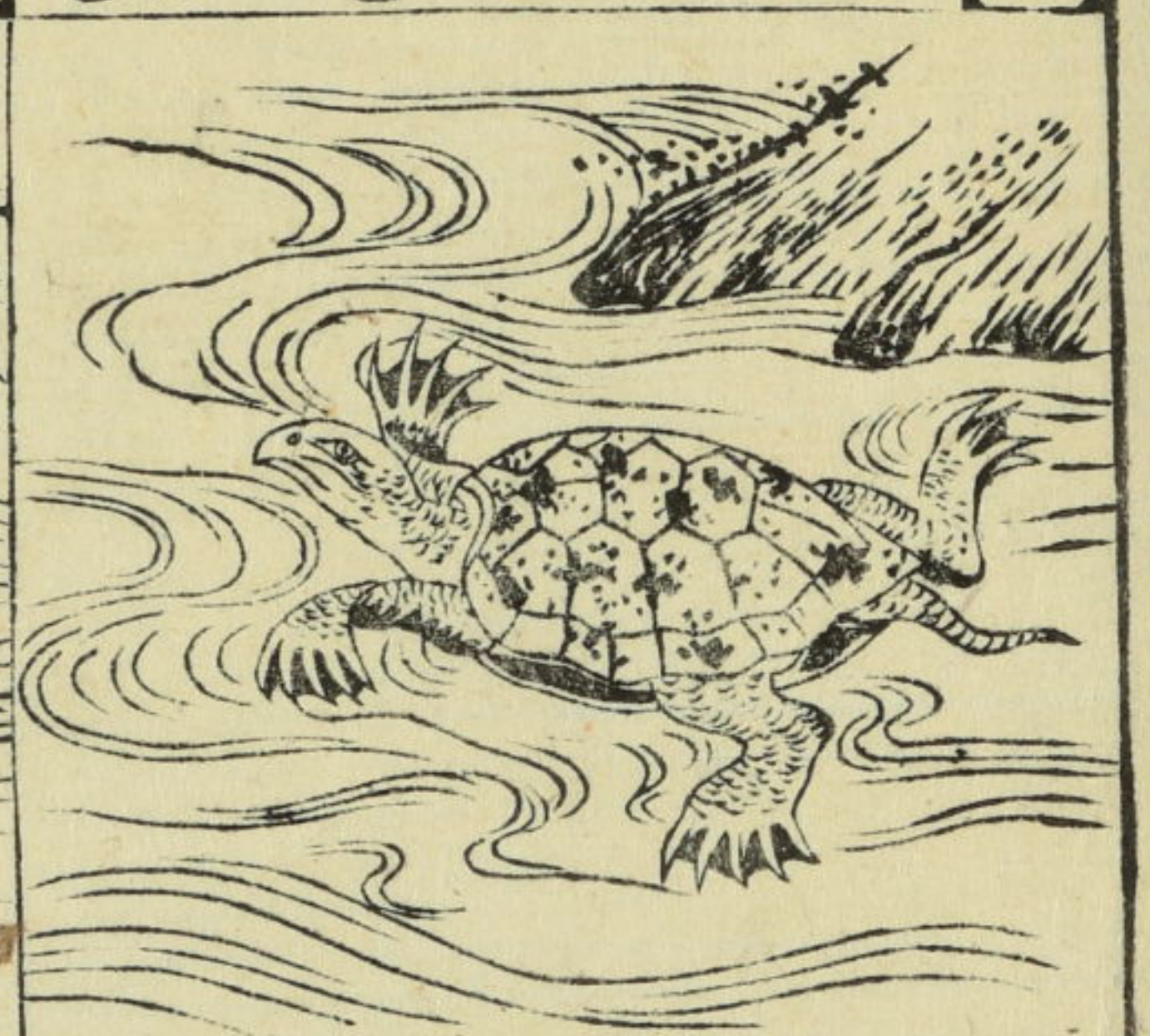
教龜

曰かり亀
の東岱輿
員崎方壺
瀛洲蓬萊
の五山あり
巨鼈首と
仰てみれば
そのの



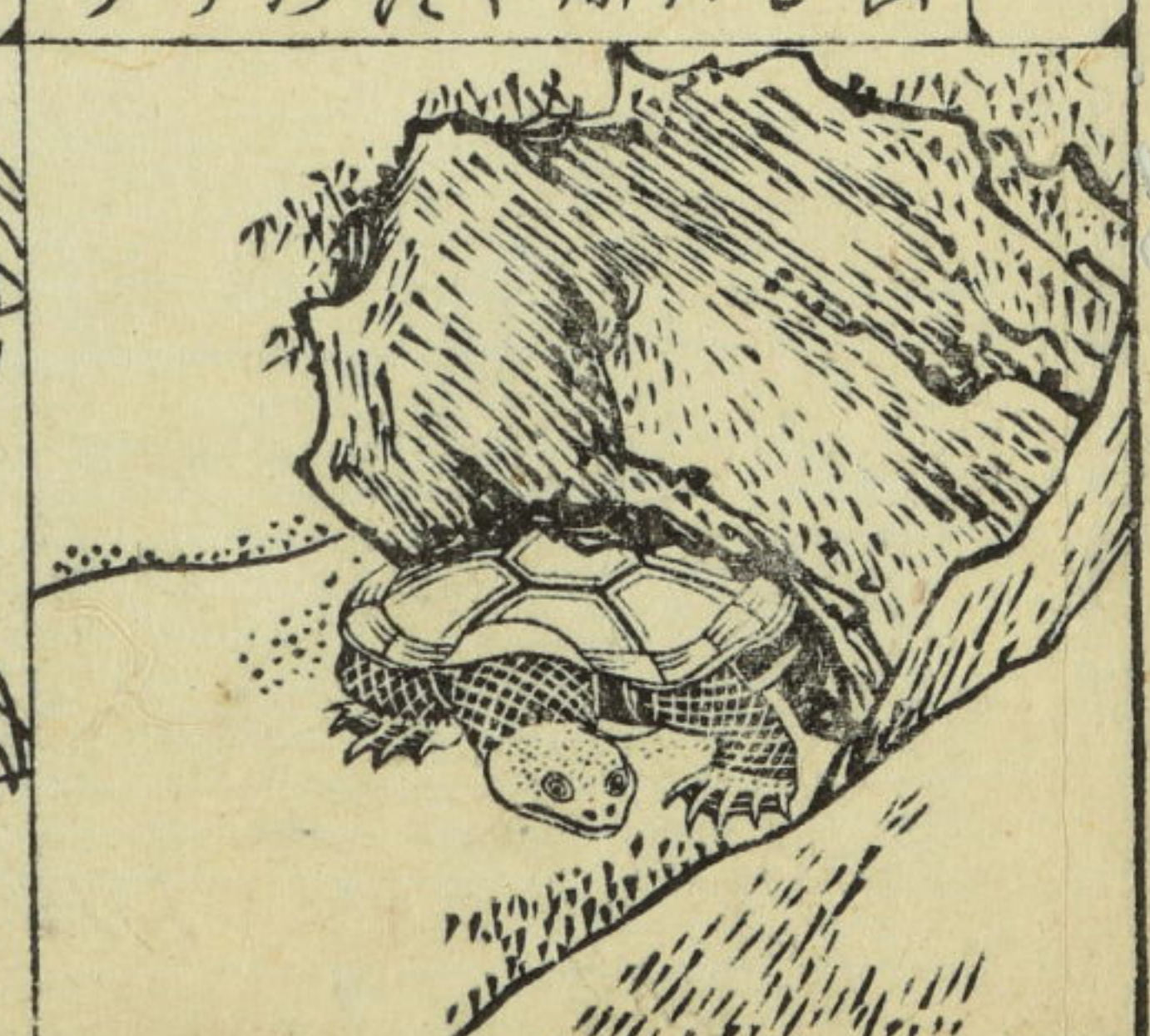
蟻龜

跋踵水
出れり
玳瑁
交米あり
その甲を
てト
碑の
負顛と
玳瑁の雌



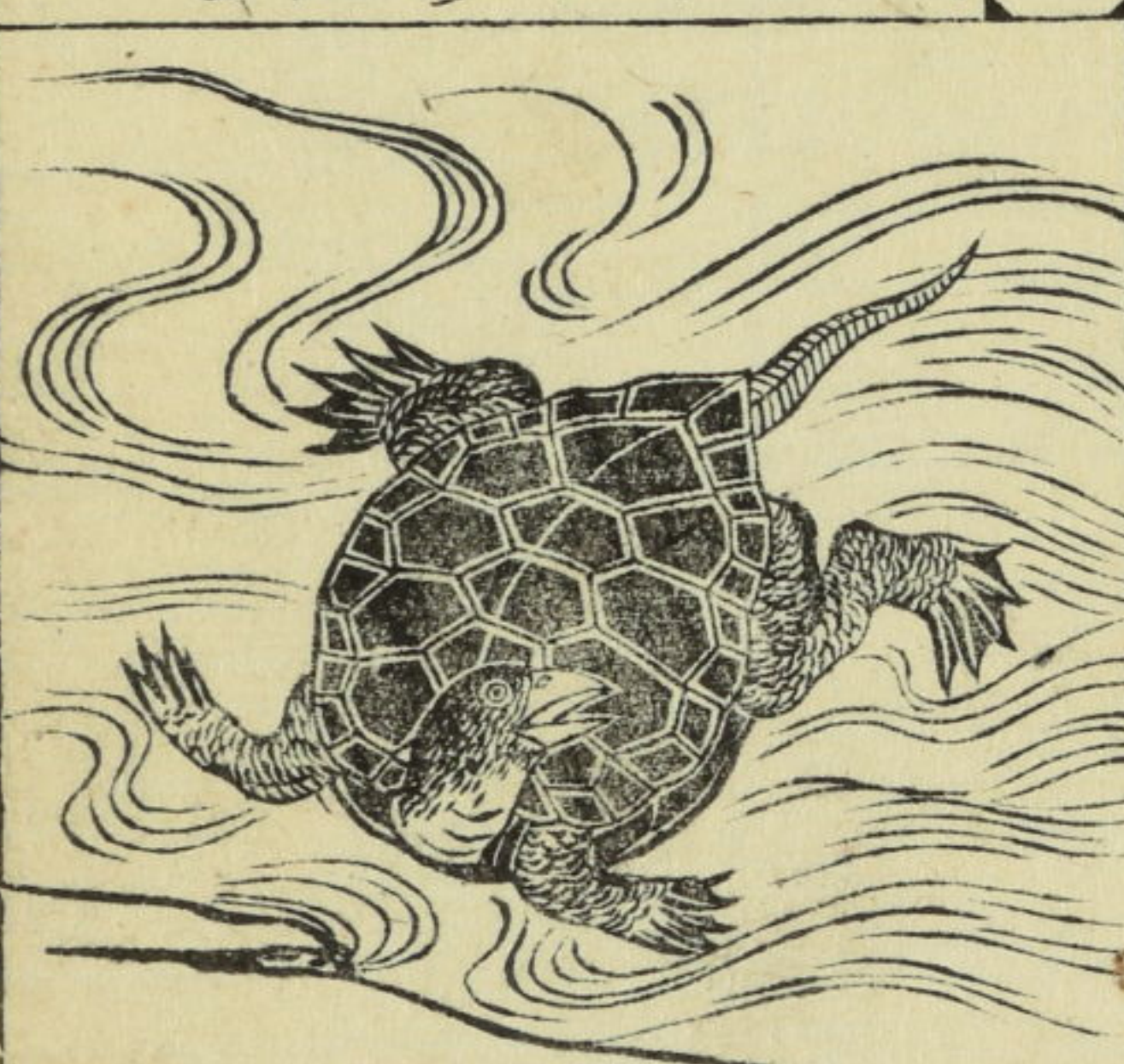
瘡龜

いせり山
石下よ生
偏頭大背
老瘡と
或は病人乃
外に起る
掛る



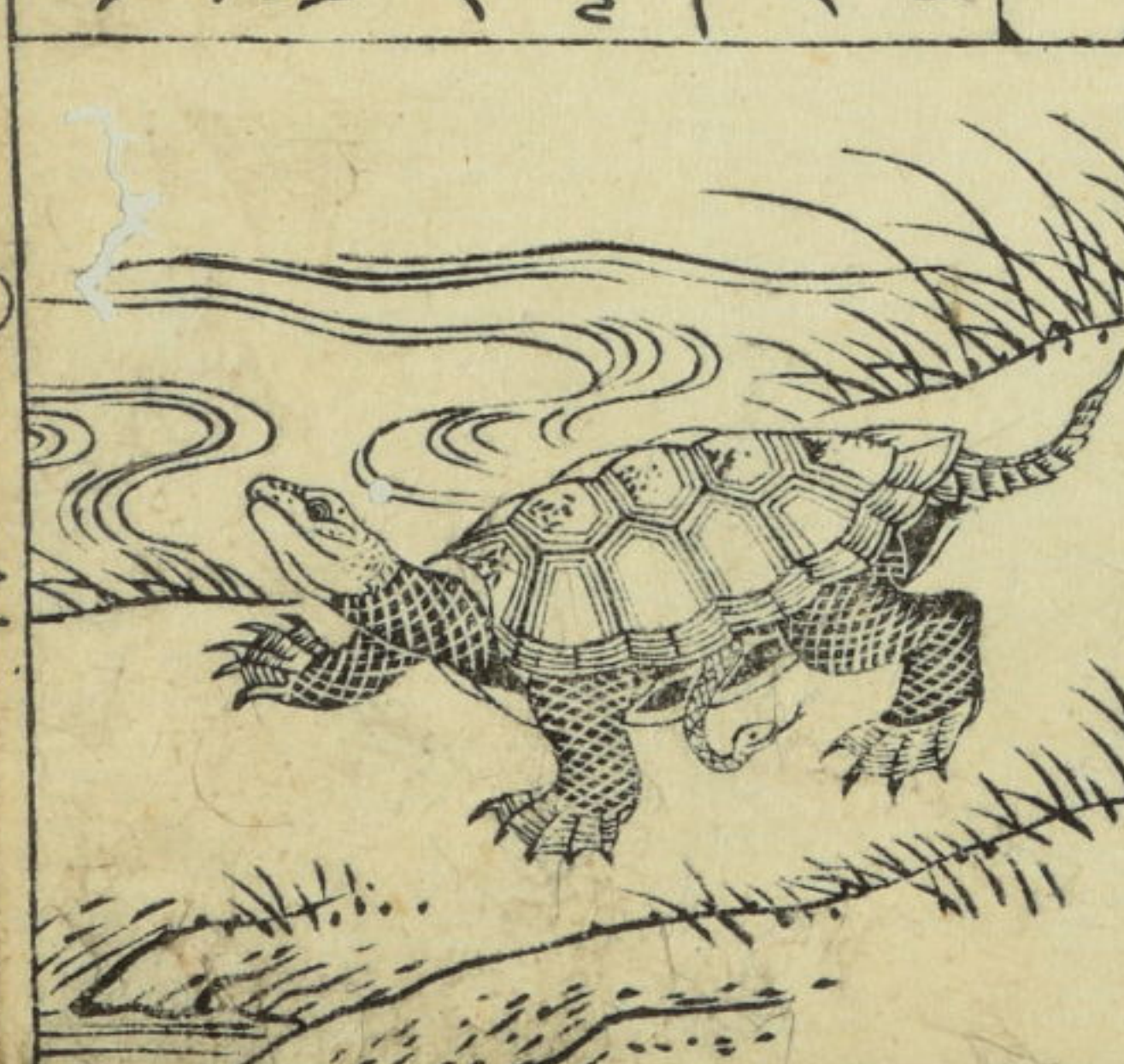
玄龜

扭陽山北
怪水河出
東注水中
玄龜多し
其狀鳥乃
首鹿の尾
音破水の
舟の



攝龜

一名鳶龜
腹小
中心横
能自ら
圓川
蛇と
故甲蛇
龜

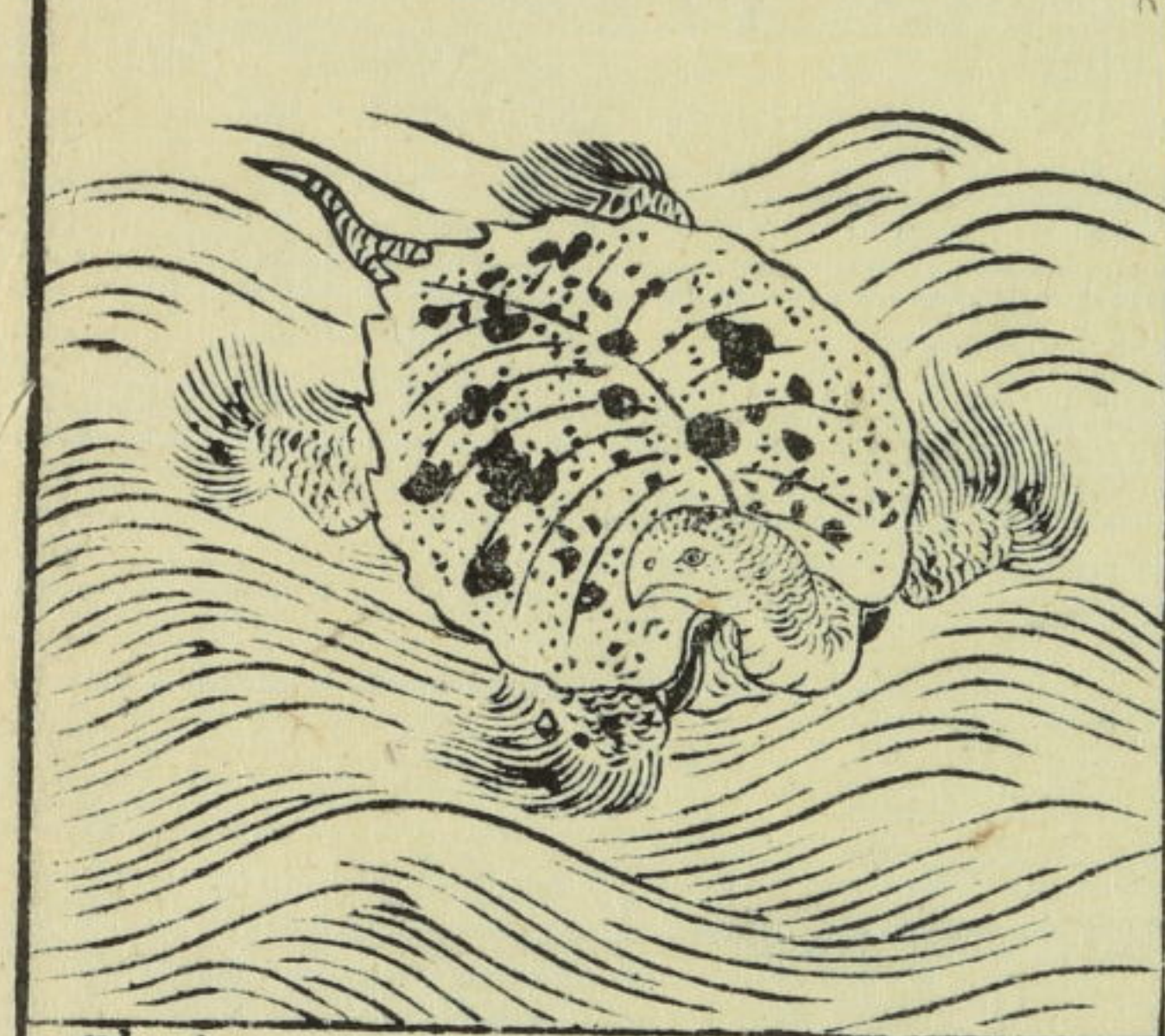
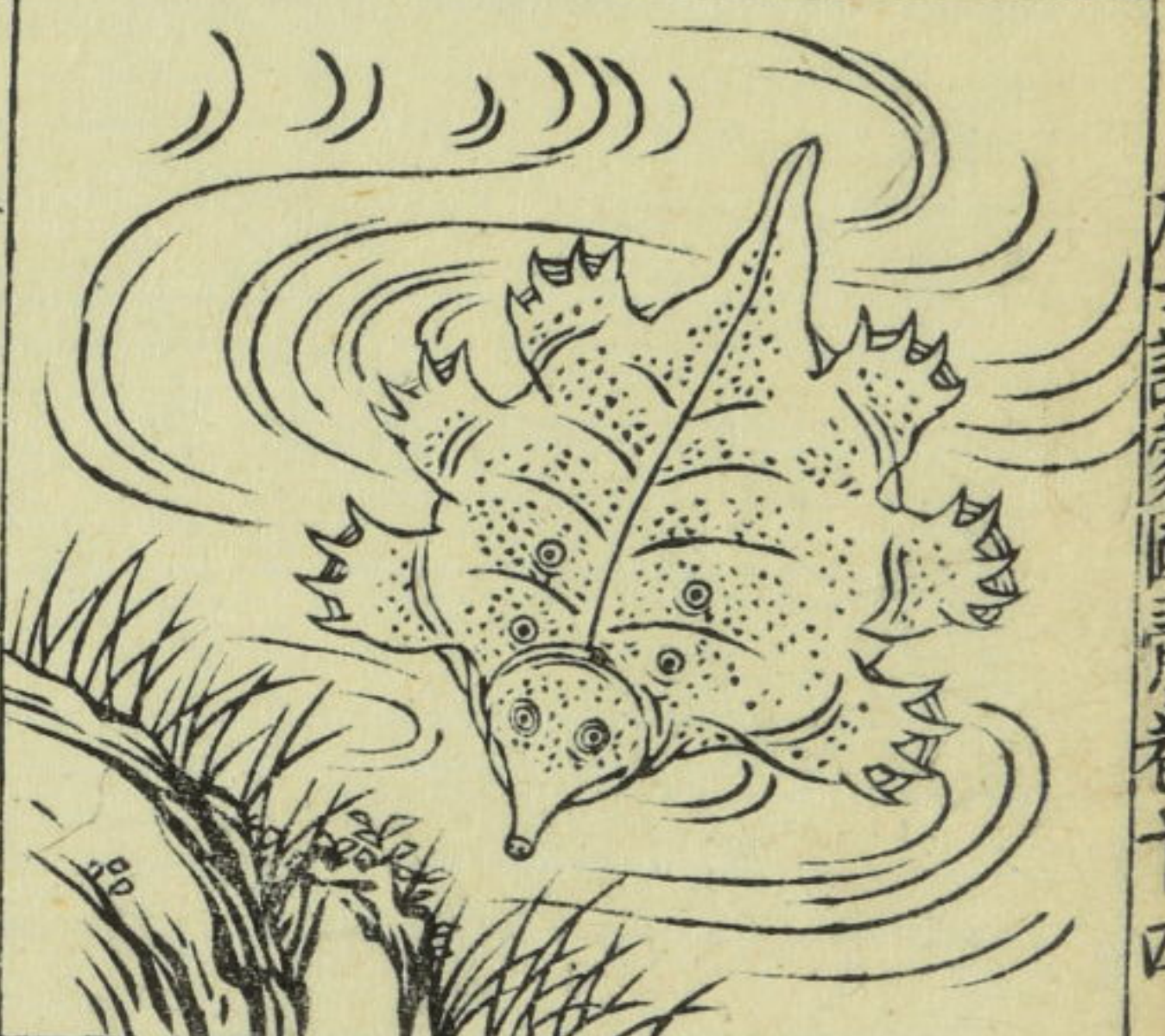


珠の蟹

葛山澤
中に多く
を狀六月
りて六月
わり腹内
一珠あり
味甘く
酸し食
時乳と避
へ

龜鼈

その形並
のく大さ
甲は玉珠
文線あり
玳瑁の如
地のくわ
飛瑁の如

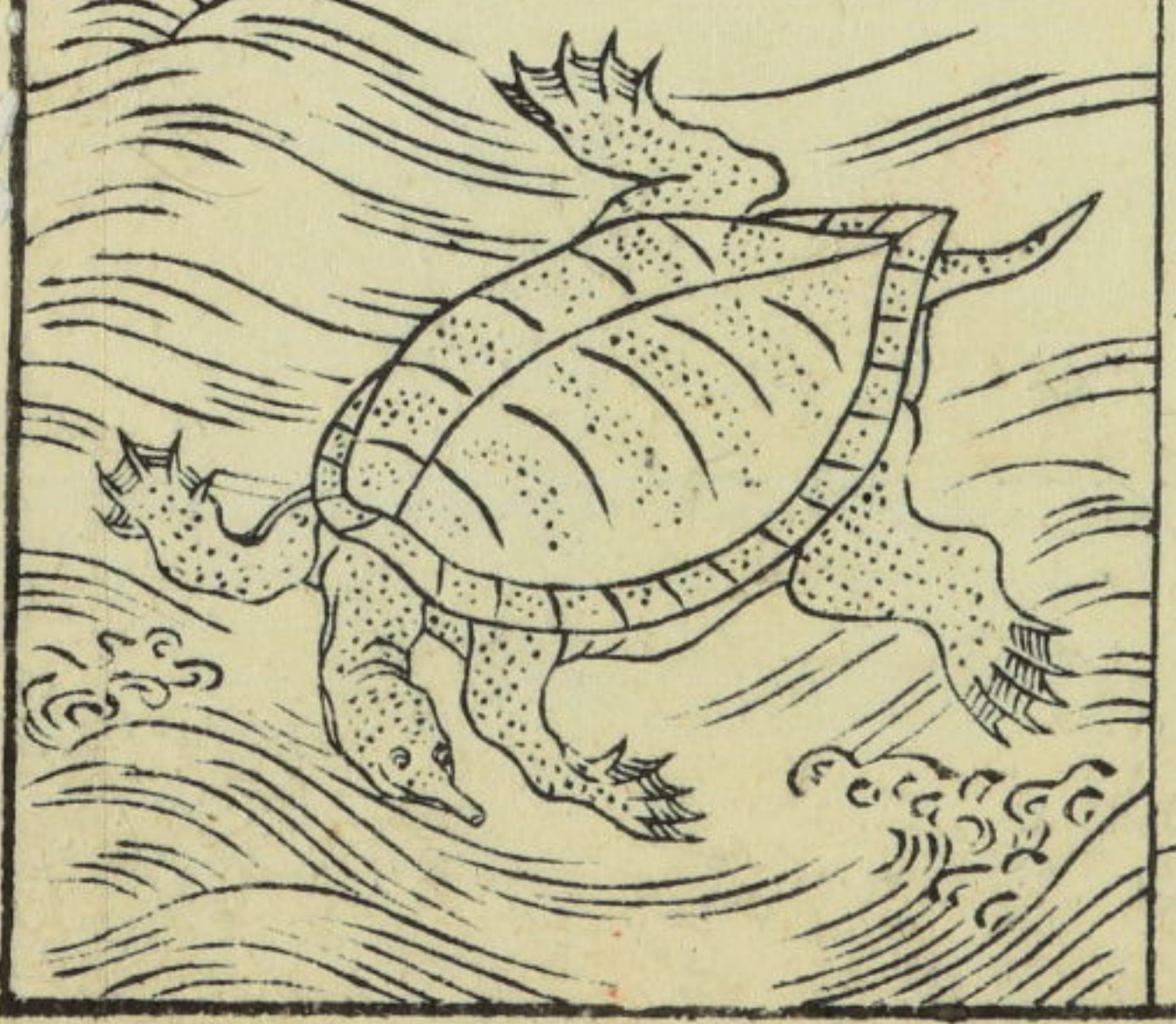


能

くくく
くくく
足なり
りり
郡陽羨
縣君山
池あり
中に
の蟹多

元龜

狀鼈
似て最大
甲の背は
臙脂あり
色を
鼈と雌
その卵と
すくた
鴨の卵の

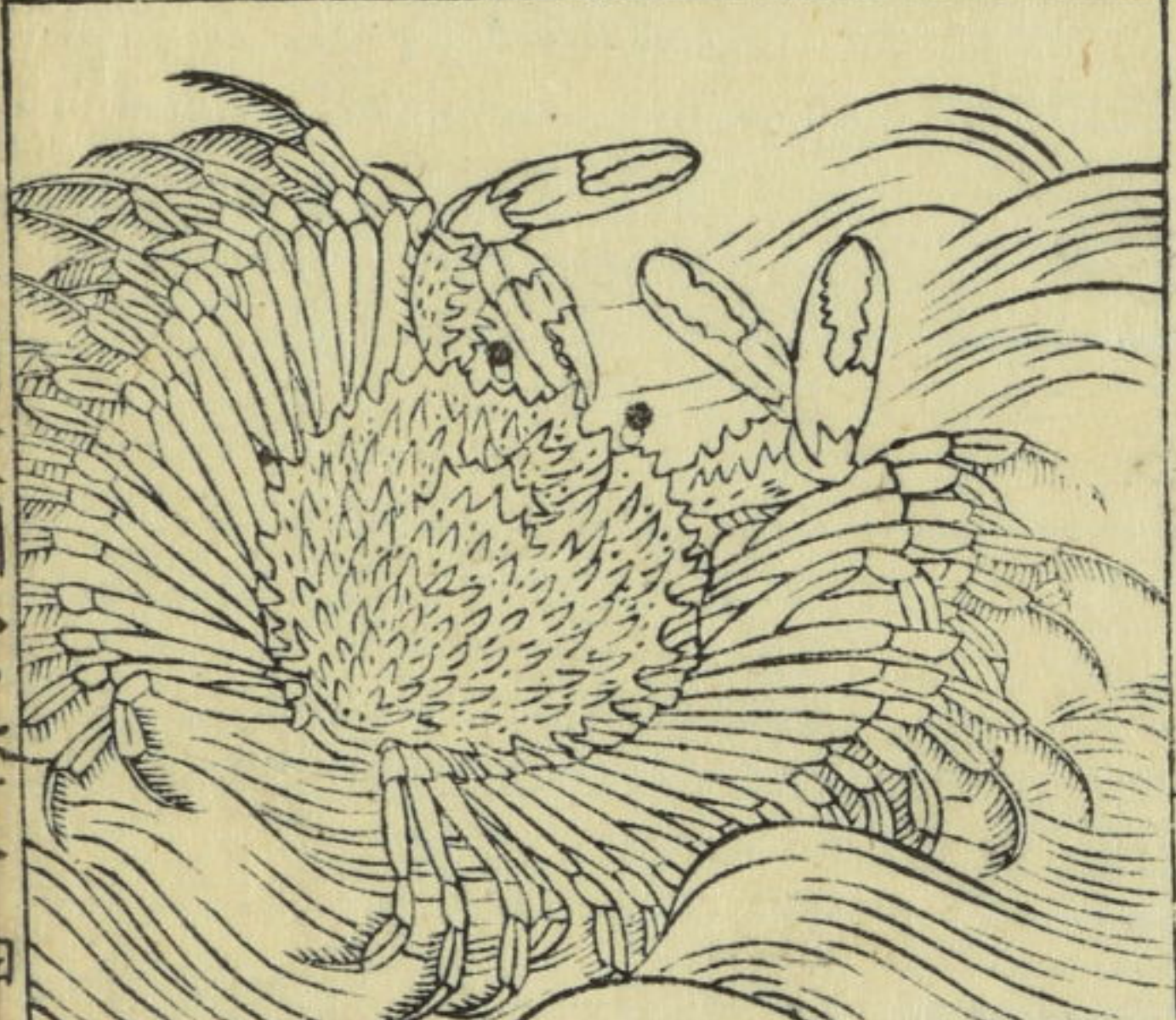
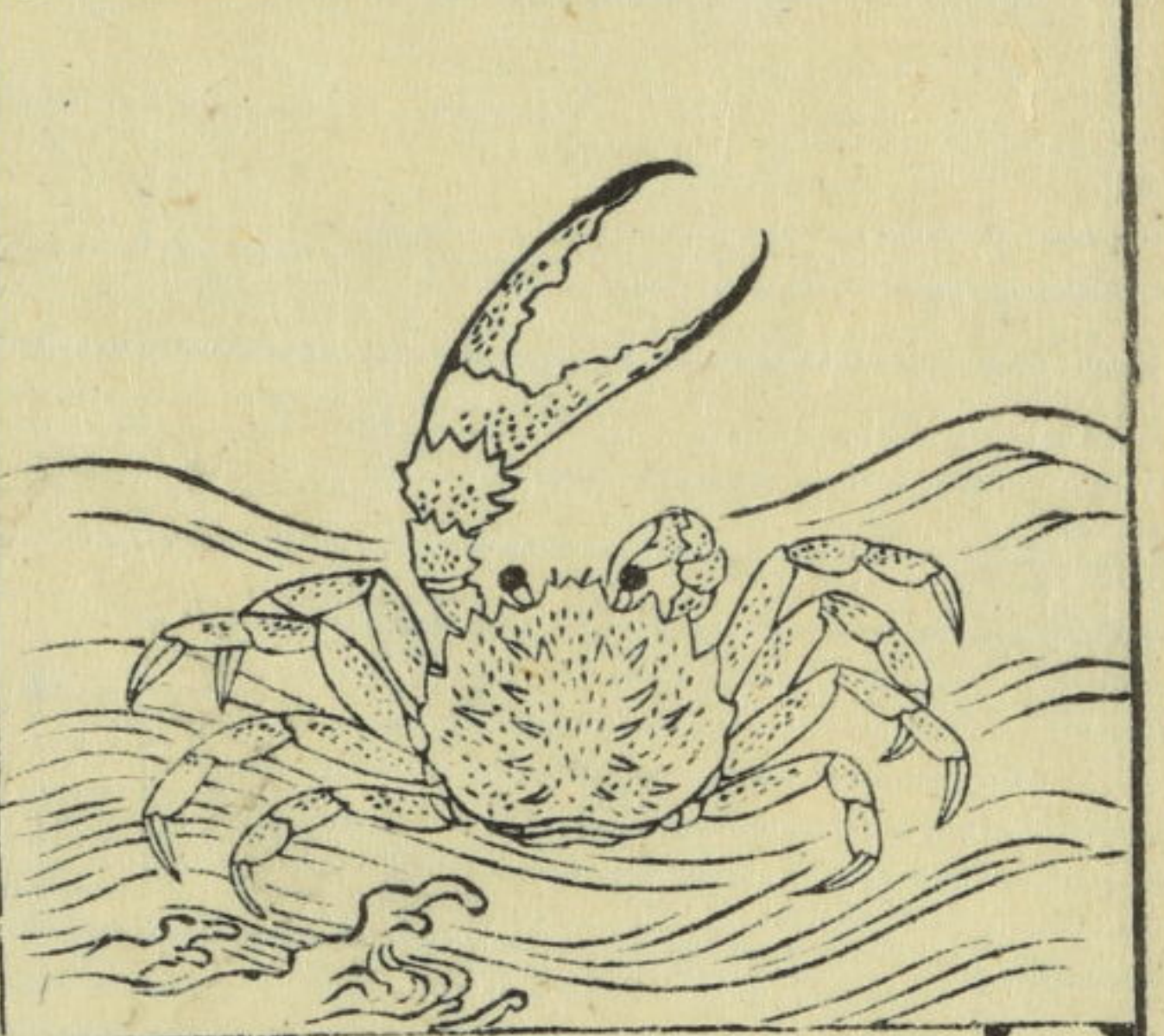


蟹歩

その形蟹
みてその
蟹一川
大よ一川
小一川
蟹ハ爾小
蟹ハ爾を
命よその
蟹赤

百足蟹

善花園
百足蟹あり
その名九足
ふして蟹
口あり
て膠あり
鳳喙膠
草木子

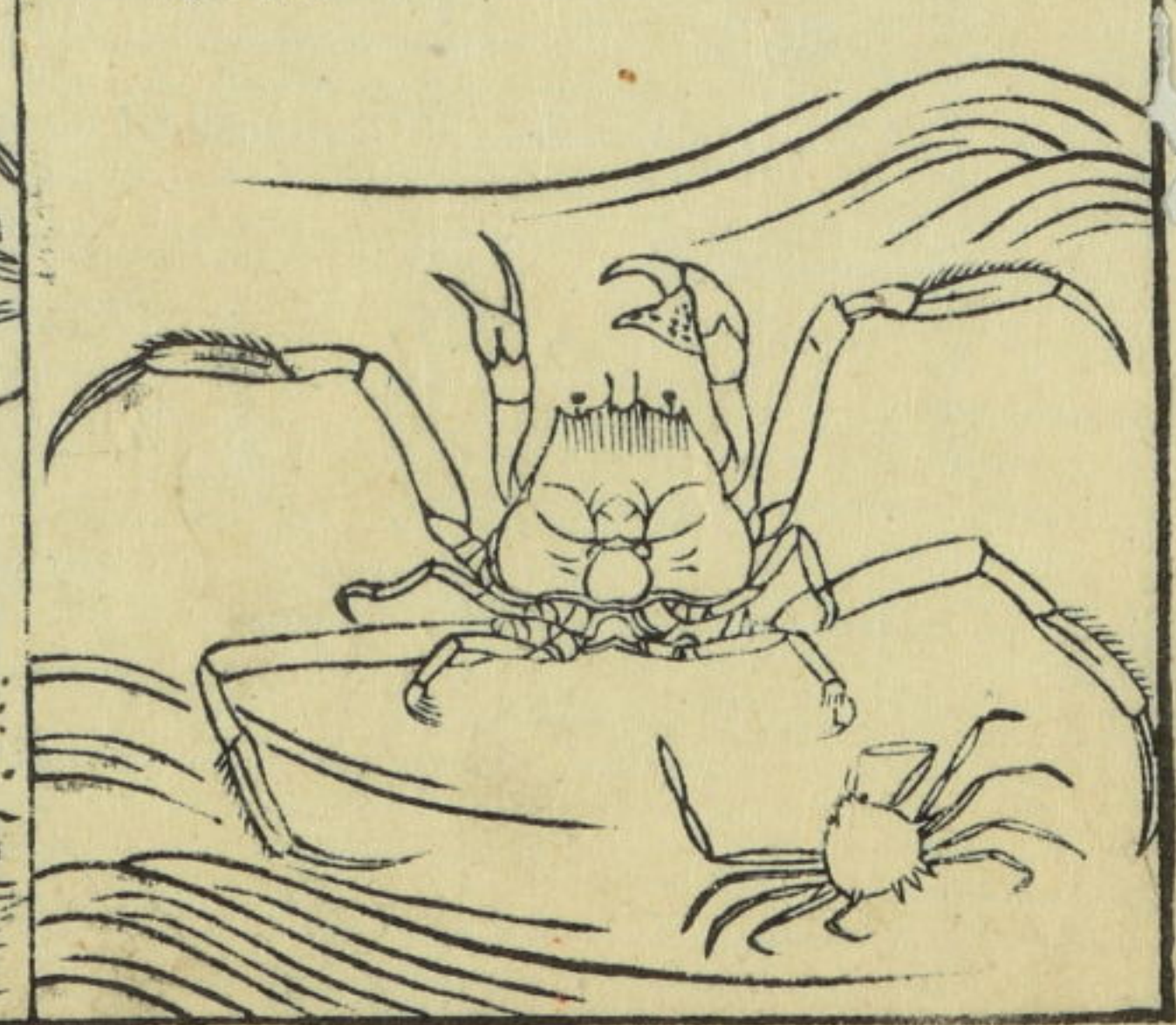


鬼蟹

形つもの蟹
みて甲
人面の狀と
あ
和云々
カニ
カニ

蟹

その形蟹
毛あり
沈田港
中よ
故子毒あり
招潮子
小蟹
穴と
のい
つ
わ

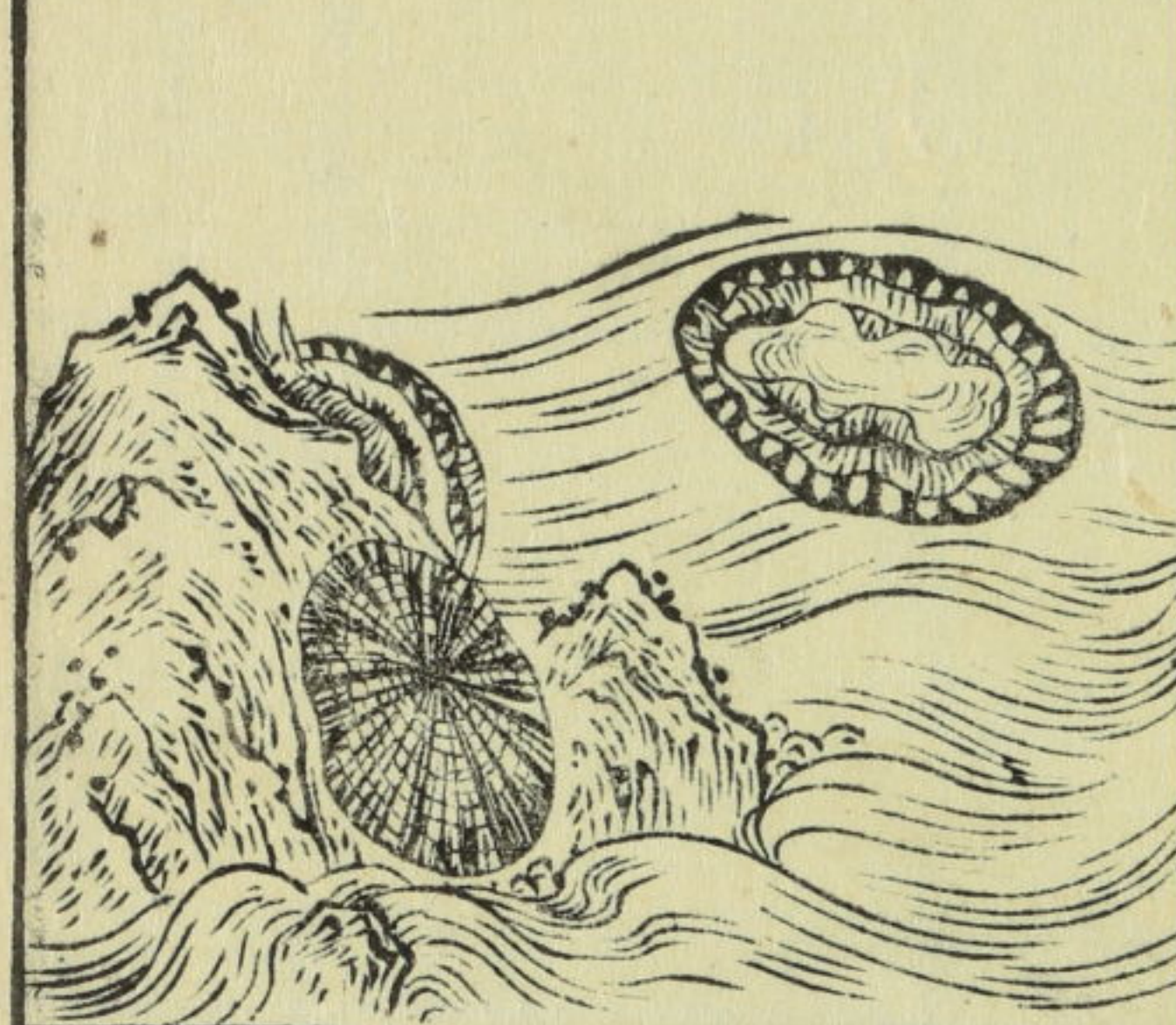
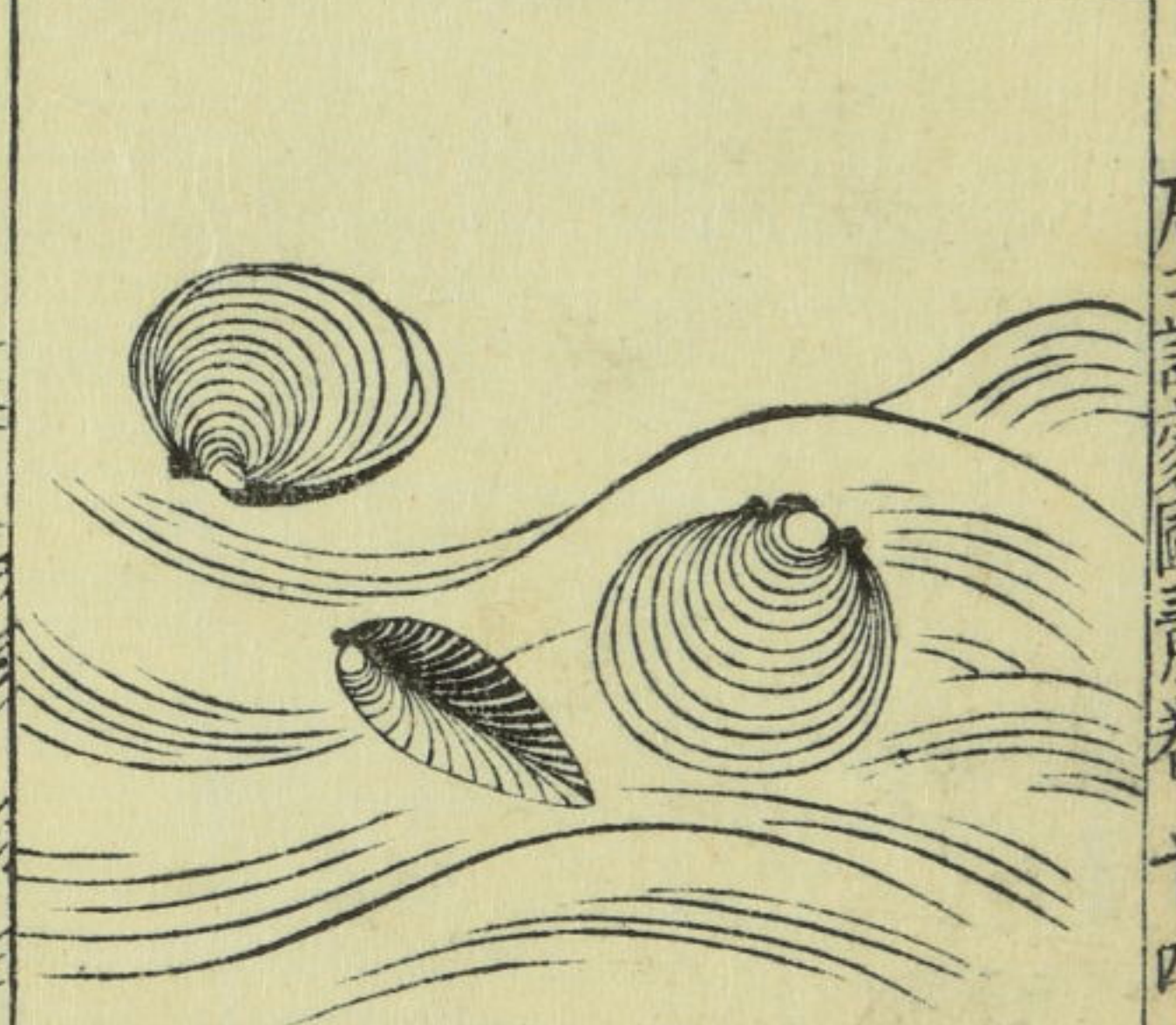


海鏡

此殻五斤の肉一斤の白く一斤の鮮の類之

臧

海岸の石より著て生れ肉の肥饒又味も



標雞

一名紅斑の子六足ありてまじり翼あり外翅灰黄しく斑點あり内翅のみさね

鯛

そのこしら首方り鋭く冠を輝かし似て小く鳴呼法亮あり一名ハ鰹一名ハ寧母



蟬

蝗と同一苗ごとく淮南子曰法令と柱を蟲類多しといつり今全鼓と以てとらふ

菊虎

その形堂り似たり菊の苗を合せては菊の宿根より化すといふ小虫

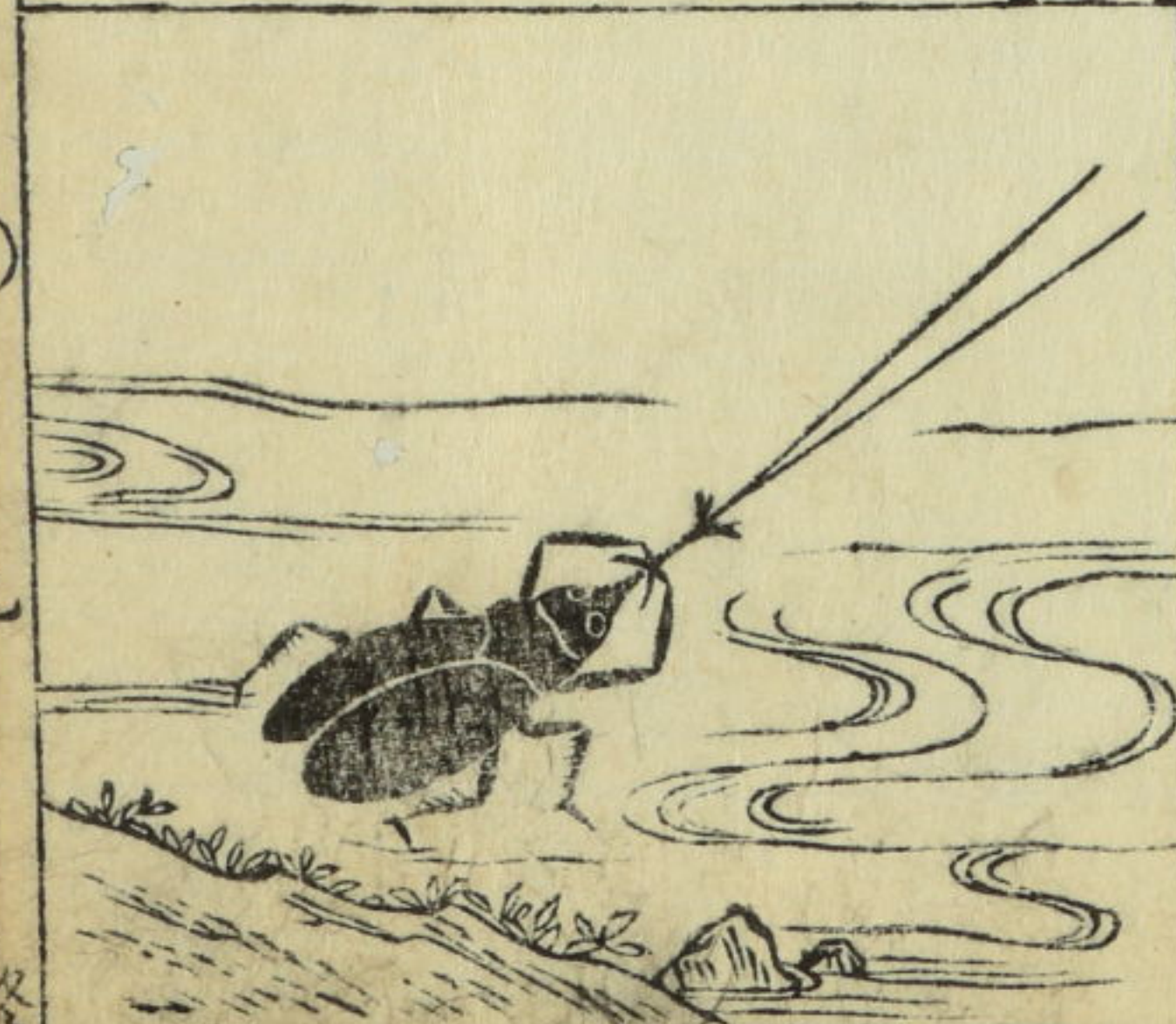


散虫

飛ハ水黽の如く八足ありて長尾ありて節大なるもの人とせしむるに毒虫なり

蟻

飛龍と似て長三寸其色黒し背と甲ありて角ありて氣と似たり人と那なり



水虎 狀三四威の
小虎の如く
甲の鱗あり
河の上曝れ
段の虎に似
たり掌の爪
と水に出し
膝と出し
人より小
児弄れを便
愛ひ



謝豹虫 此虫うすむ
色くじく
秘と抱て死
しう人の魂
ととりて
故に埋いん
とけい星と
面とまほひ
とあふら
のくしと
唐の辰成衣
の説なり



唐三祖の法を傳。皆不能以通神。矣。始。才
令所筆。殊未免。仲由。木。初。昭。君。之。惟。懼
之。痛。親。者。宜。怒。焉。

浪華

畫者

橘有税



豫顯目錄

寶文堂藏版

畫本故事談 九冊

和洋の故事 卷一 田の鴉 鴉の
けりとのあれおの風系の圖

唐土割蒙圖彙 十五冊

唐土の地理 卷一 唐土の
さうい 唐土の地理 卷一 唐土の

畫典通考 十冊

和洋の圖 卷一 和洋の
の和洋の圖 卷一 和洋の

女節用嬰葉袋 一冊

男女の字のくし 女中の法
の字のくしの書 四十八色入

女源氏教訓鑑 一冊

女中あつつけり 女中の
女中あつつけり 女中の

女法 一冊

女中の法 卷一 女中の
女中の法 卷一 女中の

藏笥百首 六冊

教訓の笥 卷一 教訓の
教訓の笥 卷一 教訓の

義經記大全 十冊

義經一代の事 卷一 義經
義經一代の事 卷一 義經

大德節用萬書寶錄 一冊

森節用筆海往來 一冊

諸禮一統集 七冊

分類故事要語 十冊

百體千字文 二冊

新制衣齋記 五冊

靖補家傳預藥集七冊

醫方筆記 五冊

醫方歌括 一冊

字の類ありしちあめりしとて書り又
大用の事とてとて五入新極め如す

書れ小用要のあめりしとて書り入
のしりりめ文事子因の案とて書り

色退取海之根始れ飲食終極
益砂流紀預方小堂京友他初作

聖賢ノ古語ニ註ヲ加又教訓ノ故事
數多入ル

本文ニ註ヲ入古文字角字八分字
百體ニ書分ル

藥種 真似在州ノ辨疑
製法ノ仕用ヲ書入ル

凡藥散藥練藥家々ノ家傳
秘法妙藥ヲ書入ル

明ノ先醒齋一代ノ醫案療治本也
新渡ヲ板行ス

汪昂初菴作臍ヲ分ケ病門ヲ
歌ニ述ヘ附ス 懷中療治本也

群玉伊呂波韻 一冊

袖玉字林集韻 一冊

詩法掌韻 五冊

四聲伊呂波韻大成 一冊

和漢三才圖會 全冊

四聲字林集韻大成 一冊

四書全部 三冊

三體詩 一冊

古文後集 一冊

みまるとぬの老極也
五ノ万軍のあをと略一

畫引 韻字平仄附
懷中一冊

詩ノ法式練句ノ法式懷紙ノ法
熟字の物異々有入ル

文字教ヲ増シ四聲ノ付テ和訓之
反切ノ韻字平仄ヲ附ス

天文字辰地理山川禽獸人物人事
万物皆圖ヲ韻ニ詩歌ヲ引註ヲ付ル

畫引平仄ヲ附
四声ヲ分ケ 懷中本也

道春点片假名付キ文字ヲ改
懷中本也

道春点片假名付キ文字之由ヲ改メ
韻字平仄ヲ附ス 懷中本也

片假名付キ文字清濁ヲ改
懷中本也

諸葛孔明異傳 七冊

孔明一代ノ軍術兵法ノ注解
八陣ノ圖入

中國太平記 一冊赤松家
代ノ軍日記

立華百種圖 二冊紅紙
池坊圖

立華五十種圖 二冊
細文

正氣歌 石橋一冊
平住專安筆

狂歌五拾人首一冊

易大全 廿六冊

字海便覽 經書字訓
七冊

世說故事苑 八冊

錦繡段 片十付
一冊

本朝武家系林 五冊

本朝武家系圖 五冊

知科新義 一冊

程陽峯大字 石橋
一冊

子昂千字文 大字
石橋
一冊

南方州木狀 二冊

五經 音註
安富堂
十一冊

讀書錄 段点
七冊

首書老子經 二冊

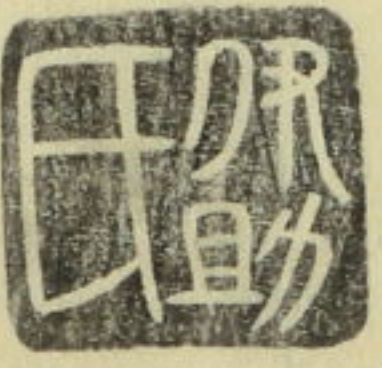
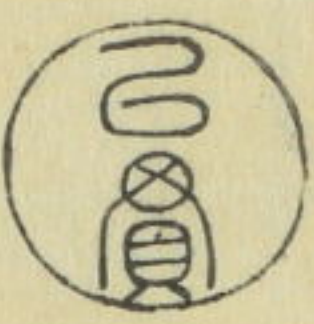
浪華書林

大坂心齋橋筋安堂寺町南江入西側

秋田屋

大野木市兵衛

多識於鳥獸草木之名。此博知之事。學者之所宜潛心也。此書就天地人物圖之說之。裁為小冊。孰不珍焉。本邦向有訓蒙圖彙。今所収載。皆拾其所遺。觀者幸毋以依樣畫葫蘆。貽嘲專庵。頃有此選。予與校讎。因附一辭于卷尾云。享保己亥。攝江穗積。以貫伊助甫跋。



享保己亥歲

書肆

大坂安堂寺町心齋橋

大野木市兵衛

孟陽吉日

江戸日本橋南三丁目

須原茂兵衛

